

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的と集計方法	3
2	調査結果の概要	5
II	調査回答者の属性	9
III	調査結果の分析	17
1	家庭生活について	19
1-1	理想の男女の役割分担	19
1-2	現実の男女の役割分担	21
1-3	平日の生活行動	23
1-4	行っている家事	29
1-5	男女の役割や子育てに対する意識	31
1-6	介護の担い手のあり方	52
1-7	男性の介護参加推進に必要なこと	54
2	就労状況について	57
2-1	この1か月間の就労状況	57
2-1-1	勤務形態	58
2-1-2	勤務地	60
2-1-3	職場の男女差別	61
2-1-4	非就労理由	64
2-2	望ましい女性の働き方	67
2-3	女性の長期就労の妨げ	69
3	仕事と子育てについて	72
3-1	育児休業制度の利用	72
3-1-1	育児休業制度を利用しなかった（しない）理由	73
3-2	育児休業制度利用推進に必要なこと	74
3-3	子育てと仕事の両立に必要なこと	77
4	ワーク・ライフ・バランスについて	81
4-1-1	「仕事」「家庭生活」「個人の生活」の希望の優先度	81
4-1-2	「仕事」「家庭生活」「個人の生活」の現実の優先度	83
4-2	ワーク・ライフ・バランスのため職場に望むこと	85
4-3	ワーク・ライフ・バランスのための効果的な施策	88
4-4	女性が出産や介護などによらず活躍するために必要なこと	90

I 調査の概要

1 調査の目的と集計方法

1 調査の目的

「小平アクティブプラン 21（第二次小平市男女共同参画推進計画）」（計画期間：平成19年度から平成28年度まで）を改定するにあたり、市民の男女平等意識や男女共同参画の実態を把握し、今後の施策に反映させることを目的とする。

2 調査の設計

- (1) 調査地域 小平市全域
- (2) 調査対象 小平市に在住する満18歳以上の男女個人
- (3) 標本数 2,000人
- (4) 標本抽出 住民基本台帳からの無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送配布・郵送回収
- (6) 調査期間 平成27年9月7日（月）～9月28日（月）
- (7) 調査機関 一般社団法人 中央調査社

3 調査の内容

- (1) 家庭生活
- (2) 就労状況
- (3) 仕事と子育て
- (4) ワーク・ライフ・バランス
- (5) 地域とのつながりや防災
- (6) 教育
- (7) 男女間の暴力（DV）・セクハラ
- (8) 男女平等
- (9) 小平市の男女共同参画に関する施策

4 回収結果

区分	内訳	標本数	備考
配布数		1,993	転居先不明等を除く
回収数		718	返送された調査票の総数
無効票		1	白紙等の統計処理が不能なもの
有効回収数 (有効回収率)		717 (36.0%)	有効回収数＝回収数－無効票 有効回収率＝有効回収数／配布数

5 回答者の属性

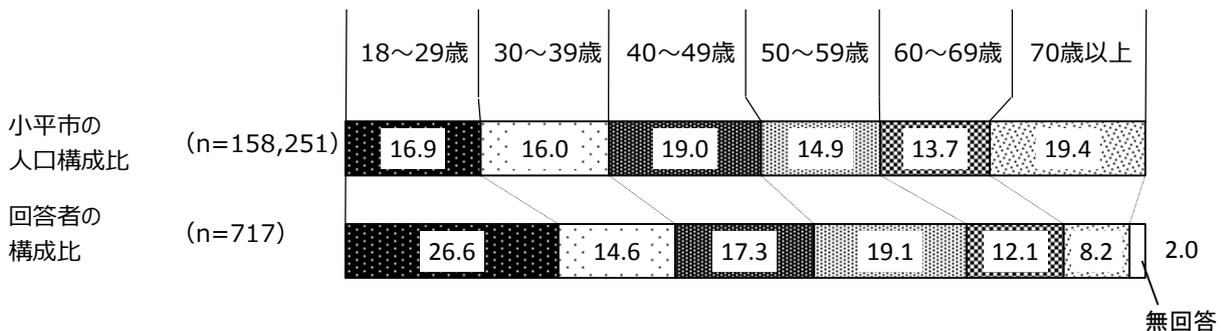
(1) 小平市在住の18歳以上の男女（平成27年9月1日現在）

	男性	女性	無回答	総数
母集団	77,416人	80,835人		158,251人
標本母集団	999人	1,001人		2,000人
有効回収数	296人 (41.3%)	410人 (57.2%)	11人 (1.5%)	717人 (100.0%)

(2) 回答者の年齢

	回答者数 (人)	割合 (%)
18～29歳	191	26.6
30～39歳	105	14.6
40～49歳	124	17.3
50～59歳	137	19.1
60～69歳	87	12.1
70歳以上	59	8.2
無回答	14	2.0

(3) 母集団との比較



※母集団=小平市在住の18歳以上の男女(平成27年9月1日現在)

6 集計・分析方法

(1) 集計は、年代ごとにウェイトをつけて集計(ウェイトバック集計)をし、回収数に集計ウェイト値を乗じて集計標本数とした。回答比率(%)はウェイトバック後の数値である。

(2) 図表中の「n」は基数となる集計標本数。

(3) 数値は、すべて集計標本数を基数とした比率(%)で表示。小数点第2位を四捨五入しており、数値の合計が100.0%にならない場合がある。

図表中の「-」は回答者が皆無のもの、「0.0」は回答者の割合が0.05未満のため四捨五入の結果0.0となったものである。

(4) 複数回答質問では、合計が100%を超える。

【ウェイトバック集計について】

市で行った様々な調査では、比較的年齢の高い方からの回答が多く、若い世代からの回答が少ない傾向がある。

本調査は、年代ごとの傾向を把握するため、特に、若い世代から一定の実回収数を確保する目的で、18歳以上を対象とするとともに、若い世代に重点を置いて調査対象者の無作為抽出を行った。

したがって、そのままの集計では、市全体の結果が正しく反映されないため、年齢別の回収数を補正するために、ウェイトバック集計の方法を取り入れている。

2 調査結果の概要

問1 理想の男女の役割分担

～ 「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」が 58.0% <19 ページ参照>

「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」が 58.0%で最も多く、次いで「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担する」が 13.2%となっている。

問2 現実の男女の役割分担

～ 「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担している」が 23.6% <21 ページ参照>

「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が分担している」23.0%

「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担している」が 23.6%で最も多く、次いで「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が分担している」が 23.0%、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担している」が 11.3%となっている。

問5 男女の役割や子育てに対する意識

(1) 結婚するかしないかは個人の自由である

～ 「肯定」88.1% 「否定」6.0% <31 ページ参照>

肯定する人が 88.1%（「そう思う」72.2%+「どちらかといえばそう思う」15.9%）、否定する人が 6.0%（「どちらかといえばそう思わない」4.3%+「そう思わない」1.7%）となっている。

(3) 結婚しても子どもを持たないというのも、ひとつの生き方である

～ 「肯定」72.5% 「否定」13.1% <34 ページ参照>

肯定する人が 72.5%（「そう思う」53.5%+「どちらかといえばそう思う」19.0%）、否定する人が 13.1%（「どちらかといえばそう思わない」6.4%+「そう思わない」6.7%）となっている。

(6) 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい

～ 「肯定」49.1% 「否定」19.6% <40 ページ参照>

肯定する人が 49.1%（「そう思う」21.5%+「どちらかといえばそう思う」27.6%）、否定する人が 19.6%（「どちらかといえばそう思わない」6.7%+「そう思わない」12.9%）となっている。

(11) 男性の育児休業取得は推進されるべきである

～ 「肯定」74.8% 「否定」4.5% <46 ページ参照>

肯定する人が 74.8%（「そう思う」44.5%+「どちらかといえばそう思う」30.3%）、否定する人が 4.5%（「どちらかといえばそう思わない」2.6%+「そう思わない」1.9%）となっている。

問6 介護の担い手のあり方 ～ 「女性に過剰な負担がかからないように男性も出来るだけ介護に

関わる方がよい」が 43.2% <52 ページ参照>

「女性に過剰な負担がかからないように男性も出来るだけ介護に関わる方がよい」が 43.2%で最も多く、次いで「男性も女性も同じように取り組むべきである」が 39.3%となっている。

問 8 - 3 職場の男女差別 ~ 「男女差別と感じられることはない」が 47.4% <61 ページ参照>

「男女差別と感じられることはない」が 47.4%で最も多いが、一方で「女性が昇進、昇格しづらい」が 11.3%、「お茶くみ、雑用は女性がやる慣行がある」が 10.5%と男女差別を感じている人もいる。

問 9 望ましい女性の働き方 ~ 「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで

仕事を続ける」が 21.5% <67 ページ参照>

「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」が 21.5%で最も多く、次いで「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」が 21.1%となっている。

問 10 女性の長期就労の妨げ

~ 「育児休業や再就職など、長く働き続けるための職業条件・制度が不十分」が 63.4%

「子どもを預けるところ（保育所など）がない」62.1% <69 ページ参照>

「育児休業や再就職など、長く働き続けるための職業条件・制度が不十分」が 63.4%で最も多く、次いで「子どもを預けるところ（保育所など）がない」が 61.2%、「家事の負担」が 44.7%となっている。

問 11-1 育児休業制度を利用しなかった（しない）理由

~ 「職場の環境が育児休業を取得できる雰囲気ではない」が 24.0%

「職場に迷惑がかかると思う」21.0% <73 ページ参照>

「職場の環境が育児休業を取得できる雰囲気ではない」が 24.0%で最も多く、次いで「職場に迷惑がかかると思う」が 21.0%となっている。

問 12 育児休業制度利用推進に必要なこと ~ 「事業主や上司の理解」が 71.0% <74 ページ参照>

「事業主や上司の理解」が 71.0%で最も多く、次いで「職場内の理解を深めていくこと」が 60.7%となっている。

問 14 (1) 「仕事」「家庭生活」「個人の生活」の希望の優先度

~ 「『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』のすべて」が 24.6% <81 ページ参照>

「『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』のすべて」が 24.6%で最も多く、次いで「『仕事』と『家庭生活』を優先」が 17.1%となっている。

問 14 (2) 「仕事」「家庭生活」「個人の生活」の現実の優先度

~ 「『仕事』を優先」が 34.9% <83 ページ参照>

「『仕事』を優先」が 34.9%で最も多く、次いで「『仕事』と『家庭生活』を優先」が 14.3%となっている。希望と現実での優先度を比較すると、希望で最も回答の多かった「『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』のすべて」は、現実では 6.7%と希望を大きく下回っている。

問 15 ワーク・ライフ・バランスのため職場に望むこと

～ 「有給休暇を取りやすくする」が 48.9% <85 ページ参照>

「有給休暇を取りやすくする」が 48.9%で最も多く、次いで「無駄な業務・作業を減らす」が 41.9%、「育児休業・介護休暇を取りやすくする」が 40.7%となっている。

問 16 ワーク・ライフ・バランスのための効果的な施策

～ 「保育所・高齢者施設などの環境を整えること」が 62.0% <88 ページ参照>

「保育所・高齢者施設などの環境を整えること」が 62.0%で最も多く、次いで「高齢者等が自立し、生き生きと暮らせるように日常生活の支援をすること」が 47.1%となっている。

問 19 地域活動に参加するために必要な環境や条件

～ 「地域活動に参加できる時間のゆとりがある」が 61.2% <99 ページ参照>

「地域活動に参加できる時間のゆとりがある」が 61.2%で最も多く、次いで「地域活動をする経済的なゆとりがある」が 46.6%となっている。

問 20 災害に備えるために必要な取り組み

～ 「備蓄品について女性や介護者、障害者の視点を入れる」が 60.8% <102 ページ参照>

「備蓄品について女性や介護者、障害者の視点を入れる」が 60.8%で最も多く、次いで「避難所の運営に女性も参画できるようにする」が 51.1%、「日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」が 50.3%となっている。

問 21 男女平等教育で重要なこと

～ 「個性や能力に合わせた生活指導や進路指導を行う」が 57.1% <104 ページ参照>

「個性や能力に合わせた生活指導や進路指導を行う」が 57.1%で最も多く、次いで「男女平等意識を育てる授業を組み入れる」が 45.8%となっている。

問 22 セクシュアル・ハラスメントを受けた経験

～ 「職場」 3.4% (24 人)、「学校」 1.2% (9 人)、「地域」 2.1% (14 人) <106 ページ参照>

セクシュアル・ハラスメントを受けた経験は「職場」で 3.4% (24 人)、「学校」で 1.2% (9 人)、「地域」で 2.1% (14 人) となっている。

問 23 暴力の認識 ～ 小平市では身体的暴行に対する認識がやや低い <124 ページ参照>

内閣府調査と比較すると、「心理的攻撃」「経済的圧迫」「性的強要」に対する意識は高いが、「身体的暴行」に対する認識はやや低くなっている。

問 24 DV (ドメスティック・バイオレンス) を受けた経験

～ 「何度もあった」 4.3%、「1、2度あった」 7.7% <129 ページ参照>

いずれかのDV (ドメスティック・バイオレンス) を「受けた経験がある」が 12.0% (「何度もあった」 4.3%+「1、2度あった」 7.7%) となっている。

問 24-1 相談経験 ～ 「相談しなかった」が 52.9% <130 ページ参照>

DV（ドメスティック・バイオレンス）を受けた経験があると答えた人のうち、「相談しなかった」が 52.9%で、「相談した」37.7%を上回っている。

問 24-3 相談しなかった理由

～ 「相談するほどのことではないと思ったから」が 52.2% <132 ページ参照>

「相談するほどのことではないと思ったから」が 52.2%で最も多く、次いで「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」が 28.9%となっている。

問 27 (8) 社会全体での男女の地位

～ 「男性優遇」が 66.5%、「女性優遇」が 4.1% <151 ページ参照>

「男性の方が優遇されている」が 66.5%（「男性の方が非常に優遇されている」15.6%+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」50.9%）、「女性の方が優遇されている」が 4.1%（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」3.5%+「女性の方が非常に優遇されている」0.6%）となっている。

問 28 行政に女性の意見が反映されているか

～ 「反映されている」が 35.7%、「反映されていない」が 28.4% <153 ページ参照>

「反映されている」が 35.7%（「十分反映されている」2.3%+「ある程度反映されている」33.4%）、「反映されていない」が 28.4%（「あまり反映されていない」24.1%+「ほとんど反映されていない」4.3%）となっている。

問 28-1 女性の意見が行政に反映されていないと思う理由

～ 「男性の意識、理解が足りない」が 64.0%、「女性議員が少ない」が 59.4% <154 ページ参照>

「男性の意識、理解が足りない」が 64.0%で最も多く、次いで「女性議員が少ない」が 59.4%、「社会の仕組みが女性に不利」が 55.6%となっている。

問 29 市で取り組んでいる男女共同参画施策の認知度

～ 「いずれも知らない」が 52.2%

認知度が高いのは「子育て相談」の 31.6% <156 ページ参照>

「子育て相談」が 31.6%で最も多く、次いで「子ども家庭支援センター」が 17.8%、「女性相談」が 17.2%となっている。「いずれも知らない」と答えた人は 52.2%となっている。

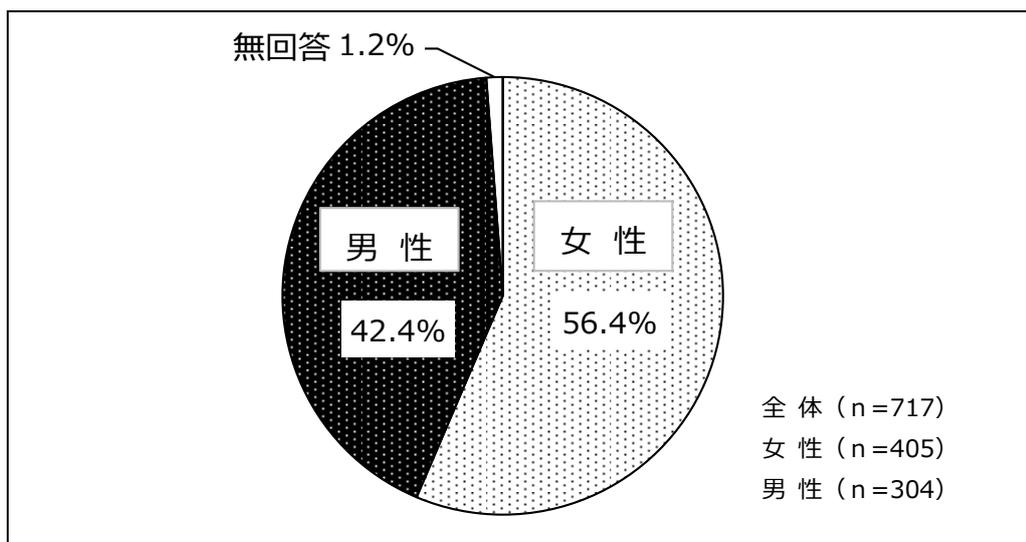
問 30 小平市が力を入れるべき男女共同参画施策

～ 「子育て支援の充実」が 47.7%、「高齢者支援の充実」が 46.4% <159 ページ参照>

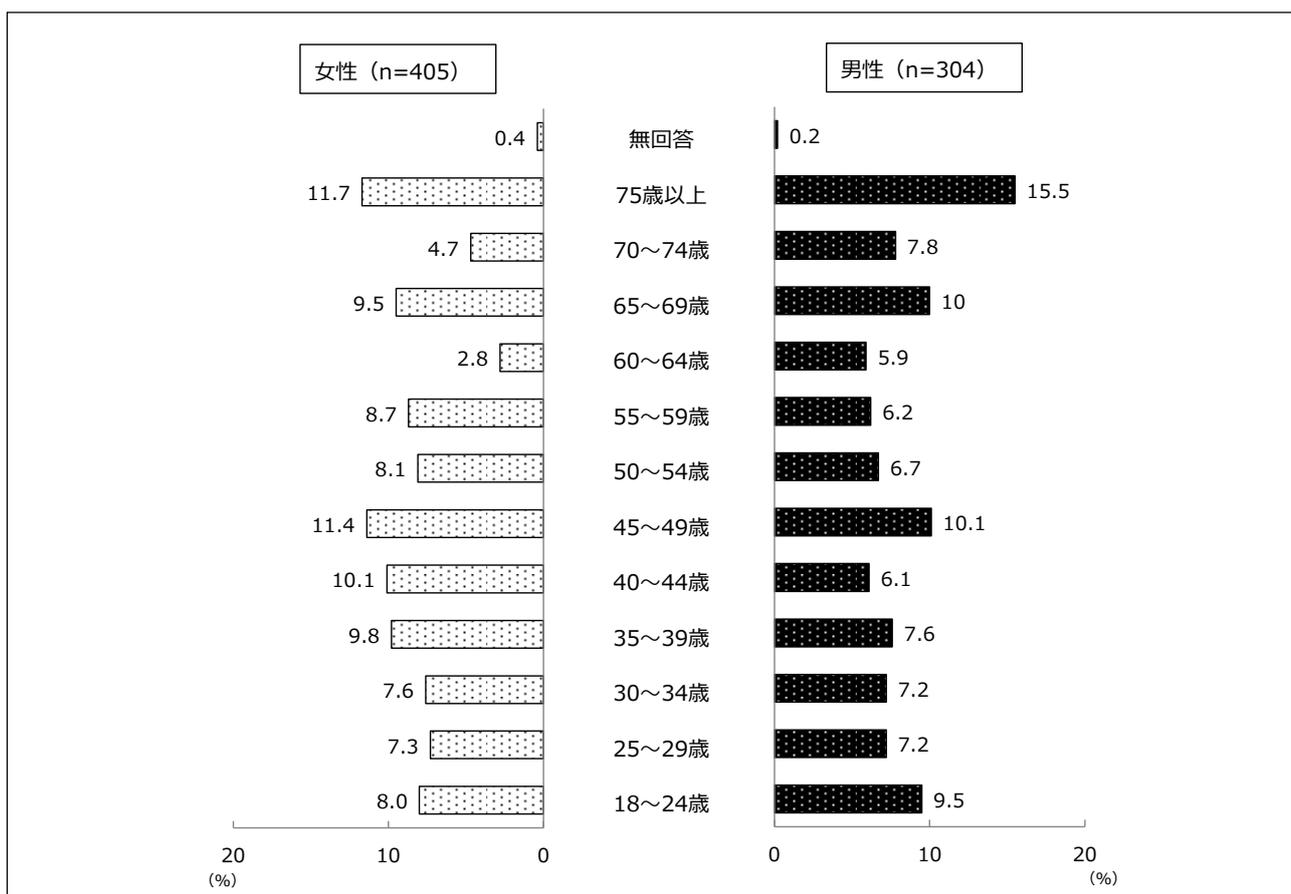
「子育て支援の充実」が 47.7%で最も多く、次いで「高齢者支援の充実」が 46.4%、「男女ともに働く環境の改善、整備」が 37.5%となっている。

II 調査回答者の属性

◇ 性別・年齢階層別

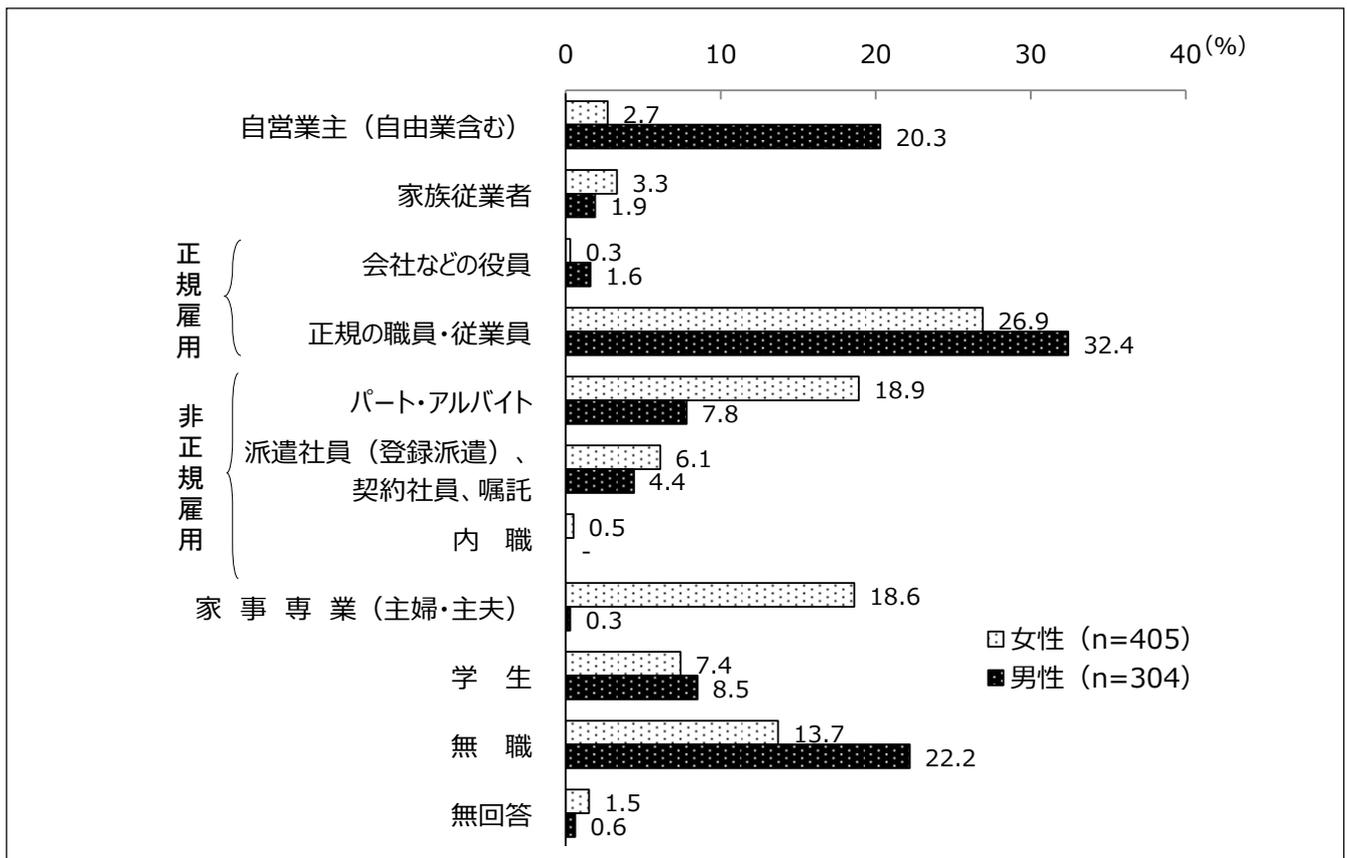


回答者の性別は、女性が 56.4% (405 人)、男性が 42.4% (304 人) となっている。



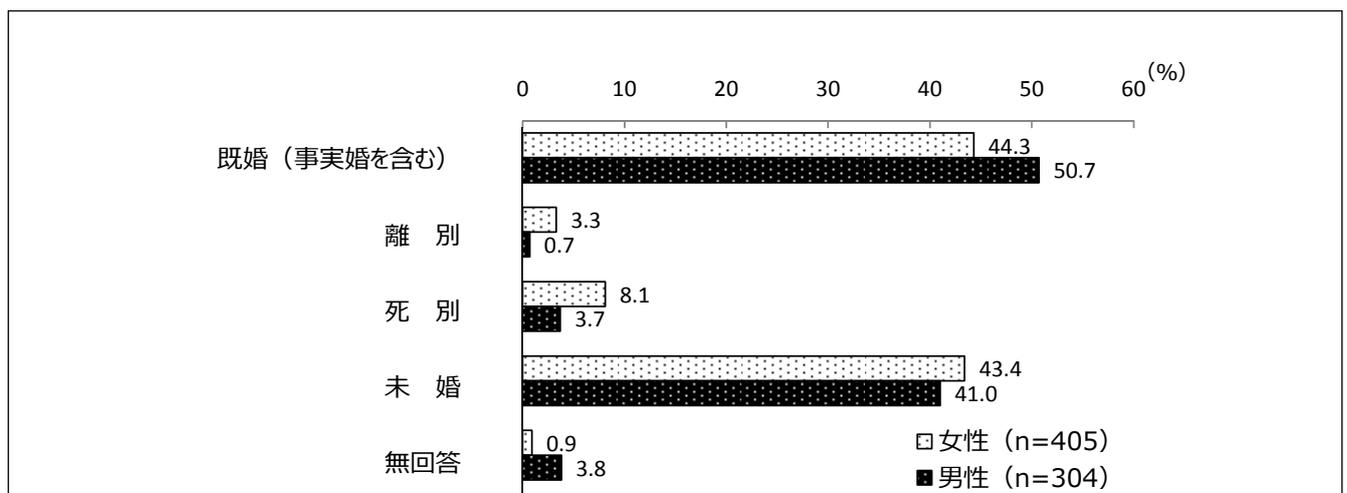
年代は、75歳以上が最も多く、女性が 11.7%、男性が 15.5%となっている。次いで、45~49歳が、女性が 11.4%、男性が 10.1%となっている。

◇ 職業・就労形態



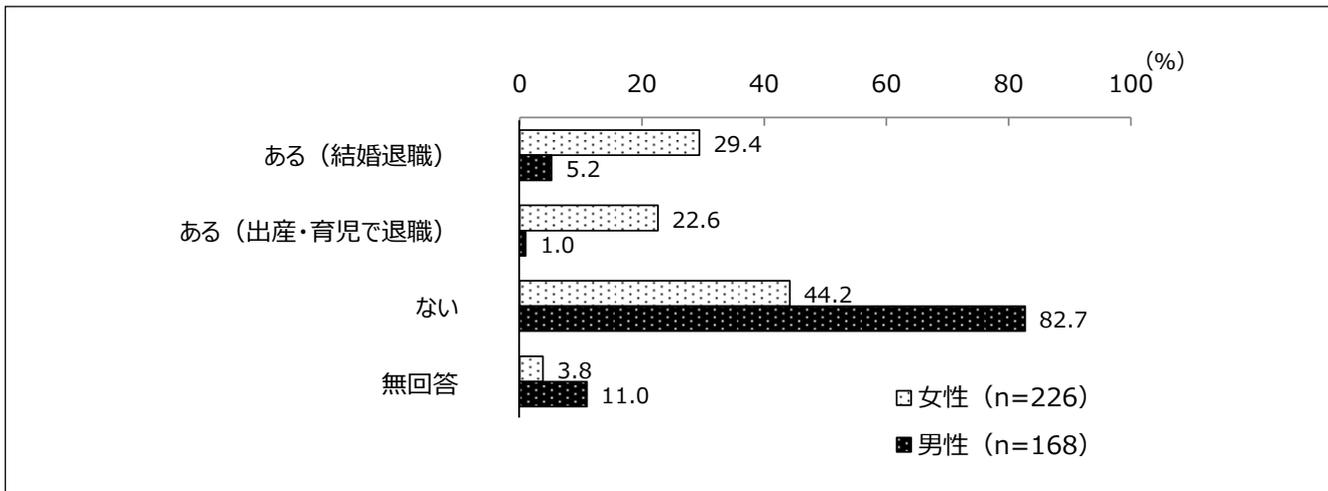
就業・就労形態については、「正規の職員・従業員」が最も多く、女性が26.9%、男性が32.4%となっている。次いで、女性では「パート・アルバイト」が18.9%、男性では「無職」が22.2%となっている。

◇ 婚姻関係



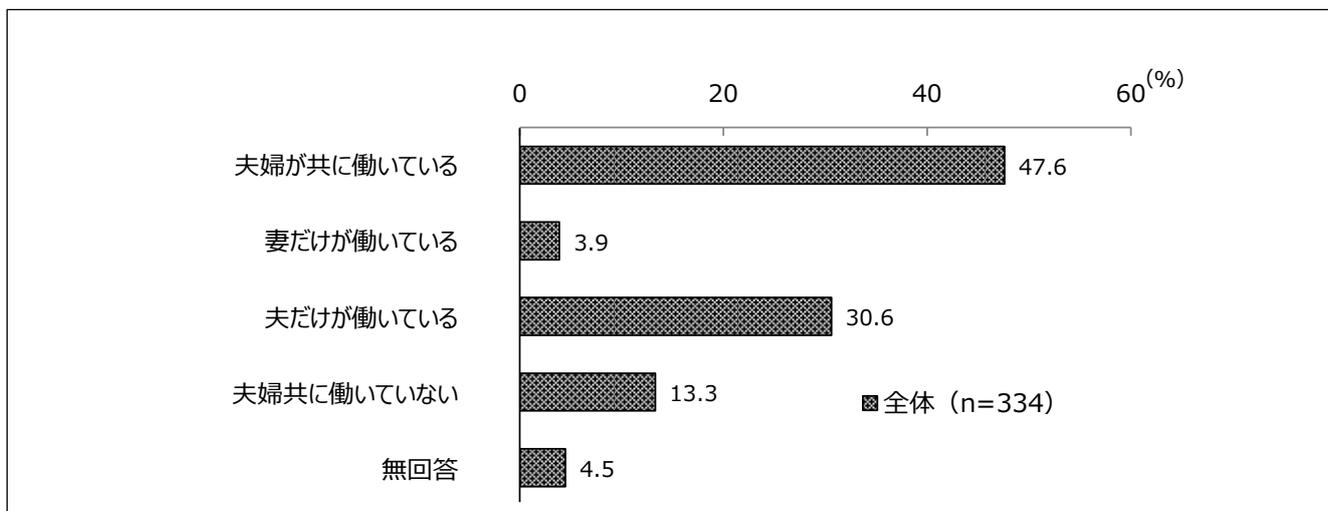
婚姻関係については、「既婚 (事実婚を含む)」が最も多く、女性が44.3%、男性が50.7%となっている。次いで、「未婚」が、女性が43.4%、男性が41.0%となっている。

◇ 結婚、出産・育児を理由とした退職経験の有無



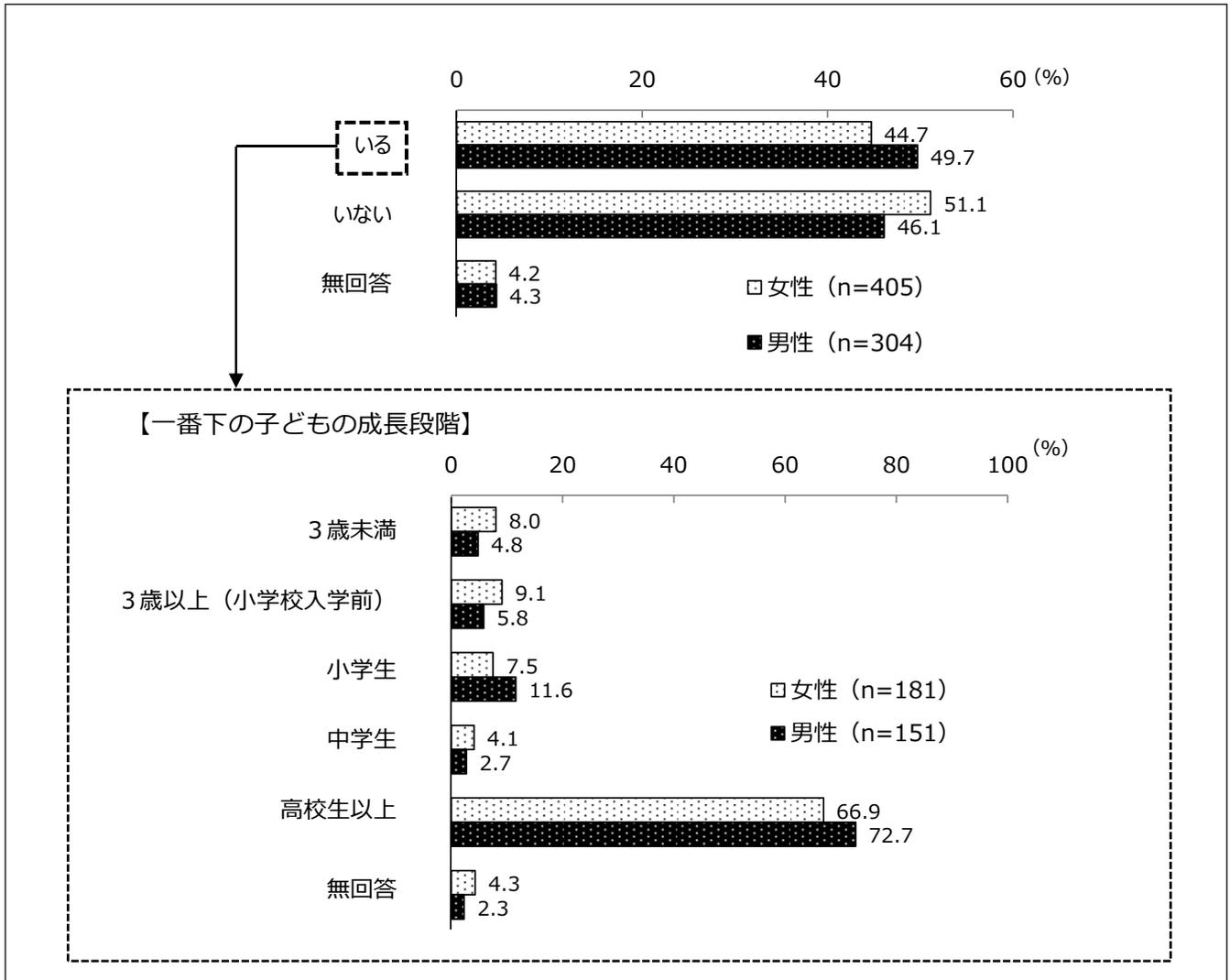
結婚、出産・育児を機会に退職した経験の有無については、女性では「ある（結婚退職）」が29.4%、「ある（出産・育児で退職）」が22.6%、「ない」が44.2%となっている。男性では「ある（結婚退職）」が5.2%、「ある（出産・育児で退職）」が1.0%、「ない」が82.7%となっている。

◇ 世帯の働き方



世帯の働き方については、「夫婦が共に働いている」が最も多く、47.6%となっている。次いで、「夫だけが働いている」が30.6%、「夫婦共に働いていない」が13.3%、「妻だけが働いてる」が3.9%の順となっている。

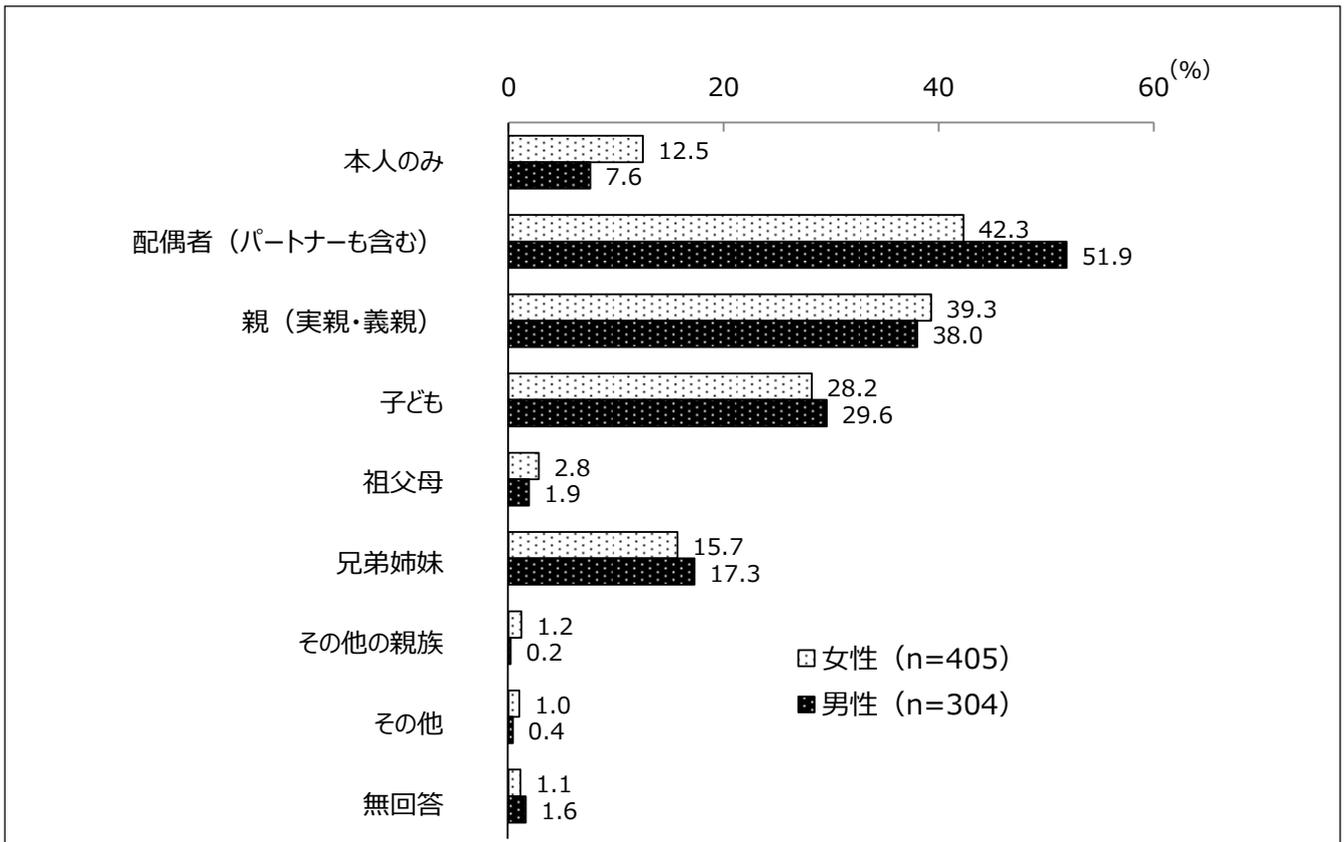
◇ 子どもの有無



子どもの有無については、「いる」と答えた人の割合は、女性が44.7%、男性が49.7%、「いない」と答えた人の割合は、女性が51.1%、男性が46.1%となっている。

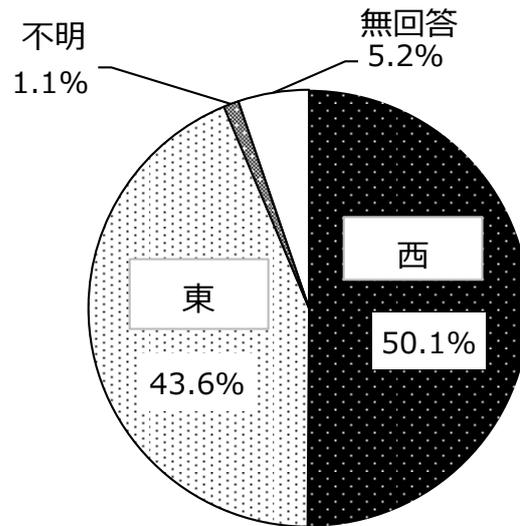
一番下の子どもの年齢については、「高校生以上」が最も多く、女性が66.9%、男性が72.7%となっている。次いで、女性では「3歳以上 (小学校入学前)」が9.1%、男性では「小学生」が11.6%となっている。

◇ 同居家族



同居家族については、「配偶者 (パートナーも含む)」が最も多く、女性が 42.3%、男性が 51.9%となっている、次いで、「親 (実親・義親)」で、女性が 39.3%、男性が 38.0%となっている。

◇ 地域



西武多摩湖線を境に、以下の町名で東西に分けた。

西地域…中島町、栄町、小川町、上水新町、小川西町、たかの台、小川東町、
小川町、津田町、学園西町、上水本町

東地域…仲町、学園東町、喜平町、上水南町、美園町、大沼町、天神町、鈴木町、
回田町、御幸町、花小金井、花小金井南町

西地域が 50.1%、東地域が 43.6%となっている。

Ⅲ 調査結果の分析

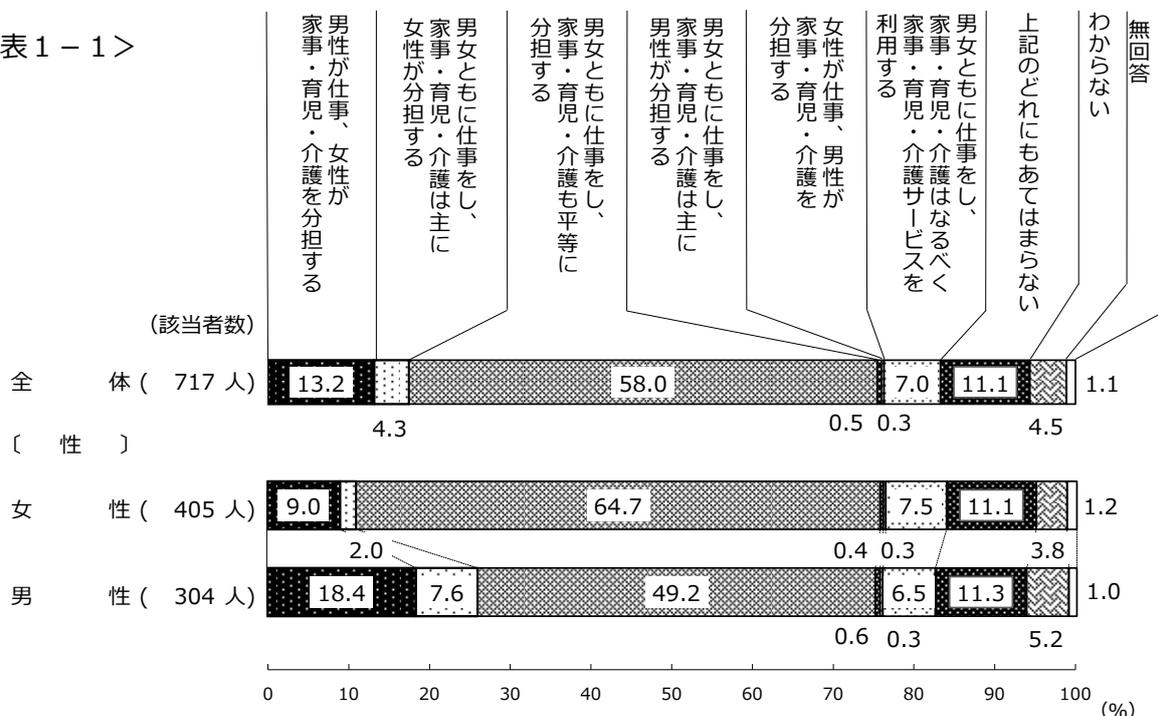
1 家庭生活について

1-1 理想の男女の役割分担

◇ 「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」 58.0%

問1 あなたは、男女の仕事と家事・育児・介護の役割分担は、理想ではどうあるべきだと思いますか。
あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

<図表1-1>



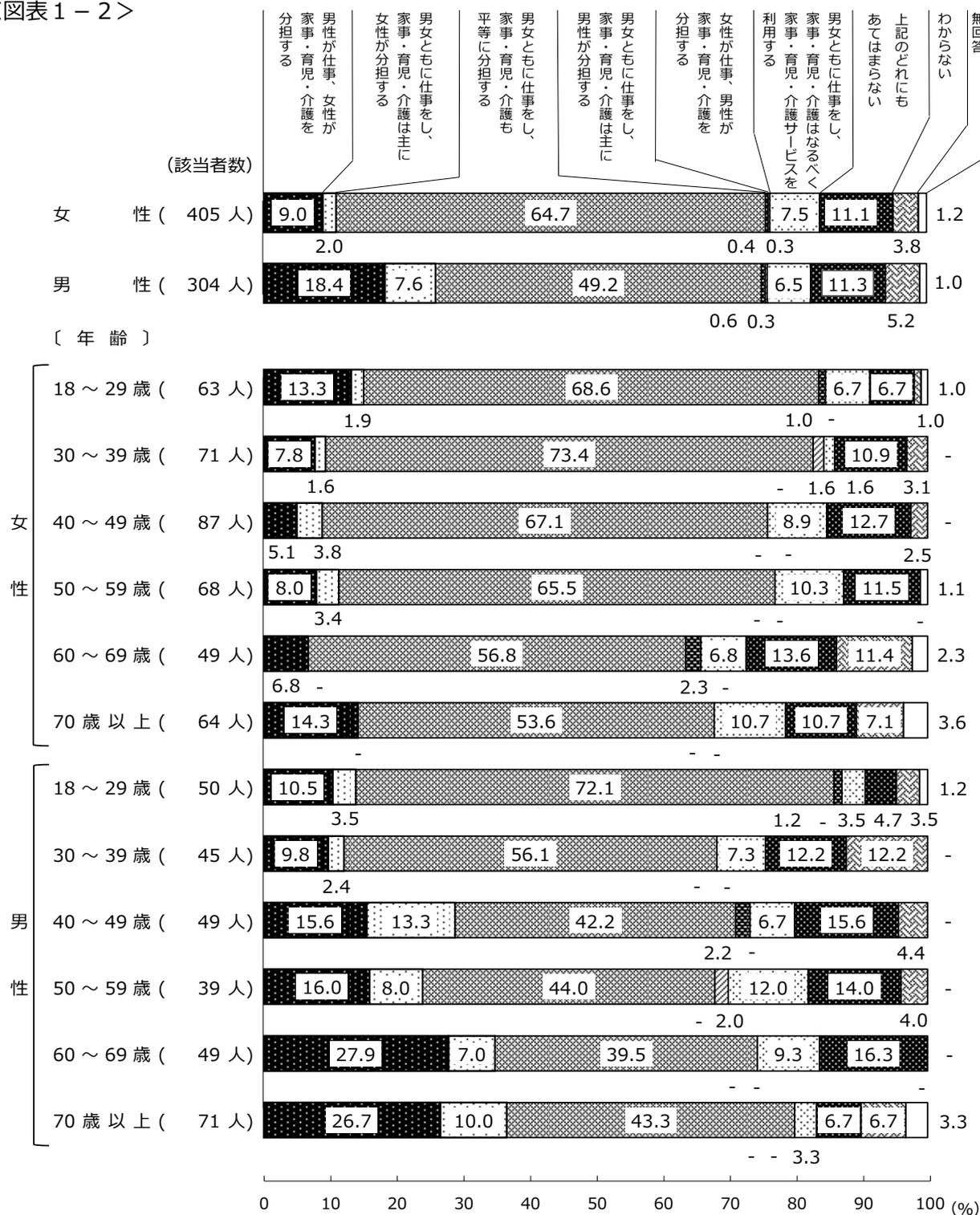
理想の男女の役割分担については、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」が58.0%で最も多く、次いで「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担する」が13.2%、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はなるべく家事・育児・介護サービスを利用する」が7.0%、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が分担する」が4.3%となっている。

性別にみると、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」の回答は、女性が64.7%、男性が49.2%で、女性が男性を15.5ポイント上回っている。一方、「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担する」の回答は、女性が9.0%、男性が18.4%で、男性が女性を9.4ポイント上回っている。

【性別・年齢別】

理想の男女の役割分担について性別・年齢別にみると、「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担する」の回答は男性の60歳代で、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が分担する」の回答は男性の40歳代で、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」の回答は女性の30歳代で、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護は主に男性が分担する」の回答は女性の60歳代で、それぞれ最も多くなっている。

<図表1-2>

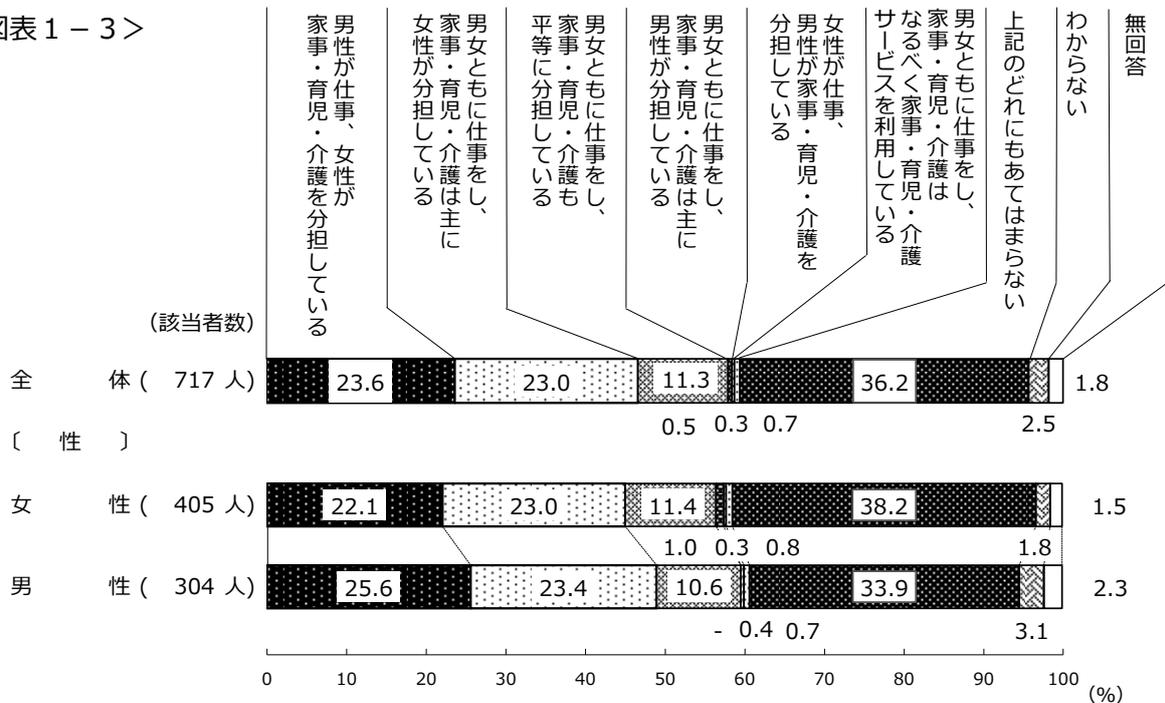


1-2 現実の男女の役割分担

- ◇ 「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担している」 23.6%
 「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が分担している」 23.0%

問2 それでは、あなたのご家庭では、実際には、仕事と家事・育児・介護の役割分担をどのようにしていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

<図表1-3>



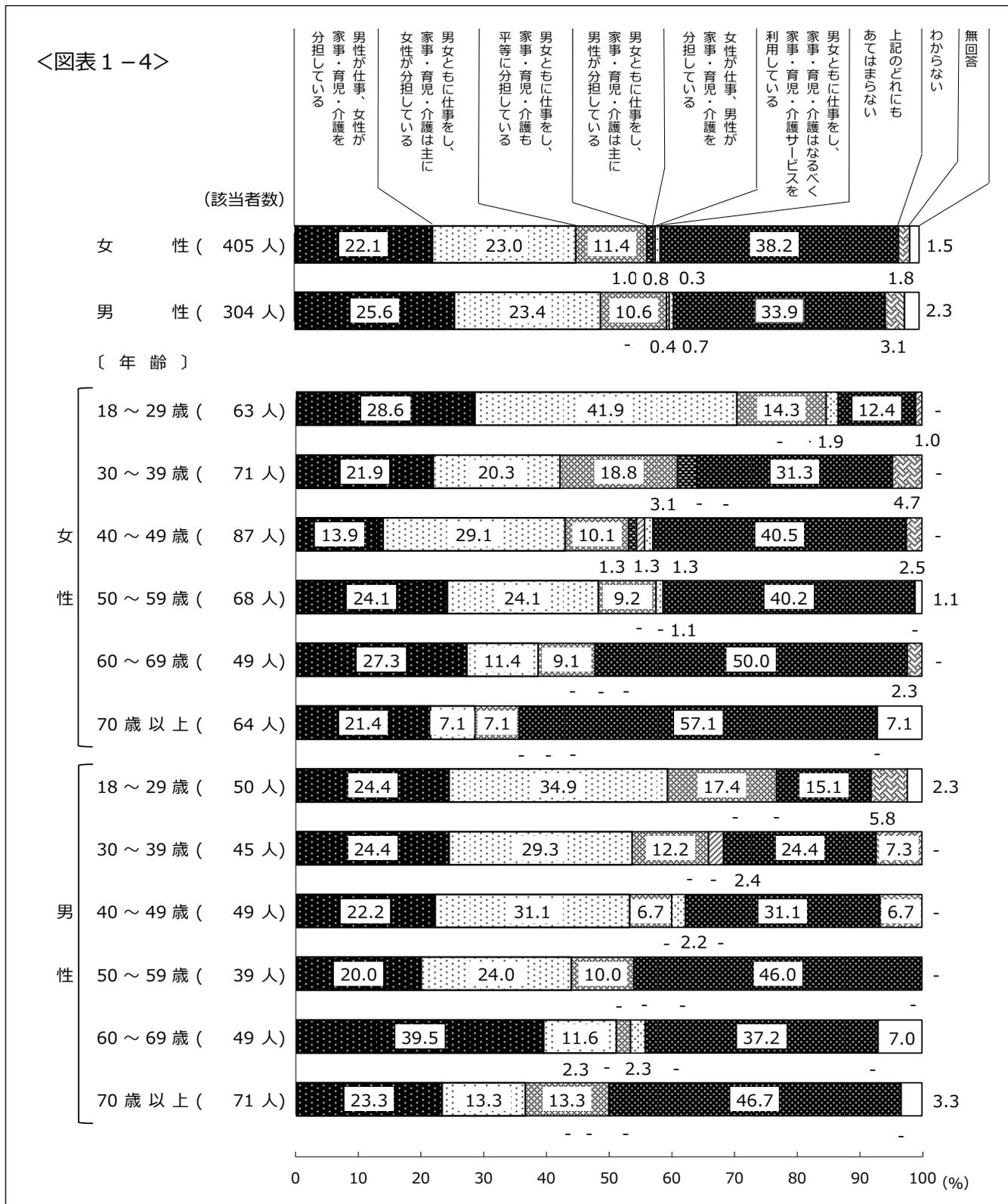
現実の男女の役割分担については、「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担している」が23.6%で最も多く、次いで「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が分担している」が23.0%、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担している」が11.3%となっている。

理想では58.0%だった「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」と比較すると現実の回答は11.3%と少なくなっている。

性別にみると、「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担している」と、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が分担している」と回答した合計の割合は、女性で45.1%、男性で49.0%となっており、家事・育児・介護を女性が分担する傾向は男女で大きな差はみられない。

【性別・年齢別】

現実の男女の役割分担について性別・年齢別にみると、「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担している」の回答は男性の60歳代で、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が分担している」の回答は女性の29歳以下で、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担している」の回答は女性の30歳代で、それぞれ最も多くなっている。



1-3 平日の生活行動

◇ 「仕事」の平均時間 9.7 時間

問3 あなたの生活時間についてお聞きします。

(1) 平日の生活行動を次の8つに分けた場合、占める時間が長いものから3つ選び、回答欄に数字を記入してください。

※食事・睡眠など身の回りのことをする時間は除いてください。

(2) (1) であげた3つの生活行動について、1日平均でそれぞれどのくらいあてていますか。

※30分単位でご記入ください。記入例：30分→0.5時間 1時間30分→1.5時間

<図表1-5>

		(人)			
		1位	2位	3位	計
1	仕事（通勤時間も含む）	418	34	9	461
2	家事	109	202	155	466
3	育児	11	35	36	82
4	介護	9	16	15	40
5	地域活動	2	21	18	41
6	趣味	61	251	168	480
7	勉強	37	36	71	144
8	その他	32	40	37	109

図表1-5は、問3(1)で順位の回答があったものを、項目ごとに表にしたものである。

1位をみると、「仕事（通勤時間も含む）」と答えた人は418人、「家事」と答えた人は109人、「育児」と答えた人は11人、「介護」と答えた人は9人、「地域活動」と答えた人は2人、「趣味」と答えた人は61人、「勉強」と答えた人は37人、「その他」と答えた人は32人となっている。

1位の中では「仕事（通勤時間も含む）」と答えた人が最も多く、2位では「趣味」が251人、3位では「趣味」が168人となっている。

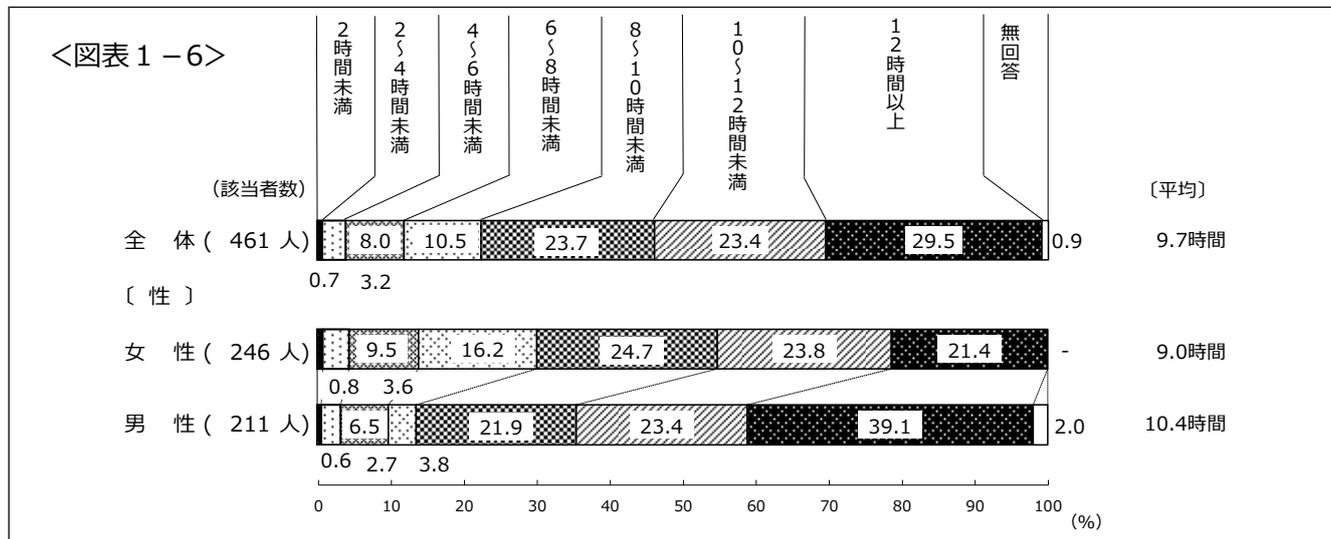
次のページから項目ごとにみていく。1位から3位までに記入された時間を積算し、時間を記入した人数で割ったものが平均時間である。

【仕事】

「仕事」と答えた人が1日にあてている時間は、「12時間以上」が29.5%で最も多く、次いで「8～10時間未満」が23.7%、「10～12時間未満」が23.4%となっている。

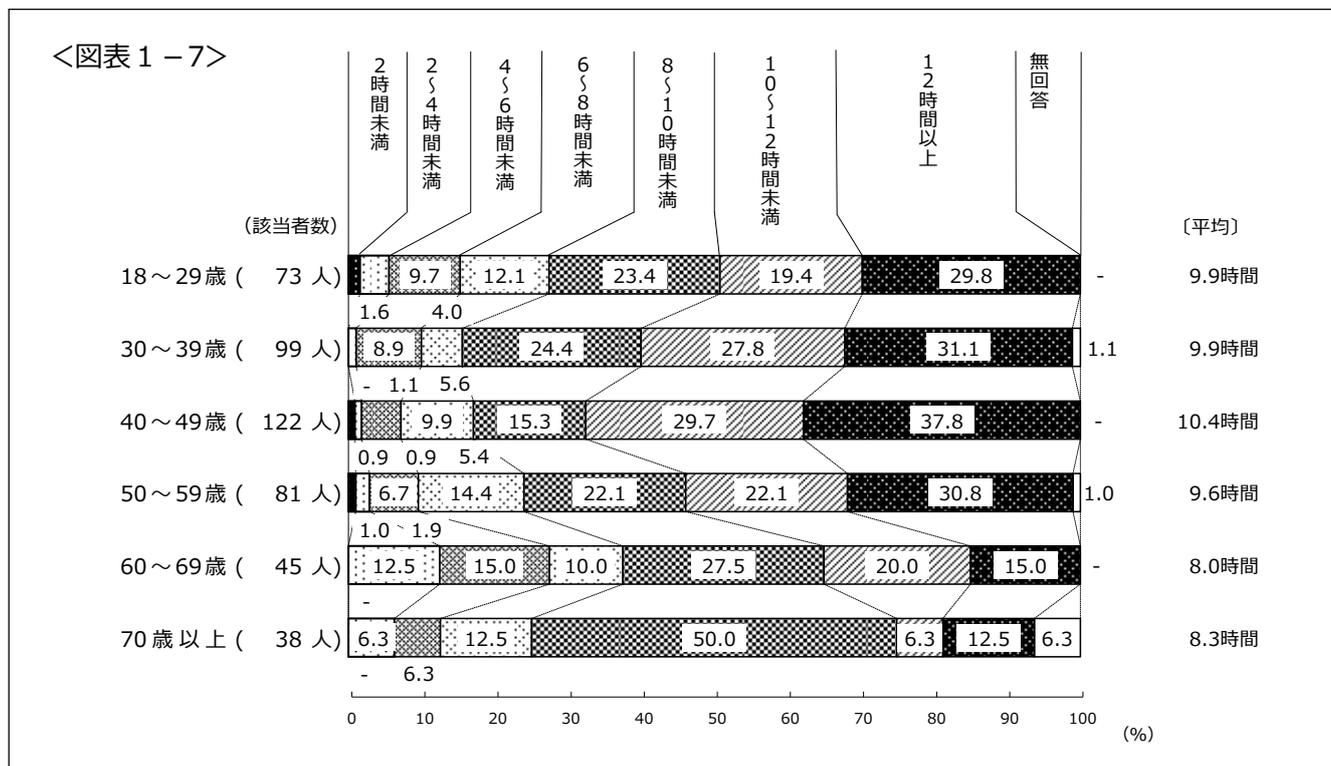
「仕事」と答えた人の1日にあてている時間を平均すると、9.7時間となっている。

性別にみると、女性では、「8～10時間未満」の回答が最も多く24.7%、男性では、「12時間以上」の回答が最も多く、39.1%となっている。平均時間を比べると、女性は9.0時間、男性は10.4時間で、男性のほうが1.4時間長い。



【年齢別】

「仕事」と答えた人の時間を年齢別にみると、「12時間以上」の回答は40歳代で最も多く37.8%、次いで30歳代で31.1%となっている。平均時間は、40歳代が10.4時間で、最も長い。

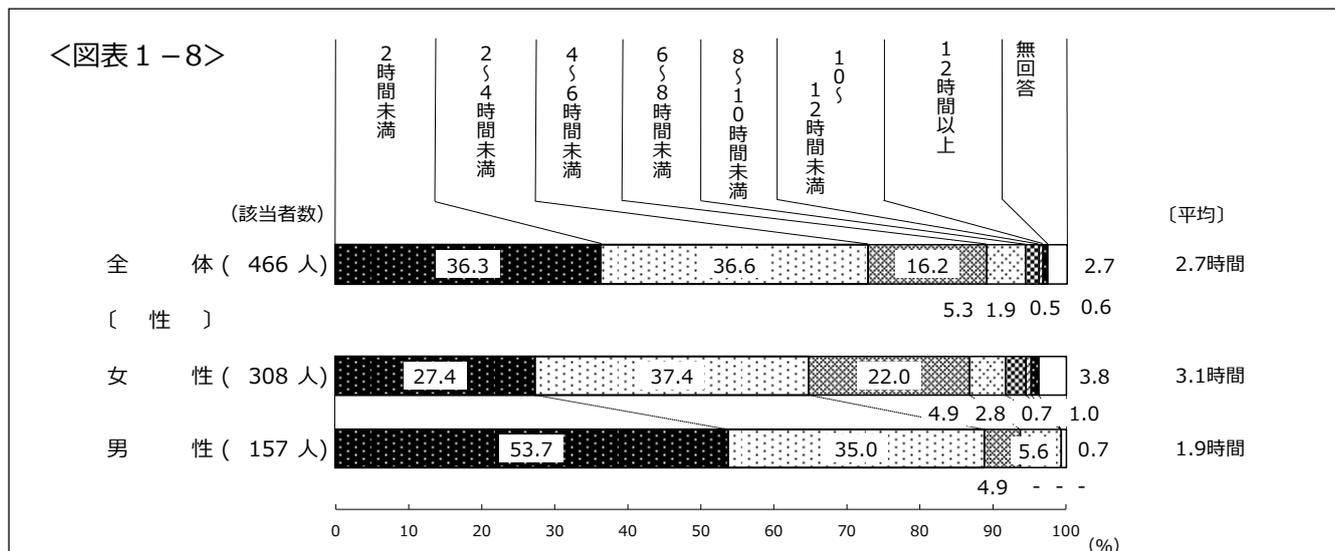


【家事】

「家事」と答えた人が1日にあてている時間をみると、「2～4 時間未満」が36.6%で最も多く、次いで「2 時間未満」が36.3%、「4～6 時間未満」が16.2%となっている。

「家事」と答えた人の1日にあてている時間を平均すると、2.7 時間となっている。

性別にみると、女性では、「2～4 時間未満」の回答が最も多く37.4%、男性では、「2 時間未満」の回答が最も多く53.7%となっている。平均時間を比べると、女性は3.1 時間、男性は1.9 時間で、女性のほうが1.2 時間長い。

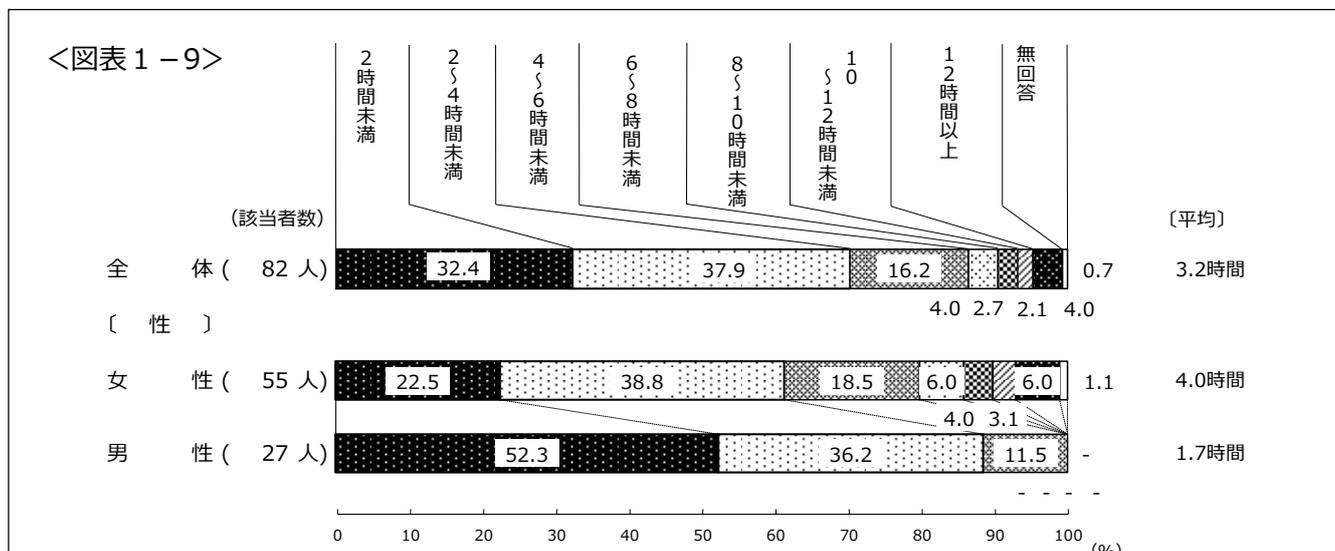


【育児】

「育児」と答えた人が1日にあてている時間をみると、「2～4 時間未満」が37.9%で最も多く、次いで「2 時間未満」が32.4%、「4～6 時間未満」が16.2%となっている。

「育児」と答えた人の1日にあてている時間を平均すると、3.2 時間となっている。

性別にみると、女性では、「2～4 時間未満」の回答が最も多く38.8%、男性では、「2 時間未満」の回答が最も多く52.3%となっている。平均時間を比べると、女性は4.0 時間、男性は1.7 時間で、女性のほうが2.3 時間長い。

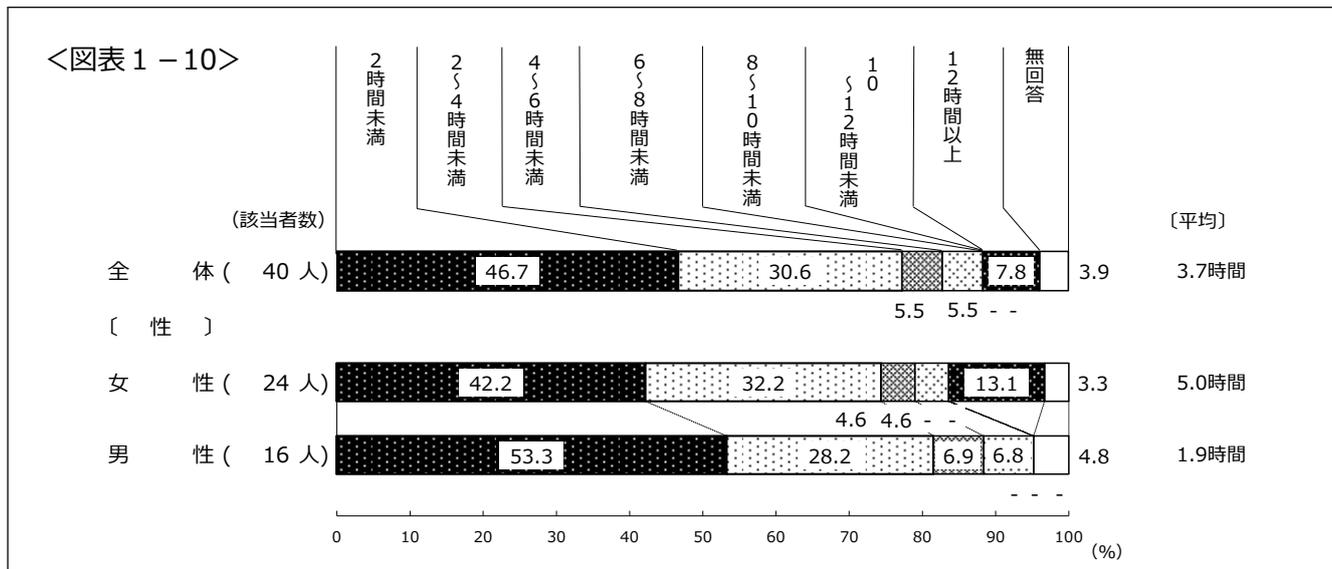


【介護】

「介護」と答えた人が1日にあてている時間をみると、「2時間未満」が46.7%で最も多く、次いで「2～4時間未満」が30.6%、「12時間以上」が7.8%となっている。

「介護」と答えた人の1日にあてている時間を平均すると、3.7時間となっている。

性別にみると、「2時間未満」の回答は、女性が42.2%、男性が53.3%で、男性が女性を11.1ポイント上回っている。平均時間を比べると、女性は5.0時間、男性は1.9時間で、女性のほうが3.1時間長い。

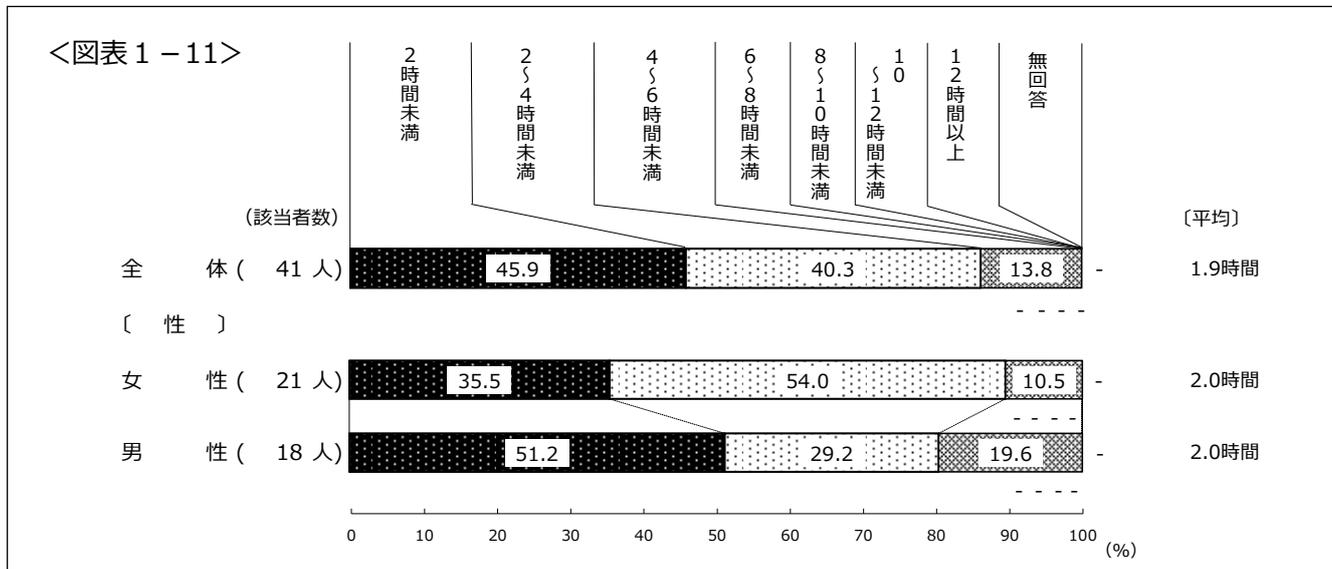


【地域活動】

「地域活動」と答えた人が1日にあてている時間をみると、「2時間未満」が45.9%で最も多く、次いで「2～4時間未満」が40.3%、「4～6時間未満」が13.8%となっている。

「地域活動」と答えた人の1日にあてている時間を平均すると、1.9時間となっている。

性別にみると、女性では、「2～4時間未満」の回答が最も多く54.0%、男性では、「2時間未満」の回答が最も多く51.2%となっている。

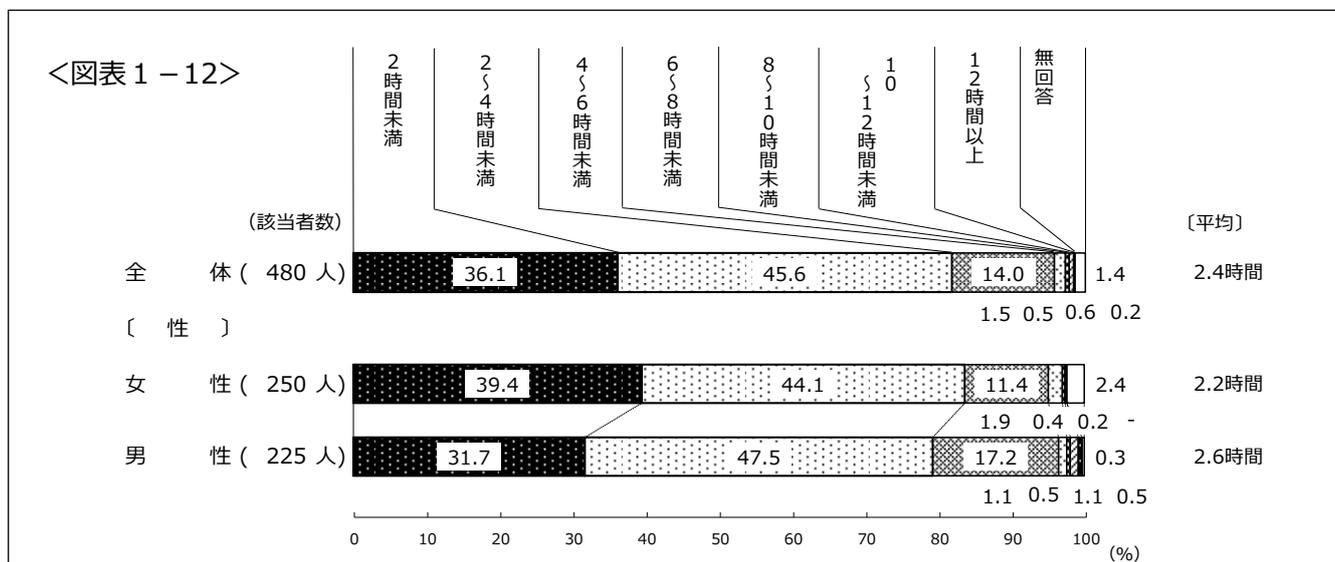


【趣味】

「趣味」と答えた人が1日にあてている時間をみると、「2～4 時間未満」が45.6%で最も多く、次いで「2 時間未満」が36.1%、「4～6 時間未満」が14.0%となっている。

「趣味」と答えた人の1日にあてている時間を平均すると、2.4 時間となっている。

性別にみると、男女ともに「2～4 時間未満」の回答が最も多く、女性で44.1%、男性で47.5%となっている。平均時間を比べると、女性が2.2 時間、男性が2.6 時間で、男性のほうが0.4 時間長い。

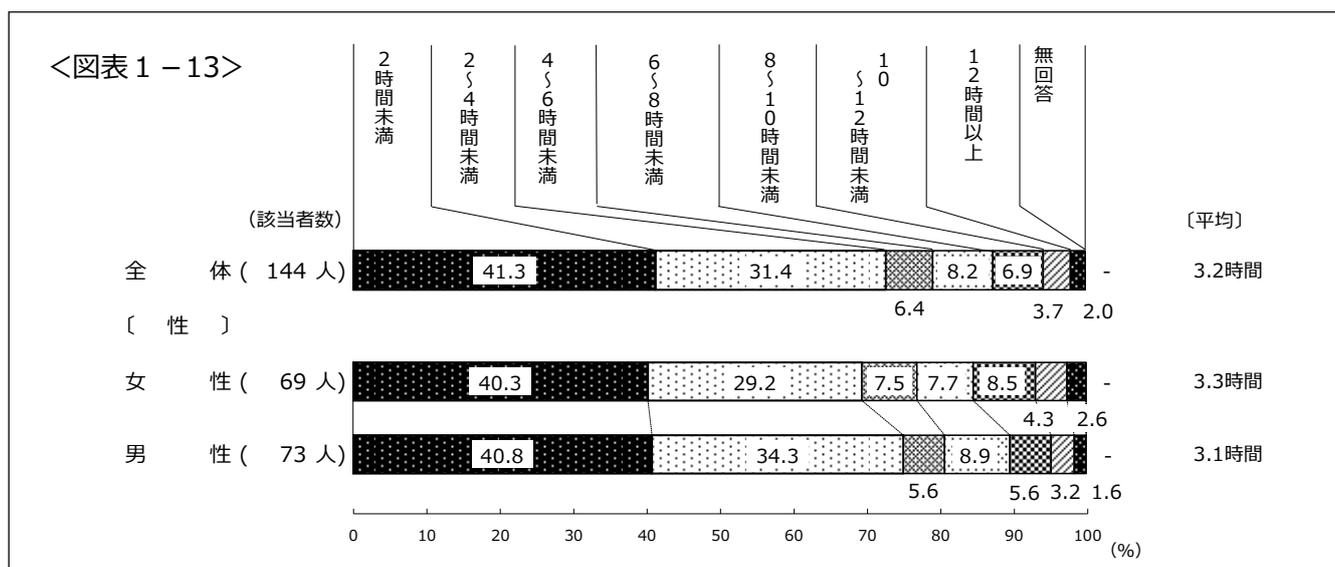


【勉強】

「勉強」と答えた人が1日にあてている時間をみると、「2 時間未満」が41.3%で最も多く、次いで「2～4 時間未満」が31.4%、「6～8 時間未満」が8.2%となっている。

「勉強」と答えた人の1日にあてている時間を平均すると、3.2 時間となっている。

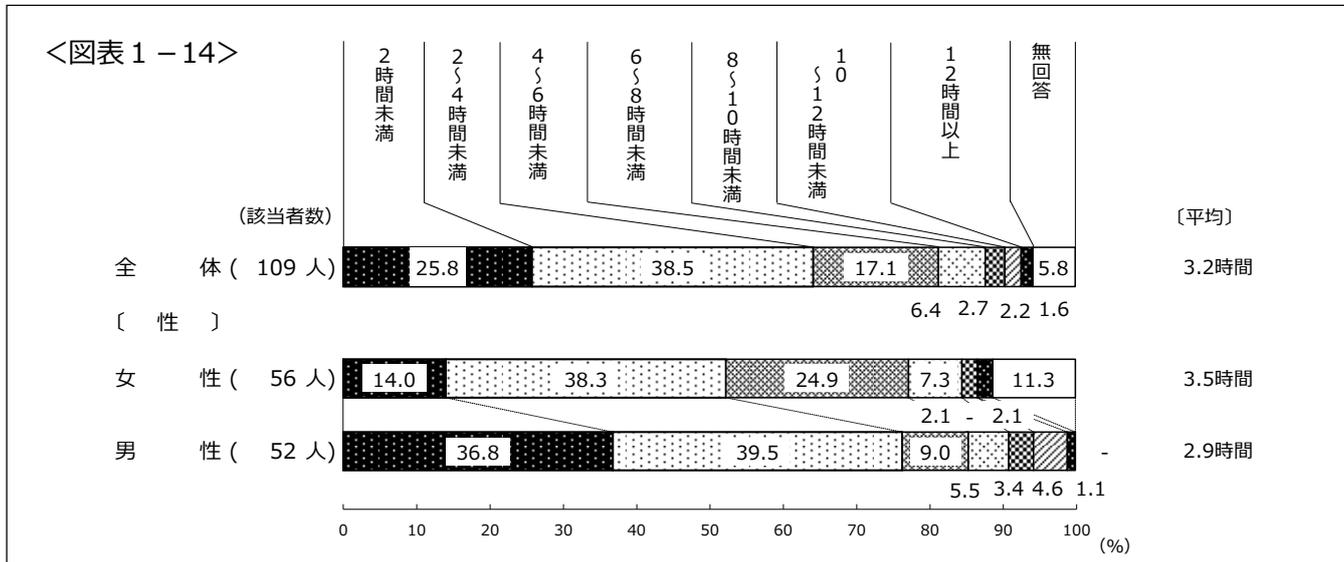
性別にみると、男女ともに「2 時間未満」の回答が最も多く、女性で40.3%、男性で40.8%となっている。平均時間を比べると、女性が3.3 時間、男性が3.1 時間で、女性のほうが0.2 時間長い。



【その他】

意見欄には「ペットの世話」や「通院」、「テレビ」などが多く、「その他」と答えた人の1日にあてている時間を平均すると、3.2時間となっている。

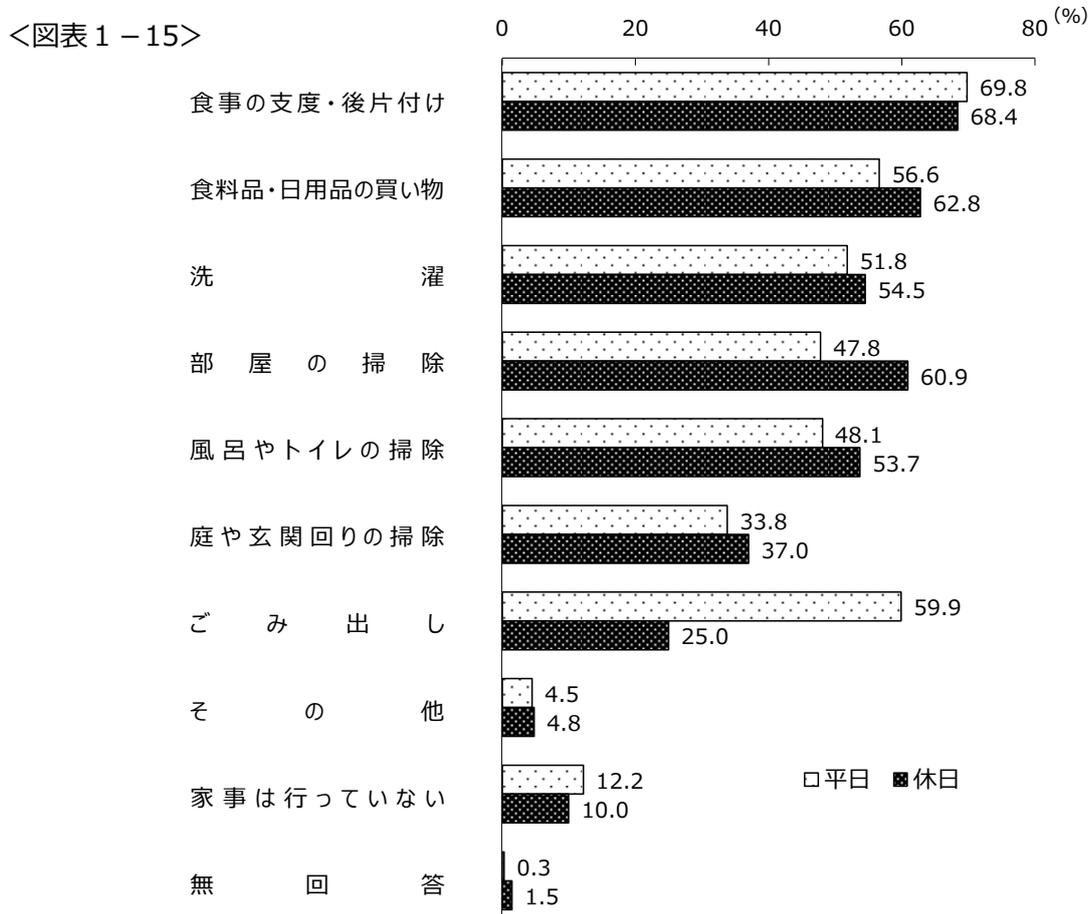
性別にみると、男女ともに「2～4時間未満」の回答が最も多く、女性で38.3%、男性で39.5%となっている。平均時間を比べると、女性が3.5時間、男性が2.9時間で、女性のほうが0.6時間長い。



1-4 行っている家事

◇ 「食事の支度・後片付け」 平日 69.8%、休日 68.4%

問4 あなたの行っている家事についてお聞きします。(1) 平日、(2) 休日それぞれで行っている家事について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



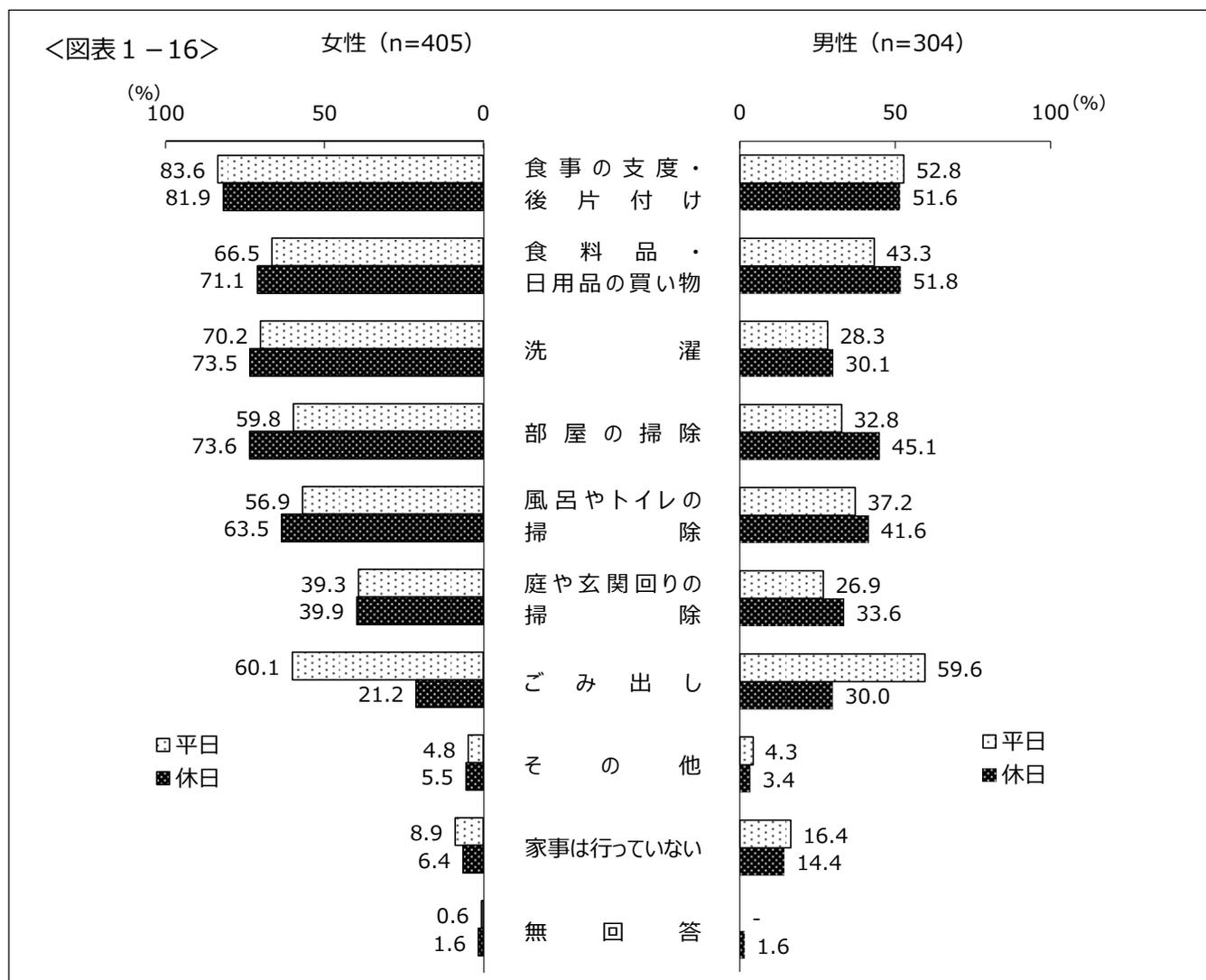
平日、休日それぞれで行っている家事については、平日では「食事の支度・後片付け」が69.8%と最も多く、次いで「ごみ出し」59.9%、「食料品・日用品の買い物」56.6%などの順となっている。休日では「食事の支度・後片付け」が68.4%と最も多く、次いで「食料品・日用品の買い物」62.8%、「部屋の掃除」60.9%などの順となっている。

なお、平日、休日ともに「家事は行っていない」は、1割程度となっている。

【性別】

平日、休日それぞれで行っている家事について性別にみると、「食事の支度・後片付け」の回答は、女性では平日で83.6%、休日で81.9%、男性では平日で52.8%、休日で51.6%となっている。それ以外の家事についても、「ごみ出し」を除けば、全ての項目で概ね女性の割合が多くなっている。

また、「家事は行っていない」と回答した男性は、平日・休日ともに女性より多く、平日で16.4%、休日で14.4%となっている。



1-5 男女の役割や子育てに対する意識

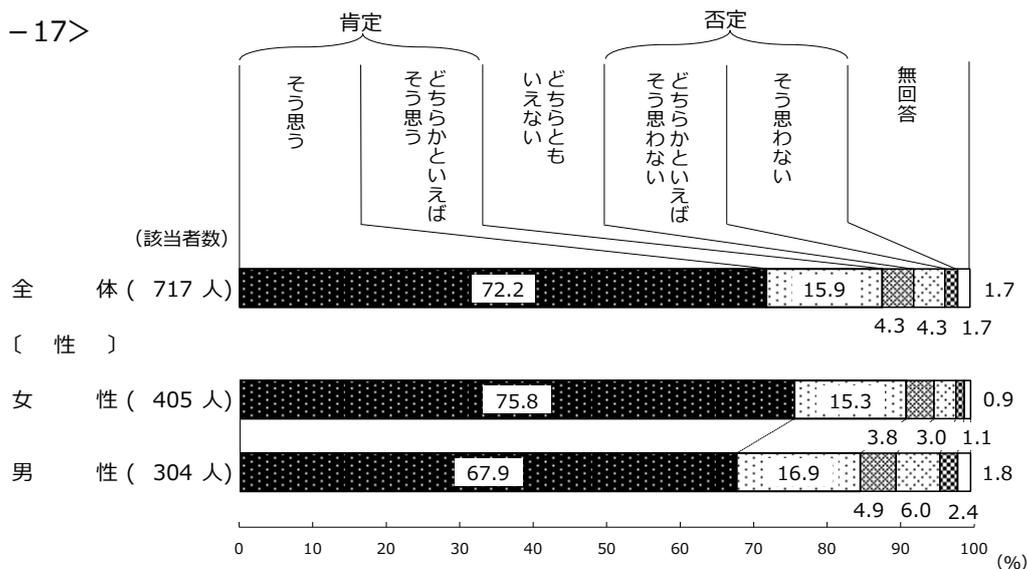
(1) 結婚するかしないかは個人の自由である

◇ 肯定 88.1% 否定 6.0%

問5 家族のあり方が変化し、男女の役割や子育てに対する考え方も多様化しています。次の(1)～(13)にあげるような考え方について、あなたはどのように思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ) ※結婚には事実婚も含みます。

(1) 結婚するかしないかは個人の自由である

<図表1-17>



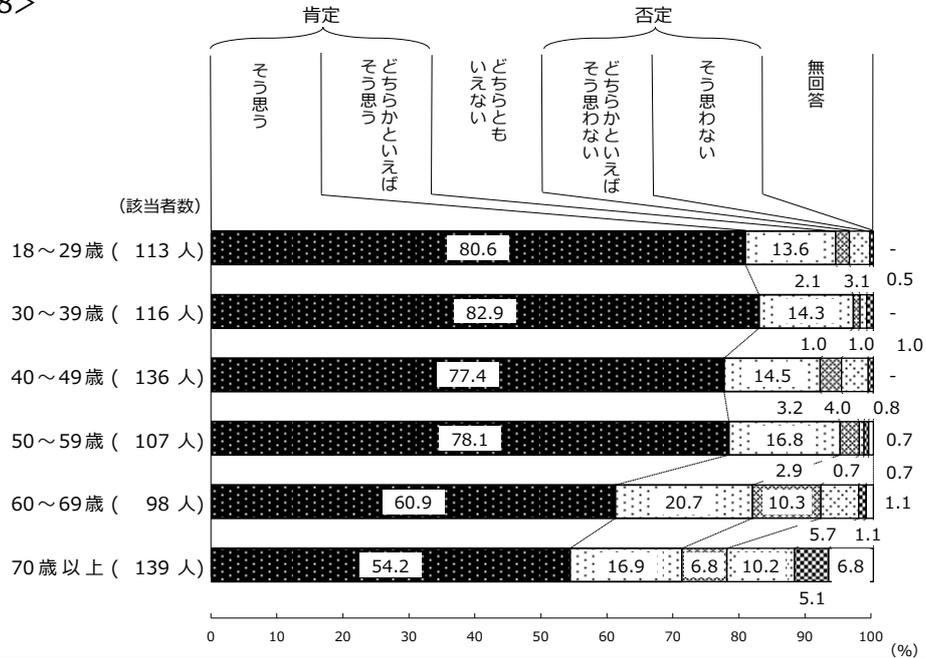
『結婚するかしないかは個人の自由である』という考え方について、肯定する人が88.1%（「そう思う」(72.2%) + 「どちらかといえばそう思う」(15.9%)）、否定する人が6.0%（「どちらかといえばそう思わない」(4.3%) + 「そう思わない」(1.7%)）となっている。

性別にみると、肯定する人の割合は女性が91.1%、男性が84.8%で、女性が男性を6.3ポイント上回っている。

【年齢別】

『結婚するかしないかは個人の自由である』という考え方について、年齢別にみると、肯定する人の割合は30歳代で97.2%と最も高く、70歳以上では71.1%と最も低くなっている。「どちらともいえない」の割合は60歳代で10.3%、否定する人の割合は70歳以上で15.3%と、それぞれ高くなっている。

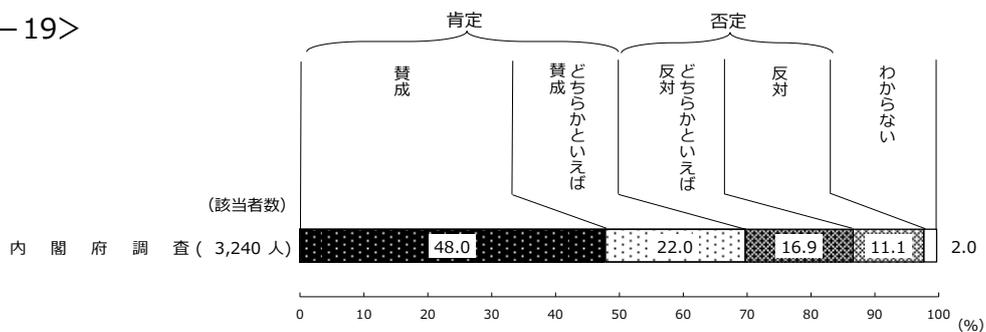
<図表1-18>



「参考」 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成21年10月)

「結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよいか」

<図表1-19>

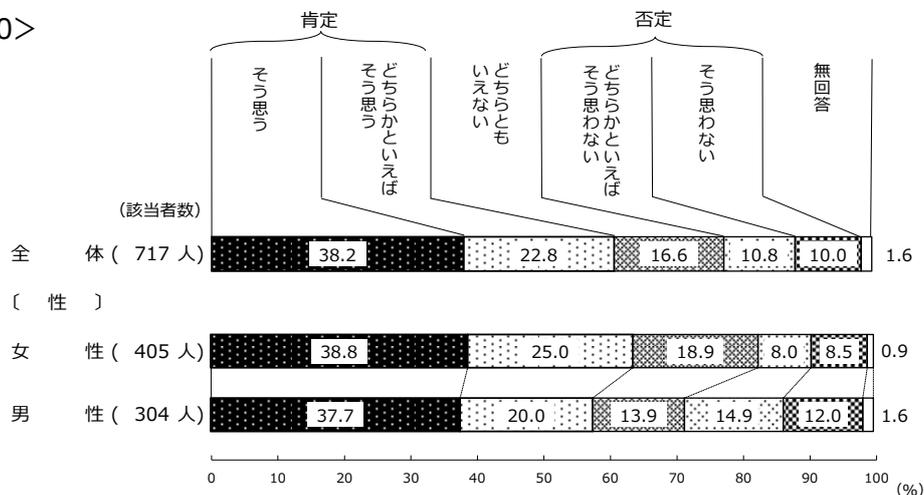


(2) 未婚の女性が子どもを産み育てるのも、ひとつの生き方である

◇ 肯定 61.0%、否定 20.8%

問5 (2) 未婚の女性が子どもを産み育てるのも、ひとつの生き方である

<図表1-20>



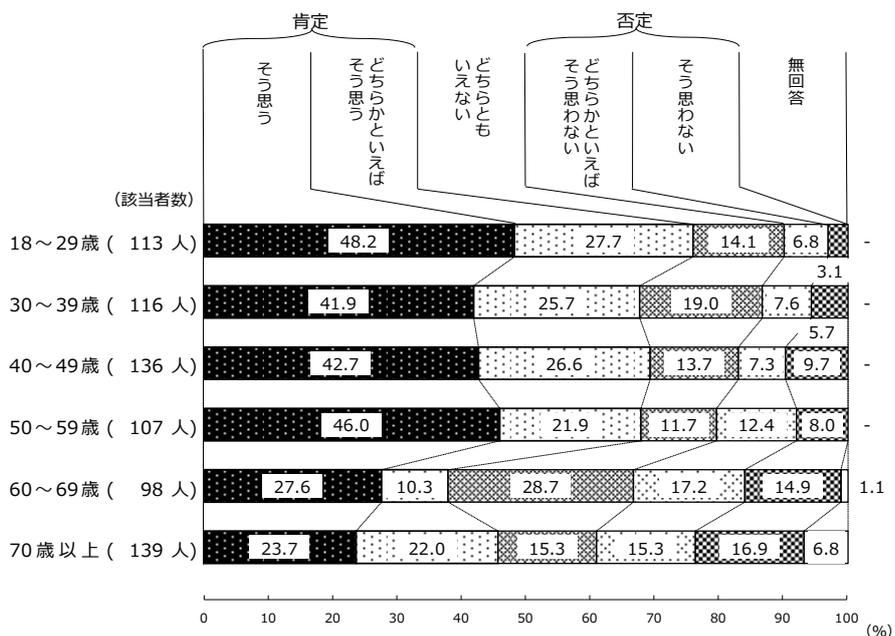
『未婚の女性が子どもを産み育てるのも、ひとつの生き方である』という考え方について、肯定する人 61.0% (「そう思う」(38.2%) + 「どちらかといえばそう思う」(22.8%)) が、否定する人 20.8% (「どちらかといえばそう思わない」(10.8%) + 「そう思わない」(10.0%)) を 40.2 ポイント上回り、ほぼ 3 倍となっている。

性別にみると、否定する人の割合は女性が 16.5%、男性が 26.9% で、男性が女性を 10.4 ポイント上回っている。

【年齢別】

『未婚の女性が子どもを産み育てるのも、ひとつの生き方である』という考え方について、年齢別にみると、肯定する人の割合は 29 歳以下で 75.9% と最も高く、60 歳代では 37.9% と最も低くなっている。

<図表1-21>

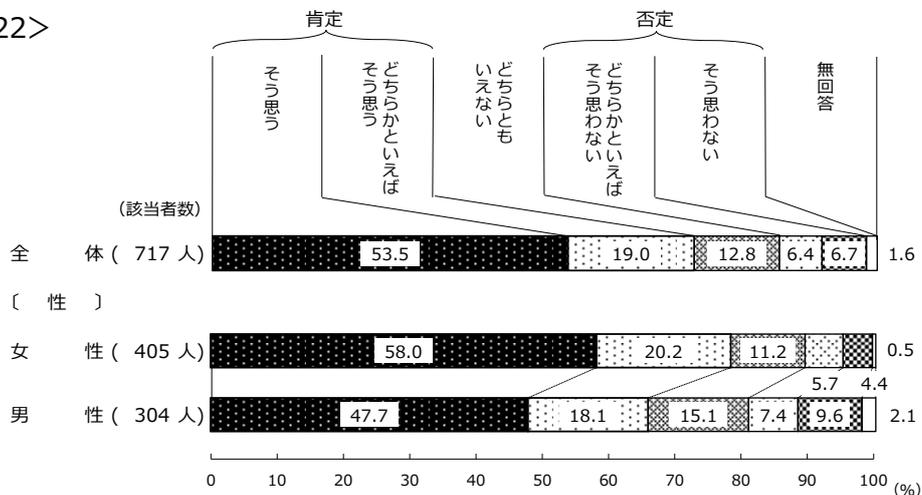


(3) 結婚しても子どもを持たないというの、ひとつの生き方である

◇ 肯定 72.5%、否定 13.1%

問5 (3) 結婚しても子どもを持たないというの、ひとつの生き方である

<図表1-22>



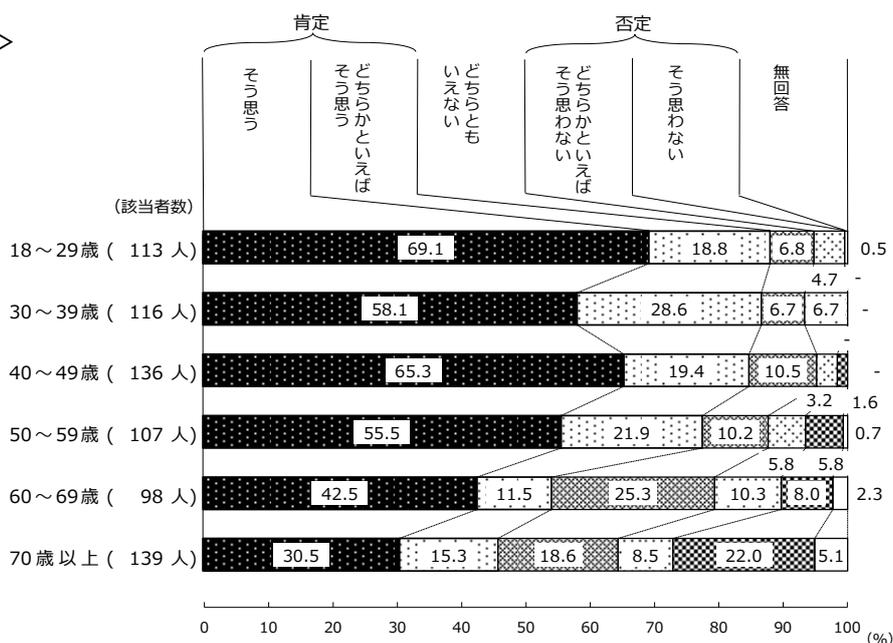
『結婚しても子どもを持たないというの、ひとつの生き方である』という考え方について、肯定する人が72.5%（「そう思う」(53.5%) + 「どちらかといえばそう思う」(19.0%)）、否定する人が13.1%（「どちらかといえばそう思わない」(6.4%) + 「そう思わない」(6.7%)）となっている。

性別にみると、肯定する人の割合は女性が78.2%、男性が65.8%で、女性が男性を12.4ポイント上回っている。

【年齢別】

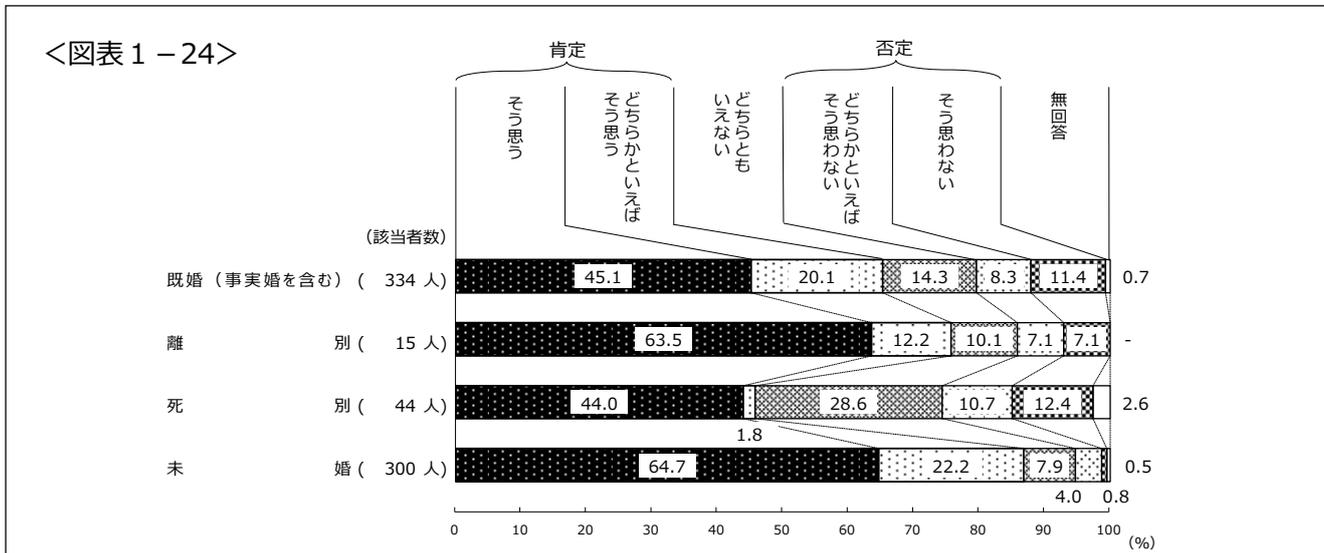
『結婚しても子どもを持たないというの、ひとつの生き方である』という考え方について、年齢別にみると、肯定する人の割合は29歳以下で87.9%と最も高く、70歳以上で45.8%と最も低くなっている。年齢が上がるにつれて肯定する人の割合が低くなっている。

<図表1-23>



【婚姻状況別】

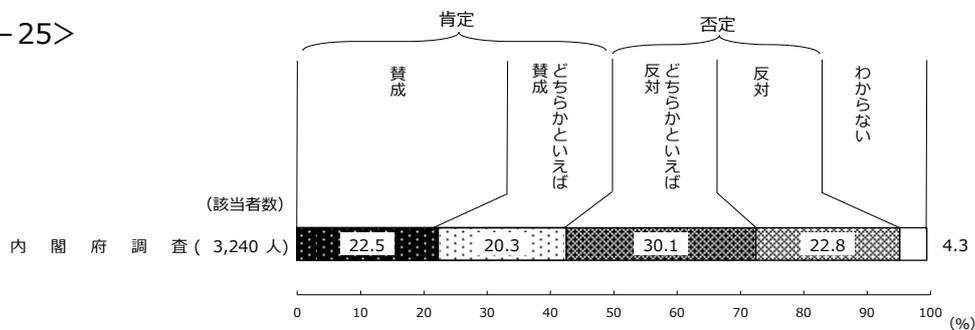
『結婚しても子どもを持たないというのも、ひとつの生き方である』という考え方について、婚姻状況別にみると、肯定する人の割合は未婚の人で 86.9%と最も高く、死別の人で 45.8%と最も低くなっている。「どちらともいえない」の割合は死別の人で 28.6%と最も高く、未婚の人で 7.9%と最も低くなっている。



「参考」 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成 21 年 10 月)

「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はないか」

<図表 1 - 25>

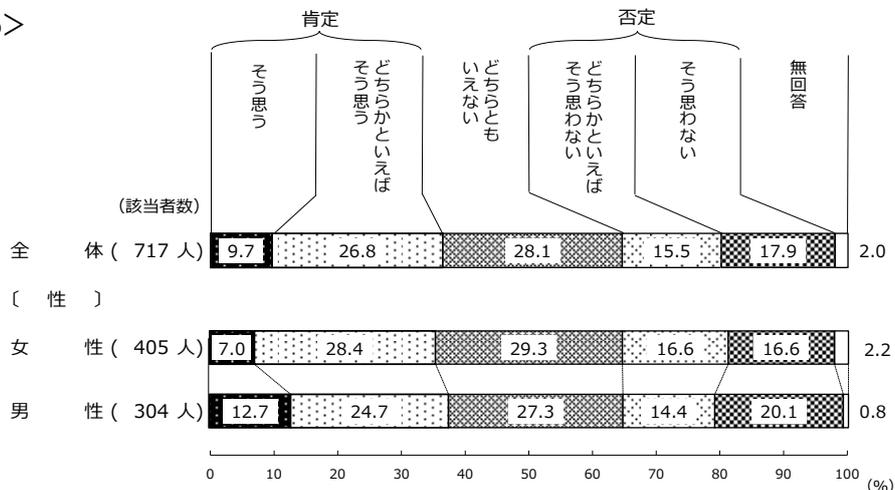


(4) 女性は結婚したら自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい

◇ 肯定 36.5%、否定 33.4%

問5 (4) 女性は結婚したら自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい

<図表1-26>

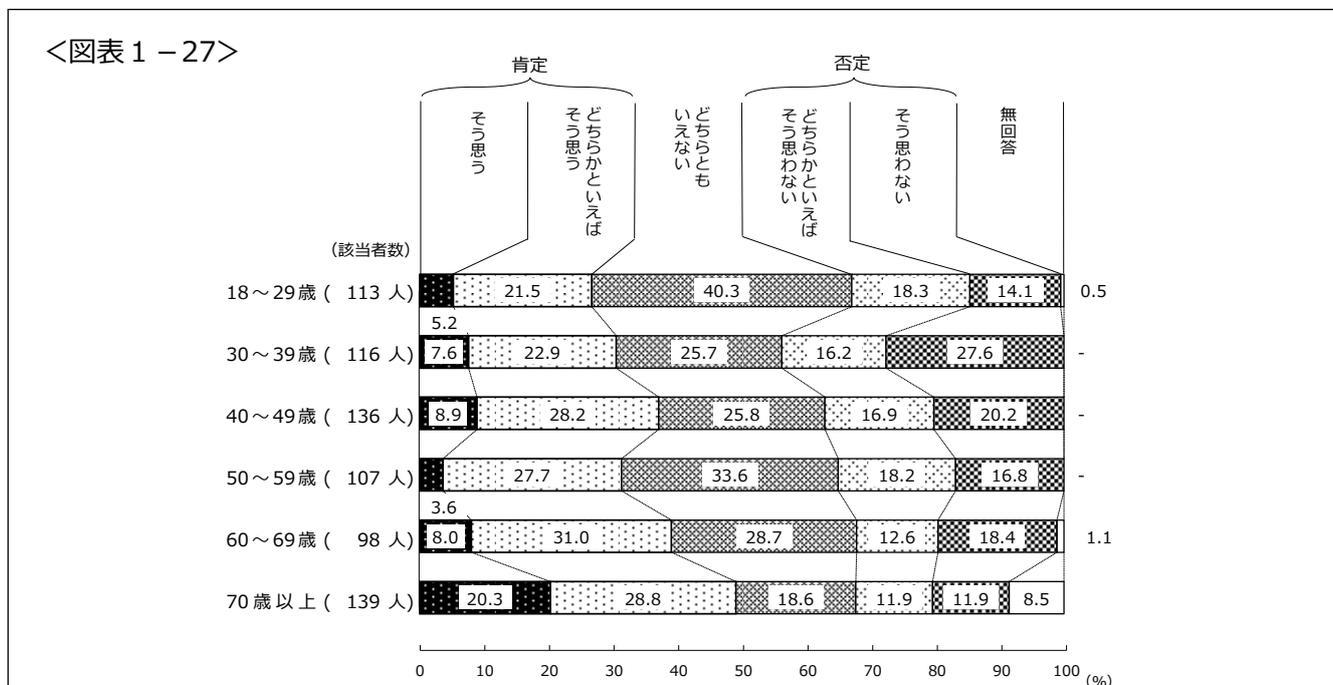


『女性は結婚したら自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい』という考え方について、肯定する人 36.5% (「そう思う」(9.7%) + 「どちらかといえばそう思う」(26.8%)) が、否定する人 33.4% (「どちらかといえばそう思わない」(15.5%) + 「そう思わない」(17.9%)) を 3.1 ポイント上回っている。

性別にみると、「そう思う」と答えた人の割合は、女性が 7.0%、男性が 12.7% で、男性が女性を 5.7 ポイント上回っている。

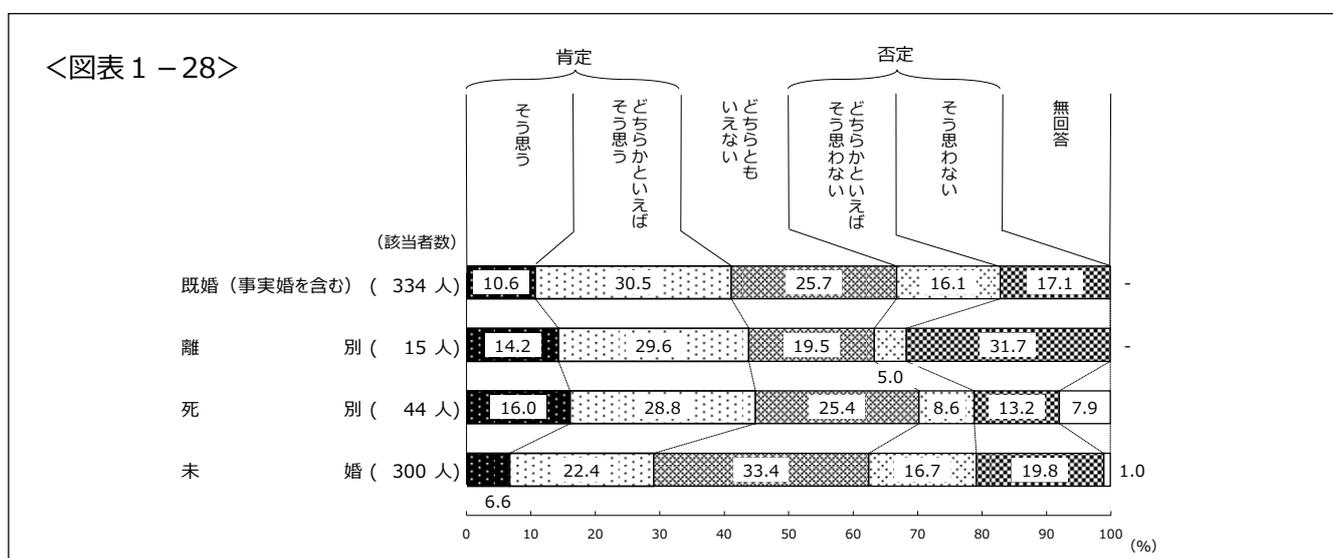
【年齢別】

『女性は結婚したら自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい』という考え方について、年齢別にみると、肯定する人の割合は70歳以上で49.1%と最も高く、29歳以下で26.7%と最も低くなっている。「どちらともいえない」の割合は29歳以下で40.3%と最も高く、70歳以上で18.6%と最も低くなっている。否定する人の割合は30歳代で43.8%と最も高く、70歳以上で23.8%と最も低くなっている。



【婚姻状況別】

『女性は結婚したら自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい』という考え方について、婚姻状況別にみると、肯定する人の割合は死別の人で44.8%と最も高く、未婚の人で29.0%と最も低くなっている。「どちらともいえない」の割合は未婚の人で33.4%と最も高く、離別の人で19.5%と最も低くなっている。否定する人の割合は離別の人で36.7%と最も高く、死別の人で21.8%と最も低くなっている。

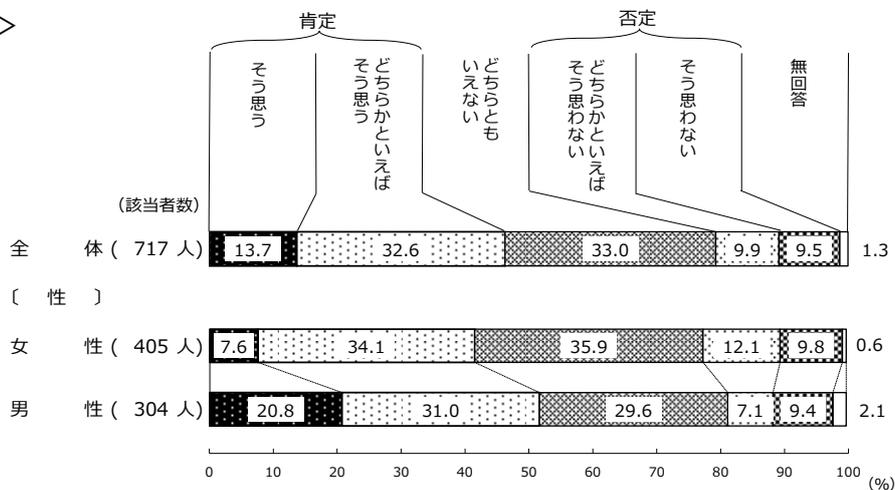


(5) 男性は結婚したら自分自身のことより妻や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい

◇ 肯定 46.3%、否定 19.4%

問5 (5) 男性は結婚したら自分自身のことより妻や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい

<図表1-29>

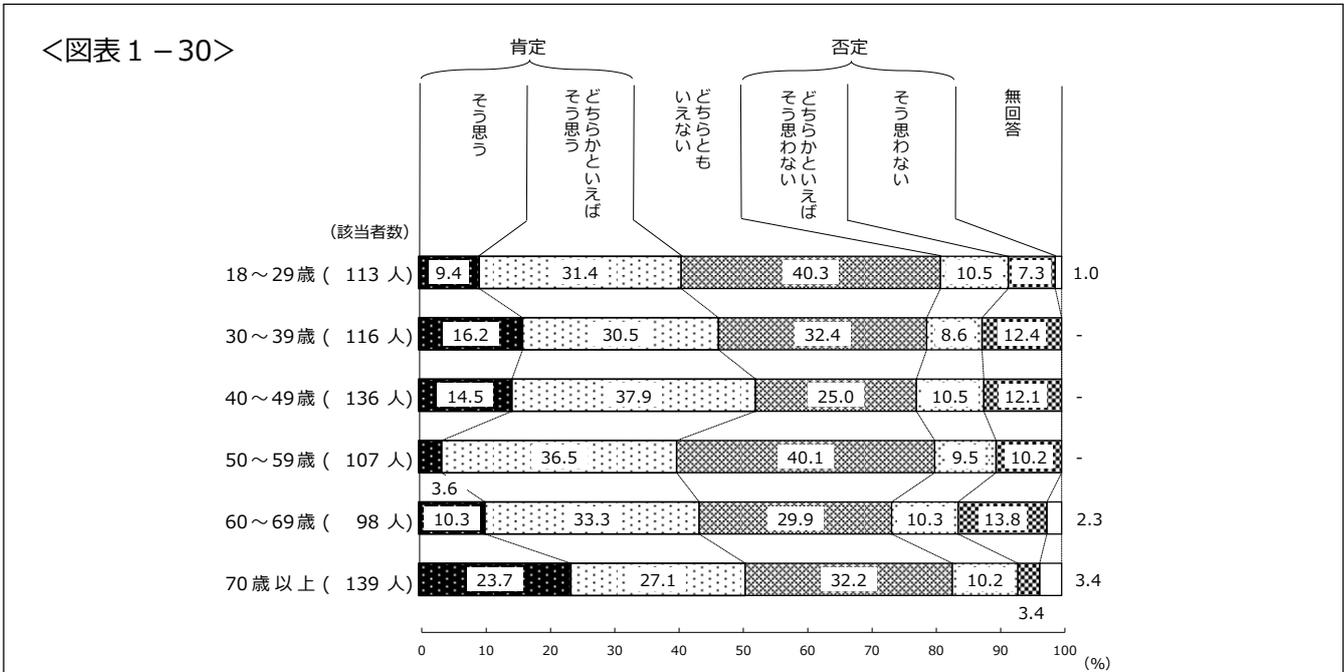


『男性は結婚したら自分自身のことより妻や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい』という考え方について、肯定する人 46.3% (「そう思う」(13.7%) + 「どちらかといえばそう思う」(32.6%)) が、否定する人 19.4% (「どちらかといえばそう思わない」(9.9%) + 「そう思わない」(9.5%)) を 26.9 ポイント上回っている。

性別にみると、肯定する人の割合は女性が 41.7%、男性が 51.8%で、男性が女性を 10.1 ポイント上回っている。「どちらともいえない」の割合は、女性が 35.9%、男性が 29.6%で、女性が男性を 6.3 ポイント上回っている。否定する人の割合は女性が 21.9%、男性が 16.5%で、女性が男性を 5.4 ポイント上回っている。

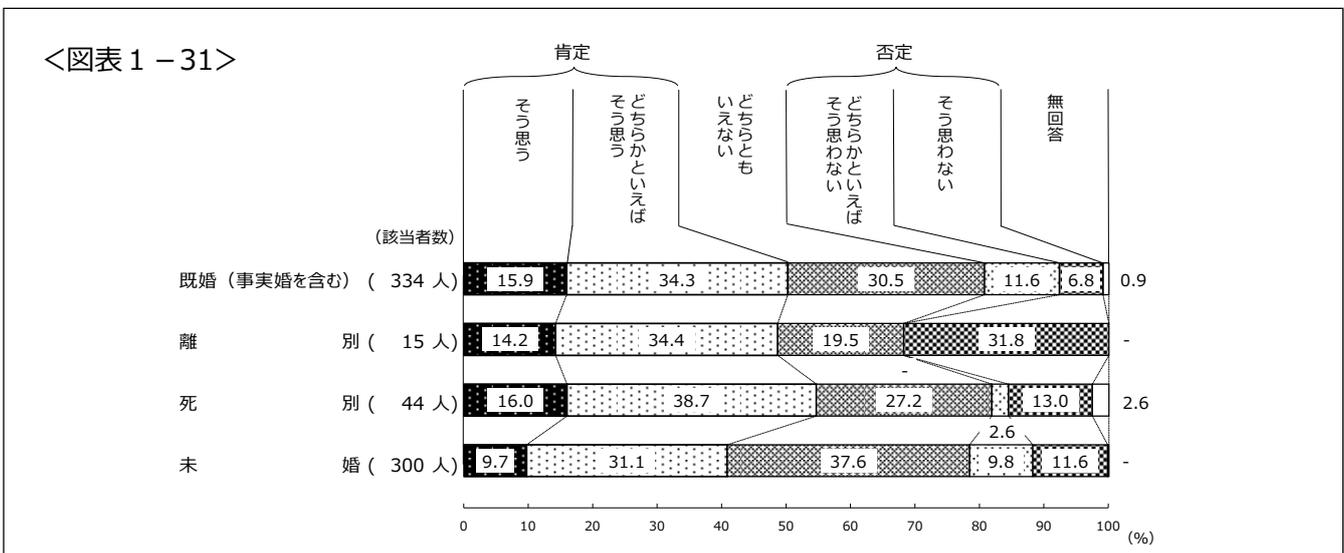
【年齢別】

『男性は結婚したら自分自身のことより妻や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい』という考え方について、年齢別にみると、肯定する人の割合は40歳代で52.4%と最も高く、50歳代で40.1%と最も低くなっている。「どちらともいえない」の割合は29歳以下で40.3%と最も高く、40歳代で25.0%と最も低くなっている。否定する人の割合は60歳代で24.1%と最も高く、70歳以上で13.6%と最も低くなっている。



【婚姻状況別】

『男性は結婚したら自分自身のことより妻や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい』という考え方について、婚姻状況別にみると、肯定する人の割合は死別の人で54.7%と最も高く、未婚の人で40.8%と最も低くなっている。「どちらともいえない」の割合は未婚の人で37.6%と最も高く、離別の人で19.5%と最も低くなっている。否定する人の割合は離別の人で31.8%と最も高く、死別の人で15.6%と最も低くなっている。

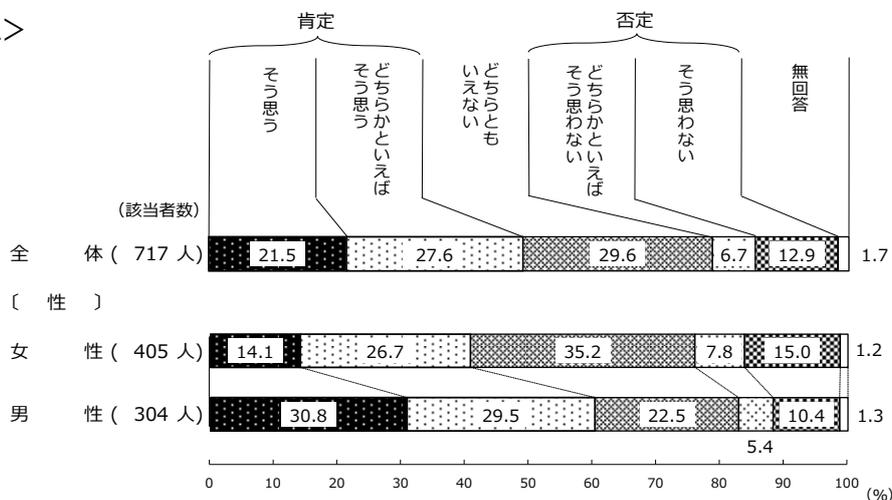


(6) 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい

◇ 肯定 49.1%、否定 19.6%

問5 (6) 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい

<図表1-32>



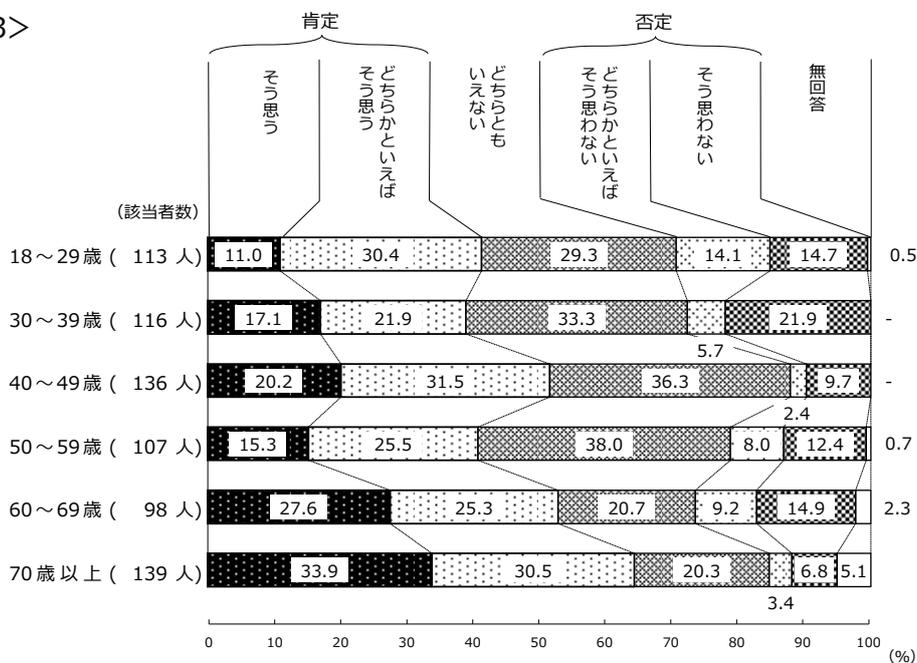
『男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい』という考え方について、肯定する人が49.1%（「そう思う」(21.5%) + 「どちらかといえばそう思う」(27.6%)）と半数近くに達し、否定する人19.6%（「どちらかといえばそう思わない」(6.7%) + 「そう思わない」(12.9%)）を29.5ポイント上回っている。

性別にみると、肯定する人の割合は女性が40.8%、男性が60.3%で、男性が女性を19.5ポイント上回っている。「どちらともいえない」の割合は女性が35.2%、男性が22.5%で、女性が男性を12.7ポイント上回っている。否定する人の割合は女性が22.8%、男性が15.8%で、女性が男性を7.0ポイント上回っている。

【年齢別】

『男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい』という考え方について、年齢別に見ると、肯定する人の割合は70歳以上で64.4%と最も高く、30歳代で39.0%と最も低くなっている。「どちらともいえない」の割合は50歳代で38.0%と最も高く、70歳以上で20.3%と最も低くなっている。否定する人の割合は29歳以下で28.8%と最も高く、70歳以上で10.2%と最も低くなっている。

<図表1-33>

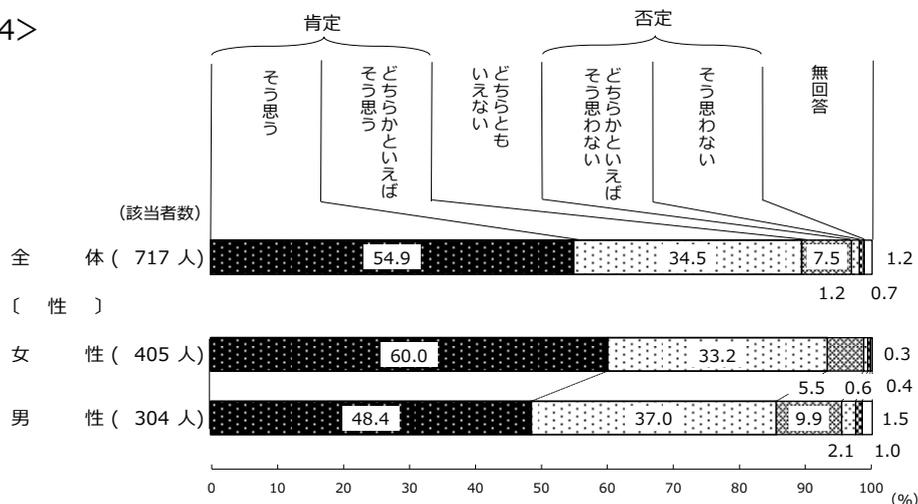


(7) 女の子も経済的自立ができるように育てた方がよい

◇ 肯定 89.4%、否定 1.9%

問5 (7) 女の子も経済的自立ができるように育てた方がよい

<図表1-34>



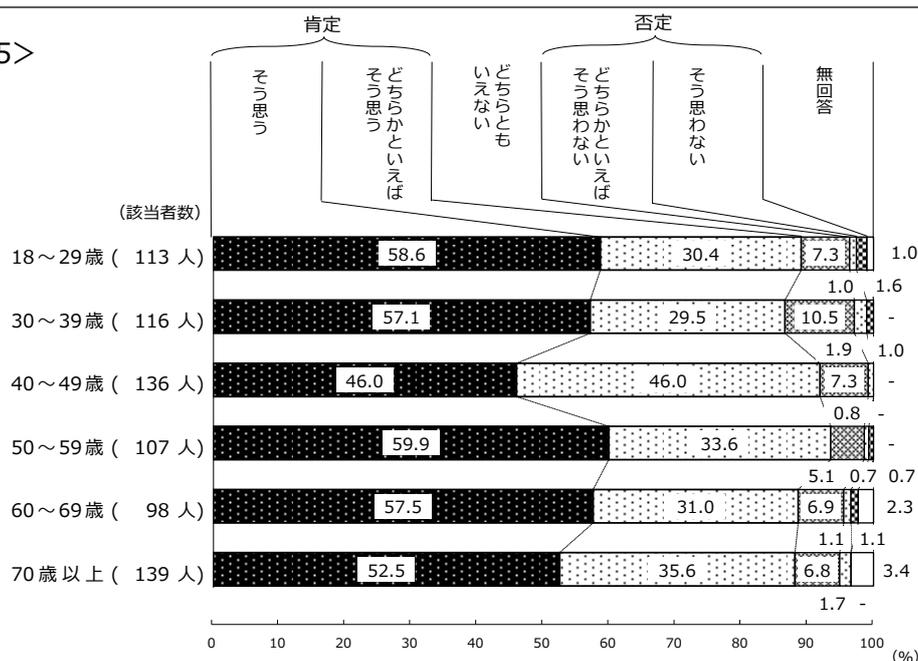
『女の子も経済的自立ができるように育てた方がよい』という考え方について、肯定する人が89.4%（「そう思う」(54.9%) + 「どちらかといえばそう思う」(34.5%)）、否定する人が1.9%（「どちらかといえばそう思わない」(1.2%) + 「そう思わない」(0.7%)）となっている。

性別にみると、肯定する人の割合は女性が93.2%、男性が85.4%で、女性が男性を7.8ポイント上回っている。

【年齢別】

『女の子も経済的自立ができるように育てた方がよい』という考え方について、年齢別にみると、肯定する人の割合は50歳代で93.5%と最も高く、30歳代で86.6%と最も低くなっている。

<図表1-35>

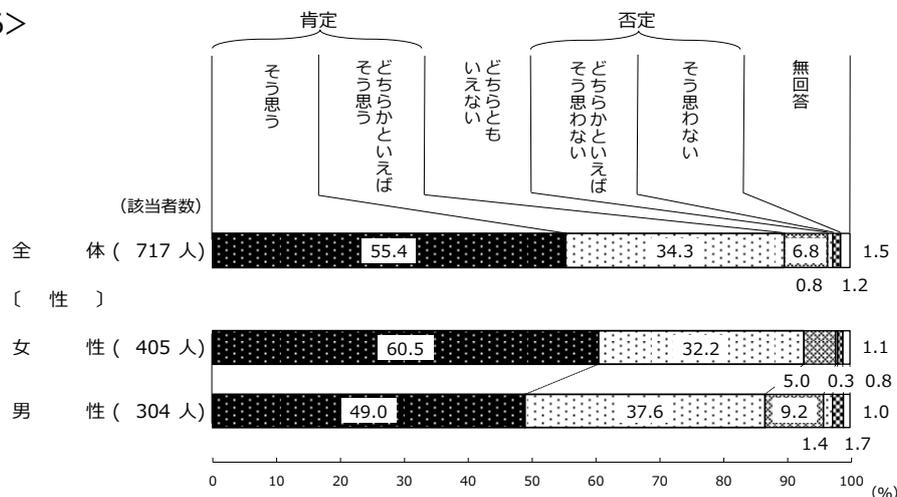


(8) 男の子も家事ができるように育てた方がよい

◇ 肯定 89.7%、否定 2.0%

問5 (8) 男の子も家事ができるように育てた方がよい

<図表1-36>



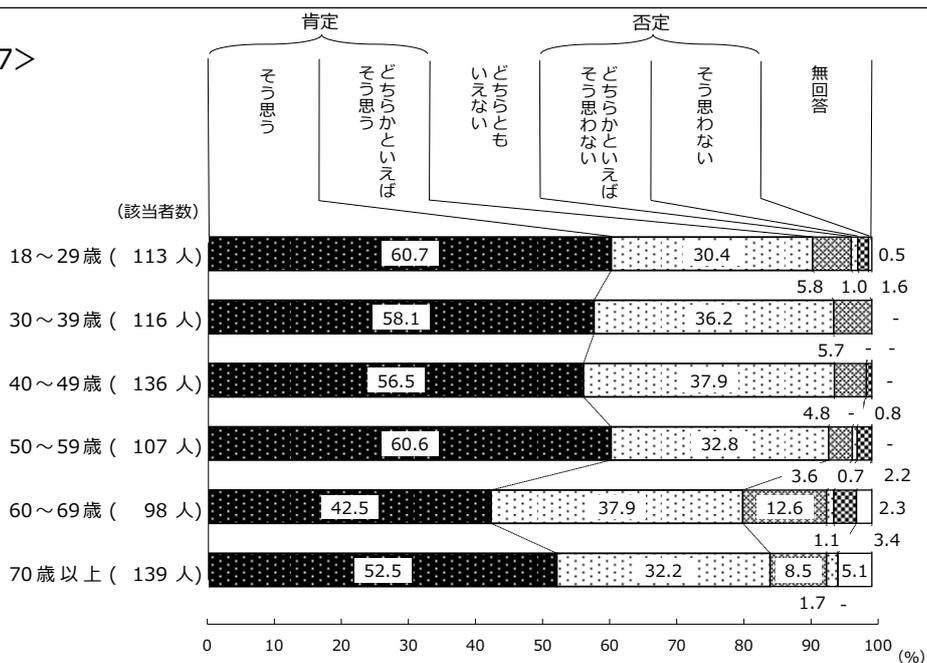
『男の子も家事ができるように育てた方がよい』という考え方について、肯定する人が 89.7% (「そう思う」(55.4%) + 「どちらかといえばそう思う」(34.3%))、否定する人が 2.0% (「どちらかといえばそう思わない」(0.8%) + 「そう思わない」(1.2%)) となっている。

性別にみると、肯定する人の割合は女性が 92.7%、男性が 86.6%で、女性が男性を 6.1 ポイント上回っている。

【年齢別】

『男の子も家事ができるように育てた方がよい』という考え方について、年齢別にみると、肯定する人の割合は 40 歳代で 94.4%と最も高く、60 歳代で 80.4%と最も低くなっている。

<図表1-37>

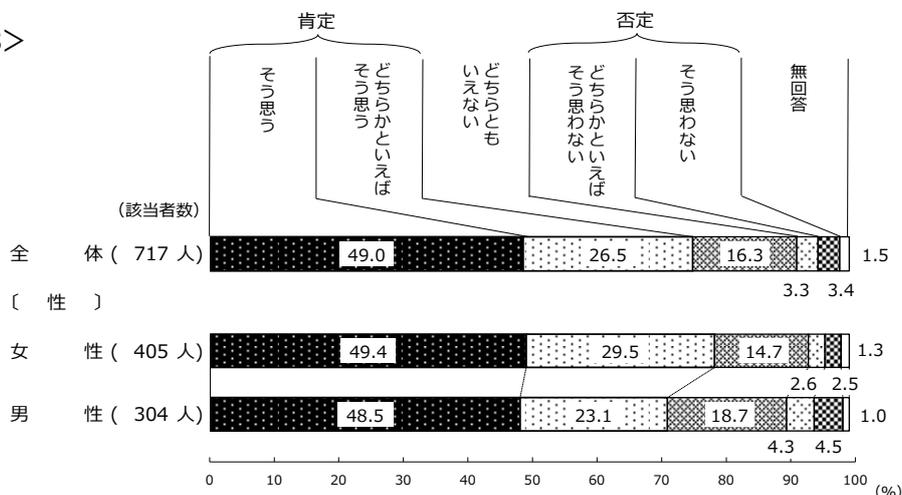


(9) 男の子も女の子も同程度の学歴を持つ方がよい

◇ 肯定 75.5%、否定 6.7%

問5 (9) 男の子も女の子も同程度の学歴を持つ方がよい

<図表1-38>



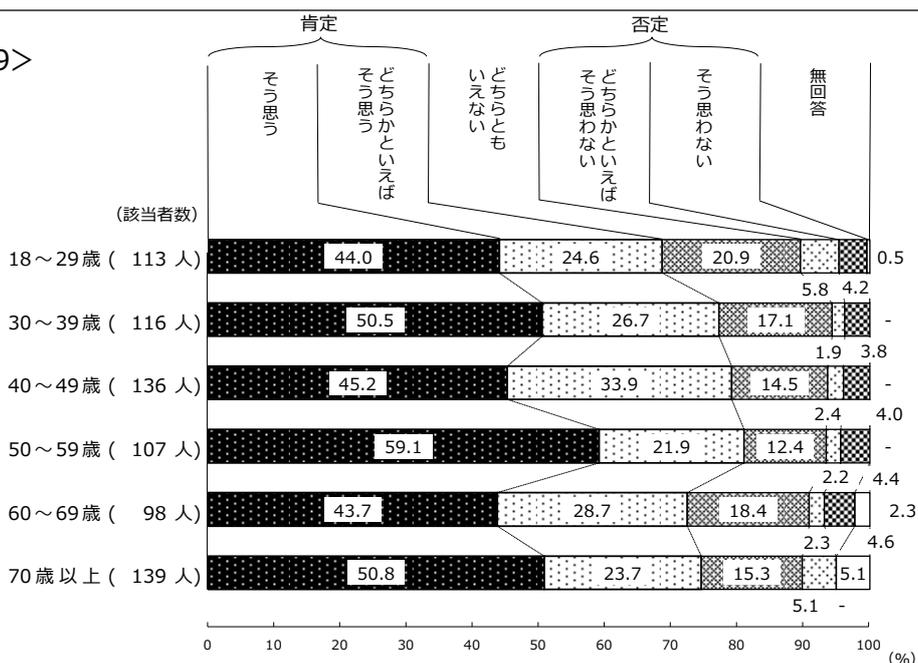
『男の子も女の子も同程度の学歴を持つ方がよい』という考え方について、肯定する人が75.5%（「そう思う」(49.0%) + 「どちらかといえばそう思う」(26.5%)）、否定する人が6.7%（「どちらかといえばそう思わない」(3.3%) + 「そう思わない」(3.4%)）となっている。

性別にみると、肯定する人の割合は女性が78.9%、男性が71.6%で、女性が男性を7.3ポイント上回っている。

【年齢別】

『男の子も女の子も同程度の学歴を持つ方がよい』という考え方について、年齢別にみると、肯定する人の割合は50歳代で81.0%と最も高く、29歳以下で68.6%と最も低くなっている。

<図表1-39>

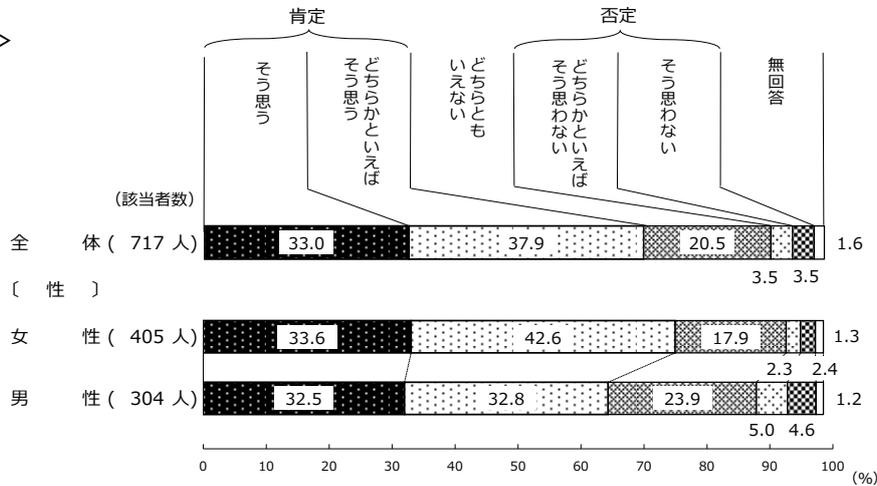


(10) 子育ては家族だけでなく地域で支援した方がよい

◇ 肯定 70.9%、否定 7.0%

問5 (10) 子育ては家族だけでなく地域で支援した方がよい

<図表1-40>



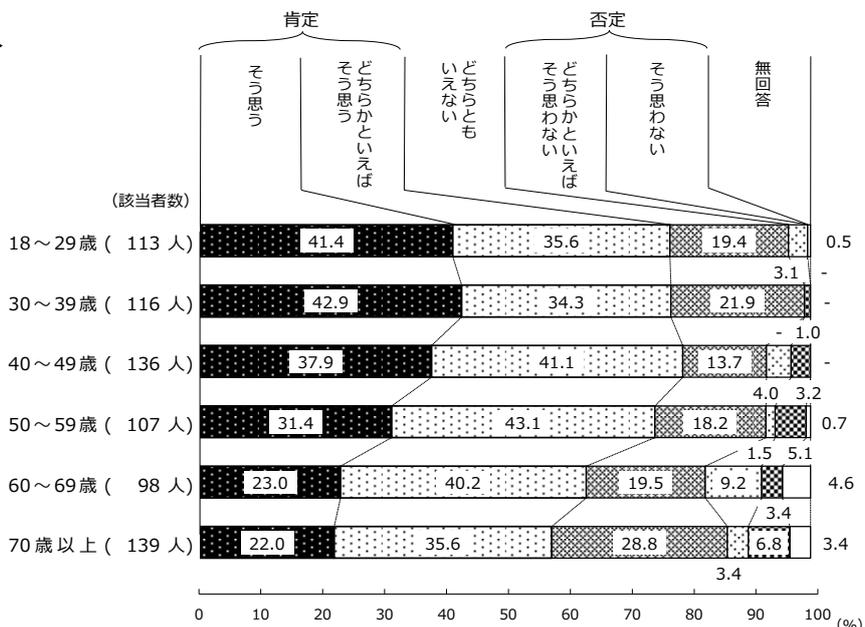
『子育ては家族だけでなく地域で支援した方がよい』という考え方について、肯定する人が70.9%（「そう思う」(33.0%) + 「どちらかといえばそう思う」(37.9%)）、否定する人が7.0%（「どちらかといえばそう思わない」(3.5%) + 「そう思わない」(3.5%)）となっている。

性別にみると、肯定する人の割合は女性が76.2%、男性が65.3%で、女性が男性を10.9ポイント上回っている。「どちらともいえない」の割合は女性が17.9%、男性が23.9%で、男性が女性を6.0ポイント上回っている。

【年齢別】

『子育ては家族だけでなく地域で支援した方がよい』という考え方について、年齢別にみると、肯定する人の割合は40歳代で79.0%と最も高く、70歳以上で57.6%と最も低くなっている。否定する人の割合は60歳代で12.6%と最も高く、30歳代で1.0%と最も低くなっている。

<図表1-41>

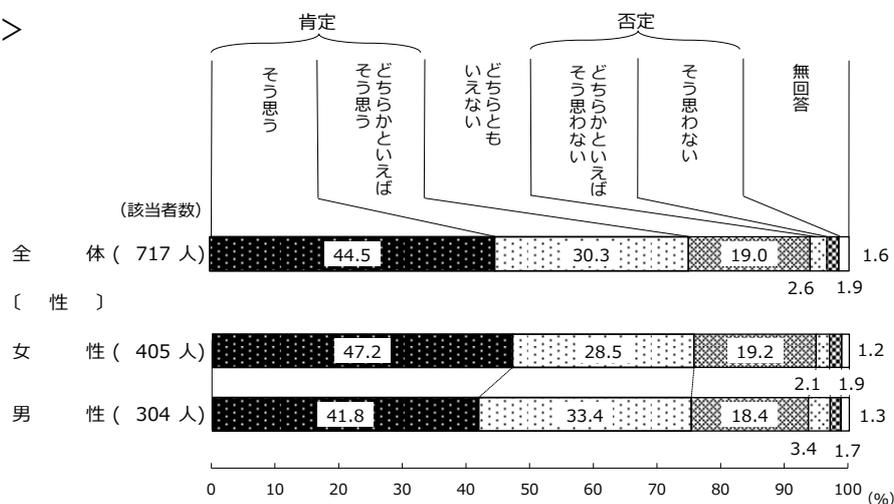


(11) 男性の育児休業取得は推進されるべきである

◇ 肯定 74.8%、否定 4.5%

問5 (11) 男性の育児休業取得は推進されるべきである

<図表 1 - 42>



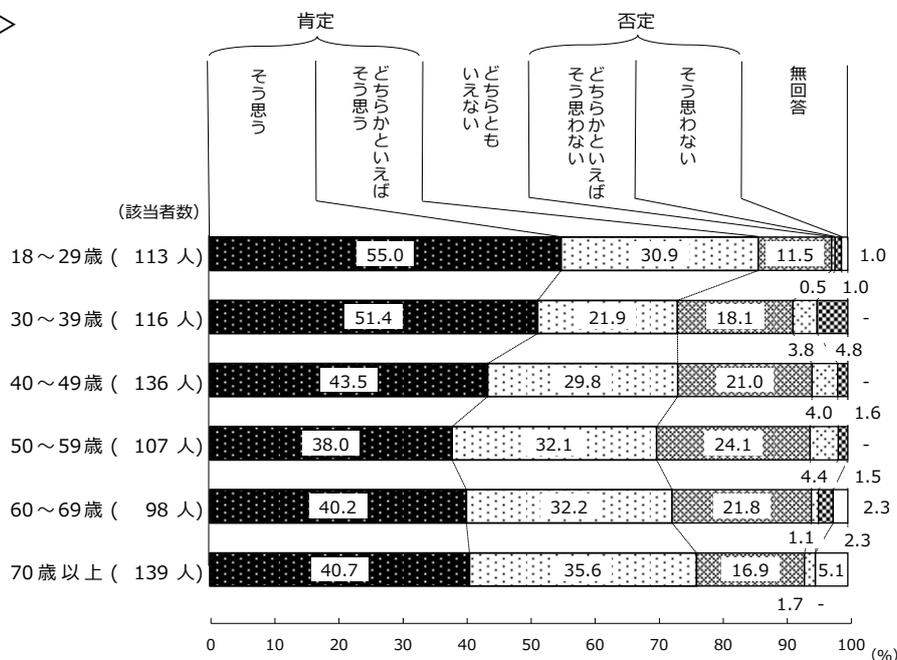
『男性の育児休業取得は推進されるべきである』という考え方について、肯定する人が 74.8%（「そう思う」(44.5%) + 「どちらかといえばそう思う」(30.3%)）、否定する人が 4.5%（「どちらかといえ
ばそう思わない」(2.6%) + 「そう思わない」(1.9%)）となっている。

性別にみると、大きな差はみられない。

【年齢別】

『男性の育児休業取得は推進されるべきである』という考え方について、年齢別にみると、肯定する人の割合は29歳以下で85.9%と最も高く、50歳代で70.1%と最も低くなっている。「どちらともいえない」の割合は50歳代で24.1%と最も高く、29歳以下で11.5%と最も低くなっている。否定する人の割合は30歳代で8.6%と最も高く、29歳以下で1.5%と最も低くなっている。

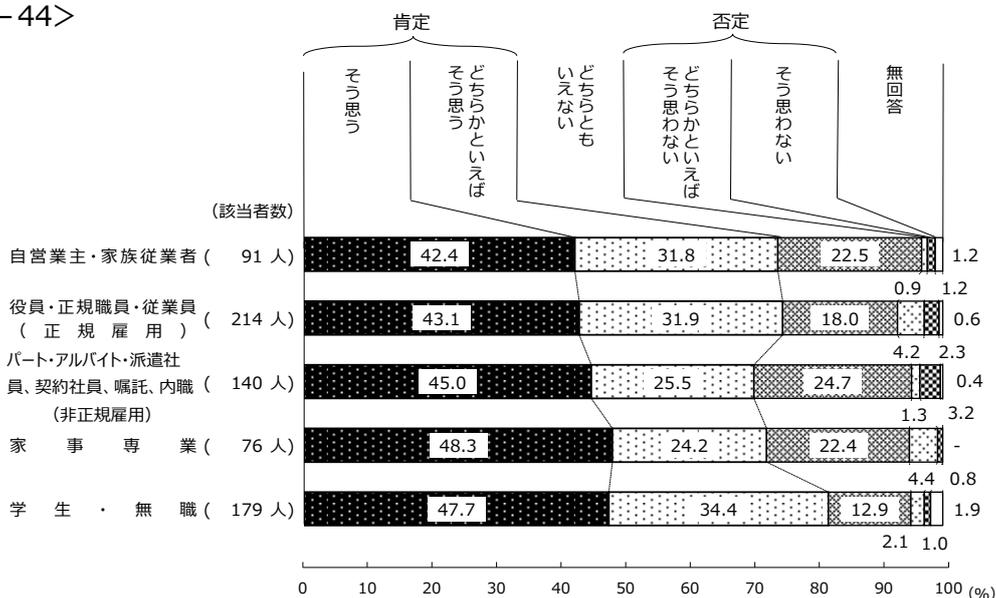
<図表1-43>



【職業別】

『男性の育児休業取得は推進されるべきである』という考え方について、職業別にみると、肯定する人の割合は学生・無職で82.1%と最も高く、非正規雇用の人で70.5%と最も低くなっている。「どちらともいえない」の割合は非正規雇用の人で24.7%と最も高く、学生・無職で12.9%と最も低くなっている。(※12ページ「職業・就労形態」を参照)

<図表1-44>

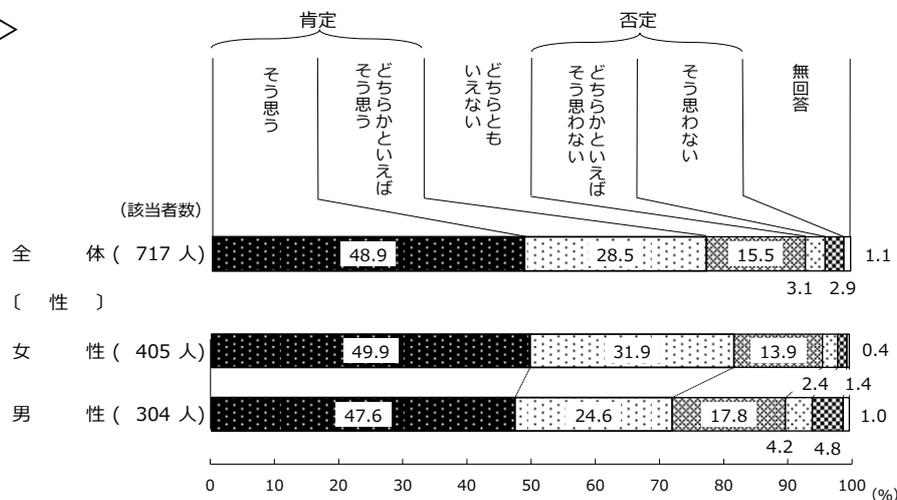


(12) 結婚しても、どうしてもうまくいかない場合、離婚もやむを得ない

◇ 肯定 77.4%、否定 6.0%

問5 (12) 結婚しても、どうしてもうまくいかない場合、離婚もやむを得ない

<図表1-45>



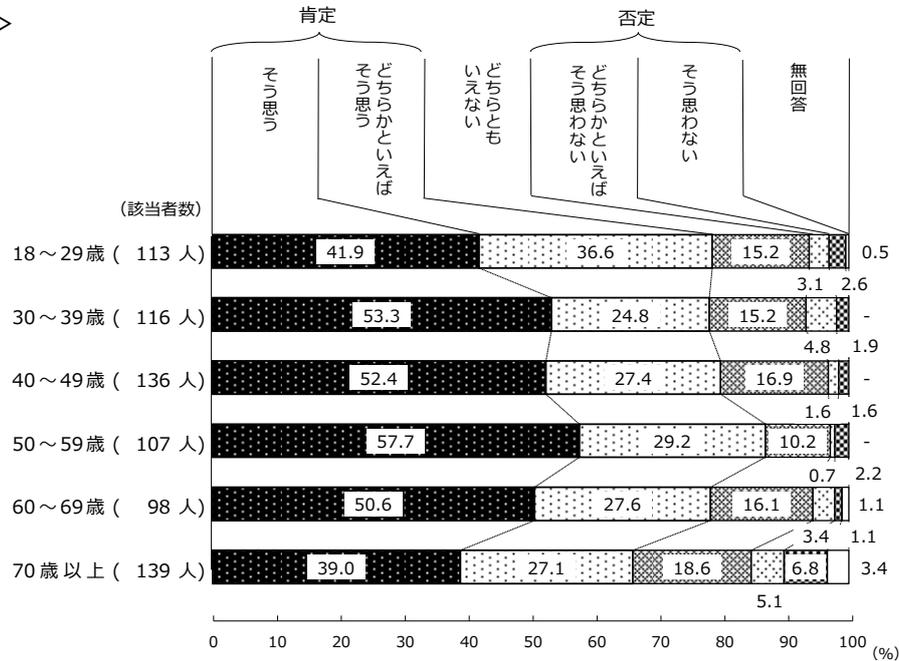
『結婚しても、どうしてもうまくいかない場合、離婚もやむを得ない』という考え方について、肯定する人が77.4%（「そう思う」(48.9%) + 「どちらかといえばそう思う」(28.5%)）、否定する人が6.0%（「どちらかといえばそう思わない」(3.1%) + 「そう思わない」(2.9%)）となっている。

性別にみると、肯定する人の割合は女性が81.8%、男性が72.2%で、女性が男性を9.6ポイント上回っている。

【年齢別】

『結婚しても、どうしてもうまくいかない場合、離婚もやむを得ない』という考え方について、年齢別にみると、肯定する人の割合は50歳代で86.9%と最も高く、70歳以上で66.1%と最も低くなっている。否定する人の割合は70歳以上で11.9%と最も高く、50歳代で2.9%と最も低くなっている。

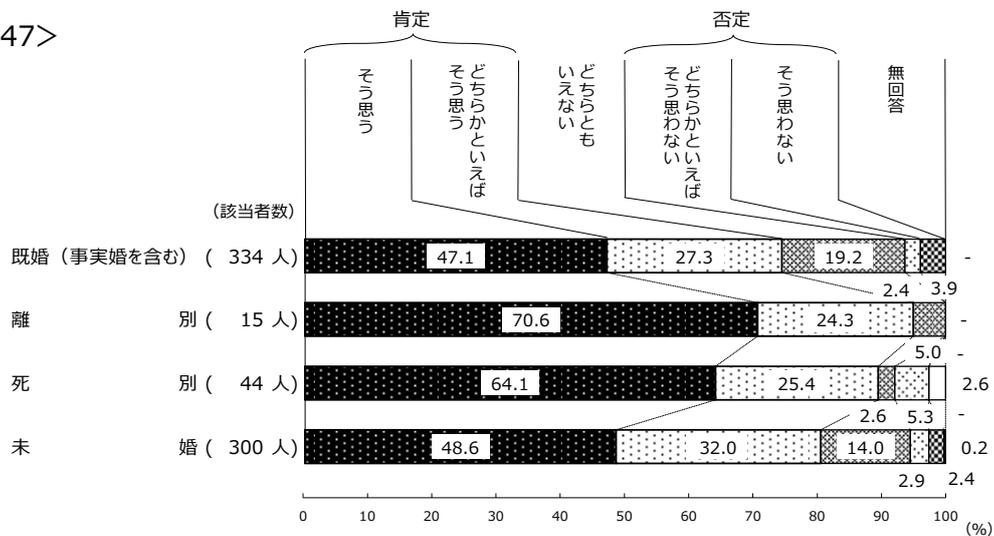
<図表1-46>



【婚姻状況別】

『結婚しても、どうしてもうまくいかない場合、離婚もやむを得ない』という考え方について、婚姻状況別にみると、肯定する人の割合は離別の人で94.9%と最も高く、既婚(事実婚を含む)の人で74.4%と最も低くなっている。「どちらともいえない」の割合は既婚(事実婚を含む)の人で19.2%と最も高く、死別の人で2.6%と最も低くなっている。

<図表1-47>

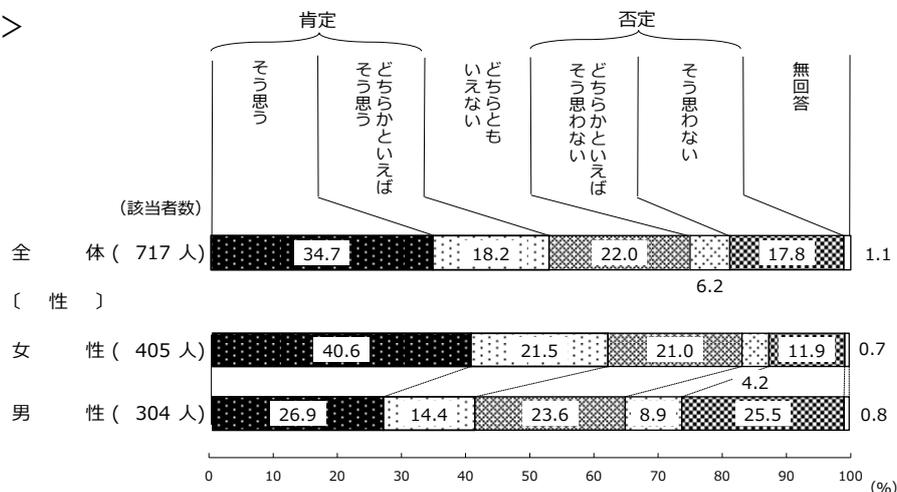


(13) 同性のカップルもひとつの生き方である

◇ 肯定 52.9%、否定 24.0%

問5 (13) 同性のカップルもひとつの生き方である

<図表 1 - 48>



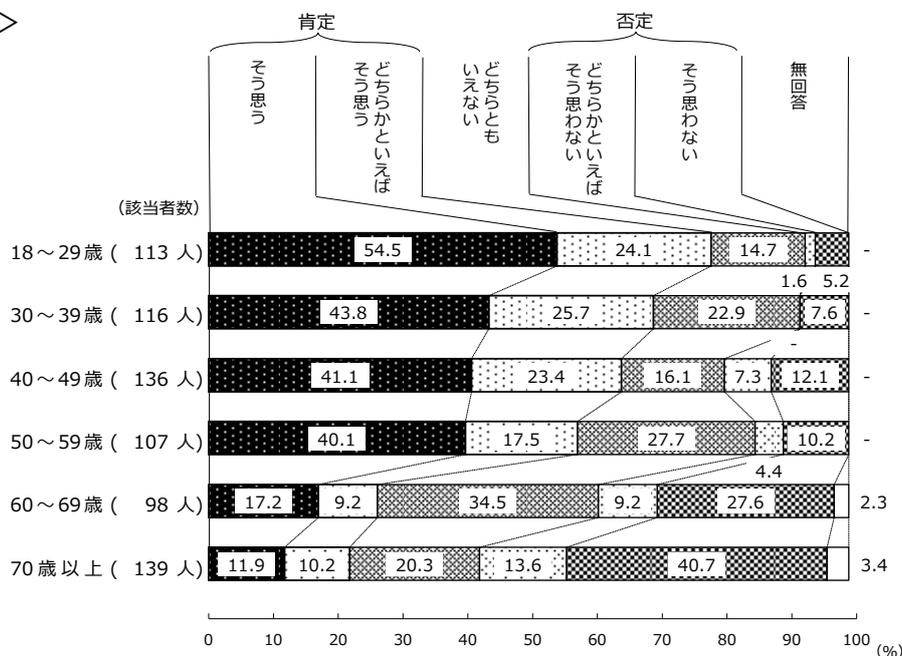
『同性のカップルもひとつの生き方である』という考え方について、肯定する人が 52.9%（「そう思う」(34.7%) + 「どちらかといえばそう思う」(18.2%)）と半数を超え、否定する人 24.0%（「どちらかといえばそう思わない」(6.2%) + 「そう思わない」(17.8%)）を 28.9 ポイント上回っている。

性別にみると、肯定する人の割合は女性が 62.1%、男性が 41.3%で、女性が男性を 20.8 ポイント上回っている。否定する人の割合は女性が 16.1%、男性が 34.4%で、男性が女性を 18.3 ポイント上回っている。

【年齢別】

『同性のカップルもひとつの生き方である』という考え方について、年齢別にみると、肯定する人の割合は29歳以下で78.6%と最も高く、70歳以上で22.1%と最も低くなっている。「どちらともいえない」の割合は60歳代で34.5%と最も高く、29歳以下で14.7%と最も低くなっている。否定する人の割合は70歳以上で54.3%と最も高く、29歳以下で6.8%と最も低くなっている。

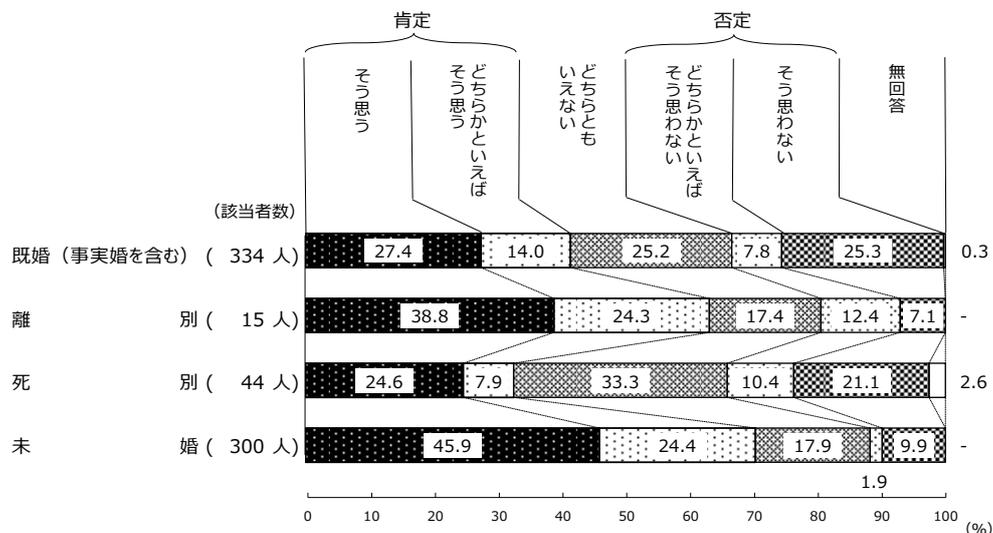
<図表1-49>



【婚姻状況別】

『同性のカップルもひとつの生き方である』という考え方について、婚姻状況別にみると、肯定する人の割合は未婚の人で70.3%と最も高く、死別の人で32.5%と最も低くなっている。

<図表1-50>



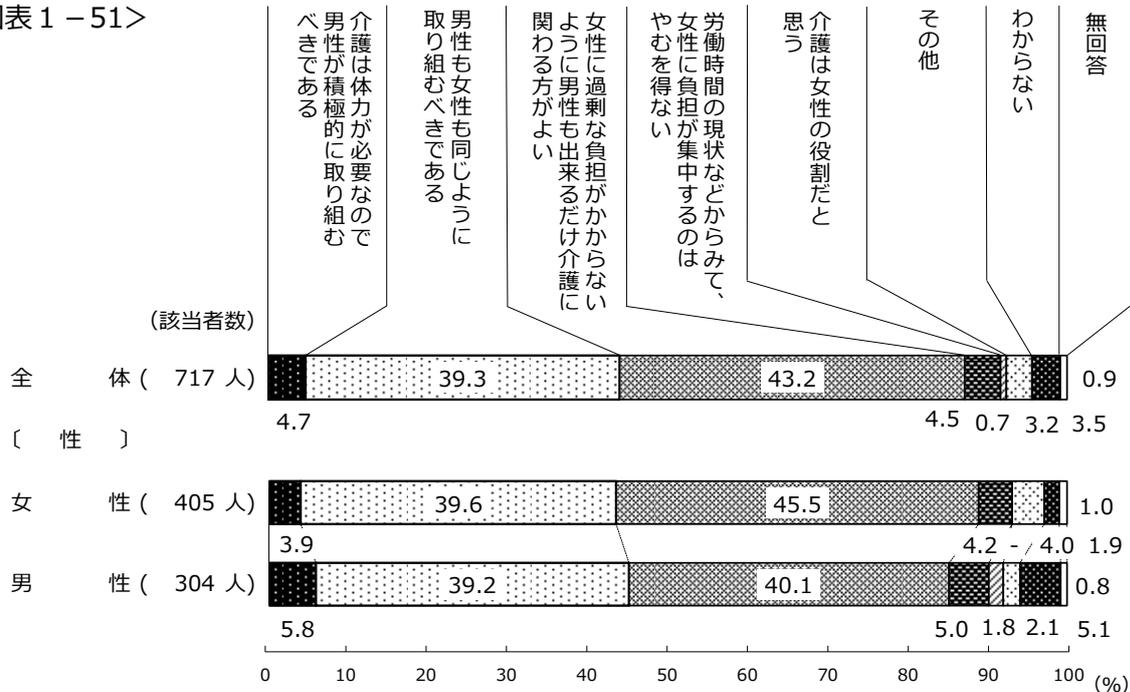
1-6 介護の担い手のあり方

◇ 「女性に過剰な負担がかからないように男性も出来るだけ介護に関わる方がよい」 43.2%

問6 介護についてお聞きします。

あなたは、介護の担い手はどうあるべきだと思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

<図表1-51>



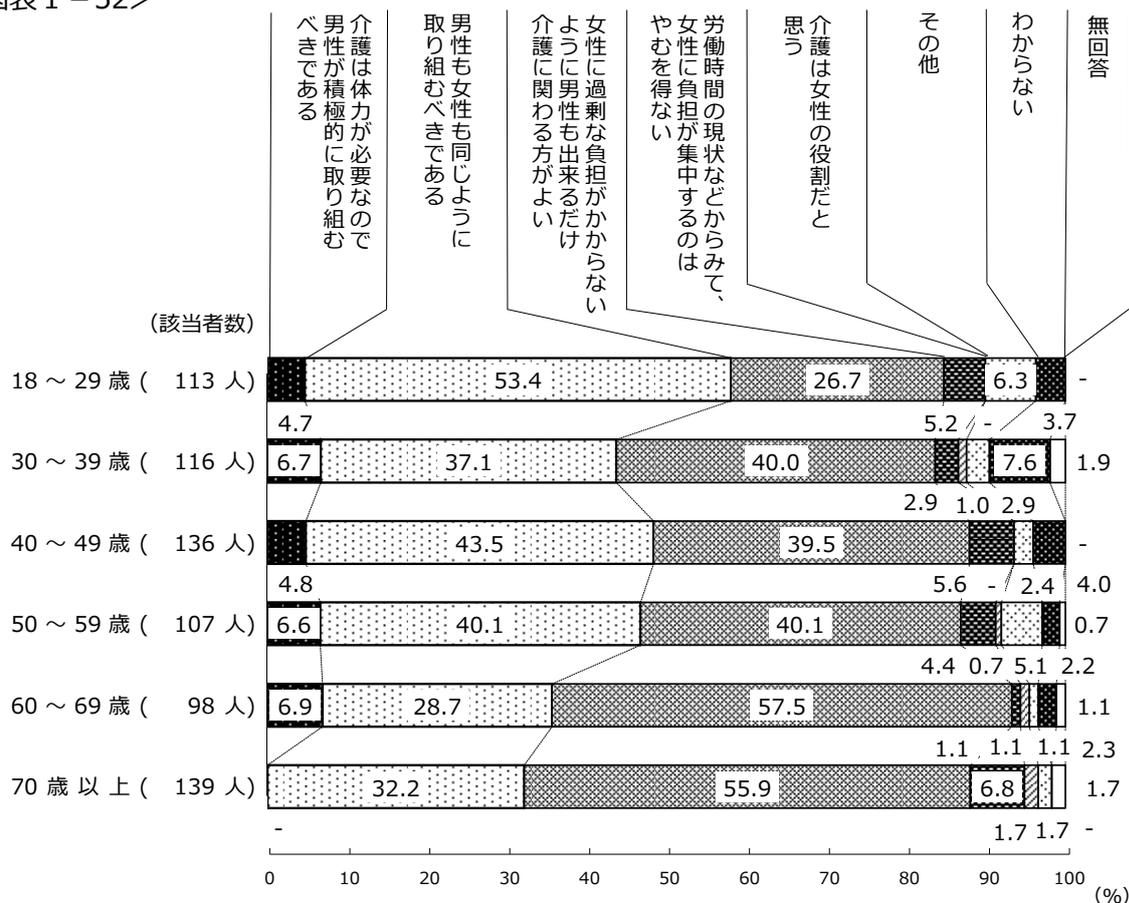
介護の担い手のあり方については、「女性に過剰な負担がかからないように男性も出来るだけ介護に関わる方がよい」が最も多く43.2%、次いで「男性も女性も同じように取り組むべきである」が39.3%となっている。

性別にみると、「女性に過剰な負担がかからないように男性も出来るだけ介護に関わる方がよい」の回答は、女性が45.5%、男性が40.1%で、女性が男性を5.4ポイント上回っている。

【年齢別】

介護の担い手のあり方について年齢別にみると、「男性も女性も同じように取り組むべきである」の回答は29歳以下で53.4%と最も多く、60歳代で28.7%と最も少なくなっている。「女性に過剰な負担がかからないように男性も出来るだけ介護に関わる方がよい」の回答は60歳代で57.5%と最も多く、29歳以下で26.7%と最も少なくなっている。70歳以上では、「介護は体力が必要なので男性が積極的に取り組むべきである」と回答した人はなく、「労働時間の現状などからみて、女性に負担が集中するのはやむを得ない」の回答は他の年代よりも多くなっている。

<図表1-52>

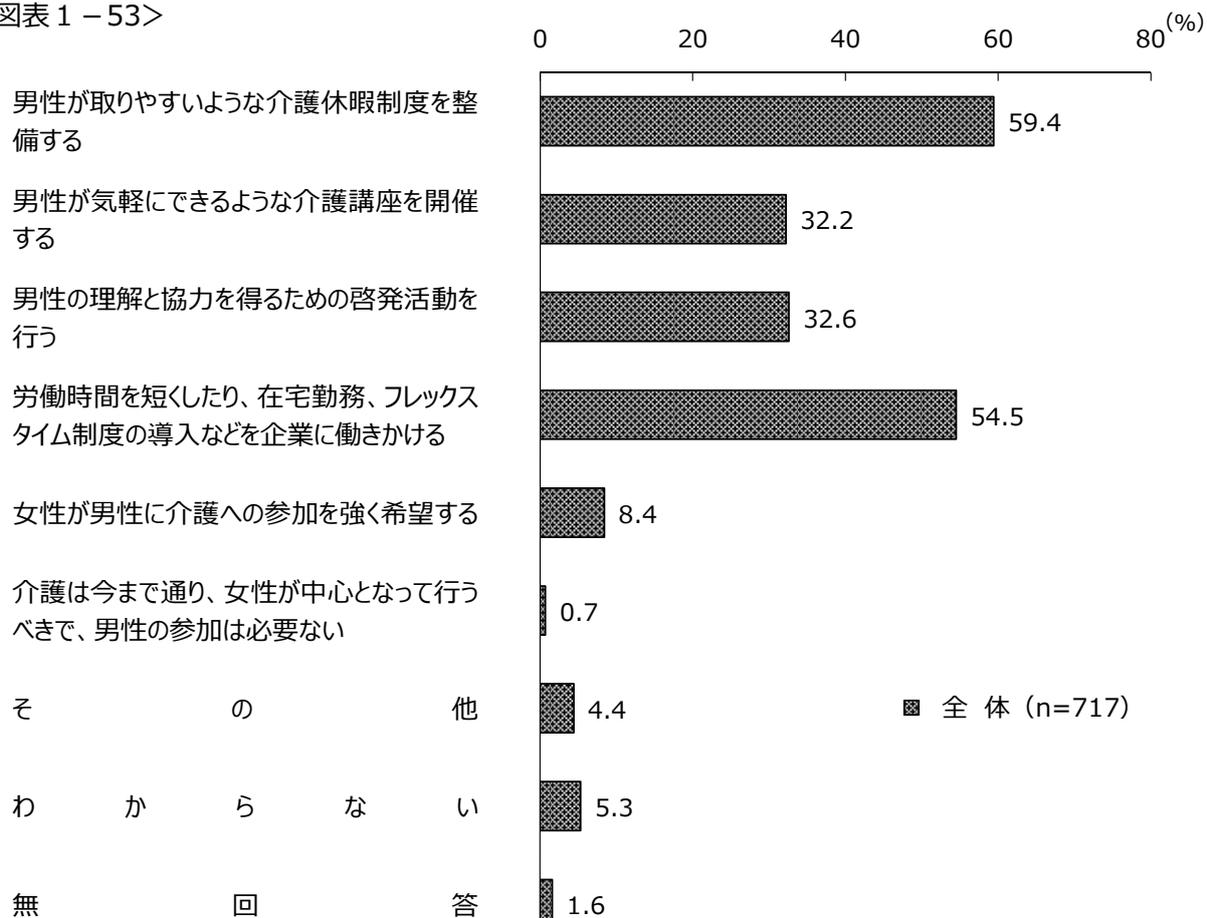


1-7 男性の介護参加推進に必要なこと

- ◇ 「男性が取りやすいような介護休暇制度を整備する」 59.4%
 「労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制度の導入などを企業に働きかける」 54.5%

問7 あなたは、男性の介護への参加を進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
 あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

<図表1-53>



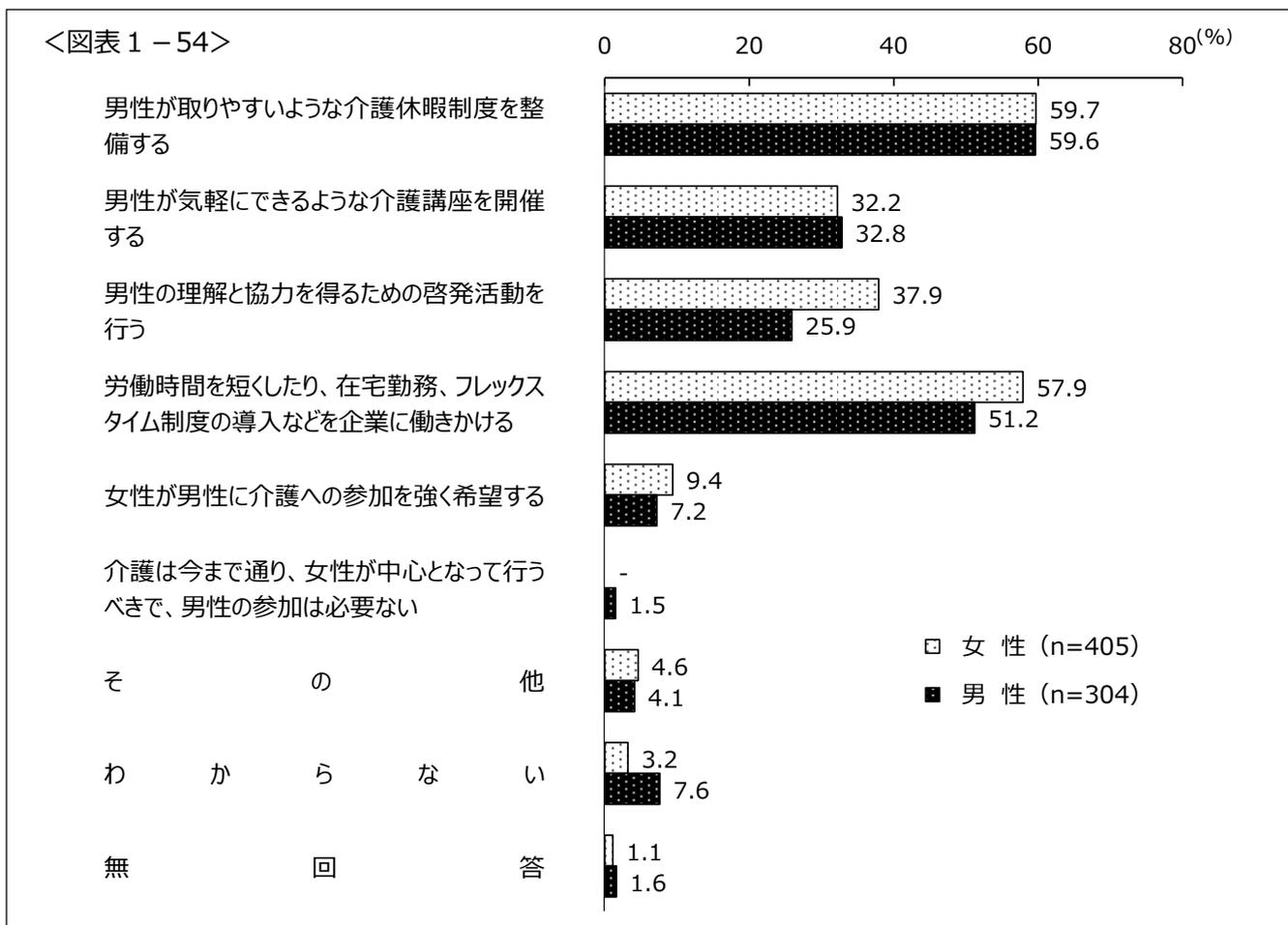
男性の介護参加推進に必要なことについては、「男性が取りやすいような介護休暇制度を整備する」が59.4%で最も多く、次いで「労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制度の導入などを企業に働きかける」が54.5%、「男性の理解と協力を得るための啓発活動を行う」が32.6%、「男性が気軽にできるような介護講座を開催する」が32.2%となっている。(複数回答、上位4項目)

【性別】

男性の介護参加推進に必要なことについて性別にみると、男女ともに「男性が取りやすいような介護休暇制度を整備する」の回答が最も多く、女性が59.7%、男性が59.6%となっている。

「労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制度の導入などを企業に働きかける」と回答した割合は、女性が57.9%、男性が51.2%で、女性が男性を6.7ポイント上回っている。

「男性の理解と協力を得るための啓発活動を行う」の回答は、女性が37.9%、男性が25.9%で、女性が男性を12.0ポイント上回っている。



【年齢別】

男性の介護参加推進に必要なことについて年齢別にみると、「男性が取りやすいような介護休暇制度を整備する」の回答は、29歳以下で62.8%、30歳代で59.0%、50歳代で66.4%、60歳代で51.7%、70歳以上で62.7%とそれぞれ最も多くなっている。40歳代では「労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制度の導入などを企業に働きかける」の回答が64.5%と最も多くなっている。

「労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制度の導入などを企業に働きかける」の回答は、50歳代で65.7%と多くなっている。

<図表1-55>

	1位	2位	3位
18 ~ 29 歳	男性が取りやすいような介護休暇制度を整備する (62.8%)	労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制度の導入などを企業に働きかける (49.7%)	男性の理解と協力を得るための啓発活動を行う (25.1%)
30 ~ 39 歳	男性が取りやすいような介護休暇制度を整備する (59.0%)	労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制度の導入などを企業に働きかける (56.2%)	男性が気軽にできるような介護講座を開催する／男性の理解と協力を得るための啓発活動を行う (23.8%)
40 ~ 49 歳	労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制度の導入などを企業に働きかける (64.5%)	男性が取りやすいような介護休暇制度を整備する (54.0%)	男性の理解と協力を得るための啓発活動を行う (33.1%)
50 ~ 59 歳	男性が取りやすいような介護休暇制度を整備する (66.4%)	労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制度の導入などを企業に働きかける (65.7%)	男性の理解と協力を得るための啓発活動を行う (36.5%)
60 ~ 69 歳	男性が取りやすいような介護休暇制度を整備する (51.7%)	労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制度の導入などを企業に働きかける (42.5%)	男性が気軽にできるような介護講座を開催する (40.2%)
70 歳 以上	男性が取りやすいような介護休暇制度を整備する (62.7%)	労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制度の導入などを企業に働きかける (49.2%)	男性が気軽にできるような介護講座を開催する (45.8%)

2 就労状況について

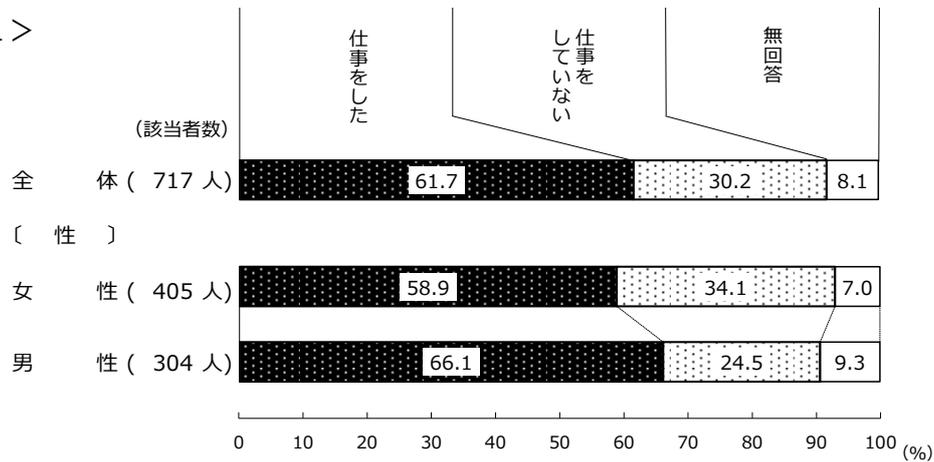
2-1 この1か月の就労状況

◇ 「仕事をした」61.7%、「仕事をしていない」30.2%

問8 あなたは、この1か月間で収入を得る仕事をしましたか。(○は1つ)

※産休、育休、介護休暇中の人は「1 仕事をした」に○をつけてください。

<図表2-1>



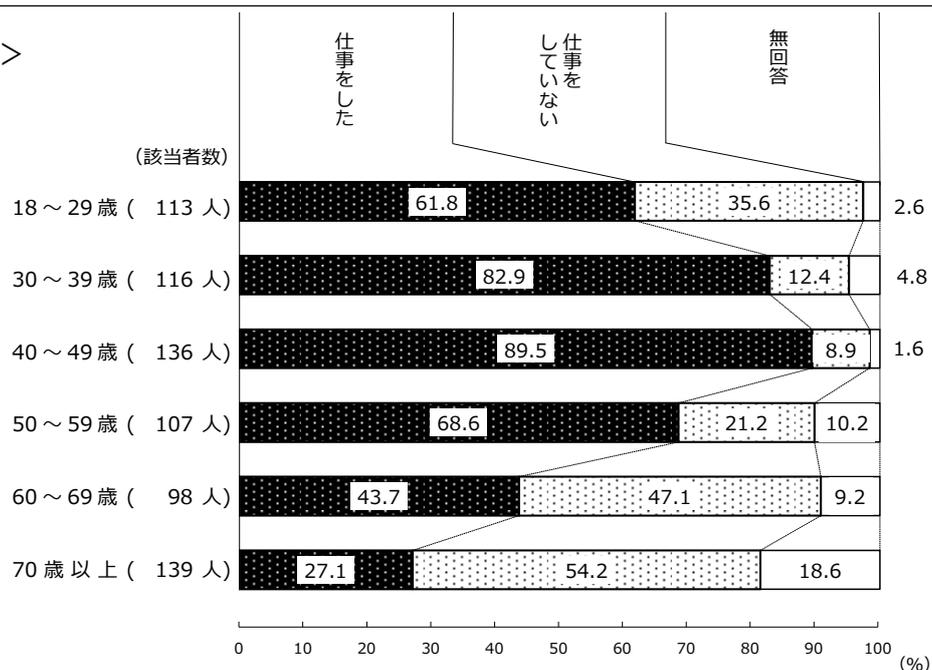
この1か月の就労状況について、「仕事をした」は61.7%、「仕事をしていない」は30.2%となっている。

性別にみると、「仕事をした」の回答は女性が58.9%、男性が66.1%となっている。

【年齢別】

年齢別にみると、「仕事をした」の回答は50歳代以下では6割以上となっており、60歳代以上では「仕事をしていない」の回答が5割前後となっている。

<図表2-2>

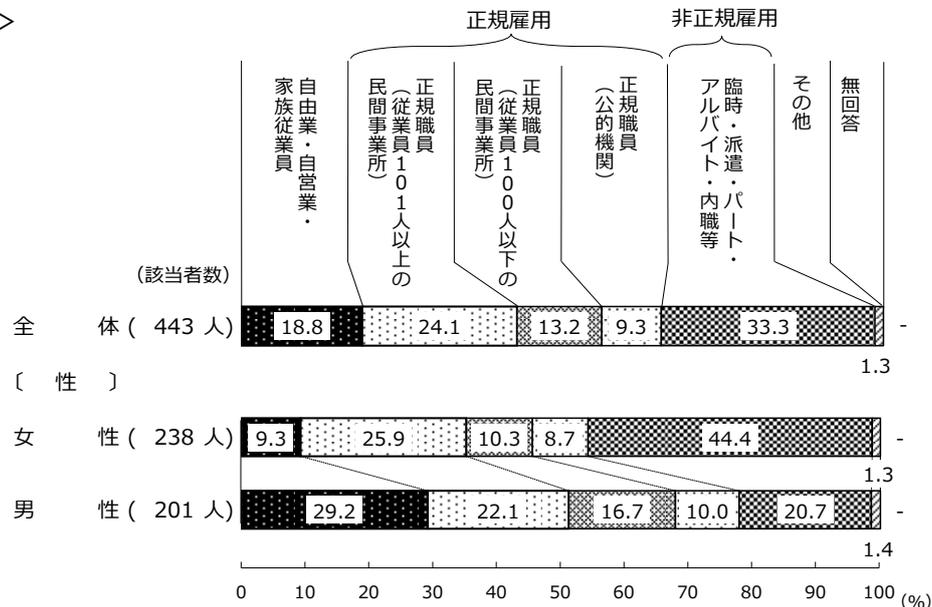


2-1-1 勤務形態

◇ 正規雇用が 46.6%、非正規雇用が 33.3%

問 8 - 1 あなたの現在の勤務形態は次のうち、どれですか。(○は1つ)

<図表 2-3>



この1か月間で収入を得る仕事をしていたと答えた人(443人)の、現在の勤務形態については、「臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等」が33.3%で最も多く、次いで「正規職員(従業員101人以上の民間事業所)」が24.1%、「自由業・自営業・家族従業員」が18.8%、「正規職員(従業員100人以下の民間事業所)」が13.2%、「正規職員(公的機関)」が9.3%となっている。

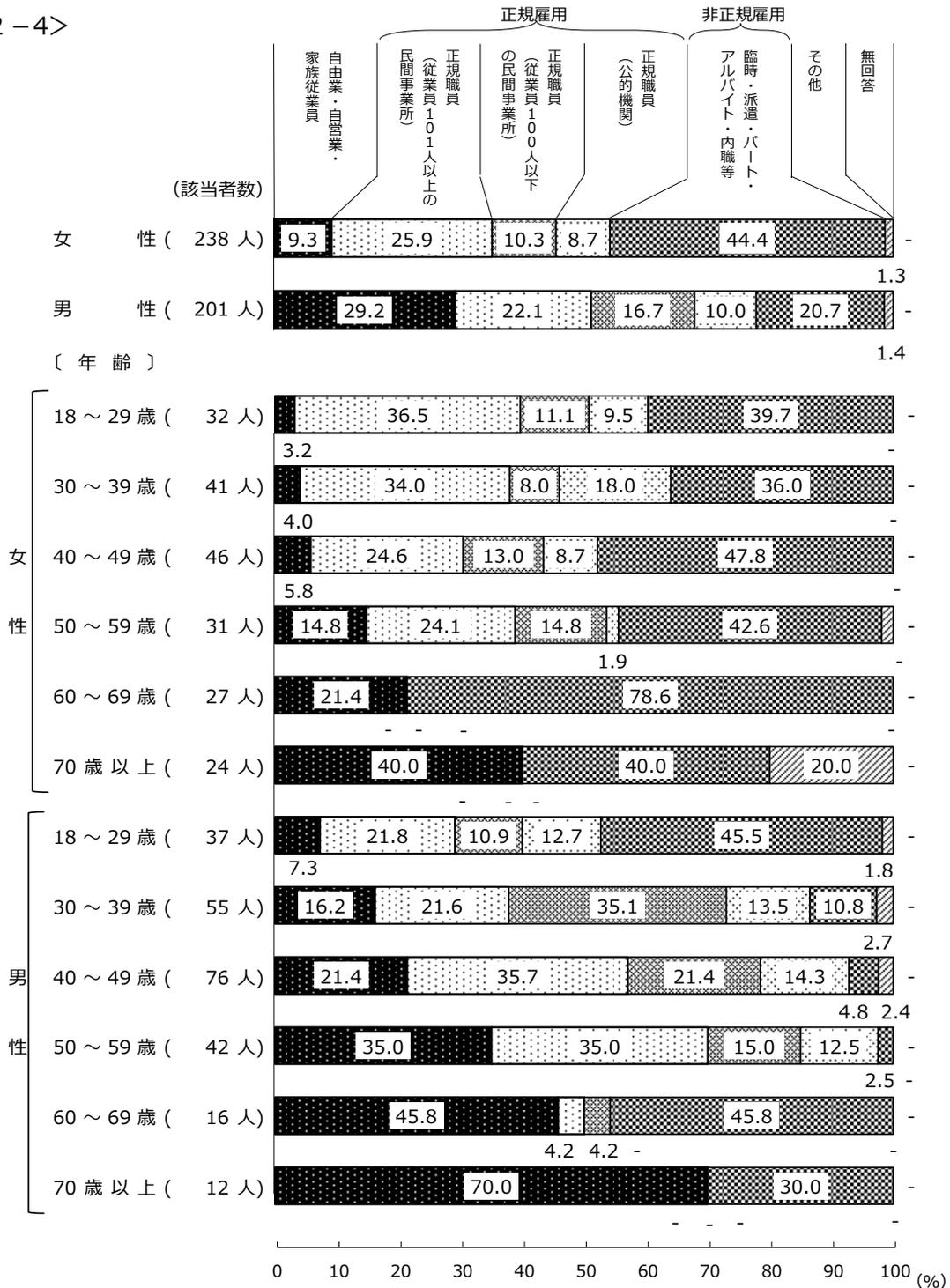
性別にみると、女性では「臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等」の回答が最も多く44.4%、次いで「正規職員(従業員101人以上の民間事業所)」が25.9%、「正規職員(従業員100人以下の民間事業所)」が10.3%となっている。男性では「自由業・自営業・家族従業員」の回答が最も多く29.2%、次いで「正規職員(従業員101人以上の民間事業所)」が22.1%、「臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等」が20.7%となっている。

【性別・年齢別】

現在の勤務形態について性別・年齢別で見ると、女性の50歳代以下では、正規雇用の割合は30歳代で60.0%と最も高く、非正規雇用の割合は40歳代で47.8%となっている。男性の50歳代以下では、正規雇用の割合は40歳代で71.4%と最も高く、非正規雇用の割合は29歳以下で45.5%と高くなっている。

男女ともに60歳代で定年を迎える人が多いため、非正規雇用の割合を50歳代と比較すると、女性では42.6%から36.0ポイント増の78.6%、男性では2.5%から43.3ポイント増の45.8%となっている。

<図表2-4>

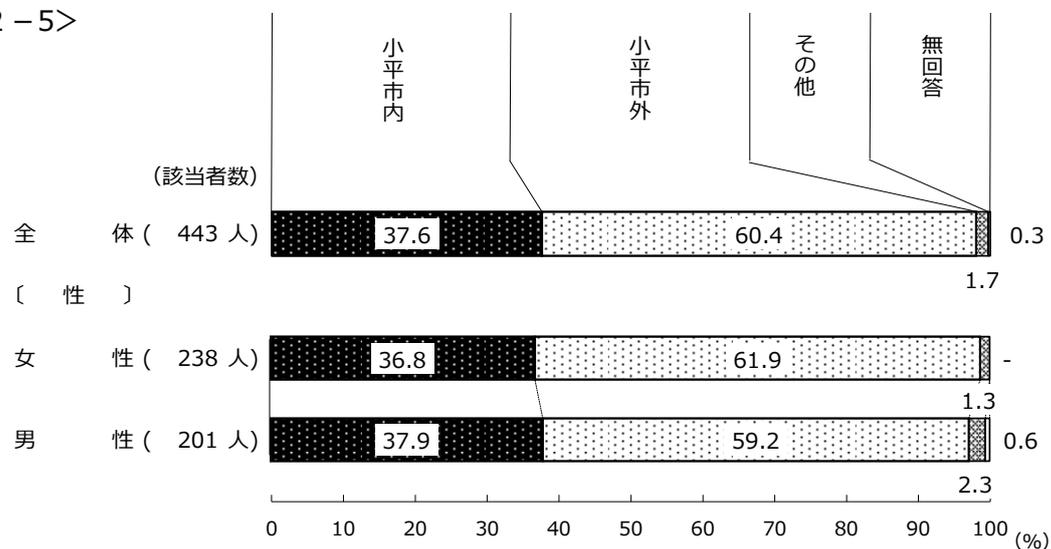


2-1-2 勤務地

◇ 「小平市内」 37.6%、「小平市外」 60.4%

問8-2 あなたの勤務地は小平市内ですか、小平市外ですか。(○は1つ)

<図表2-5>



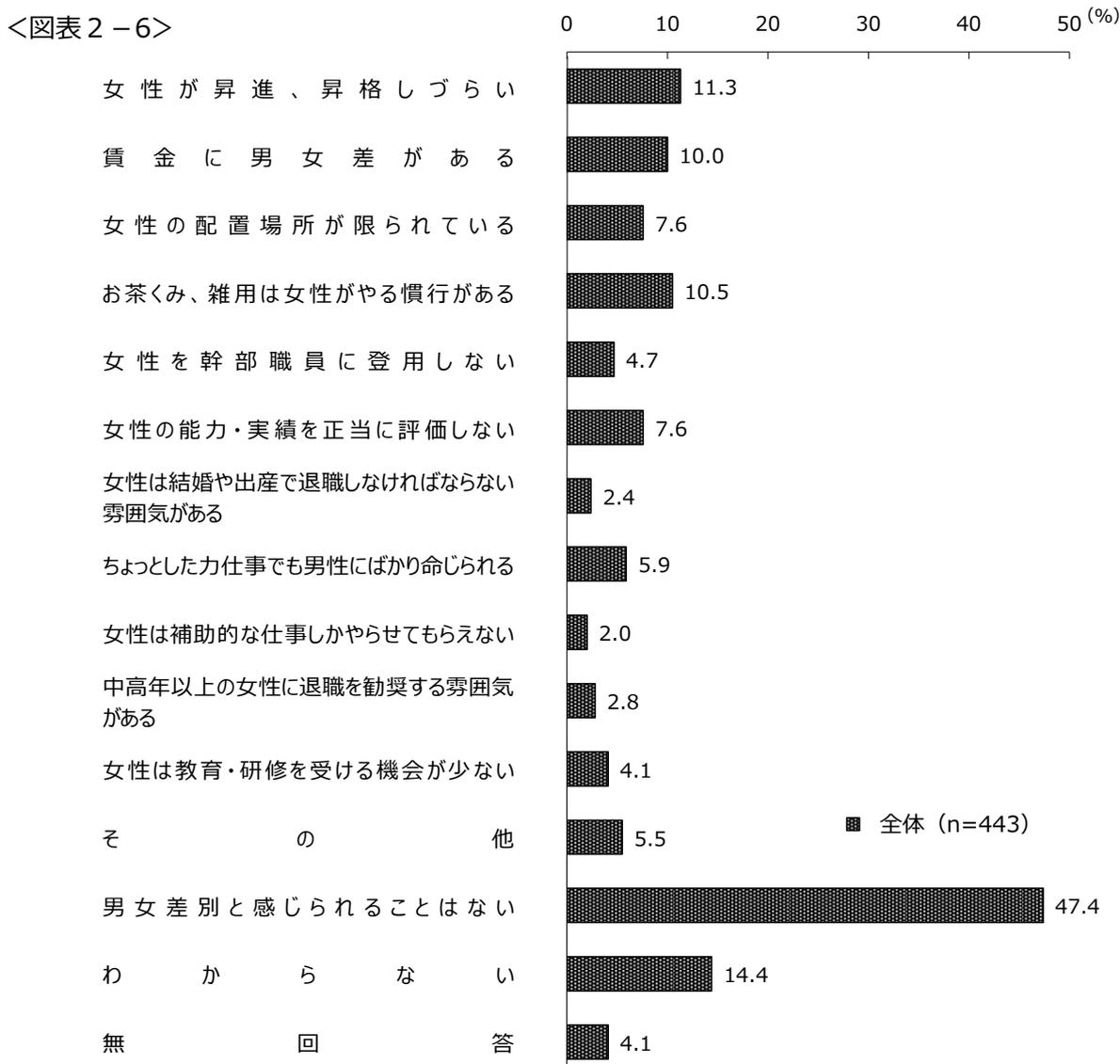
この1か月間で収入を得る仕事をしていたと答えた人（443人）の、現在の勤務地については、「小平市外」が60.4%、「小平市内」が37.6%となっている。

性別にみると、大きな差はみられない。

2-1-3 職場の男女差別

◇ 「男女差別と感じられることはない」 47.4%

問8-3 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、男女差別と感じられることがありますか。
あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



この1か月間で収入を得る仕事をしていたと答えた人(443人)の、職場の男女差別については、47.4%の人が「男女差別と感じられることはない」と答えている。男女差別と感じられる内容は「女性が昇進、昇格しづらい」が11.3%で最も多く、次いで「お茶くみ、雑用は女性がやる慣行がある」が10.5%、「賃金に男女差がある」が10.0%となっている。(複数回答、上位3項目)

【性別】

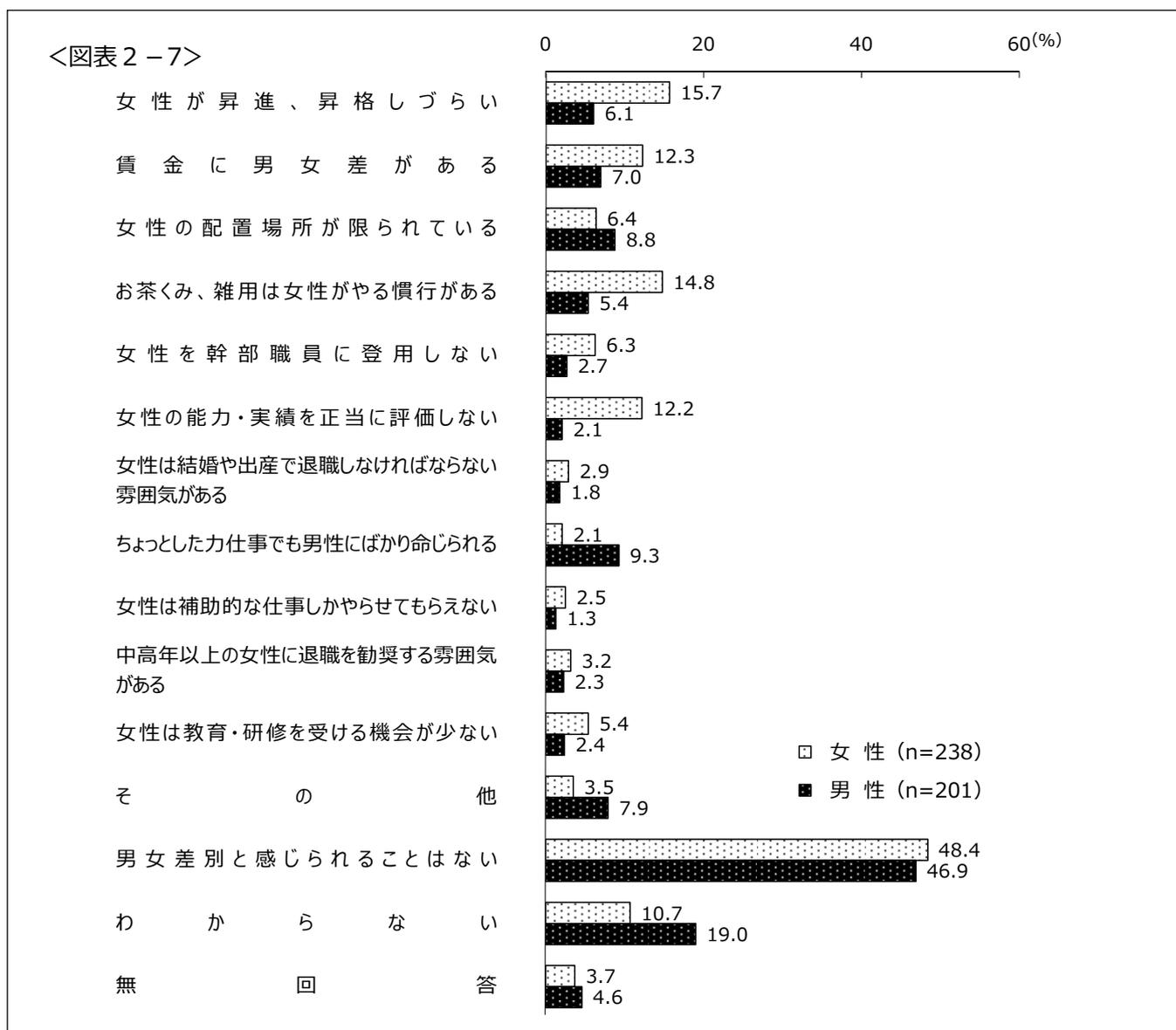
職場の男女差別について性別にみると、女性では「女性が昇進、昇格しづらい」の回答が最も多く 15.7%、男性では「ちょっとした力仕事でも男性にばかり命じられる」の回答が最も多く 9.3%となっている。

なお、「男女差別と感じられることはない」と答えた人の割合は、女性で 48.4%、男性で 46.9%となっている。

「女性が昇進、昇格しづらい」の回答は、女性が 15.7%、男性が 6.1%で、女性が男性を 9.6 ポイント上回っている。

「お茶くみ、雑用は女性がやる慣行がある」の回答は、女性が 14.8%、男性が 5.4%で、女性が男性を 9.4 ポイント上回っている。

「女性の能力・実績を正当に評価しない」の回答は、女性が 12.2%、男性が 2.1%で、女性が男性を 10.1 ポイント上回っている。



【職業別】

職場の男女差別について職業別にみると、「賃金に男女差がある」は、自営業主・家族従業者で 7.3%、非正規雇用で 12.3%と最も多くなっており、「女性が昇進、昇格しづらい」は、正規雇用で 15.4%と最も多くなっている。

2 番目に多く挙げられている項目をみると、「お茶くみ、雑用は女性がやる慣行がある」は、自営業主・家族従業者で 4.2%、正規雇用で 13.4%、「女性が昇進、昇格しづらい」は、非正規雇用で 11.5%となっている。

「男女差別と感じられることはない」については、正規雇用・非正規雇用ともに 5 割前後となっているが、自営業主・家族従業者は 36.3%となっている。

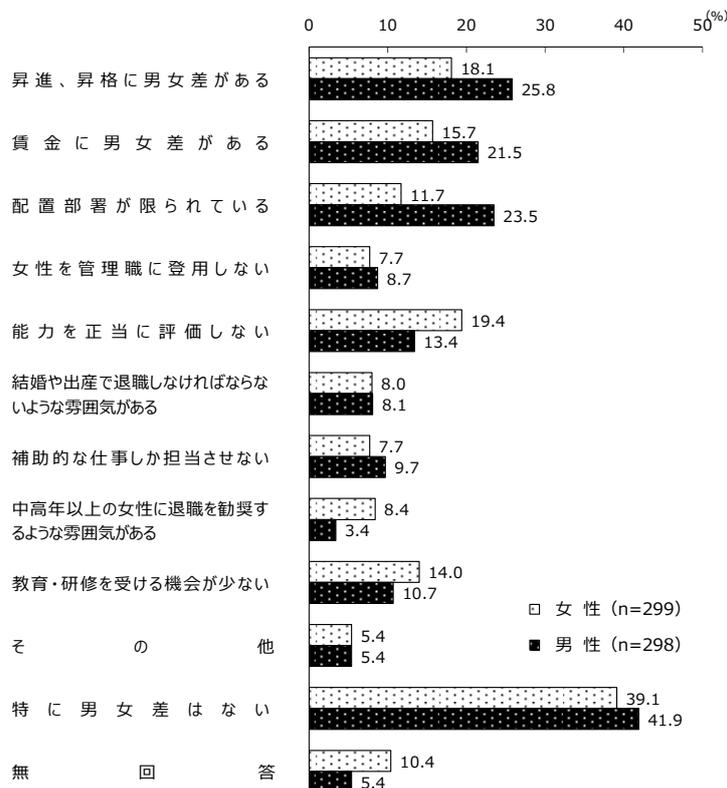
(※12 ページ「職業・就労形態」を参照)

<図表 2 - 8>

	1 位	2 位	3 位	男女差別と 感じられることはない
自営業主・ 家族従業者	賃金に男女差がある (7.3%)	お茶くみ、雑用は女性 がやる慣行がある (4.2%)	ちょっとした力仕事でも 男性にばかり命じられる ／女性は教育・研修を 受ける機会が少ない (4.1%)	36.3%
役員・正規職員・ 従業員 (正規雇用)	女性が昇進、昇格しづ らい (15.4%)	お茶くみ、雑用は女性 がやる慣行がある (13.4%)	女性の配置場所が限ら れている (12.1%)	47.1%
パート・アルバイト・派遣社 員、契約社員、嘱託、内職 (非正規雇用)	賃金に男女差がある (12.3%)	女性が昇進、昇格しづ らい (11.5%)	お茶くみ、雑用は女性 がやる慣行がある (10.9%)	53.1%

《参考》 前回調査 (平成 17 年)

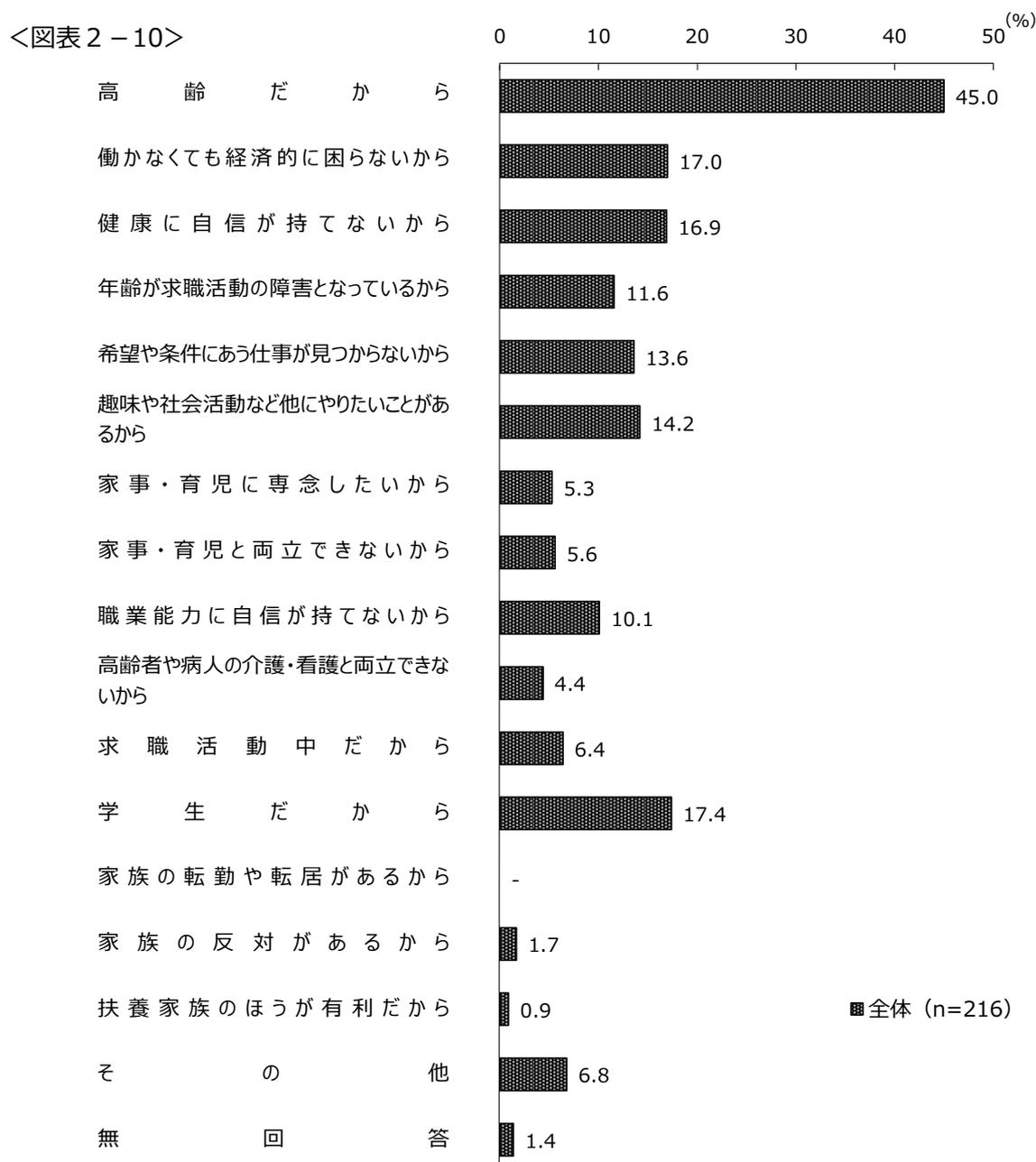
<図表 2 - 9>



2-1-4 非就労理由

◇ 「高齢だから」45.0%、「学生だから」17.4%

問8-4 あなたがこの1か月間仕事をしなかった理由をお答えください。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



この1か月間に収入を得る仕事をしなかったと答えた人(216人)の非就労理由については、「高齢だから」が45.0%で最も多く、次いで「学生だから」が17.4%、「働かなくても経済的に困らないから」が17.0%、「健康に自信が持てないから」が16.9%、「趣味や社会活動など他にやりたいことがあるから」が14.2%、「希望や条件にあう仕事が見つからないから」が13.6%となっている。(複数回答、上位6項目)

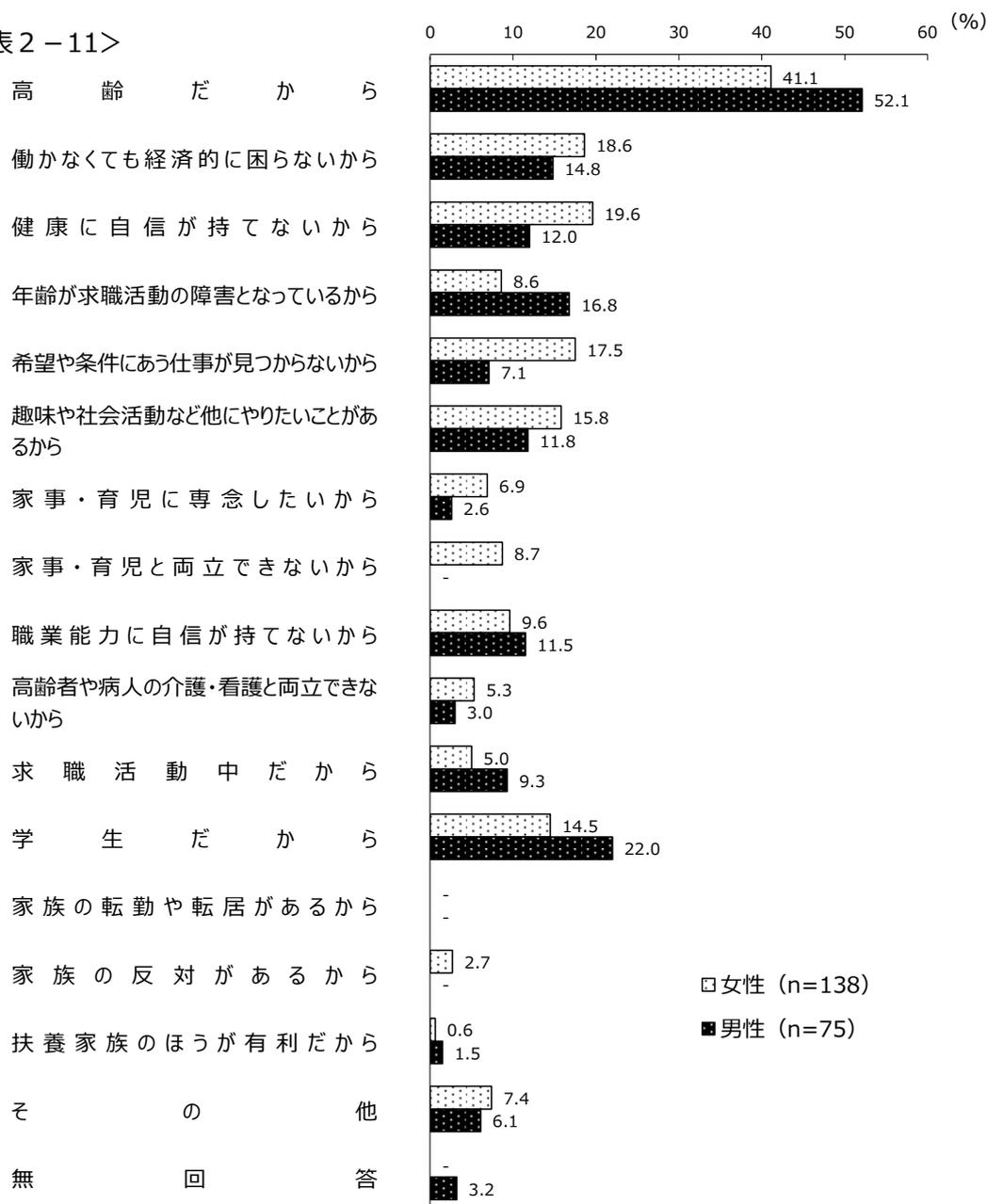
【性別】

非就労理由について性別にみると、「高齢だから」と「学生だから」を除き、女性では「健康に自信が持てないから」が最も多く 19.6%、男性では「年齢が求職活動の障害となっているから」が最も多く 16.8%と男性が女性の2倍近くになっている。

「希望や条件にあう仕事が見つからないから」の回答は、女性が 17.5%、男性が 7.1%で、女性が男性を 10.4 ポイント上回っている。

「家事・育児と両立できないから」の回答は、女性が 8.7%、男性は回答者が 0 人となっている。

<図表 2 - 11>



【年齢別】

非就労理由について年齢別にみると、29歳以下では「学生だから」が85.3%、30歳代では「家事・育児と両立できないから」が38.4%、40歳代では「希望や条件にあう仕事が見つからないから」が45.5%、50歳代では「健康に自信が持てないから」と「希望や条件にあう仕事が見つからないから」が34.5%、60歳代では「高齢だから」が53.7%、70歳以上では「高齢だから」が90.6%と、それぞれ最も多く挙げられている。

30歳代では「家事・育児と両立できないから」や「家事・育児に専念したいから」といった子育てが非就労理由になっている。

50歳代では「高齢者や病人の介護・看護と両立できないから」が非就労理由の上位に挙げられている。

「働かなくても経済的に困らないから」は、60歳代で29.3%と多くなっている。

「健康に自信が持てないから」は、50歳代で34.5%と多くなっている。

「希望や条件にあう仕事が見つからないから」は、40歳代で45.5%と多くなっている。

<図表2-12>

	1位	2位	3位
18 ~ 29 歳	学生だから (85.3%)	求職活動中だから (10.3%)	希望や条件にあう仕事が見つからないから (8.8%)
30 ~ 39 歳	家事・育児と両立できないから (38.4%)	家事・育児に専念したいから (30.8%)	職業能力に自信が持てないから (23.1%)
40 ~ 49 歳	希望や条件にあう仕事が見つからないから (45.5%)	健康に自信が持てないから／家事・育児と両立できないから ／職業能力に自信が持てないから (27.3%)	
50 ~ 59 歳	健康に自信が持てないから／希望や条件にあう仕事が見つからないから (34.5%)		高齢者や病人の介護・看護と両立できないから (27.6%)
60 ~ 69 歳	高齢だから (53.7%)	働かなくても経済的に困らないから (29.3%)	年齢が求職活動の障害となっているから (24.4%)
70 歳以上	高齢だから (90.6%)	働かなくても経済的に困らないから／健康に自信が持てないから ／趣味や社会活動など他にやりたいことがあるから (18.8%)	

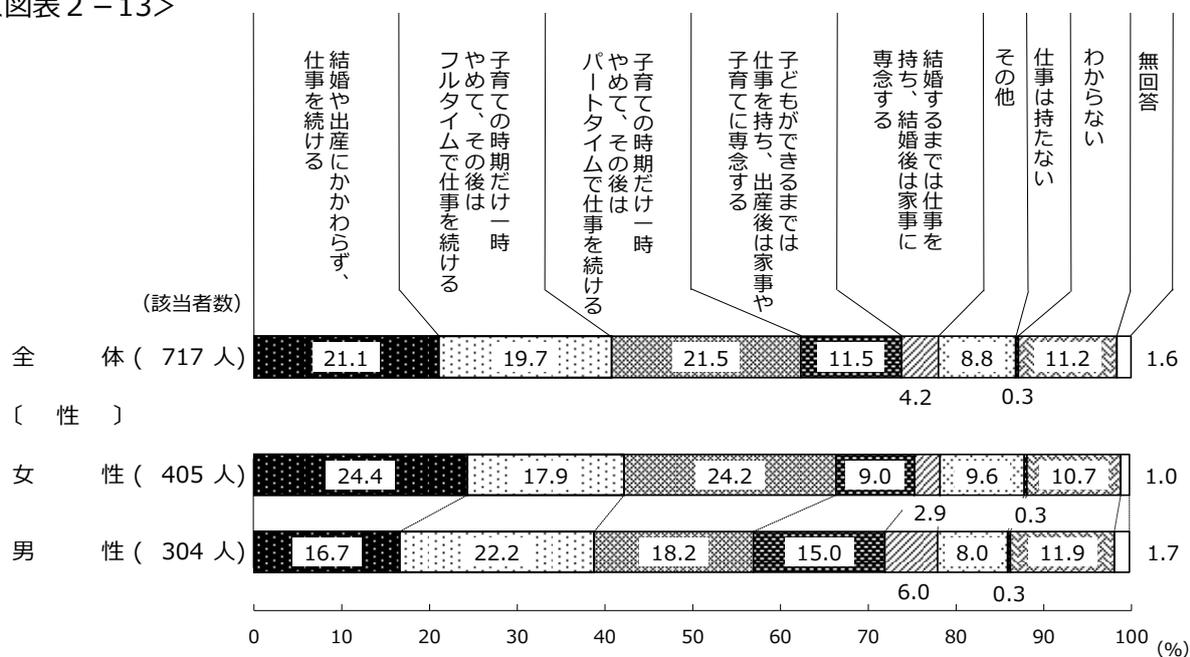
2-2 望ましい女性の働き方

◇ 「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」 21.5%

問9 あなたは、女性の働き方についてどうお考えですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

<図表2-13>

(○は1つ)



望ましい女性の働き方については、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」が21.5%で最も多く、次いで「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」が21.1%、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」が19.7%、「子どもができるまでは仕事をもち、出産後は家事や子育てに専念する」が11.5%の順となっている。

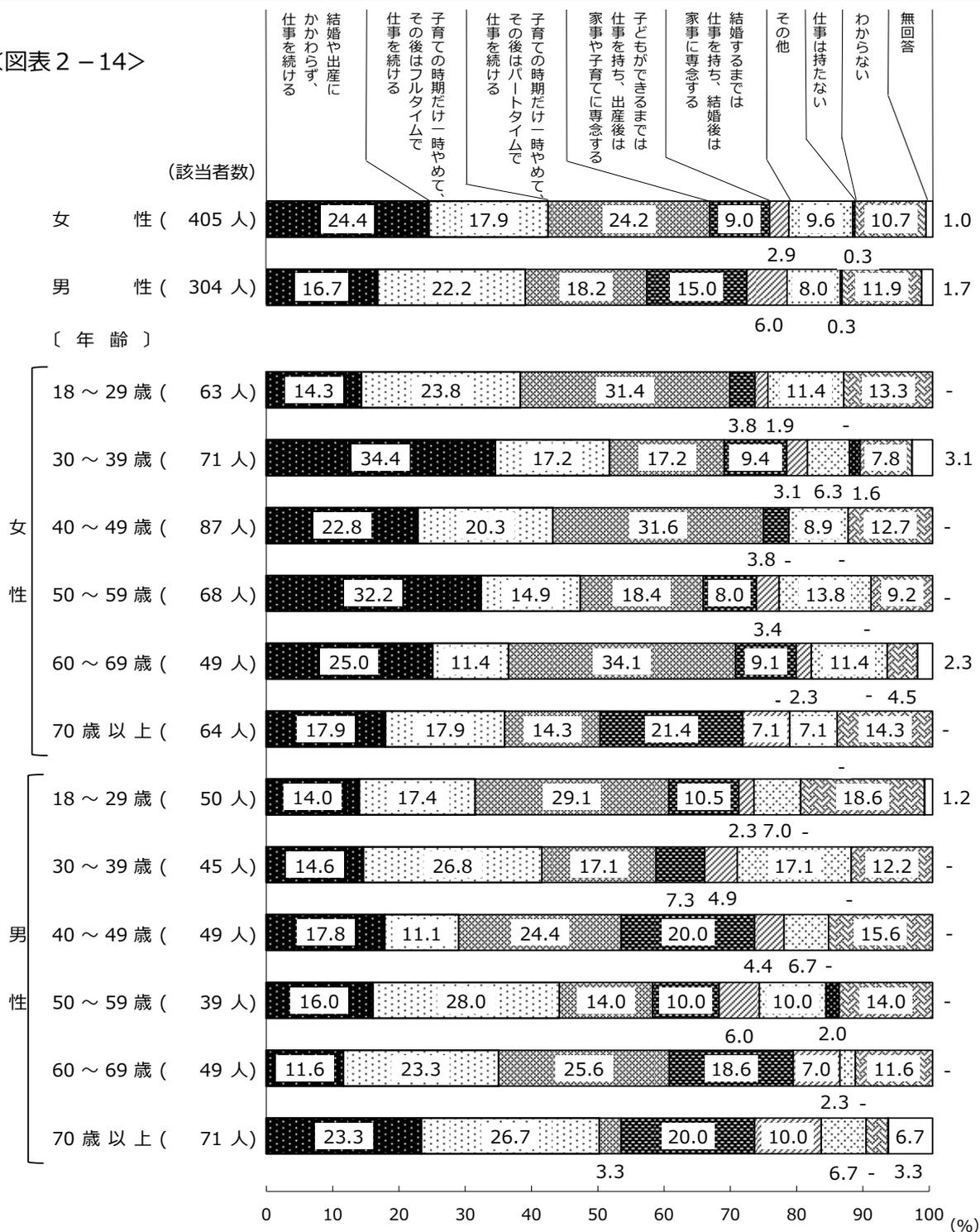
性別にみると、女性では「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」の回答が最も多く24.4%、次いで「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」が24.2%となっている。男性では「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」の回答が最も多く22.2%、次いで「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」が18.2%となっている。

「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」の回答は、女性が24.4%、男性が16.7%で、女性が男性を7.7ポイント上回っている。

【性別・年齢別】

望ましい女性の働き方について性別・年齢別にみると、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」の回答は女性の30歳代で34.4%と最も多い。「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」の回答は男性の50歳代で28.0%と最も多く、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」の回答は女性の60歳代で34.1%と最も多い。「子どもができるまでは仕事をもち、出産後は家事や子育てに専念する」の回答は女性の70歳以上で21.4%と最も多く、「結婚するまでは仕事をもち、結婚後は家事に専念する」の回答は男性の70歳以上で10.0%と最も多くなっている。

<図表2-14>

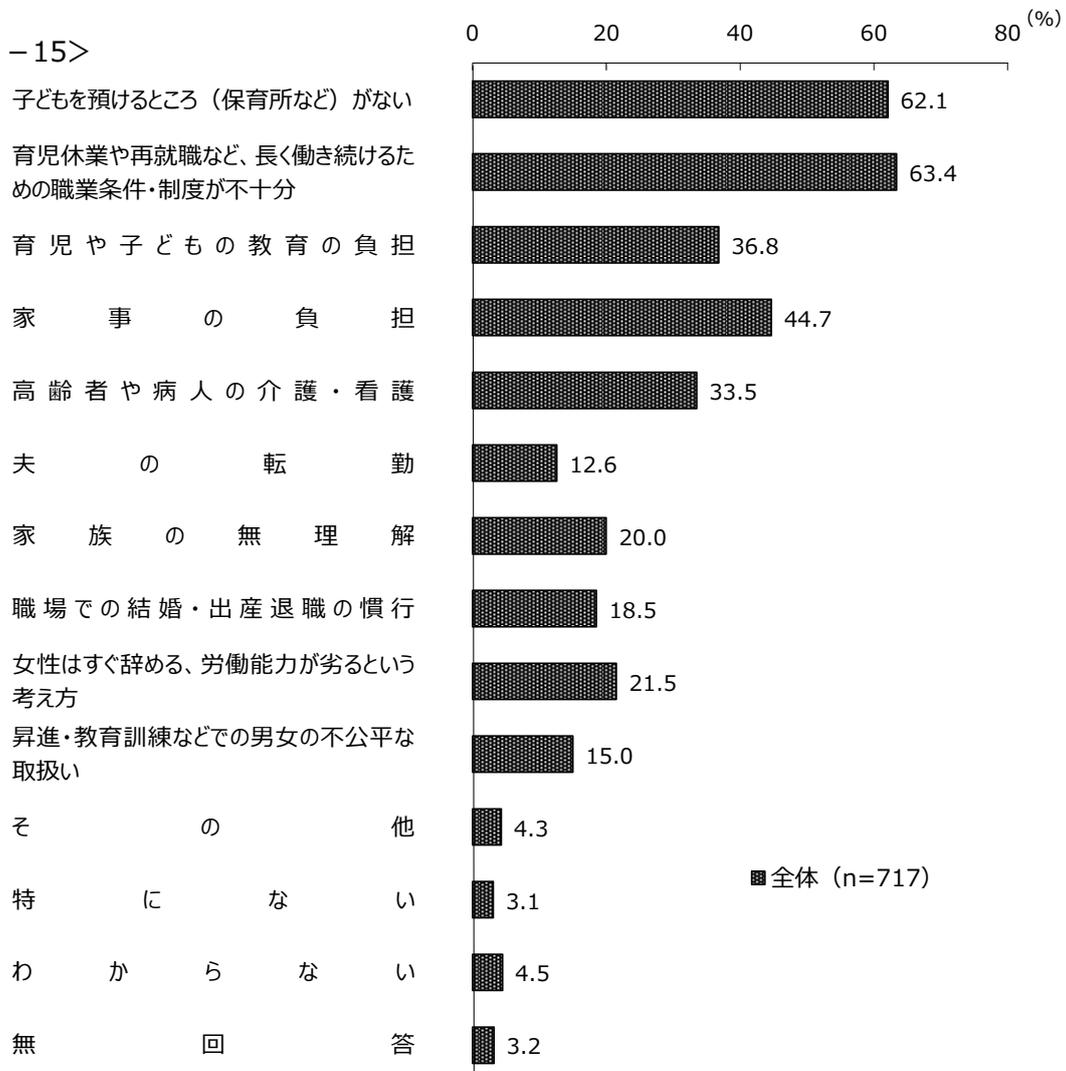


2-3 女性の長期就労の妨げ

◇ 「育児休業や再就職など、長く働き続けるための職業条件・制度が不十分」が最多 63.4%
「子どもを預けるところ（保育所など）がない」62.1%

問 10 あなたは、女性が長く働き続けるのを困難にしたり、妨げになっているのはどんなことだと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

<図表 2-15>



女性の長期就労の妨げについては、「育児休業や再就職など、長く働き続けるための職業条件・制度が不十分」が 63.4%で最も多く、次いで「子どもを預けるところ（保育所など）がない」が 62.1%、「家事の負担」が 44.7%、「育児や子どもの教育の負担」が 36.8%、「高齢者や病人の介護・看護」が 33.5%となっている。（複数回答、上位 5 項目）

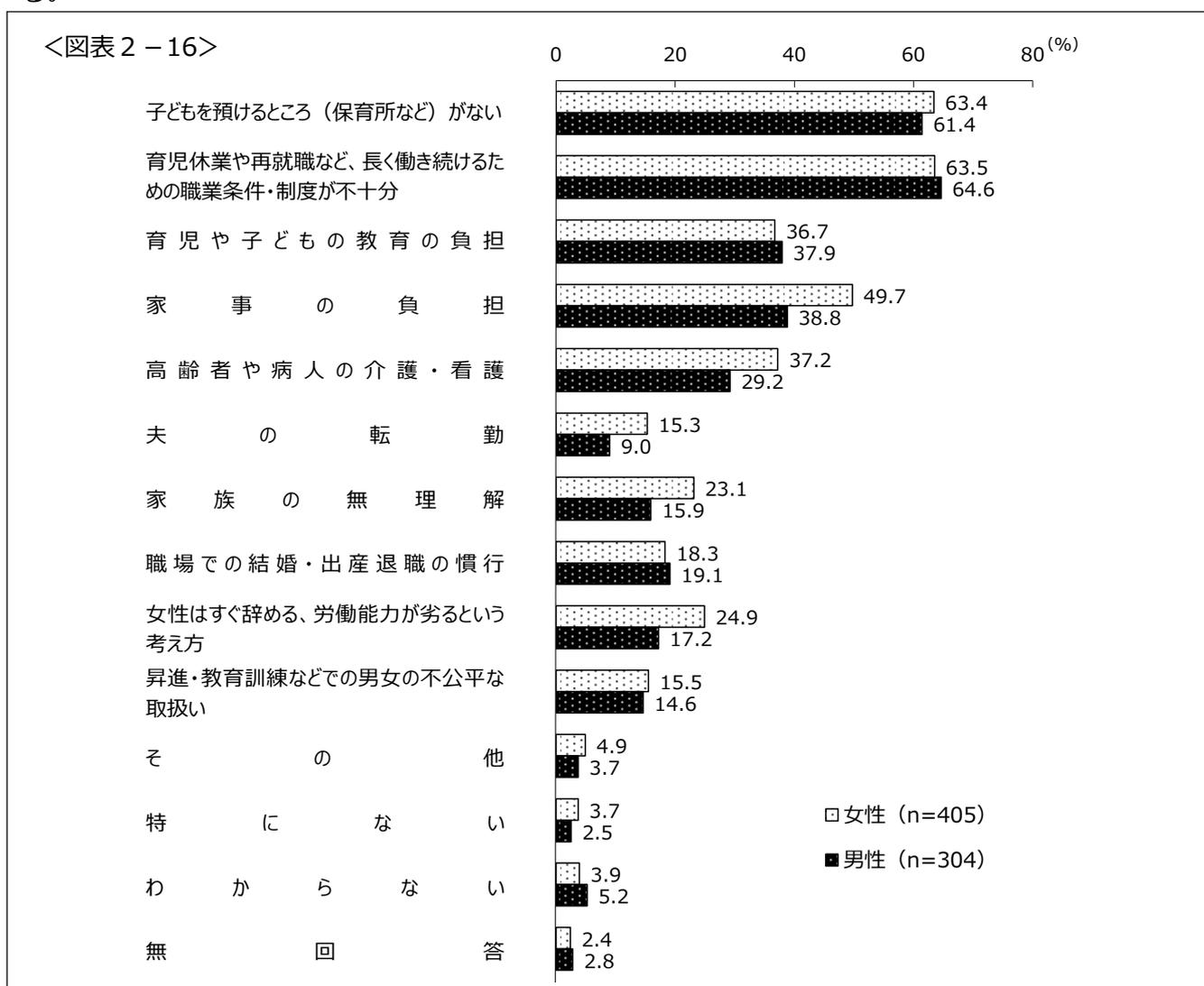
【性別】

女性の長期就労の妨げについて性別にみると、女性では「育児休業や再就職など、長く働き続けるための職業条件・制度が不十分」が最も多く 63.5%、次いで「子どもを預けるところ（保育所など）がない」が 63.4%となっている。男性では「育児休業や再就職など、長く働き続けるための職業条件・制度が不十分」が最も多く 64.6%、次いで「子どもを預けるところ（保育所など）がない」が 61.4%となっている。

「家事の負担」の回答は、女性が 49.7%、男性が 38.8%で、女性が男性を 10.9 ポイント上回っている。

「高齢者や病人の介護・看護」の回答は、女性が 37.2%、男性が 29.2%で、女性が男性を 8.0 ポイント上回っている。

「家族の無理解」の回答は、女性が 23.1%、男性が 15.9%で、女性が男性を 7.2 ポイント上回っている。



【年齢別】

女性の長期就労の妨げについて年齢別にみると、「育児休業や再就職など、長く働き続けるための職業条件・制度が不十分」は29歳以下で69.1%、60歳代で70.1%、70歳以上で57.6%、「子どもを預けるところ（保育所など）がない」は30歳代で70.5%、40歳代で68.5%、50歳代で64.2%と、それぞれ一番多く挙げられている。

2番目に多く挙げられている項目をみると、「子どもを預けるところ（保育所など）がない」は、29歳以下で67.5%、60歳代で52.9%、70歳以上で50.8%、「育児休業や再就職など、長く働き続けるための職業条件・制度が不十分」は、30歳代で60.0%、40歳代で65.3%、50歳代で62.8%となっている。

3番目に多く挙げられている項目をみると、40歳代以下は「家事の負担」、50歳代以上では「高齢者や病人の介護・看護」を挙げており、世代の違いが表れている。

<図表2-17>

	1位	2位	3位
18～29歳	育児休業や再就職など、長く働き続けるための職業条件・制度が不十分 (69.1%)	子どもを預けるところ（保育所など）がない (67.5%)	家事の負担 (43.5%)
30～39歳	子どもを預けるところ（保育所など）がない (70.5%)	育児休業や再就職など、長く働き続けるための職業条件・制度が不十分 (60.0%)	家事の負担 (52.4%)
40～49歳	子どもを預けるところ（保育所など）がない (68.5%)	育児休業や再就職など、長く働き続けるための職業条件・制度が不十分 (65.3%)	家事の負担 (52.4%)
50～59歳	子どもを預けるところ（保育所など）がない (64.2%)	育児休業や再就職など、長く働き続けるための職業条件・制度が不十分 (62.8%)	高齢者や病人の介護・看護 (52.6%)
60～69歳	育児休業や再就職など、長く働き続けるための職業条件・制度が不十分 (70.1%)	子どもを預けるところ（保育所など）がない (52.9%)	高齢者や病人の介護・看護 (32.2%)
70歳以上	育児休業や再就職など、長く働き続けるための職業条件・制度が不十分 (57.6%)	子どもを預けるところ（保育所など）がない (50.8%)	高齢者や病人の介護・看護 (45.8%)

3 仕事と子育てについて

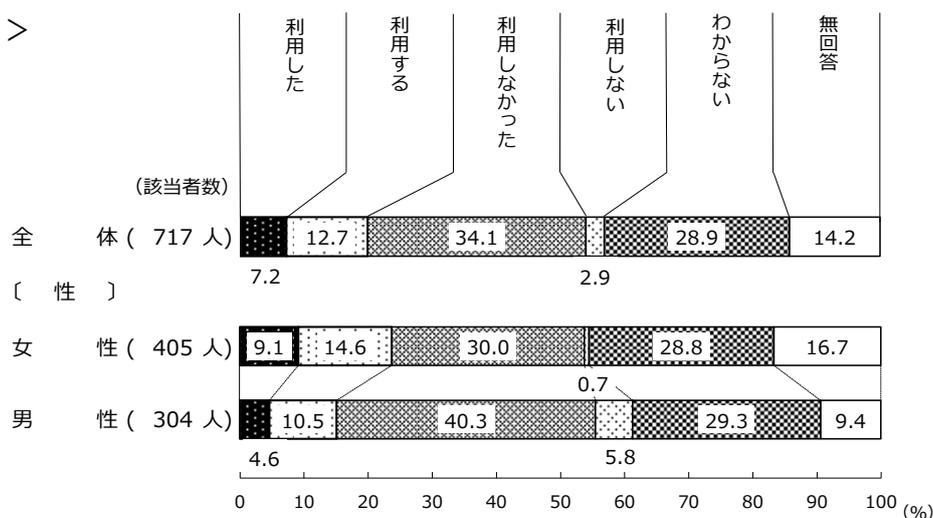
3-1 育児休業制度の利用

◇ 「利用した」7.2%、「利用する」12.7%

問1 1 育児休業制度の利用についてお聞きします。【※男性もお答えください】

現在子育て中の方、既に子育てを終えられた方は、あなたやあなたの配偶者が出産された時に、あなたは育児休業制度を利用しましたか。これから子育てをされる方は、あなたやあなたの配偶者がこれから出産する場合、あなたは育児休業制度を利用しますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

<図表3-1>



育児休業制度の利用については、「利用しなかった」が34.1%で最も多く、次いで「利用する」が12.7%、「利用した」が7.2%、「利用しない」が2.9%となっている。

また、「わからない」が28.9%となっている。

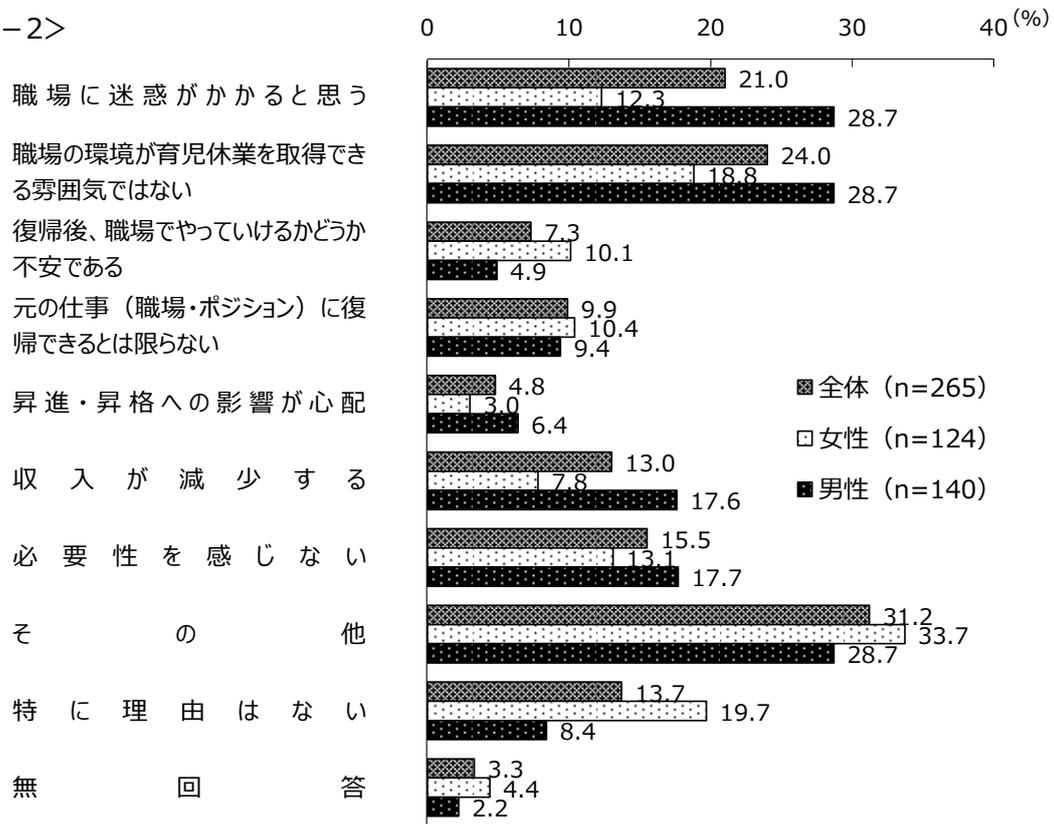
性別にみると、「利用した」の回答は、女性が9.1%、男性が4.6%で、女性が男性を4.5ポイント上回り、「利用する」の回答は、女性が14.6%、男性が10.5%で、女性が男性を4.1ポイント上回っている。一方、「利用しなかった」の回答は、女性が30.0%、男性が40.3%で、男性が女性を10.3ポイント上回り、「利用しない」の回答は、女性が0.7%、男性が5.8%で、男性が女性を5.1ポイント上回っている。

3-1-1 育児休業制度を利用しなかった（しない）理由

- ◇ 「職場の環境が育児休業を取得できる雰囲気ではない」 24.0%
「職場に迷惑がかかると思う」 21.0%

問 1 1 - 1 あなたが、育児休業制度を利用しなかった（しない）理由は次のうちどれですか。
あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

<図表 3-2>



育児休業制度を利用しなかった（しない）と答えた人（265人）が選んだ理由については、「職場の環境が育児休業を取得できる雰囲気ではない」が24.0%で最も多く、次いで「職場に迷惑がかかると思う」が21.0%となっている。（複数回答、上位2項目）

なお、「その他」の回答が31.2%となっており、意見欄には、「自営業なので制度がなかった」、「（職場に）育児休業の制度がなかった」、「（結婚・出産を機に）退職していた」という意見が多い。

性別にみると、女性では「職場の環境が育児休業を取得できる雰囲気ではない」が最も多く18.8%、男性では「職場に迷惑がかかると思う」と「職場の環境が育児休業を取得できる雰囲気ではない」が同率で最も多く28.7%となっている。

「職場に迷惑がかかると思う」の回答は、女性が12.3%、男性が28.7%で、男性が女性を16.4ポイント上回っている。

「職場の環境が育児休業を取得できる雰囲気ではない」の回答は、女性が18.8%、男性が28.7%で、男性が女性を9.9ポイント上回っている。

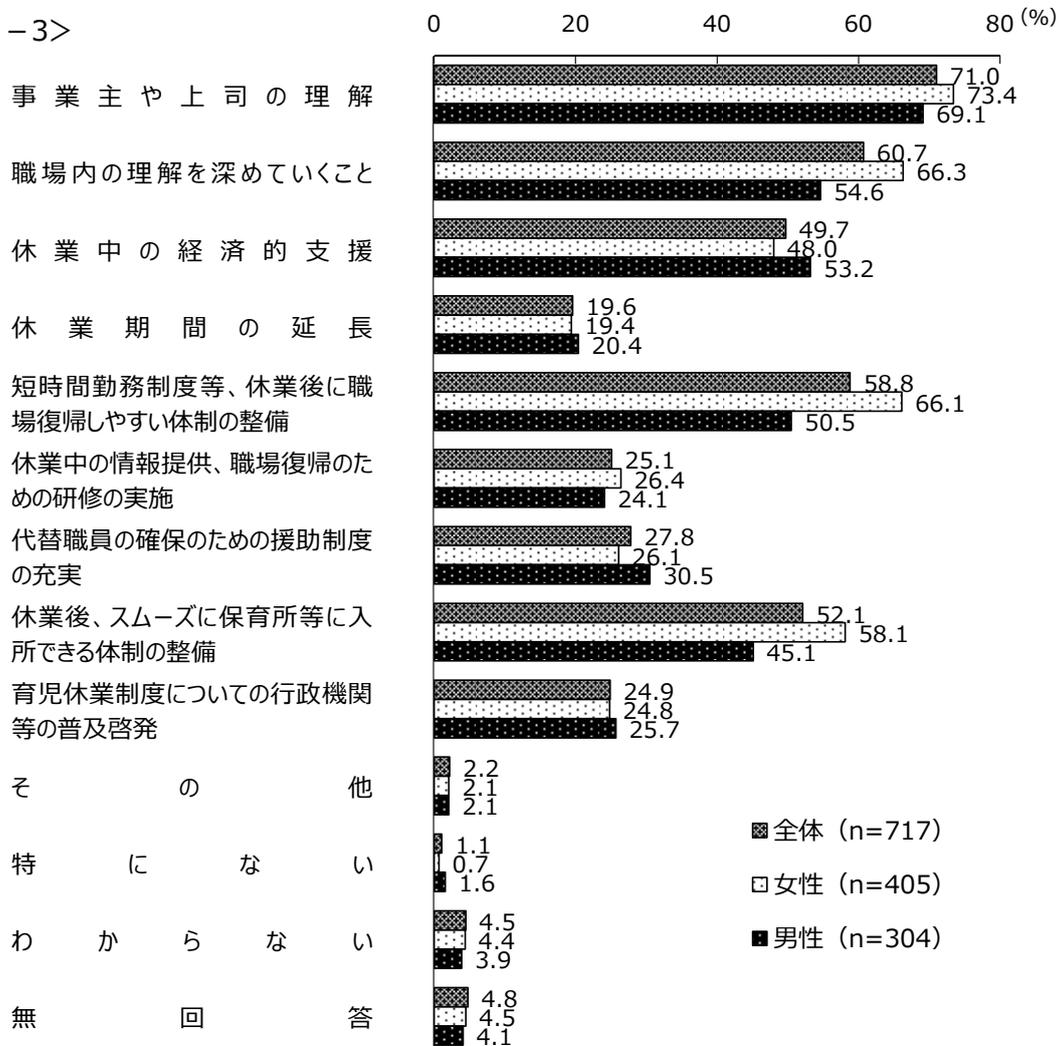
「収入が減少する」の回答は、女性が7.8%、男性が17.6%で、男性が女性を9.8ポイント上回っている。

3-2 育児休業制度利用推進に必要なこと

◇ 「事業主や上司の理解」 71.0%

問 1 2 あなたは、育児休業制度をさらに利用しやすくしていくためには、どんなことが必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

<図表 3-3>



育児休業制度利用推進に必要なことについては、「事業主や上司の理解」が 71.0%で最も多く、次いで「職場内の理解を深めていくこと」が 60.7%、「短時間勤務制度等、休業後に職場復帰しやすい体制の整備」が 58.8%、「休業後、スムーズに保育所等に入所できる体制の整備」が 52.1%、「休業中の経済的支援」が 49.7%となっている。(複数回答、上位 5 項目)

性別にみると、男女ともに「事業主や上司の理解」の回答が最も多く、女性が 73.4%、男性が 69.1%となっている。

「短時間勤務制度等、休業後に職場復帰しやすい体制の整備」の回答は、女性が 66.1%、男性が 50.5%で、女性が男性を 15.6 ポイント上回っている。

「休業後、スムーズに保育所等に入所できる体制の整備」の回答は、女性が 58.1%、男性が 45.1%で、女性が男性を 13.0 ポイント上回っている。

【年齢別】

育児休業制度利用推進に必要なことについて年齢別にみると、「事業主や上司の理解」は、29歳以下で72.8%、30歳代で68.6%、40歳代で64.5%、50歳代で75.2%、60歳代で66.7%、70歳以上で79.7%となっており、全ての年齢で最も多くなっている。

2番目に多く挙げられている項目をみると、「短時間勤務制度等、休業後に職場復帰しやすい体制の整備」は29歳以下で63.4%、30歳代で65.7%、70歳以上で61.0%、「職場内の理解を深めていくこと」は40歳代で58.1%、50歳代で65.7%、60歳代で58.6%となっている。

<図表3-4>

	1位	2位	3位
18 ~ 29 歳	事業主や上司の理解 (72.8%)	短時間勤務制度等、休業後に職場復帰しやすい体制の整備 (63.4%)	職場内の理解を深めていくこと (61.8%)
30 ~ 39 歳	事業主や上司の理解 (68.6%)	短時間勤務制度等、休業後に職場復帰しやすい体制の整備 (65.7%)	職場内の理解を深めていくこと (63.8%)
40 ~ 49 歳	事業主や上司の理解 (64.5%)	職場内の理解を深めていくこと (58.1%)	短時間勤務制度等、休業後に職場復帰しやすい体制の整備 (52.4%)
50 ~ 59 歳	事業主や上司の理解 (75.2%)	職場内の理解を深めていくこと (65.7%)	短時間勤務制度等、休業後に職場復帰しやすい体制の整備 (62.8%)
60 ~ 69 歳	事業主や上司の理解 (66.7%)	職場内の理解を深めていくこと (58.6%)	休業後、スムーズに保育所等に入所できる体制の整備 (52.9%)
70 歳 以上	事業主や上司の理解 (79.7%)	短時間勤務制度等、休業後に職場復帰しやすい体制の整備 (61.0%)	職場内の理解を深めていくこと (59.3%)

【職業別】

育児休業制度利用推進に必要なことについて職業別にみると、「事業主や上司の理解」は全ての職業で最も多くなっている。

2番目に多く挙げられている項目をみると、「休業中の経済的支援」は自営業主・家族従業者で56.0%、「職場内の理解を深めていくこと」は正規雇用で59.1%、非正規雇用で63.8%、家事専業で68.6%、学生・無職で67.8%となっている。

「事業主や上司の理解」は、家事専業で最も多く、自営業主・家族従業者を21.8ポイント上回っている。

「短時間勤務制度等、休業後に職場復帰しやすい体制の整備」は、家事専業で68.2%と最も多く、正規雇用の57.9%を10.3ポイント上回っている。

(※12ページ「職業・就労形態」を参照)

<図表3-5>

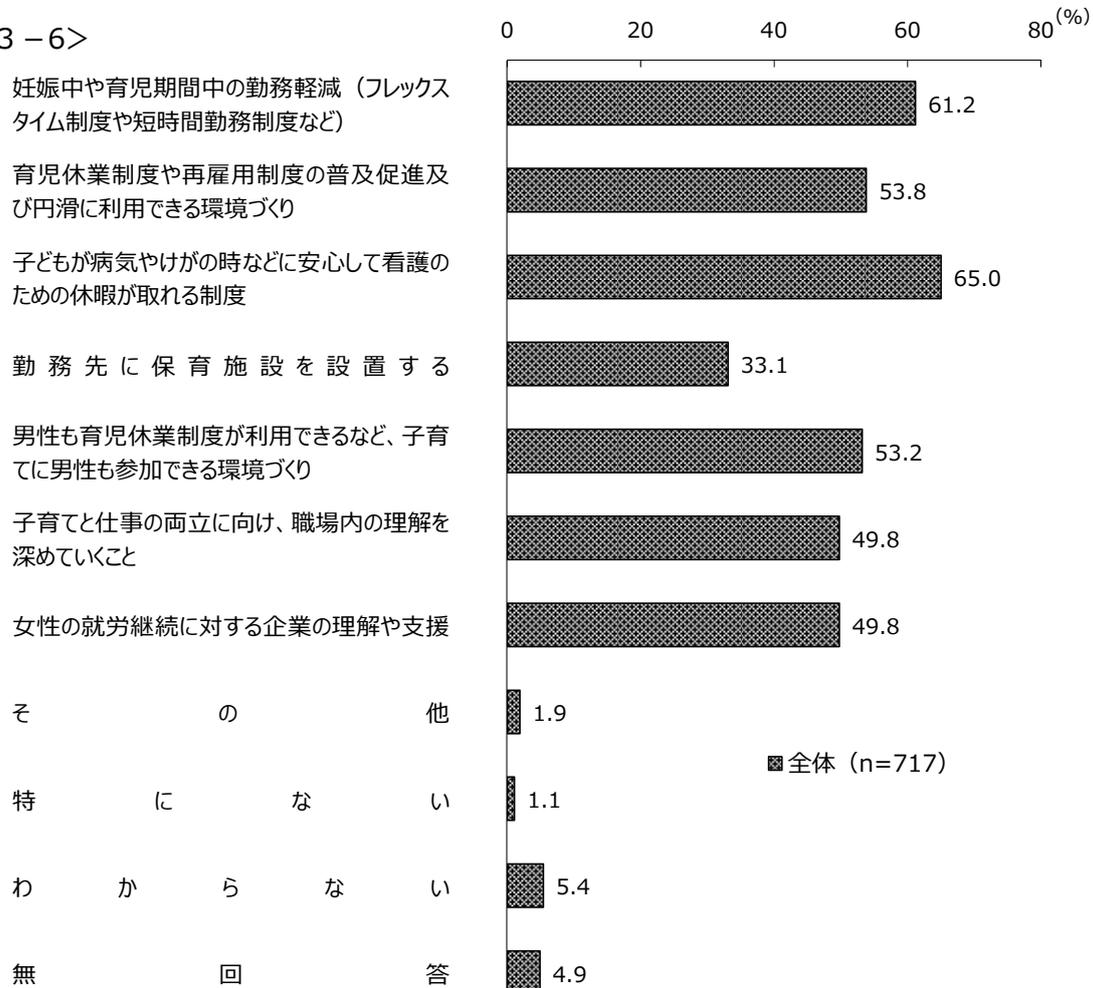
	1位	2位	3位
自営業主・ 家族従業者	事業主や上司の理解 (61.3%)	休業中の経済的支援 (56.0%)	短時間勤務制度等、休業 後に職場復帰しやすい体制 の整備 (49.1%)
役員・正規職員 ・従業員（正規雇用）	事業主や上司の理解 (66.4%)	職場内の理解を深めていくこ と (59.1%)	短時間勤務制度等、休業 後に職場復帰しやすい体制 の整備 (57.9%)
パート・アルバイト・派遣社 員、契約社員、嘱託、内職 (非正規雇用)	事業主や上司の理解 (71.7%)	職場内の理解を深めていくこ と (63.8%)	短時間勤務制度等、休業 後に職場復帰しやすい体制 の整備 (63.5%)
家 事 専 業	事業主や上司の理解 (83.1%)	職場内の理解を深めていくこ と (68.6%)	短時間勤務制度等、休業 後に職場復帰しやすい体制 の整備 (68.2%)
学 生 ・ 無 職	事業主や上司の理解 (80.3%)	職場内の理解を深めていくこ と (67.8%)	短時間勤務制度等、休業 後に職場復帰しやすい体制 の整備 (60.8%)

3-3 子育てと仕事の両立に必要なこと

- ◇ 「子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度」 65.0%
 「妊娠中や育児期間中の勤務軽減（フレックスタイム制度や短時間勤務制度など）」 61.2%

問13 あなたは、子育てと仕事の両立を図るために、職場においてどのような制度や支援策の充実が必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

<図表3-6>



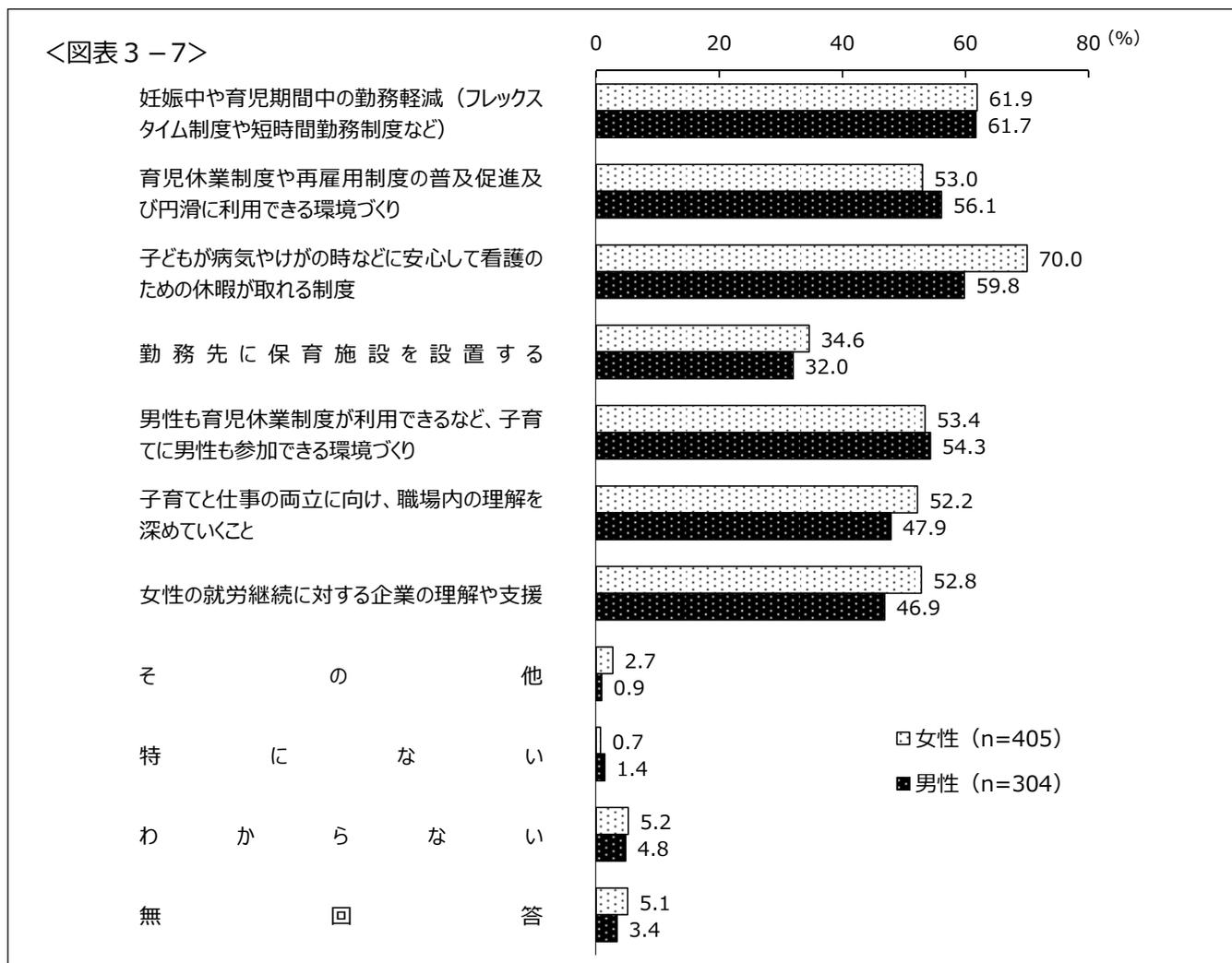
子育てと仕事の両立に必要なことについては、「子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度」が65.0%で最も多く、次いで「妊娠中や育児期間中の勤務軽減（フレックスタイム制度や短時間勤務制度など）」が61.2%、「育児休業制度や再雇用制度の普及促進及び円滑に利用できる環境づくり」が53.8%、「男性も育児休業制度が利用できるなど、子育てに男性も参加できる環境づくり」が53.2%、「子育てと仕事の両立に向け、職場内の理解を深めていくこと」と「女性の就労継続に対する企業の理解や支援」がともに49.8%となっている。（複数回答、上位6項目）

【性別】

子育てと仕事の両立に必要なことについて性別にみると、女性では「子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度」が最も多く70.0%、男性では「妊娠中や育児期間中の勤務軽減（フレックスタイム制度や短時間勤務制度など）」が最も多く61.7%となっている。

「子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度」の回答は、女性が70.0%、男性が59.8%で、女性が男性を10.2ポイント上回っている。

男性の回答が女性の回答よりも上回っている項目は、「育児休業制度や再雇用制度の普及促進及び円滑に利用できる環境づくり」（男性56.1%、女性53.0%）、「男性も育児休業制度が利用できるなど、子育てに男性も参加できる環境づくり」（男性54.3%、女性53.4%）となっている。



【年齢別】

子育てと仕事の両立に必要なことについて年齢別にみると、「妊娠中や育児期間中の勤務軽減（フレックスタイム制度や短時間勤務制度など）」は、29歳以下で66.5%、40歳代で67.7%、50歳代で66.4%と最も多く挙げられている。「子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度」は、30歳代で68.6%、60歳代で67.8%、70歳以上で72.9%と最も多く挙げられている。

2番目に多く挙げられている項目をみると、「子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度」は29歳以下で61.3%、40歳代で63.7%、「妊娠中や育児期間中の勤務軽減（フレックスタイム制度や短時間勤務制度など）」は30歳代で65.7%、60歳代で50.6%、「育児休業制度や再雇用制度の普及促進及び円滑に利用できる環境づくり」は50歳代で59.9%、「女性の就労継続に対する企業の理解や支援」は70歳以上で57.6%となっている。

<図表3-8>

	1位	2位	3位
18 ~ 29 歳	妊娠中や育児期間中の勤務軽減（フレックスタイム制度や短時間勤務制度など） (66.5%)	子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度 (61.3%)	男性も育児休業制度が利用できるなど、子育てに男性も参加できる環境づくり (58.1%)
30 ~ 39 歳	子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度 (68.6%)	妊娠中や育児期間中の勤務軽減（フレックスタイム制度や短時間勤務制度など） (65.7%)	女性の就労継続に対する企業の理解や支援 (61.0%)
40 ~ 49 歳	妊娠中や育児期間中の勤務軽減（フレックスタイム制度や短時間勤務制度など） (67.7%)	子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度 (63.7%)	育児休業制度や再雇用制度の普及促進及び円滑に利用できる環境づくり (52.4%)
50 ~ 59 歳	妊娠中や育児期間中の勤務軽減（フレックスタイム制度や短時間勤務制度など） (66.4%)	育児休業制度や再雇用制度の普及促進及び円滑に利用できる環境づくり (59.9%)	子育てと仕事の両立に向け、職場内の理解を深めていくこと (57.7%)
60 ~ 69 歳	子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度 (67.8%)	妊娠中や育児期間中の勤務軽減（フレックスタイム制度や短時間勤務制度など） (50.6%)	育児休業制度や再雇用制度の普及促進及び円滑に利用できる環境づくり／男性も育児休業制度が利用できるなど、子育てに男性も参加できる環境づくり (49.4%)
70 歳以上	子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度 (72.9%)	女性の就労継続に対する企業の理解や支援 (57.6%)	育児休業制度や再雇用制度の普及促進及び円滑に利用できる環境づくり (55.9%)

【職業別】

子育てと仕事の両立に必要なことについて職業別にみると、「妊娠中や育児期間中の勤務軽減（フレックスタイム制度や短時間勤務制度など）」は、正規雇用で 70.4%、非正規雇用で 65.8%と最も多く挙げられている。「子どもが病気がけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度」は、自営業主・家族従業者で 66.2%、家事専業で 75.5%、学生・無職で 64.0%と最も多く挙げられており、雇用されているか、されていないかで傾向が分かれる。

（※12 ページ「職業・就労形態」を参照）

<図表 3-9>

	1 位	2 位	3 位
自営業主・ 家族従業者	子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度 (66.2%)	男性も育児休業制度が利用できるなど、子育てに男性も参加できる環境づくり (48.3%)	育児休業制度や再雇用制度の普及促進及び円滑に利用できる環境づくり (46.5%)
役員・正規職員 ・従業員（正規雇用）	妊娠中や育児期間中の勤務軽減（フレックスタイム制度や短時間勤務制度など） (70.4%)	子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度 (64.5%)	男性も育児休業制度が利用できるなど、子育てに男性も参加できる環境づくり (56.4%)
パート・アルバイト・派遣社員、 契約社員、嘱託、内職 （非正規雇用）	妊娠中や育児期間中の勤務軽減（フレックスタイム制度や短時間勤務制度など） (65.8%)	子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度 (64.8%)	男性も育児休業制度が利用できるなど、子育てに男性も参加できる環境づくり (57.3%)
家事専業	子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度 (75.5%)	妊娠中や育児期間中の勤務軽減（フレックスタイム制度や短時間勤務制度など） (55.8%)	育児休業制度や再雇用制度の普及促進及び円滑に利用できる環境づくり (53.3%)
学生・無職	子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度 (64.0%)	妊娠中や育児期間中の勤務軽減（フレックスタイム制度や短時間勤務制度など） (60.9%)	育児休業制度や再雇用制度の普及促進及び円滑に利用できる環境づくり (59.7%)

【子どもの有無別】

子育てと仕事の両立に必要なことについて子どもの有無別にみると、「子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度」は、子どもがいる人が 75.2%、子どもがいない人が 57.1%で、子どもがいる人がいない人を 18.1 ポイント上回っている。子どもがいない人では「妊娠中や育児期間中の勤務軽減（フレックスタイム制度や短時間勤務制度など）」が最も多く 62.5%となっている。

<図表 3-10>

	1 位	2 位	3 位
子どもがいる	子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度 (75.2%)	妊娠中や育児期間中の勤務軽減（フレックスタイム制度や短時間勤務制度など） (62.2%)	育児休業制度や再雇用制度の普及促進及び円滑に利用できる環境づくり (57.0%)
子どもがいない	妊娠中や育児期間中の勤務軽減（フレックスタイム制度や短時間勤務制度など） (62.5%)	子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度 (57.1%)	男性も育児休業制度が利用できるなど、子育てに男性も参加できる環境づくり (53.6%)

4 ワーク・ライフ・バランスについて

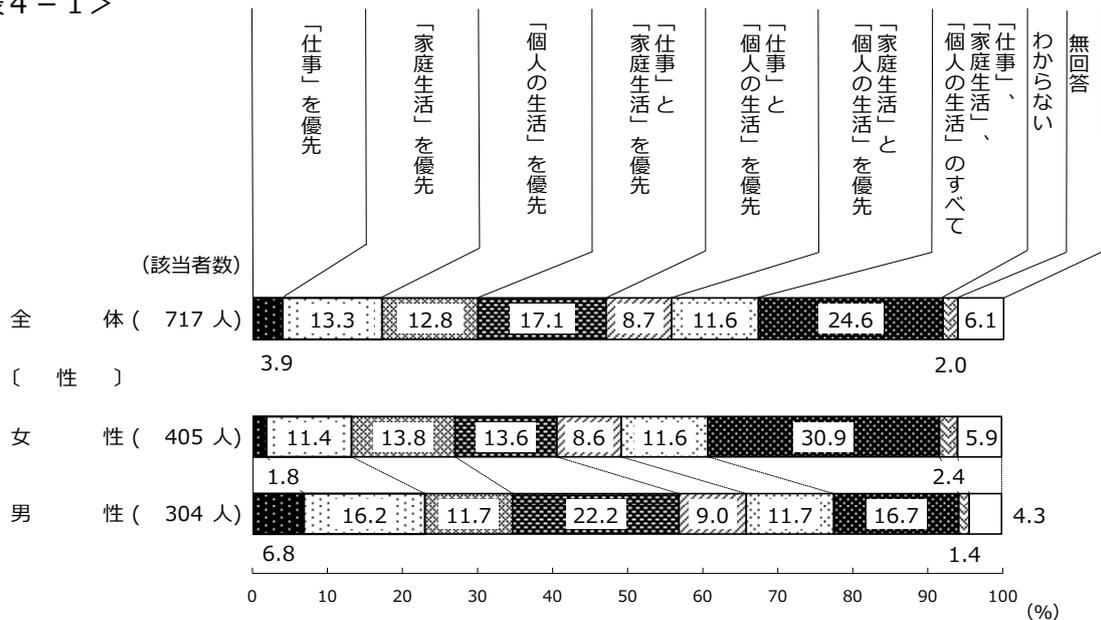
4-1-1 「仕事」「家庭生活」「個人の生活」の希望の優先度

◇ 『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』のすべて」24.6%

問14 あなたの生活の中での、「仕事」「家庭生活」「個人の生活（地域活動、趣味・学習等）」の優先度についてお聞きします。

(1)「希望」としての優先度について、あなたの希望に最も近いものを1つだけ選び、回答欄に数字を記入してください。

<図表4-1>



「仕事」「家庭生活」「個人の生活」の希望の優先度については、「『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』のすべて」が24.6%で最も多く、次いで「『仕事』と『家庭生活』を優先」が17.1%、「『家庭生活』を優先」が13.3%、「『個人の生活』を優先」が12.8%、「『家庭生活』と『個人の生活』を優先」が11.6%となっている。

性別にみると、女性では「『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』のすべて」の回答が最も多く30.9%、男性では「『仕事』と『家庭生活』を優先」の回答が最も多く22.2%となっている。

性別で比較してみると、「『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』のすべて」の回答は、女性が30.9%、男性が16.7%で、女性が男性を14.2ポイント上回っている。「『仕事』と『家庭生活』を優先」の回答は、女性が13.6%、男性が22.2%で、男性が女性を8.6ポイント上回っている。

【年齢別】

「仕事」「家庭生活」「個人の生活」の希望の優先度について年齢別にみると、「『仕事』を優先」で最も多いのは50歳代の6.6%、「『家庭生活』を優先」で最も多いのは40歳代の21.8%、「『個人の生活』を優先」で最も多いのは29歳以下の21.5%、「『仕事』と『家庭生活』を優先」で最も多いのは60歳代の28.7%、「『仕事』と『個人の生活』を優先」で最も多いのは30歳代の13.3%、「『家庭生活』と『個人の生活』を優先」で最も多いのは60歳代の13.8%、「『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』のすべて」で最も多いのは50歳代の36.5%となっている。

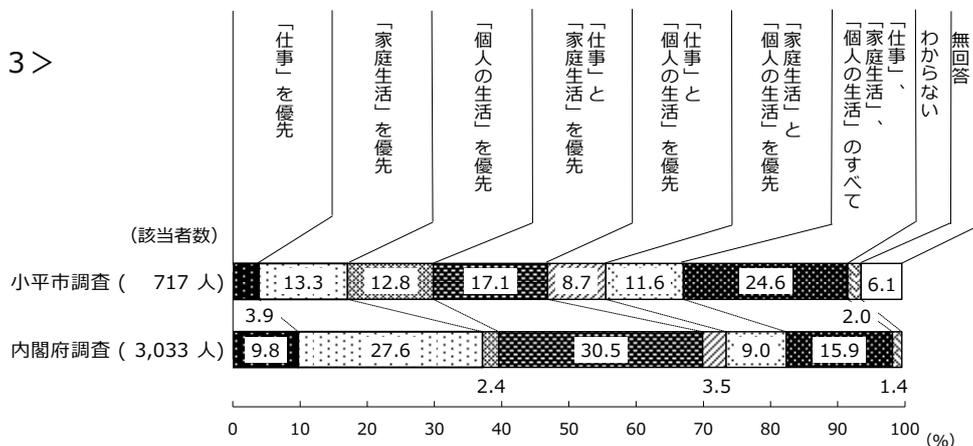
<図表4-2>

	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」を優先	「仕事」と「個人の生活」を優先	「家庭生活」と「個人の生活」を優先	「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」のすべて	わからない	無回答
18～29歳 (113人)	3.1	6.8	21.5	11.0	11.5	13.1	28.8	3.1	1.0
30～39歳 (116人)	4.8	16.2	15.2	16.2	13.3	10.5	21.9	1.9	-
40～49歳 (136人)	1.6	21.8	14.5	9.7	7.3	11.3	33.1	-	0.8
50～59歳 (107人)	6.6	9.5	8.0	16.1	11.7	9.5	36.5	-	2.2
60～69歳 (98人)	4.6	12.6	11.5	28.7	6.9	13.8	17.2	1.1	3.4
70歳以上 (139人)	3.4	11.9	6.8	23.7	3.4	11.9	11.9	5.1	22.0

「内閣府調査との比較」

内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成24年10月)と比較してみると、小平市調査では「『個人の生活』を優先」、「『仕事』と『個人の生活』を優先」、「『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』のすべて」と答えた人の割合が内閣府調査を上回り、内閣府調査では「『個人の生活』が含まれないものは低い傾向がみられる。

<図表4-3>



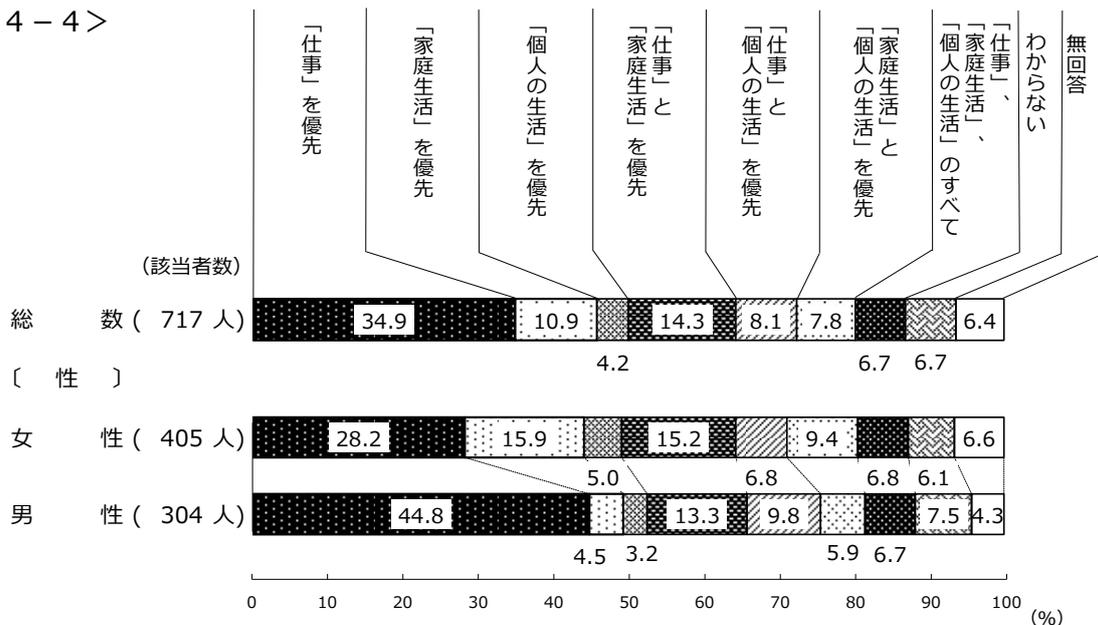
4-1-2 「仕事」「家庭生活」「個人の生活」の現実の優先度

◇ 『『仕事』を優先』 34.9%

問14 あなたの生活の中での、「仕事」「家庭生活」「個人の生活（地域活動、趣味・学習等）」の優先度についてお聞きします。

(2) 次に、「現実」としての優先度について、あなたの現実に最も近いものを1つだけ選び、回答欄に数字を記入してください。

<図表4-4>



「仕事」「家庭生活」「個人の生活」の現実の優先度については、『『仕事』を優先』が34.9%で最も多く、次いで『『仕事』と『家庭生活』を優先』が14.3%、『『家庭生活』を優先』が10.9%となっている。

「希望」の回答と比較すると、『『仕事』を優先』については現実の34.9%が希望の3.9%を31.0ポイント上回り、『『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』のすべて』については現実の6.7%が希望の24.6%を17.9ポイント下回っている。

性別にみると、女性では『『仕事』を優先』の回答が最も多く28.2%、男性では『『仕事』を優先』の回答が最も多く44.8%となっている。

性別で比較してみると、『『仕事』を優先』の回答は女性が28.2%、男性が44.8%で、男性が女性を16.6ポイント上回っている。『『家庭生活』を優先』の回答は女性が15.9%、男性が4.5%で、女性が男性を11.4ポイント上回っている。

性別に「希望」の回答と比較すると、『『仕事』を優先』については、女性で現実の28.2%が希望の1.8%を26.4ポイント上回り、男性で現実の44.8%が希望の6.8%を38.0ポイント上回っている。一方で、『『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』のすべて』については、女性で現実の6.8%が希望の30.9%を24.1ポイント下回り、男性で現実の6.7%が希望の16.7%を10.0ポイント下回っている。

【年齢別】

「仕事」「家庭生活」「個人の生活」の現実の優先度について年齢別にみると、「『仕事』を優先」で最も多いのは40歳代の51.6%、「『家庭生活』を優先」で最も多いのは60歳代の20.7%、「『個人の生活』を優先」で最も多いのは29歳以下の14.1%、「『仕事』と『家庭生活』を優先」で最も多いのは50歳代の21.2%、「『仕事』と『個人の生活』を優先」で最も多いのは29歳以下の13.6%、「『家庭生活』と『個人の生活』を優先」で最も多いのは60歳代の16.1%、「『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』のすべて」で最も多いのは70歳以上の13.6%となっている。

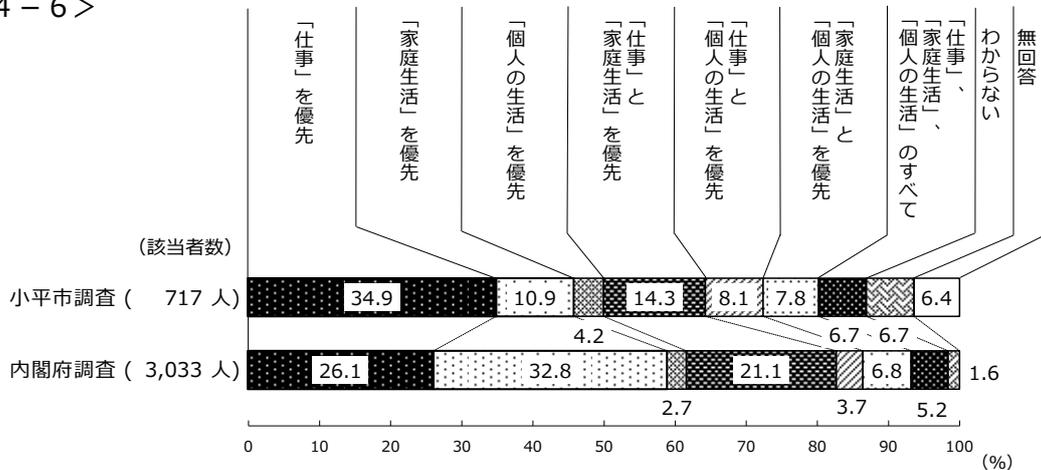
<図表4-5>

	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」を優先	「仕事」と「個人の生活」を優先	「家庭生活」と「個人の生活」を優先	「仕事」、「家庭生活」のすべて	わからない	無回答
18～29歳 (113人)	37.2	3.1	14.1	8.9	13.6	3.1	3.1	15.2	1.6
30～39歳 (116人)	41.9	8.6	4.8	16.2	13.3	3.8	3.8	7.6	-
40～49歳 (136人)	51.6	12.9	0.8	16.9	8.1	4.0	3.2	1.6	0.8
50～59歳 (107人)	39.4	16.1	3.6	21.2	5.1	5.1	5.1	2.9	1.5
60～69歳 (98人)	19.5	20.7	3.4	13.8	8.0	16.1	11.5	3.4	3.4
70歳以上 (139人)	20.3	6.8	-	10.2	1.7	15.3	13.6	8.5	23.7

「内閣府調査との比較」

内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成24年10月)と比較してみると、小平市調査では「『仕事』を優先」と答えた人の割合が内閣府調査を上回り、家庭生活を優先する傾向が低くなっている。

<図表4-6>

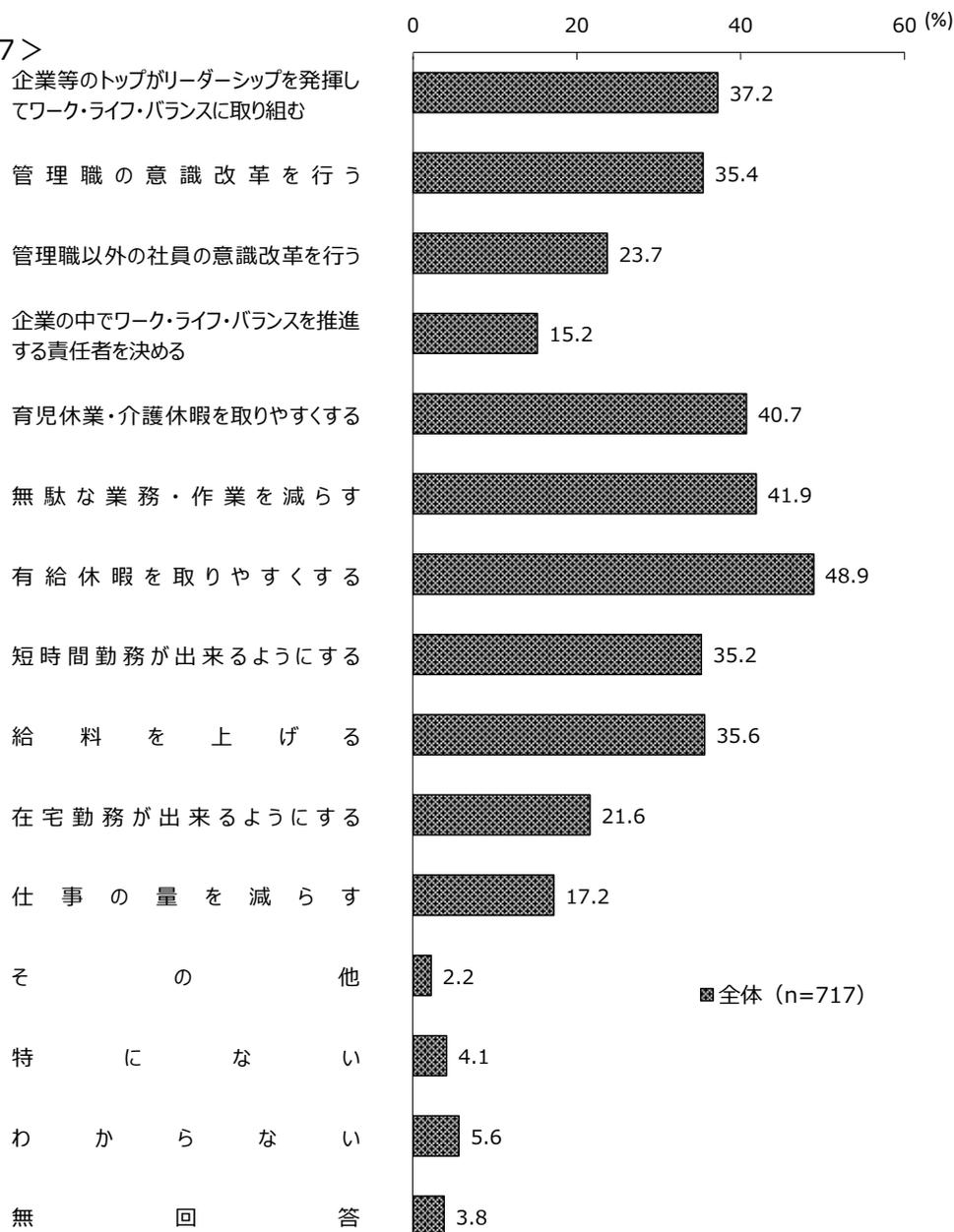


4-2 ワーク・ライフ・バランスのため職場に望むこと

◇ 「有給休暇を取りやすくする」48.9%

問15 あなたは、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）が実現するために、職場に望むことは何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

<図表4-7>



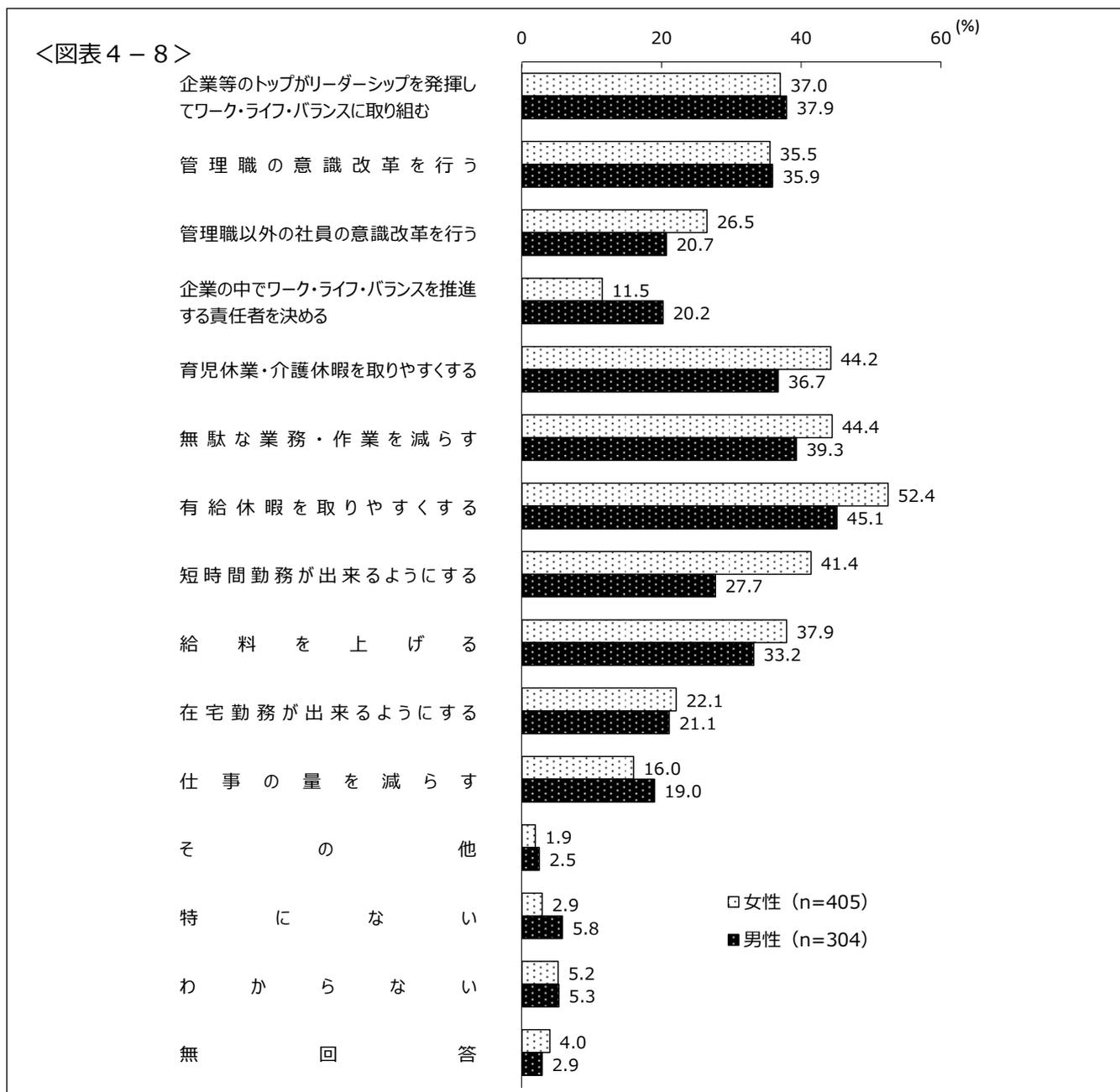
ワーク・ライフ・バランスのため職場に望むことについては、「有給休暇を取りやすくする」が48.9%で最も多く、次いで「無駄な業務・作業を減らす」が41.9%、「育児休業・介護休暇を取りやすくする」が40.7%、「企業等のトップがリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む」が37.2%、「給料を上げる」が35.6%、「管理職の意識改革を行う」が35.4%、「短時間勤務が出来るようにする」が35.2%となっている。（複数回答、上位7項目）

【性別】

ワーク・ライフ・バランスのため職場に望むことについて性別にみると、男女ともに「有給休暇を取りやすくする」の回答が最も多く、女性が 52.4%、男性が 45.1%で、女性が男性を 7.3 ポイント上回っている。

「短時間勤務が出来るようにする」の回答は、女性が 41.4%、男性が 27.7%で、女性が男性を 13.7 ポイント上回っている。

「企業の中でワーク・ライフ・バランスを推進する責任者を決める」の回答は、女性が 11.5%、男性が 20.2%で、男性が女性を 8.7 ポイント上回っている。



【年齢別】

「有給休暇を取りやすくする」は、29歳以下で55.0%、40歳代で52.4%、50歳代で53.3%、60歳代で44.8%と最も多く挙げられている。30歳代では「給料を上げる」が54.3%、70歳以上では「育児休業・介護休暇を取りやすくする」が44.1%で、それぞれ最も多く挙げられている。

<図表4-9>

	1位	2位	3位
18 ~ 29 歳	有給休暇を取りやすくする (55.0%)	無駄な業務・作業を減らす (44.5%)	給料を上げる (40.3%)
30 ~ 39 歳	給料を上げる (54.3%)	有給休暇を取りやすくする (51.4%)	無駄な業務・作業を減らす (50.5%)
40 ~ 49 歳	有給休暇を取りやすくする (52.4%)	給料を上げる (46.8%)	管理職の意識改革を行う/ 無駄な業務・作業を減らす (41.9%)
50 ~ 59 歳	有給休暇を取りやすくする (53.3%)	短時間勤務が出来るようにする (50.4%)	育児休業・介護休暇を取りやすくする (48.2%)
60 ~ 69 歳	有給休暇を取りやすくする (44.8%)	企業等のトップが指揮をとって、ワーク・ライフ・バランスに取り組む/ 育児休業・介護休暇を取りやすくする/無駄な業務・作業を減らす (35.6%)	
70 歳 以上	育児休業・介護休暇を取りやすくする (44.1%)	企業等のトップがリーダーシップを發揮して、ワーク・ライフ・バランスに取り組む (42.4%)	管理職の意識改革を行う/ 有給休暇を取りやすくする (39.0%)

【職業別】

「企業等のトップがリーダーシップを發揮して、ワーク・ライフ・バランスに取り組む」は、自営業主・家族従業者で31.8%、「有給休暇を取りやすくする」は、正規雇用で54.3%、非正規雇用で54.5%、「育児休業・介護休暇を取りやすくする」は、家事専業で53.9%、学生・無職で52.3%と、それぞれ最も多く挙げている。

(※12ページ「職業・就労形態」を参照)

<図表4-10>

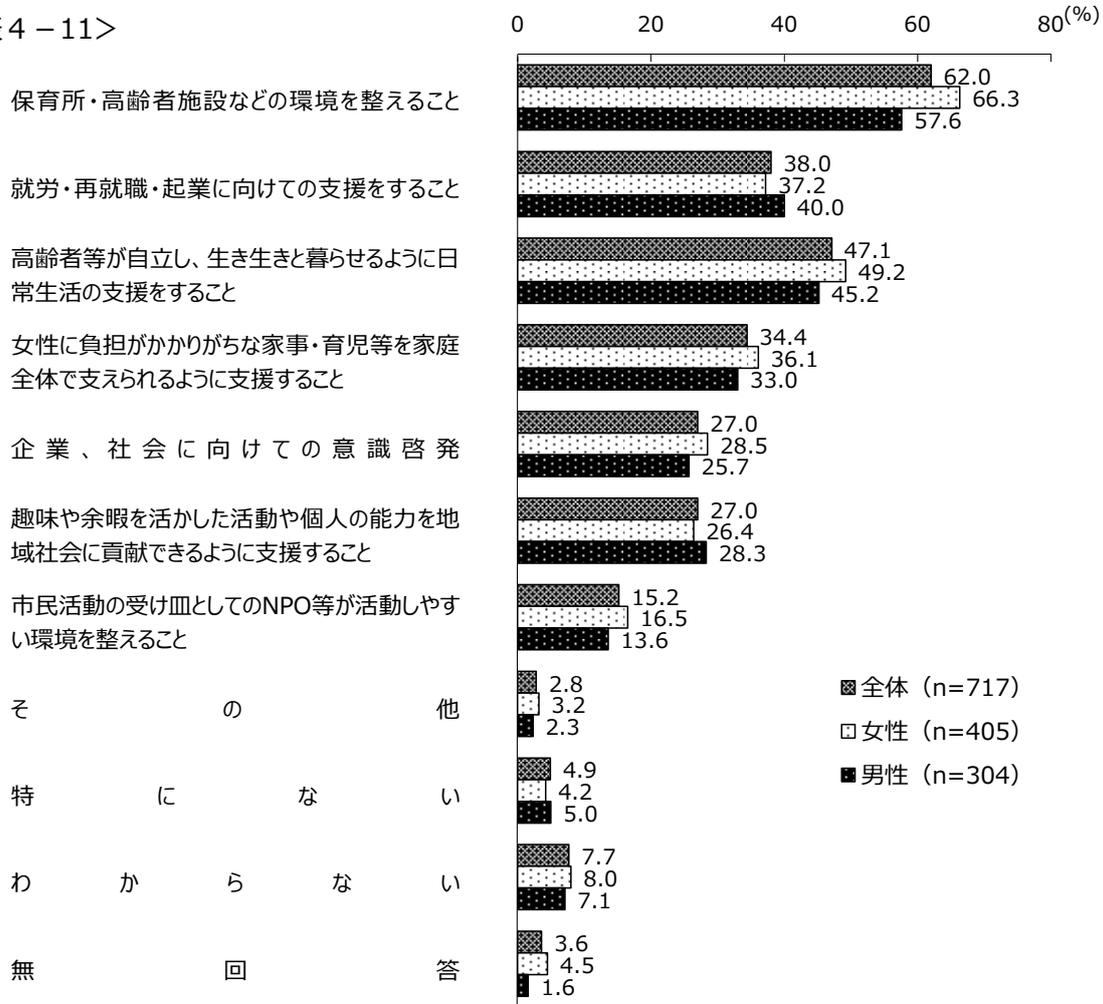
	1位	2位	3位
自営業主・ 家族従業者	企業等のトップがリーダーシップを發揮して、ワーク・ライフ・バランスに取り組む (31.8%)	有給休暇を取りやすくする (27.7%)	短時間勤務が出来るようにする (26.2%)
役員・正規職員 ・従業員 (正規雇用)	有給休暇を取りやすくする (54.3%)	無駄な業務・作業を減らす (46.4%)	給料を上げる (45.3%)
パート・アルバイト・派遣社員、 契約社員、嘱託、内職 (非正規雇用)	有給休暇を取りやすくする (54.5%)	給料を上げる (50.4%)	無駄な業務・作業を減らす (49.6%)
家 事 専 業	育児休業・介護休暇を取りやすくする (53.9%)	有給休暇を取りやすくする (49.4%)	企業等のトップがリーダーシップを發揮して、ワーク・ライフ・バランスに取り組む (48.1%)
学 生 ・ 無 職	育児休業・介護休暇を取りやすくする (52.3%)	有給休暇を取りやすくする (52.0%)	無駄な業務・作業を減らす (42.0%)

4-3 ワーク・ライフ・バランスのための効果的な施策

◇ 「保育所・高齢者施設などの環境を整えること」62.0%

問16 あなたは、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）が実現するために、小平市はどのような施策を講じることが効果的だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

<図表4-11>



ワーク・ライフ・バランスのための効果的な施策については、「保育所・高齢者施設などの環境を整えること」が62.0%で最も多く、次いで「高齢者等が自立し、生き生きと暮らせるように日常生活の支援をすること」が47.1%、「就労・再就職・起業に向けての支援をすること」が38.0%、「女性に負担がかかりがちな家事・育児等を家庭全体で支えられるように支援をすること」が34.4%となっている。（複数回答、上位4項目）

性別にみると、男女ともに「保育所・高齢者施設などの環境を整えること」の回答が最も多く、女性が66.3%、男性が57.6%で、女性が8.7ポイント上回っている。

【年齢別】

ワーク・ライフ・バランスのための効果的な施策について年齢別にみると、「保育所・高齢者施設などの環境を整えること」は、29歳以下で56.0%、30歳代で58.1%、40歳代で65.3%、50歳代で65.7%、60歳代で62.1%、70歳以上で66.1%と、全ての年齢で最も多く挙げられている。

2番目に多く挙げられた項目をみると、「女性に負担がかかりがちな家事・育児等を家庭全体で支えられるように支援すること」は、29歳以下で40.3%、30歳代で40.0%、「就労・再就職・起業に向けての支援をすること」は、30歳代で40.0%、40歳代43.5%、「高齢者等が自立し、生き生きと暮らせるように日常生活の支援をすること」は50歳代で56.9%、60歳代で56.3%、70歳以上で61.0%となっている。

「趣味や余暇を活かした活動や個人の能力を地域社会に貢献できるように支援すること」は、60歳代で44.8%と多くなっている。

<図表4-12>

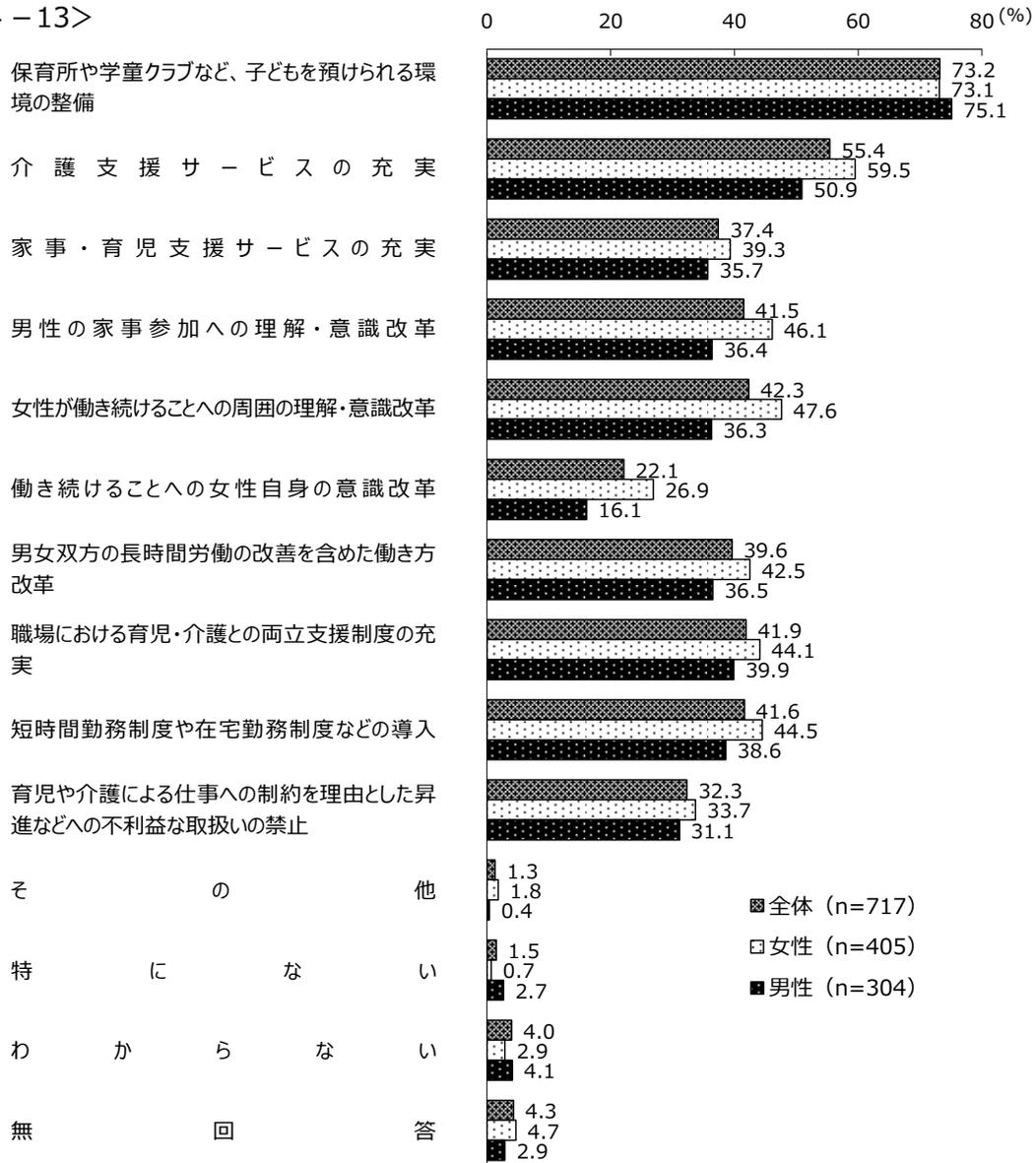
	1位	2位	3位
18 ～ 29 歳	保育所・高齢者施設などの環境を整えること (56.0%)	女性に負担がかかりがちな家事・育児等を家庭全体で支えられるように支援すること (40.3%)	就労・再就職・起業に向けての支援をすること (38.7%)
30 ～ 39 歳	保育所・高齢者施設などの環境を整えること (58.1%)	就労・再就職・起業に向けての支援をすること／女性に負担がかかりがちな家事・育児等を家庭全体で支えられるように支援すること (40.0%)	
40 ～ 49 歳	保育所・高齢者施設などの環境を整えること (65.3%)	就労・再就職・起業に向けての支援をすること (43.5%)	高齢者等が自立し、生き生きと暮らせるように日常生活の支援をすること (42.7%)
50 ～ 59 歳	保育所・高齢者施設などの環境を整えること (65.7%)	高齢者等が自立し、生き生きと暮らせるように日常生活の支援をすること (56.9%)	就労・再就職・起業に向けての支援をすること (44.5%)
60 ～ 69 歳	保育所・高齢者施設などの環境を整えること (62.1%)	高齢者等が自立し、生き生きと暮らせるように日常生活の支援をすること (56.3%)	趣味や余暇を活かした活動や個人の能力を地域社会に貢献できるように支援すること (44.8%)
70 歳 以 上	保育所・高齢者施設などの環境を整えること (66.1%)	高齢者等が自立し、生き生きと暮らせるように日常生活の支援をすること (61.0%)	趣味や余暇を活かした活動や個人の能力を地域社会に貢献できるように支援すること (39.0%)

4-4 女性が出産や介護などによらず活躍するために必要なこと

◇ 「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」73.2%

問17 あなたは、女性が出産や介護などで離職せずに働き続けたり、いったん離職した後で再び社会で活躍するために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思えますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

<図表4-13>



女性が出産や介護などによらず活躍するために必要なことについては、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が73.2%で最も多く、次いで「介護支援サービスの充実」が55.4%、「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」が42.3%、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が41.9%、「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」が41.6%、「男性の家事参加への理解・意識改革」が41.5%となっている。(複数回答、上位6項目)

性別にみると、男女ともに「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」の回答が最も多く、女性が73.1%、男性が75.1%となっている。

「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」の回答は、女性が47.6%、男性が36.3%で、女性が男性を11.3ポイント上回っている。

「働き続けることへの女性自身の意識改革」の回答は、女性が26.9%、男性が16.1%で、女性が男性を10.8ポイント上回っている。

【年齢別】

女性が出産や介護などによらず活躍するために必要なことについて年齢別にみると、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」は、29歳以下で75.4%、30歳代で72.4%、40歳代で76.6%、50歳代で77.4%、60歳代で71.3%、70歳以上で69.5%と、全ての年齢で最も多く挙げられている。

2番目に多く挙げられた項目をみると、「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」は、29歳以下で51.3%、「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」は、30歳代で52.4%、「介護支援サービスの充実」は、40歳代で65.3%、50歳代で65.0%、60歳代で54.0%、70歳以上で55.9%となっている。

「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」は、50歳代で56.2%と多くなっている。

<図表4-14>

	1位	2位	3位
18 ～ 29 歳	保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備 (75.4%)	女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革 (51.3%)	男性の家事参加への理解・意識改革 (45.0%)
30 ～ 39 歳	保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備 (72.4%)	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革 (52.4%)	職場における育児・介護との両立支援制度の充実 (49.5%)
40 ～ 49 歳	保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備 (76.6%)	介護支援サービスの充実 (65.3%)	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入 (46.0%)
50 ～ 59 歳	保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備 (77.4%)	介護支援サービスの充実 (65.0%)	職場における育児・介護との両立支援制度の充実 (56.2%)
60 ～ 69 歳	保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備 (71.3%)	介護支援サービスの充実 (54.0%)	職場における育児・介護との両立支援制度の充実 (37.9%)
70 歳 以上	保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備 (69.5%)	介護支援サービスの充実 (55.9%)	男性の家事参加への理解・意識改革 (44.1%)

「内閣府調査との比較」

内閣府「女性の活躍推進に関する調査」(平成 26 年 8 月)の調査結果と比較してみると、小平市調査では「介護支援サービスの充実」、「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」、「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」、「育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止」の回答が多くなっている。

＜図表 4 - 15＞

保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備

介護支援サービスの充実

家事・育児支援サービスの充実

男性の家事参加への理解・意識改革

女性が働き続けることへの周囲への理解・意識改革

働き続けることへの女性自身の意識改革

男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革

職場における育児・介護との両立支援制度の充実

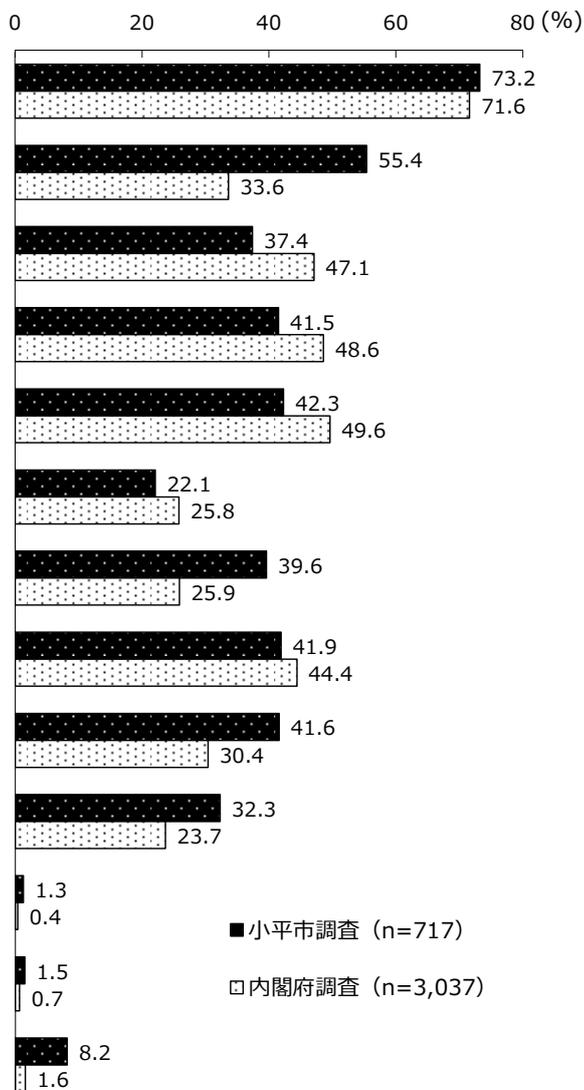
短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入

育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止

その他

特になし

わからない・無回答



5 地域とのつながりや防災について

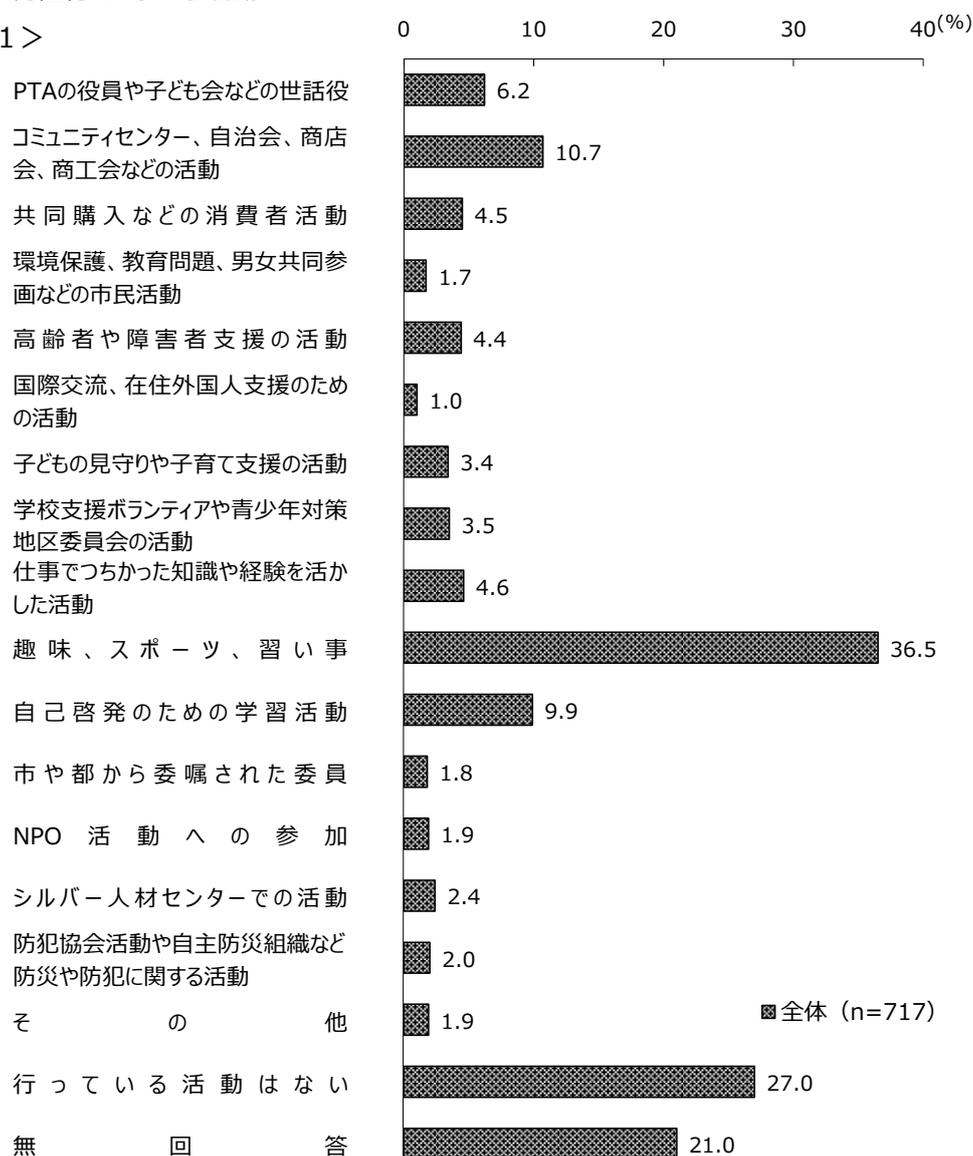
5-1-1 現在行っている地域活動

◇ 「趣味、スポーツ、習い事」36.5%、「行っている活動はない」27.0%

問18 地域活動についてお聞きします。あなたの(1)現在の活動と、(2)今後の活動意向について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

(1) 現在行っている活動

<図表5-1>



現在行っている地域活動については、「趣味、スポーツ、習い事」が36.5%で最も多く、次いで「コミュニティセンター、自治会、商店会、商工会などの活動」が10.7%、「自己啓発のための学習活動」が9.9%となっている。(複数回答、上位3項目)

なお、「行っている活動はない」が27.0%となっている。

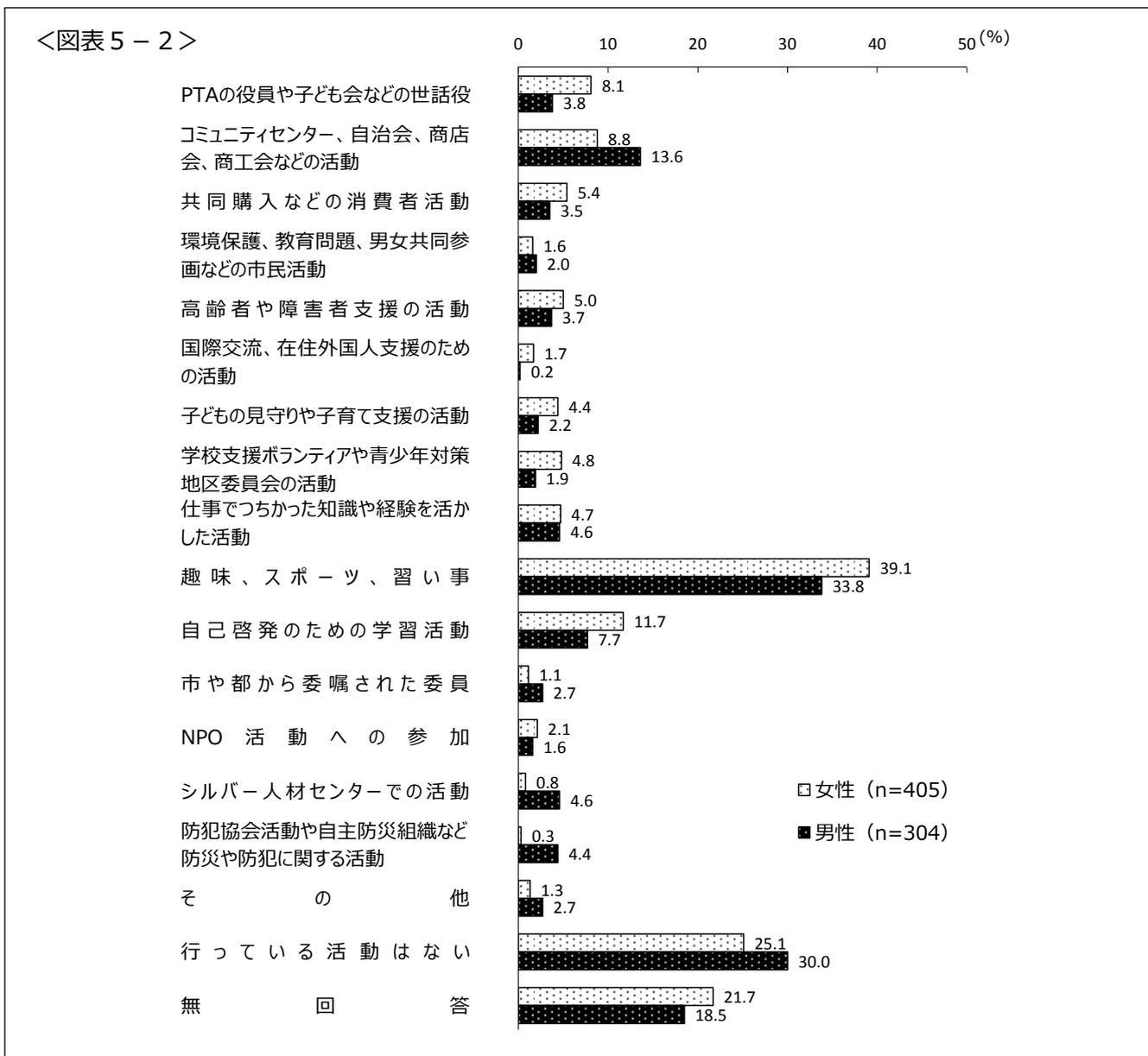
【性別】

現在行っている地域活動について性別にみると、男女ともに「趣味、スポーツ、習い事」の回答が最も多く、女性が39.1%、男性が33.8%で、女性が男性を5.3ポイント上回っている。

「PTAの役員や子ども会などの世話役」の回答は、女性が8.1%、男性が3.8%で、女性が男性を4.3ポイント上回っている。

「コミュニティセンター、自治会、商店会、商工会などの活動」の回答は、女性が8.8%、男性が13.6%で、男性が女性を4.8ポイント上回っている。

なお、「行っている活動はない」の回答は、女性が25.1%、男性が30.0%で、男性が女性を4.9ポイント上回っている。



【年齢別】

現在行っている地域活動について年齢別にみると、「趣味、スポーツ、習い事」は、29歳以下で36.1%、30歳代で30.5%、40歳代で39.5%、50歳代で35.0%、60歳代で35.6%、70歳以上で42.4%と、全ての年齢で最も多く挙げられている。

2番目に多く挙げられている項目をみると、「自己啓発のための学習活動」は29歳以下で8.4%、40歳代で11.3%、50歳代で10.9%、「PTAの役員や子ども会などの世話役」は30歳代で11.4%、「コミュニティセンター、自治会、商店会、商工会などの活動」は60歳代で20.7%、70歳以上で18.6%となっている。

「コミュニティセンター、自治会、商店会、商工会などの活動」は、60歳代で最も多く20.7%、29歳以下で最も少なく1.0%となっている。

なお、「活動を行っていない」は29歳以下で44.0%と最も多くなっている。

<図表5-3>

	1位	2位	3位
18 ~ 29 歳	趣味、スポーツ、習い事 (36.1%)	自己啓発のための学習活動 (8.4%)	仕事でつちかった知識や経験 を活かした活動 (2.6%)
30 ~ 39 歳	趣味、スポーツ、習い事 (30.5%)	PTAの役員や子ども会など の世話役 (11.4%)	コミュニティセンター、自治会、 商店会、商工会などの活動 ／自己啓発のための学習活 動 (5.7%)
40 ~ 49 歳	趣味、スポーツ、習い事 (39.5%)	自己啓発のための学習活動 (11.3%)	PTAの役員や子ども会など の世話役／コミュニティセン ター、自治会、商店会、商工 会などの活動 (8.9%)
50 ~ 59 歳	趣味、スポーツ、習い事 (35.0%)	自己啓発のための学習活動 (10.9%)	コミュニティセンター、自治会、 商店会、商工会などの活動 (10.2%)
60 ~ 69 歳	趣味、スポーツ、習い事 (35.6%)	コミュニティセンター、自治会、 商店会、商工会などの活動 (20.7%)	自己啓発のための学習活動 (11.5%)
70 歳 以 上	趣味、スポーツ、習い事 (42.4%)	コミュニティセンター、自治会、 商店会、商工会などの活動 (18.6%)	自己啓発のための学習活動 (11.9%)

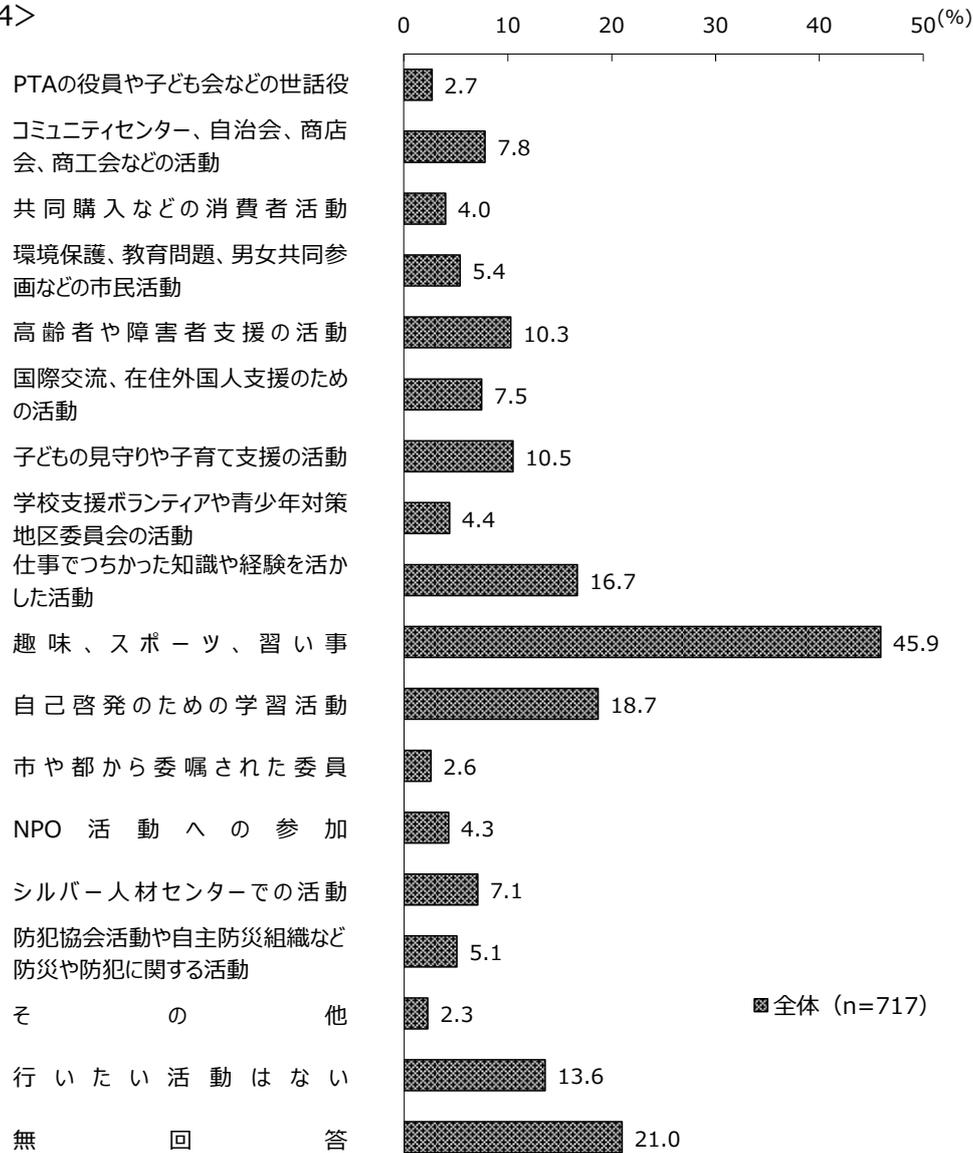
5-1-2 継続したい・今後行いたい活動

◇ 「趣味、スポーツ、習い事」45.9%

問18 地域活動についてお聞きします。あなたの(1)現在の活動と、(2)今後の活動意向について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

(2) 継続したい・今後行いたい活動

<図表5-4>



継続したい・今後行いたい活動については、「趣味、スポーツ、習い事」が45.9%で最も多く、次いで「自己啓発のための学習活動」が18.7%、「仕事でつちかった知識や経験を活かした活動」が16.7%、「子どもの見守りや子育て支援の活動」が10.5%、「高齢者や障害者支援の活動」が10.3%となっている。(複数回答、上位5項目)

なお、「行いたい活動はない」は13.6%となっている。

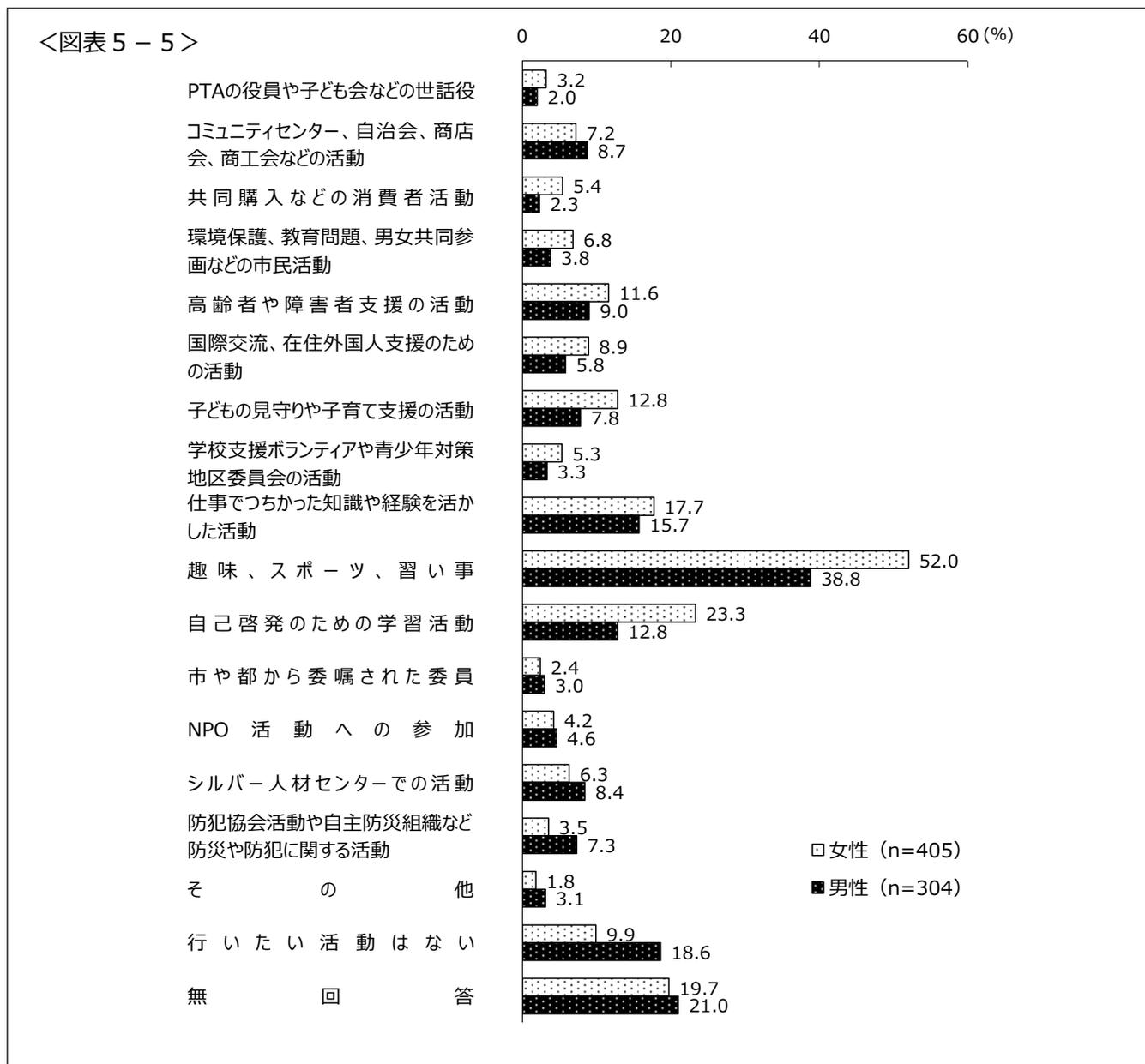
現在行っている活動と比較してみると、今後の活動意向で多くなっているのは、「仕事でつちかった知識や経験を活かした活動」で12.1ポイント多く、「趣味、スポーツ、習い事」で9.4ポイント多くなっており、活動意欲が感じられる。

【性別】

継続したい・今後行いたい活動について性別にみると、男女ともに「趣味、スポーツ、習い事」の回答が最も多く、女性が52.0%、男性が38.8%で、女性が男性を13.2ポイント上回っている。

「自己啓発のための学習活動」の回答は、女性が23.3%、男性が12.8%で、女性が男性を10.5ポイント上回っている。

なお、「行いたい活動はない」の回答は、女性が9.9%、男性が18.6%で、男性が女性を8.7ポイント上回っている。



【年齢別】

継続したい・今後行いたい活動について年齢別にみると、現在行っている地域活動と同じく、「趣味、スポーツ、習い事」は、29歳以下で46.1%、30歳代で47.6%、40歳代で50.8%、50歳代で52.6%、60歳代で43.7%、70歳以上で37.3%と、全ての年齢で最も多く挙げられている。

2番目に多く挙げられている項目をみると、「仕事でつちかった知識や経験を活かした活動」は29歳以下で20.9%、「子どもの見守りや子育て支援の活動」は30歳代で12.4%、「自己啓発のための学習活動」は40歳代で22.6%、50歳代で24.8%、60歳代で26.4%、70歳以上では「自己啓発のための学習活動」とともに「高齢者や障害者支援の活動」が16.9%となっている。

「仕事でつちかった知識や経験を活かした活動」は、50歳代で23.4%と多くなっている。

「シルバー人材センターでの活動」は、60歳代で18.4%と多くなっている。

子育て世代である20・30歳代では「子どもの見守りや子育て支援の活動」が上位に挙がっている。

50歳代以下では「仕事でつちかった知識や経験を活かした活動」が2位(29歳以下)、または3位(30歳代から50歳代)に挙がっている。

<図表5-6>

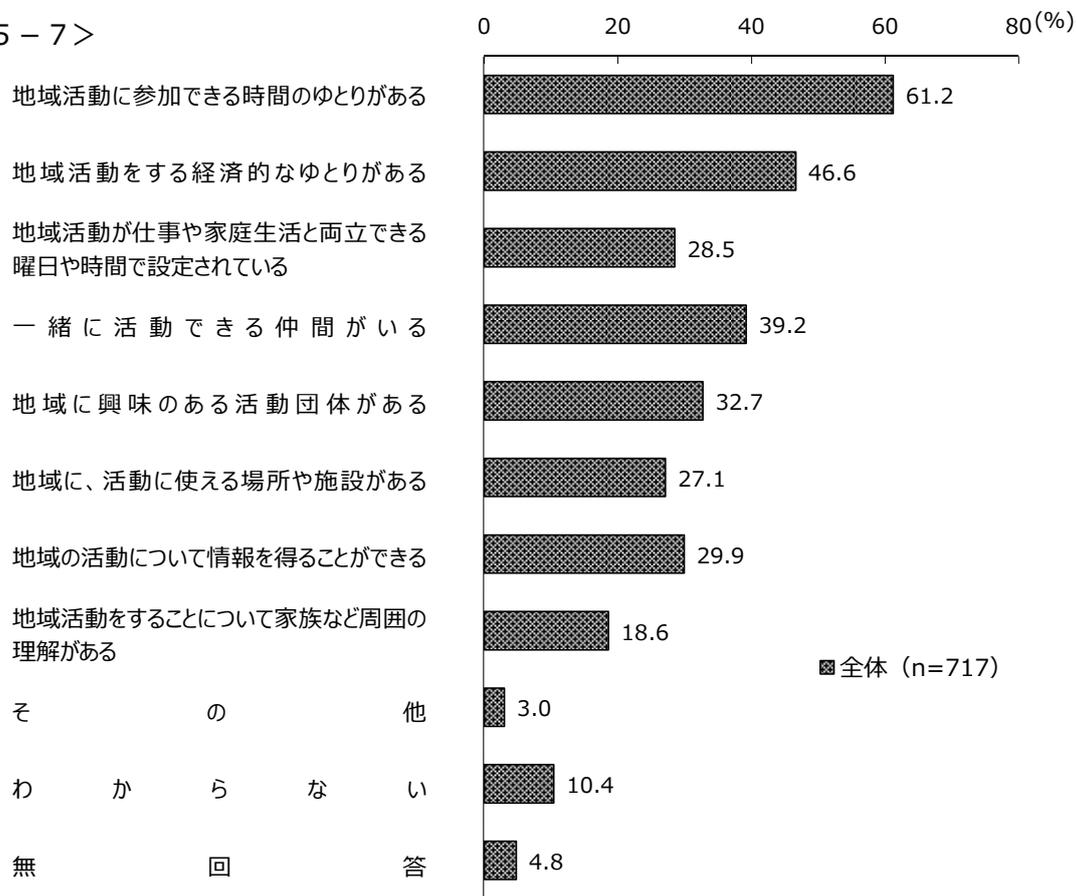
	1位	2位	3位
18 ~ 29 歳	趣味、スポーツ、習い事 (46.1%)	仕事でつちかった知識や経験 を活かした活動 (20.9%)	国際交流、在住外国人支 援のための活動／子どもの見 守りや子育て支援の活動 (15.2%)
30 ~ 39 歳	趣味、スポーツ、習い事 (47.6%)	子どもの見守りや子育て支援 の活動 (12.4%)	仕事でつちかった知識や経験 を活かした活動 (10.5%)
40 ~ 49 歳	趣味、スポーツ、習い事 (50.8%)	自己啓発のための学習活動 (22.6%)	仕事でつちかった知識や経験 を活かした活動 (16.9%)
50 ~ 59 歳	趣味、スポーツ、習い事 (52.6%)	自己啓発のための学習活動 (24.8%)	仕事でつちかった知識や経験 を活かした活動 (23.4%)
60 ~ 69 歳	趣味、スポーツ、習い事 (43.7%)	自己啓発のための学習活動 (26.4%)	シルバー人材センターでの活 動 (18.4%)
70 歳 以 上	趣味、スポーツ、習い事 (37.3%)	高齢者や障害者支援の活動／ 自己啓発のための学習活動 (16.9%)	

5-2 地域活動に参加するために必要な環境や条件

◇ 「地域活動に参加できる時間のゆとりがある」 61.2%

問19 あなたは、地域活動に参加していくためには、どのような環境や条件が必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

<図表5-7>

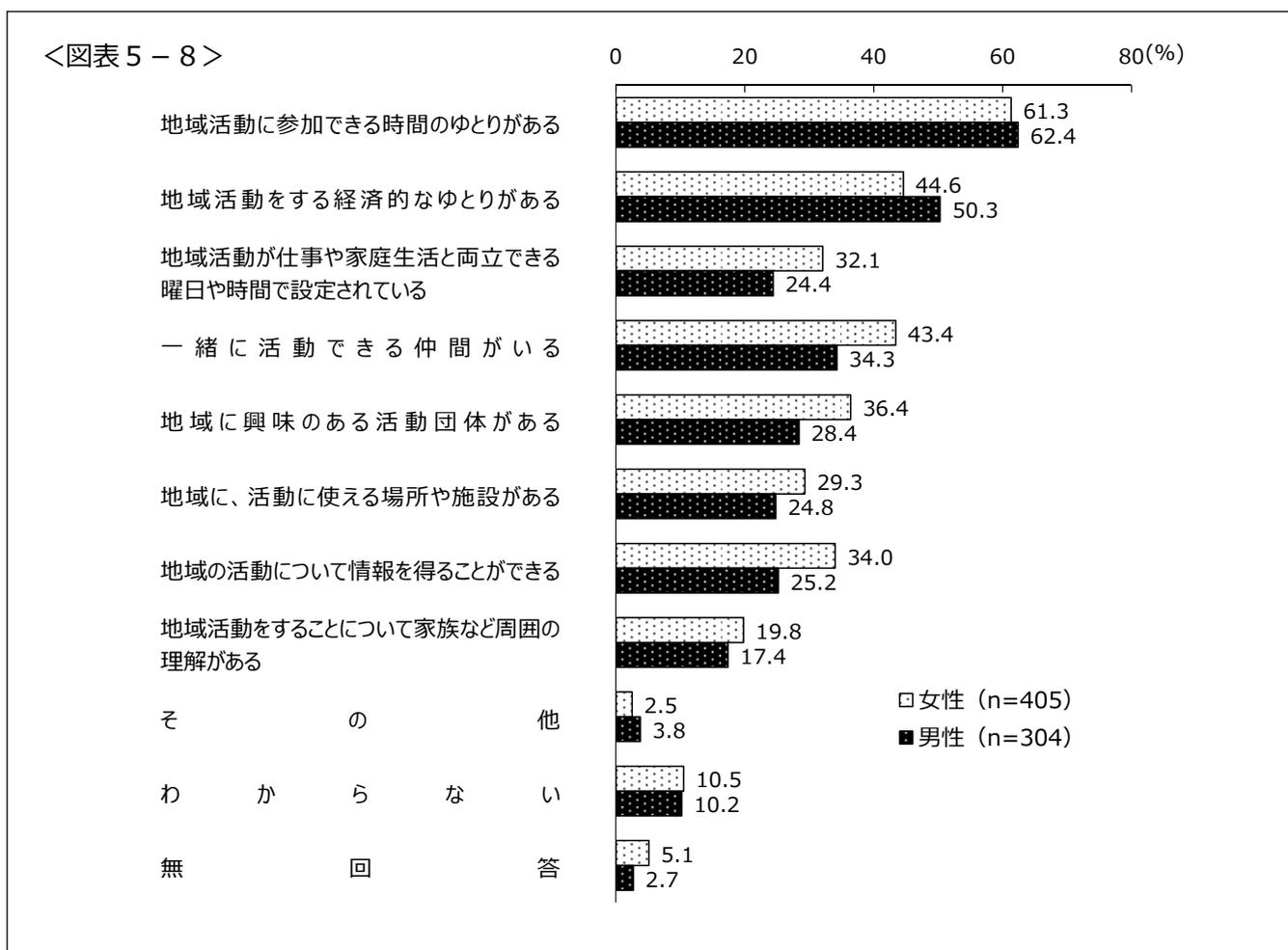


地域活動に参加するために必要な環境や条件については、「地域活動に参加できる時間のゆとりがある」が61.2%で最も多く、次いで「地域活動をする経済的なゆとりがある」が46.6%、「一緒に活動できる仲間がいる」が39.2%、「地域に興味のある活動団体がある」が32.7%、「地域の活動について情報を得ることができる」が29.9%、「地域活動が仕事や家庭生活と両立できる曜日や時間で設定されている」が28.5%、「地域に、活動に使える場所や施設がある」が27.1%となっている。(複数回答、上位7項目)

【性別】

地域活動に参加するために必要な環境や条件について性別にみると、男女ともに「地域活動に参加できる時間のゆとりがある」が最も多く、女性が61.3%、男性が62.4%となっている。

「地域活動をする経済的なゆとりがある」の回答は、女性が44.6%、男性が50.3%で、男性が女性を5.7ポイント上回っている。他の項目はいずれも女性の回答が上回り、「一緒に活動できる仲間がいる」の回答は、女性が43.4%、男性が34.3%で、女性が9.1ポイント、「地域に興味のある活動団体がある」の回答は、女性が36.4%、男性が28.4%で、女性が8.0ポイント、「地域の活動について情報を得ることができる」の回答は、女性が34.0%、男性が25.2%で、女性が8.8ポイント、「地域活動が仕事や家庭生活と両立できる曜日や時間で設定されている」の回答は、女性が32.1%、男性が24.4%で、女性が7.7ポイントと、それぞれ男性を上回っている。



【年齢別】

地域活動に参加するために必要な環境や条件について年齢別にみると、「地域活動に参加できる時間のゆとりがある」は、29歳以下で66.0%、30歳代で61.0%、40歳代で75.8%、50歳代で74.5%、60歳代で51.7%、70歳以上で42.4%と、全ての年齢で最も多く挙げられている。

2番目に多く挙げられている項目をみると、「一緒に活動できる仲間がいる」は29歳以下で46.1%、60歳代で36.8%、70歳以上で40.7%、「地域活動をする経済的なゆとりがある」は30歳代で51.4%、40歳代で64.5%、50歳代で54.7%となっている。

「地域に、活動に使える場所や施設がある」は、70歳以上で35.6%と多くなっている。

「地域活動が仕事や家庭生活と両立できる曜日や時間で設定されている」は、50歳代で40.1%と多くなっている。

<図表5-9>

	1位	2位	3位
18 ～ 29 歳	地域活動に参加できる時間のゆとりがある (66.0%)	一緒に活動できる仲間がいる (46.1%)	地域活動をする経済的なゆとりがある (44.0%)
30 ～ 39 歳	地域活動に参加できる時間のゆとりがある (61.0%)	地域活動をする経済的なゆとりがある (51.4%)	一緒に活動できる仲間がいる (41.9%)
40 ～ 49 歳	地域活動に参加できる時間のゆとりがある (75.8%)	地域活動をする経済的なゆとりがある (64.5%)	一緒に活動できる仲間がいる (36.3%)
50 ～ 59 歳	地域活動に参加できる時間のゆとりがある (74.5%)	地域活動をする経済的なゆとりがある (54.7%)	地域活動が仕事や家庭生活と両立できる曜日や時間で設定されている (40.1%)
60 ～ 69 歳	地域活動に参加できる時間のゆとりがある (51.7%)	一緒に活動できる仲間がいる (36.8%)	地域活動をする経済的なゆとりがある／地域の活動について情報を得ることができる (35.6%)
70 歳 以上	地域活動に参加できる時間のゆとりがある (42.4%)	一緒に活動できる仲間がいる (40.7%)	地域に、活動に使える場所や施設がある (35.6%)

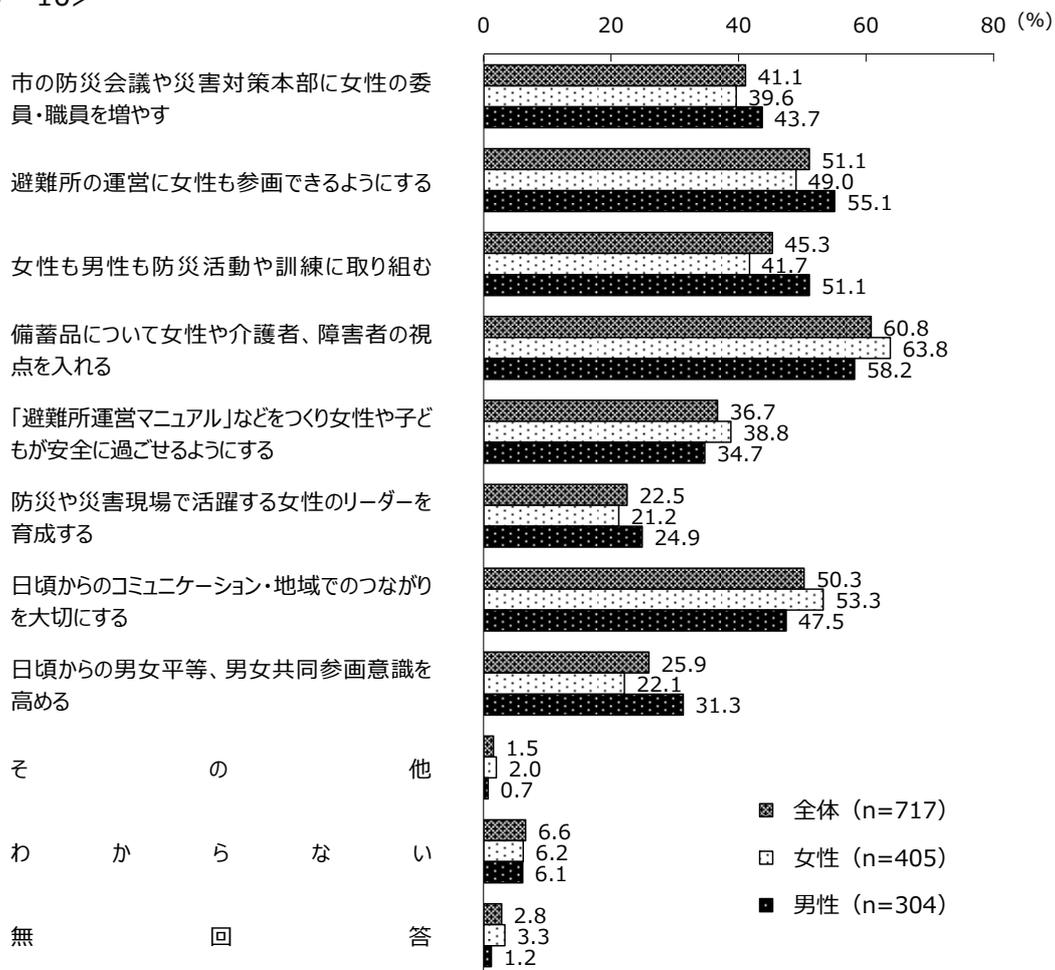
5-3 災害に備えるために必要な取り組み

◇ 「備蓄品について女性や介護者、障害者の視点を入れる」 60.8%

問20 東日本大震災では災害直後や避難所運営に女性が参画していない、平時の防災や震災対応に女性の視点がない等の問題が指摘されました。あなたは、災害に備えるために、これからどのような取り組みが必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

(○はいくつでも)

<図表5-10>



災害に備えるために必要な取り組みについては、「備蓄品について女性や介護者、障害者の視点を入れる」が60.8%で最も多く、次いで「避難所の運営に女性も参画できるようにする」が51.1%、「日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」が50.3%、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」が45.3%、「市の防災会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす」が41.1%となっている。(複数回答、上位5項目)

性別にみると、男女ともに「備蓄品について女性や介護者、障害者の視点を入れる」の回答が最も多く、女性が63.8%、男性が58.2%と女性が男性を5.6ポイント上回っている。女性では「日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」の回答が53.3%と2番目に多く、男性では「避難所の運営に女性も参画できるようにする」の回答が55.1%と2番目に多く挙げられている。

「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」の回答は、女性が41.7%、男性が51.1%で、男性が女性を9.4ポイント上回っている。

【年齢別】

災害に備えるために必要な取り組みについて年齢別にみると、「備蓄品について女性や介護者、障害者の視点を入れる」は、29歳以下で59.7%、30歳代で61.0%、40歳代で66.9%、50歳代で67.2%と、最も多く挙げられている。60歳代では「避難所の運営に女性も参画できるようにする」、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」がともに54.0%で、70歳以上では「日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」が62.7%で、それぞれ最も多く挙げられている。

「日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」は、70歳以上で62.7%となり、30歳代では4位の43.8%と比べると18.9ポイント上回っている。

<図表5-11>

	1位	2位	3位
18 ~ 29 歳	備蓄品について女性や介護者、障害者の視点を入れる (59.7%)	女性も男性も防災活動や訓練に取り組む (48.7%)	日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする (47.1%)
30 ~ 39 歳	備蓄品について女性や介護者、障害者の視点を入れる (61.0%)	避難所の運営に女性も参画できるようにする (49.5%)	女性も男性も防災活動や訓練に取り組む (46.7%)
40 ~ 49 歳	備蓄品について女性や介護者、障害者の視点を入れる (66.9%)	避難所の運営に女性も参画できるようにする (51.6%)	日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする (46.8%)
50 ~ 59 歳	備蓄品について女性や介護者、障害者の視点を入れる (67.2%)	避難所の運営に女性も参画できるようにする (56.9%)	日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする (50.4%)
60 ~ 69 歳	避難所の運営に女性も参画できるようにする／女性も男性も防災活動や訓練に取り組む (54.0%)		備蓄品について女性や介護者、障害者の視点を入れる／日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする (51.7%)
70 歳 以 上	日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする (62.7%)	備蓄品について女性や介護者、障害者の視点を入れる (59.3%)	避難所の運営に女性も参画できるようにする (52.5%)

【地域別】

地域別にみると、3位に挙げられている「日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」は、西地域が54.8%、東地域が45.1%で、西地域が東地域を9.7ポイント上回っている。

<図表5-12>

	1位	2位	3位
西	備蓄品について女性や介護者、障害者の視点を入れる (63.0%)	避難所の運営に女性も参画できるようにする (54.9%)	日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする (54.8%)
東	備蓄品について女性や介護者、障害者の視点を入れる (61.4%)	避難所の運営に女性も参画できるようにする (49.5%)	日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする (45.1%)

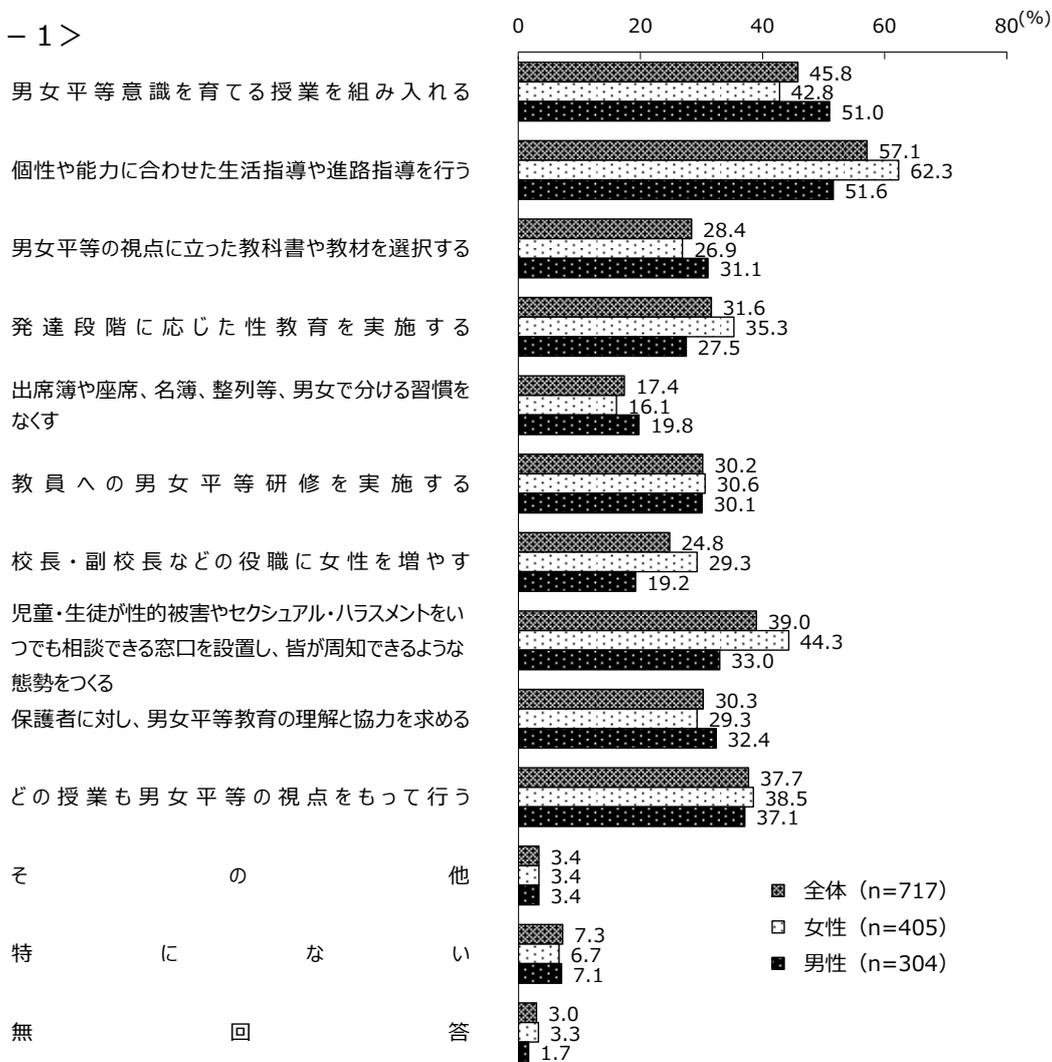
6 教育について

6-1 男女平等教育で重要なこと

◇ 「個性や能力に合わせた生活指導や進路指導を行う」 57.1%

問 2 1 学校（義務教育）で男女平等教育を進める上で、あなたが重要だと思うものは何ですか。
あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

<図表 6-1>



男女平等教育で重要なことについては、「個性や能力に合わせた生活指導や進路指導を行う」が 57.1% で最も多く、次いで「男女平等意識を育てる授業を組み入れる」が 45.8%、「児童・生徒が性的被害やセクシュアル・ハラスメントをいつでも相談できる窓口を設置し、皆が周知できるような態勢をつくる」が 39.0%、「どの授業も男女平等の視点をもって行う」37.7%、「発達段階に応じた性教育を実施する」が 31.6%となっている。（複数回答、上位 5 項目）

性別にみると、男女ともに「個性や能力に合わせた生活指導や進路指導を行う」の回答が最も多く、女性が 62.3%、男性が 51.6%で、女性が男性を 10.7 ポイント上回っている。次いで、女性では「児童・生徒が性的被害やセクシュアル・ハラスメントをいつでも相談できる窓口を設置し、皆が周知できるような態勢をつくる」の回答が 44.3%、男性では「男女平等意識を育てる授業を組み入れる」の回答が 51.0%で続いている。

【年齢別】

男女平等教育で重要なことについて年齢別にみると、60歳代以下で「個性や能力に合わせた生活指導や進路指導を行う」が最も多く挙げられている。70歳以上では「男女平等意識を育てる授業を組み入れる」が62.7%で最も多く挙げられている。

2番目に多く挙げられている項目をみると、「児童・生徒が性的被害やセクシュアル・ハラスメントをいつでも相談できる窓口を設置し、皆が周知できるような態勢をつくる」が29歳以下で37.7%、「男女平等意識を育てる授業を組み入れる」が30歳代で40.0%、40歳代で40.3%、50歳代で52.6%、60歳代では「男女平等意識を育てる授業を組み入れる」と「どの授業も男女平等の視点をもって行う」がともに41.4%、70歳以上では「個性や能力に合わせた生活指導や進路指導を行う」が54.2%となっている。

「男女平等意識を育てる授業を組み入れる」は、70歳以上と、29歳以下の37.2%を比べると25.5ポイント上回っている。

「児童・生徒が性的被害やセクシュアル・ハラスメントをいつでも相談できる窓口を設置し、皆が周知できるような態勢をつくる」を挙げた人の割合は、70歳以上で52.5%となっており、40歳代では4位の27.4%と比べると25.1ポイント上回っている。

<図表6-2>

	1位	2位	3位
18 ～ 29 歳	個性や能力に合わせた生活指導や進路指導を行う (57.1%)	児童・生徒の性的被害やセクシュアル・ハラスメントをいつでも相談できる窓口を設置し、皆が周知できるような態勢をつくる (37.7%)	男女平等意識を育てる授業を組み入れる (37.2%)
30 ～ 39 歳	個性や能力に合わせた生活指導や進路指導を行う (59.0%)	男女平等意識を育てる授業を組み入れる (40.0%)	児童・生徒の性的被害やセクシュアル・ハラスメントをいつでも相談できる窓口を設置し、皆が周知できるような態勢をつくる (38.1%)
40 ～ 49 歳	個性や能力に合わせた生活指導や進路指導を行う (55.6%)	男女平等意識を育てる授業を組み入れる (40.3%)	どの授業も男女平等の視点をもって行う (35.5%)
50 ～ 59 歳	個性や能力に合わせた生活指導や進路指導を行う (60.6%)	男女平等意識を育てる授業を組み入れる (52.6%)	児童・生徒の性的被害やセクシュアル・ハラスメントをいつでも相談できる窓口を設置し、皆が周知できるような態勢をつくる (45.3%)
60 ～ 69 歳	個性や能力に合わせた生活指導や進路指導を行う (59.8%)	男女平等意識を育てる授業を組み入れる／どの授業も男女平等の視点をもって行う (41.4%)	
70 歳 以 上	男女平等意識を育てる授業を組み入れる (62.7%)	個性や能力に合わせた生活指導や進路指導を行う (54.2%)	児童・生徒の性的被害やセクシュアル・ハラスメントをいつでも相談できる窓口を設置し、皆が周知できるような態勢をつくる (52.5%)

7 男女間の暴力（DV）・セクハラについて

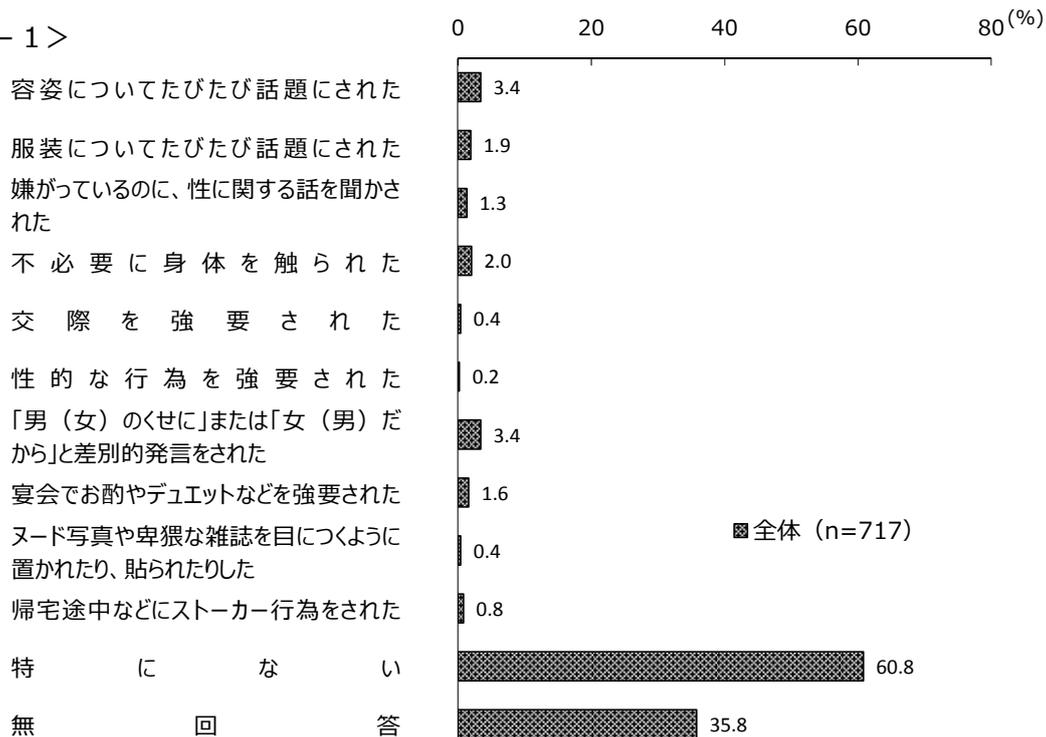
7-1-1 職場でセクシュアル・ハラスメントを受けた経験

◇ 職場でのセクシュアル・ハラスメントを受けた経験 3.4%（24人）

問22 あなたは過去5年間に、職場・学校・地域などで、セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を受けた経験がありますか。それぞれの場所について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はそれぞれいくつでも）

【職場】

<図表7-1>



過去5年間に、「職場」でセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を受けた経験について尋ねたところ、何かしら被害を受けたと答えた人は3.4%（24人）であった。

被害の内容については、「容姿についてたびたび話題にされた」と『男（女）のくせに』または『女（男）だから』と差別的発言をされたが3.4%で最も多く、次いで「不必要に身体を触られた」2.0%、「服装についてたびたび話題にされた」1.9%などの順となっている。

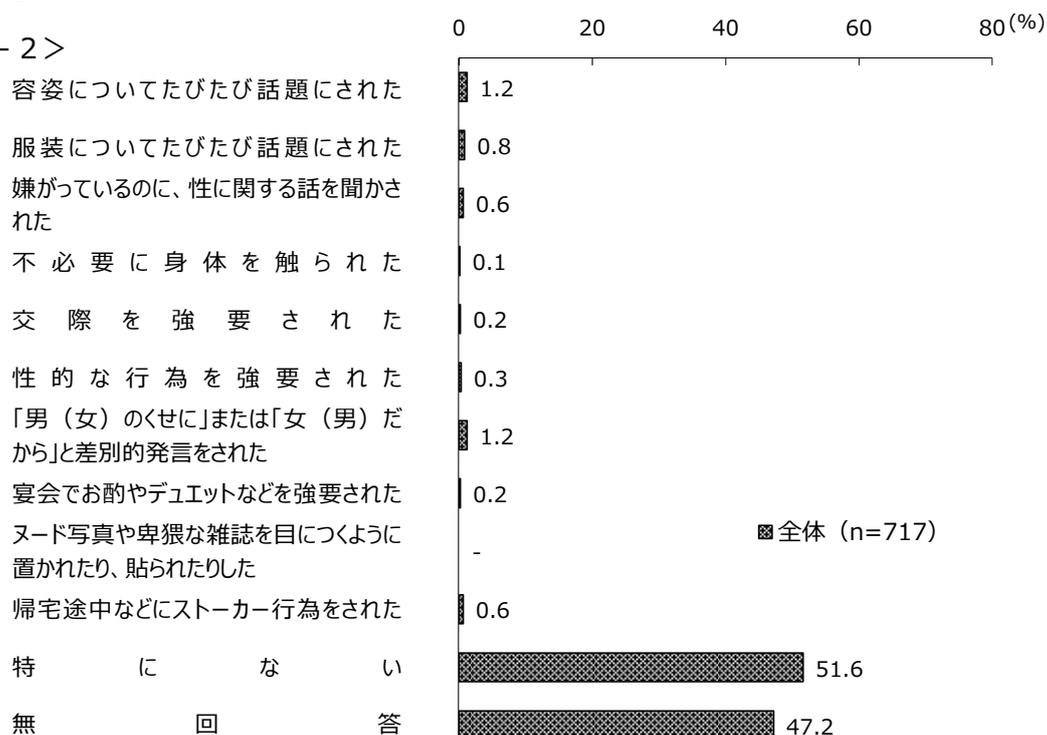
7-1-2 学校でセクシュアル・ハラスメントを受けた経験

◇ 学校でのセクシュアル・ハラスメントを受けた経験 1.2% (9人)

問2 2 あなたは過去5年間に、職場・学校・地域などで、セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を受けた経験がありますか。それぞれの場所について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はそれぞれいくつでも）

【学校】

<図表7-2>



過去5年間に、「学校」でセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を受けた経験について尋ねたところ、何かしら被害を受けたと答えた人は1.2%（9人）であった。

被害の内容については、「容姿についてたびたび話題にされた」と『男（女）のくせに』または『女（男）だから』と差別的発言をされた」が1.2%で最も多く、次いで「服装についてたびたび話題にされた」0.8%、「嫌がっているのに、性に関する話を聞かされた」と「帰宅途中などにストーカー行為をされた」が0.6%などの順となっている。

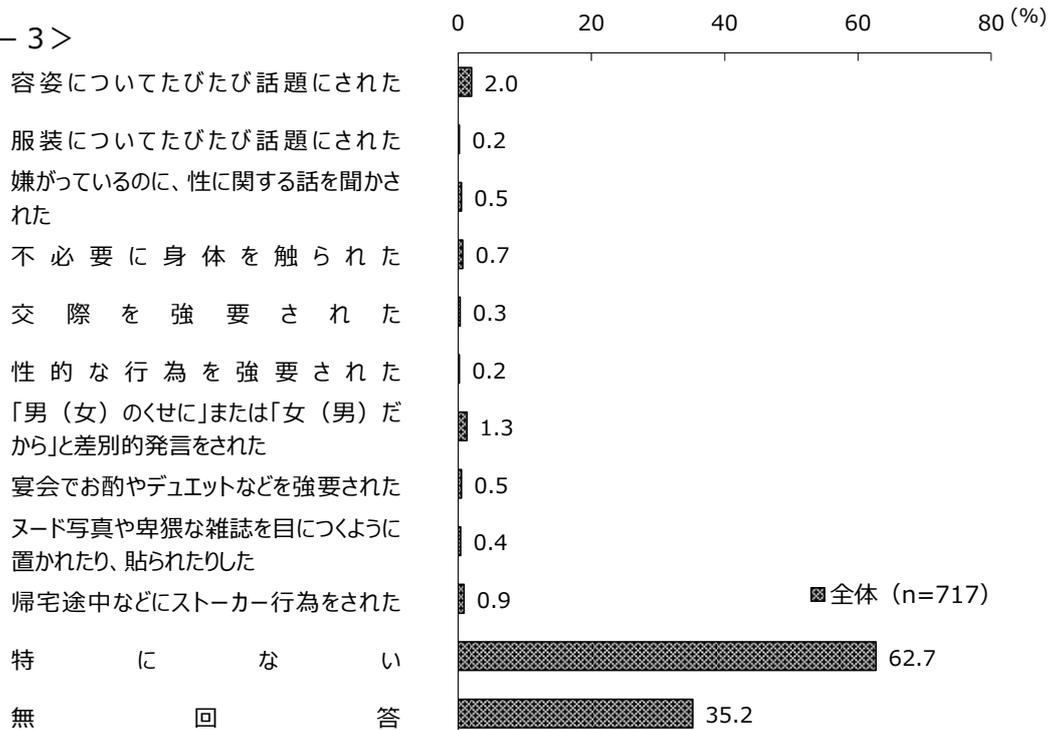
7-1-3 地域でセクシュアル・ハラスメントを受けた経験

◇ 地域でのセクシュアル・ハラスメントを受けた経験 2.1% (14人)

問2 2 あなたは過去5年間に、職場・学校・地域などで、セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を受けた経験がありますか。それぞれの場所について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はそれぞれいくつでも）

【地域】

<図表7-3>



過去5年間に、「地域」でセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を受けた経験について尋ねたところ、何かしら被害を受けたと答えた人は2.1%（14人）であった。

被害の内容については、「容姿についてたびたび話題にされた」が2.0%で最も多く、次いで「『男（女）のくせに』または『女（男）だから』と差別的発言をされた」1.3%、「帰宅途中などにストーカー行為をされた」0.9%などの順となっている。

7-2 暴力の認識

(1) 平手で打つ

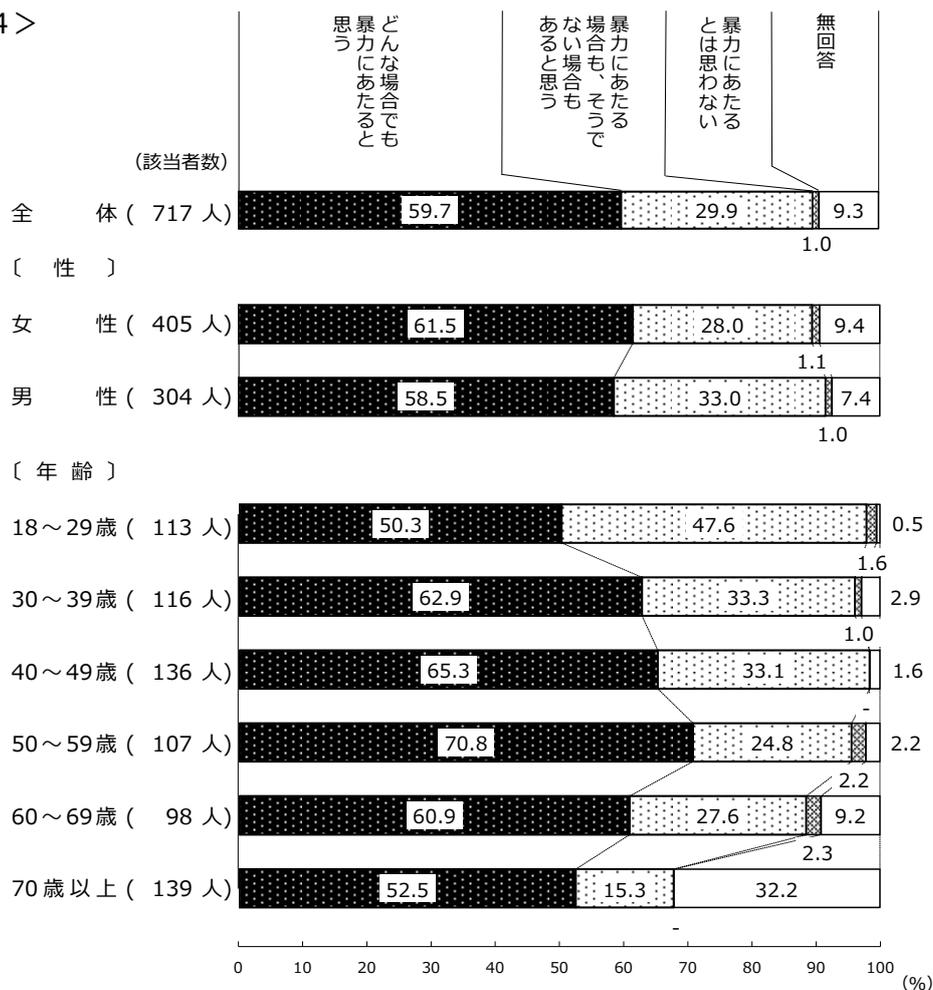
◇ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 59.7%

問 2 3 あなたは、次のようなことが配偶者や恋人など親密な関係の間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。(1)～(15)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

(○は1つ)

(1) 平手で打つ

<図表 7-4>



「平手で打つ」については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 59.7%で最も多く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 29.9%、「暴力にあたるとは思わない」が 1.0%となっている。

性別にみると、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の回答は、女性が 28.0%、男性が 33.0%で、男性が女性を 5.0 ポイント上回っている。

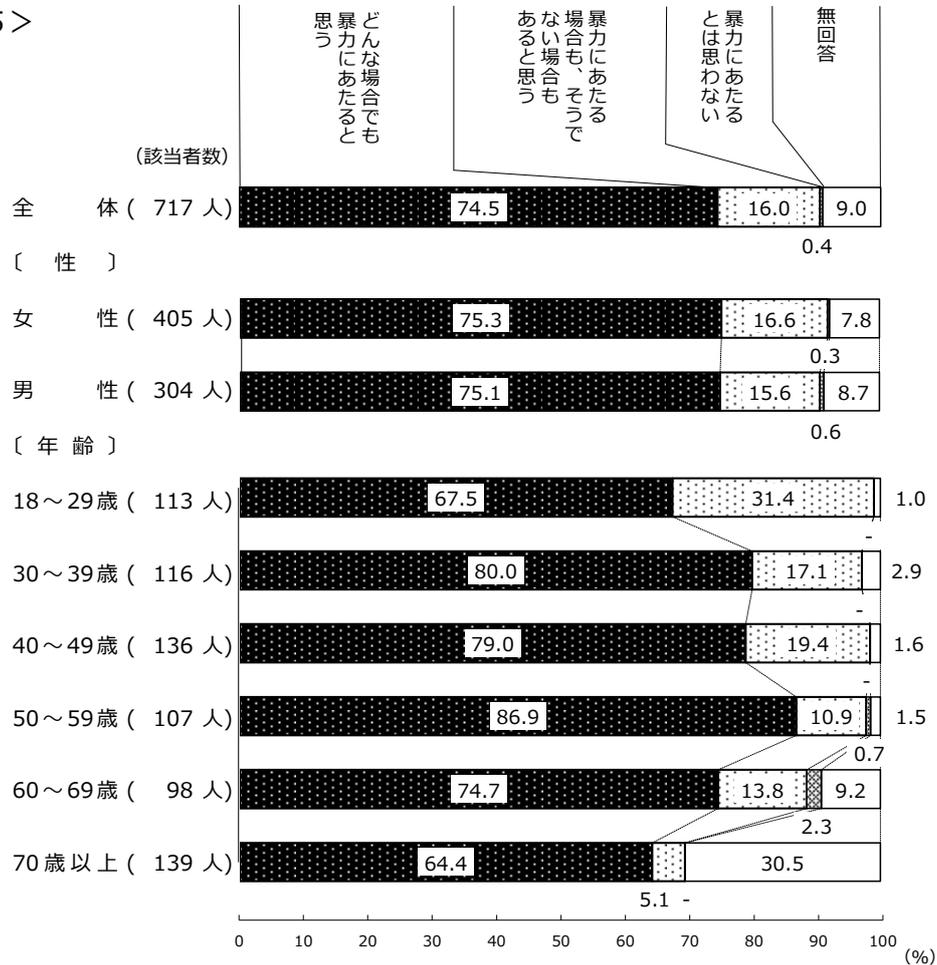
年齢別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答は 50 歳代で 70.8%と最も多く、29 歳以下の 50.3%を 20.5 ポイント上回っている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の回答は 29 歳以下で 47.6%と最も多く、70 歳以上の 15.3%を 32.3 ポイント上回っている。

(2) 足でける

◇ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 74.5%

問 2 3 (2) 足でける

<図表 7 - 5 >



「足でける」については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 74.5%で最も多く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 16.0%、「暴力にあたるとは思わない」が 0.4%となっている。

性別にみると、大きな差はみられない。

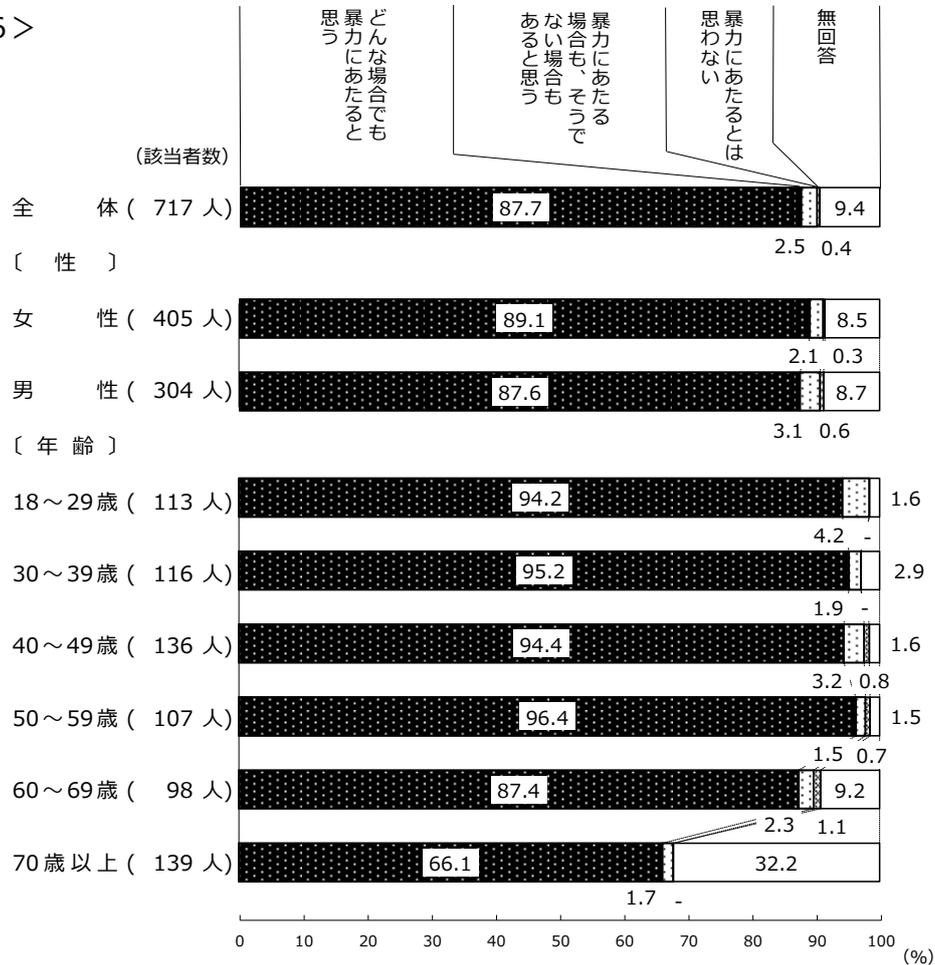
年齢別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答は 30 歳代から 50 歳代で 8 割前後となっており、50 歳代で 86.9%と最も多く、70 歳以上の 64.4%を 22.5 ポイント上回っている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の回答は 29 歳以下で 31.4%と最も多く、70 歳以上の 5.1%を 26.3 ポイント上回っている。

(3) 身体を傷つける可能性のある物でなくる

◇ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 87.7%

問 2 3 (3) 身体を傷つける可能性のある物でなくる

<図表 7 - 6>



「身体を傷つける可能性のある物でなくる」については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 87.7%で最も多く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 2.5%、「暴力にあたるとは思わない」が 0.4%となっている。

性別にみると、大きな差はみられない。

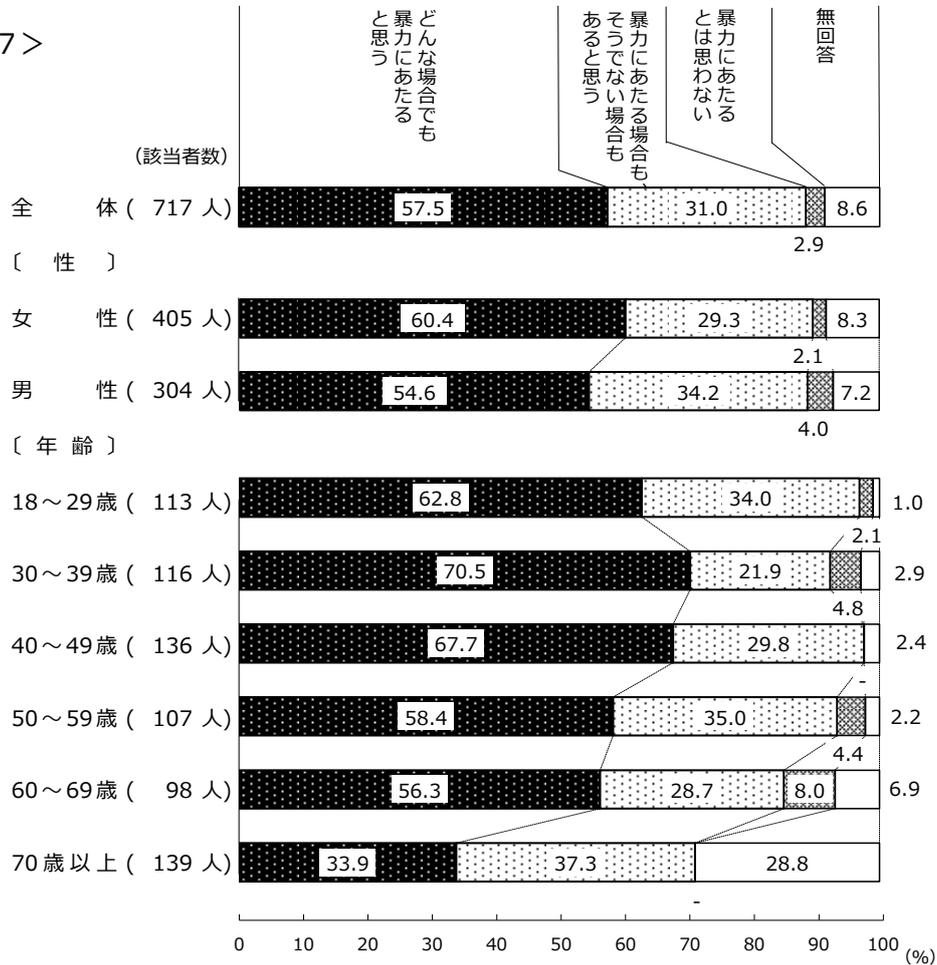
年齢別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答は 50 歳代以下で 9 割を超えており、50 歳代で 96.4%と最も多くなっている。

(4) なぐるふりをして、おどす

◇ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 57.5%

問 2 3 (4) なぐるふりをして、おどす

<図表 7-7>



「なぐるふりをして、おどす」については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 57.5%で最も多く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 31.0%、「暴力にあたるとは思わない」が 2.9%となっている。

性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答は、女性が 60.4%、男性が 54.6%で、女性が男性を 5.8 ポイント上回っている。

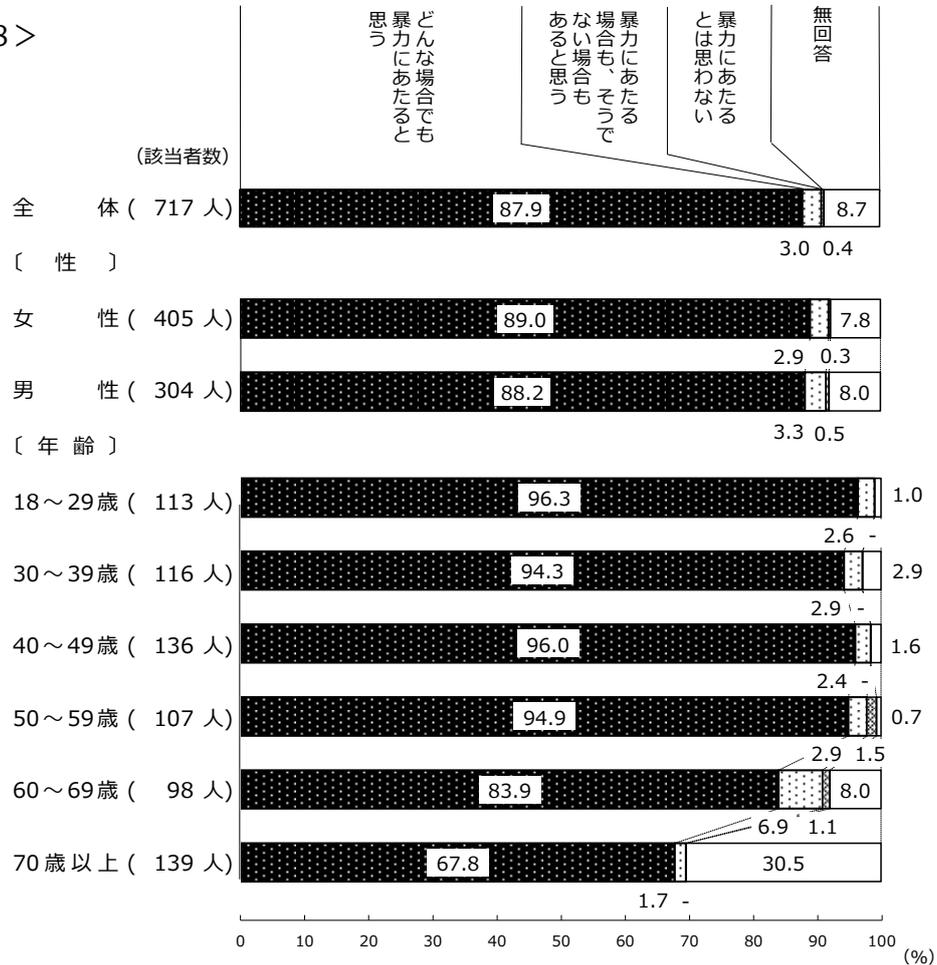
年齢別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答は 30 歳代で 70.5%、40 歳代で 67.7%と多くなっており、70 歳以上の 33.9%を 30 歳代では 36.6 ポイント上回っている。

(5) 刃物などを突きつけて、おどす

◇ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 87.9%

問 2 3 (5) 刃物などを突きつけて、おどす

<図表 7 - 8 >



「刃物などを突きつけて、おどす」については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 87.9%で最も多く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 3.0%、「暴力にあたるとは思わない」が 0.4%となっている。

性別にみると、大きな差はみられない。

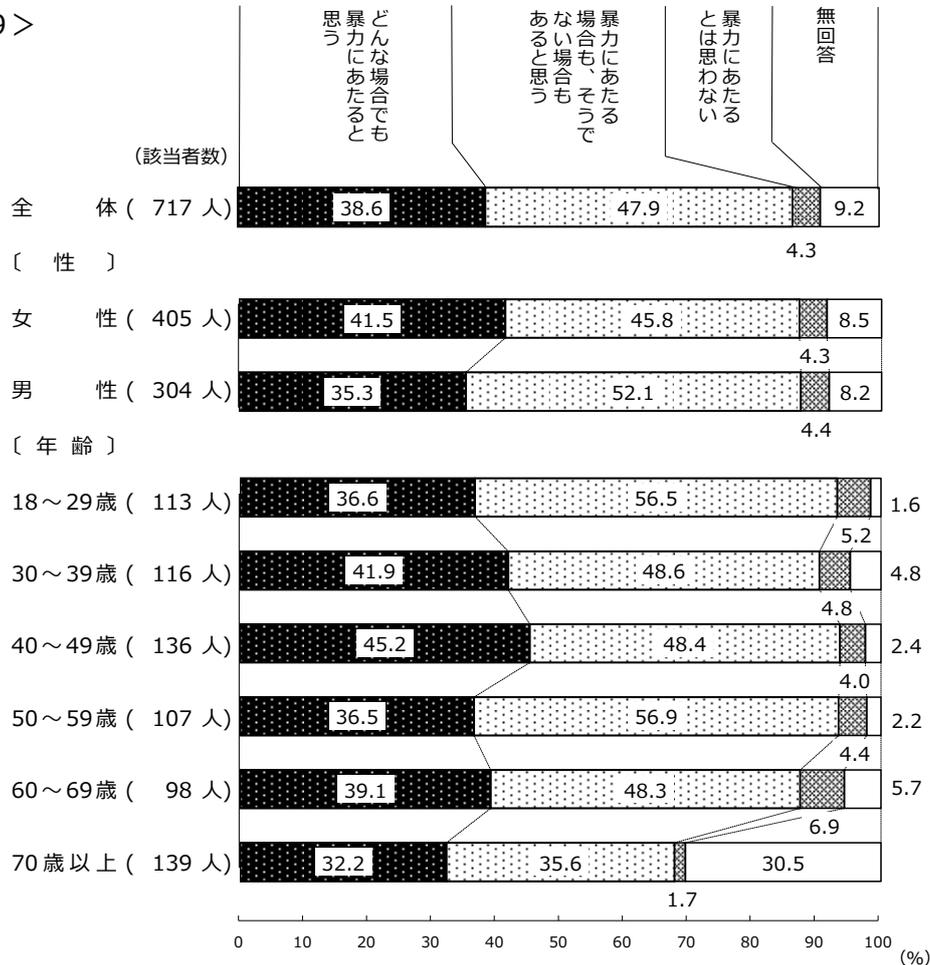
年齢別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答は 50 歳代以下では 9 割以上となっており、40 歳代で 96.0%と最も多くなっている。70 歳以上の 67.8%を 40 歳代では 28.2 ポイント上回っている。

(6) 大声でどなる

◇ 「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 47.9%

問 2 3 (6) 大声でどなる

<図表 7 - 9 >



「大声でどなる」については、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 47.9%で最も多く、次いで「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 38.6%、「暴力にあたるとは思わない」が 4.3%となっている。

性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答は、女性が 41.5%、男性が 35.3%で、女性が男性を 6.2 ポイント上回っている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の回答は、女性が 45.8%、男性が 52.1%で、男性が女性を 6.3 ポイント上回っている。

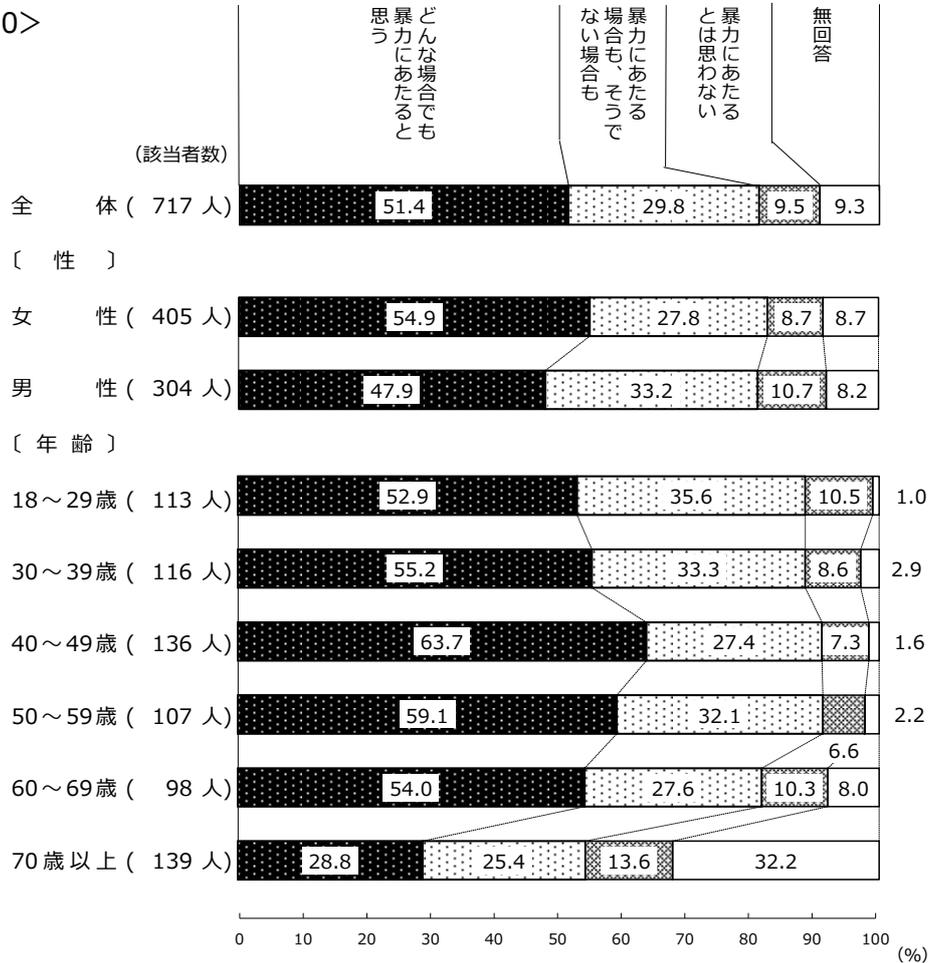
年齢別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答は 40 歳代で 45.2%と最も多く、70 歳以上の 32.2%を 13.0 ポイント上回っている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の回答は 60 歳代以下では 5 割前後となっており、50 歳代で 56.9%と最も多く、70 歳以上の 35.6%を 21.3 ポイント上回っている。

(7) 他の異性との会話を許さない

◇ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 51.4%

問 2 3 (7) 他の異性との会話を許さない

<図表 7 - 10>



「他の異性との会話を許さない」については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 51.4%で最も多く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 29.8%、「暴力にあたるとは思わない」が 9.5%となっている。

性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答は、女性が 54.9%、男性が 47.9%で、女性が男性を 7.0 ポイント上回っている。

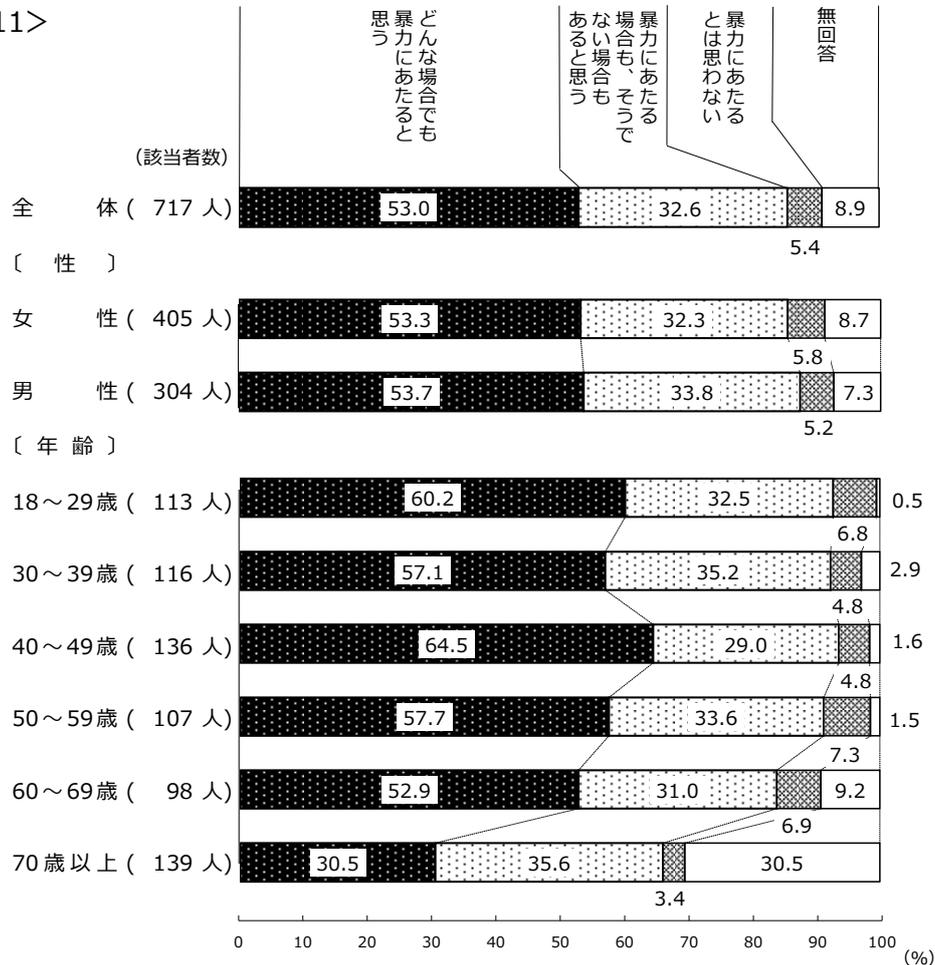
年齢別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答は 40 歳代で 63.7%と最も多く、次いで 50 歳代で 59.1%となっている。70 歳以上の 28.8%を 40 歳代では 34.9 ポイント上回っている。「暴力にあたるとは思わない」の回答は、70 歳以上で 13.6%、29 歳以下で 10.5%となっている。

(8) 何を言っても長期間無視し続ける

◇ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 53.0%

問 2 3 (8) 何を言っても長期間無視し続ける

<図表 7-11>



「何を言っても長期間無視し続ける」については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 53.0%で最も多く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 32.6%、「暴力にあたるとは思わない」が 5.4%となっている。

性別にみると、大きな差はみられない。

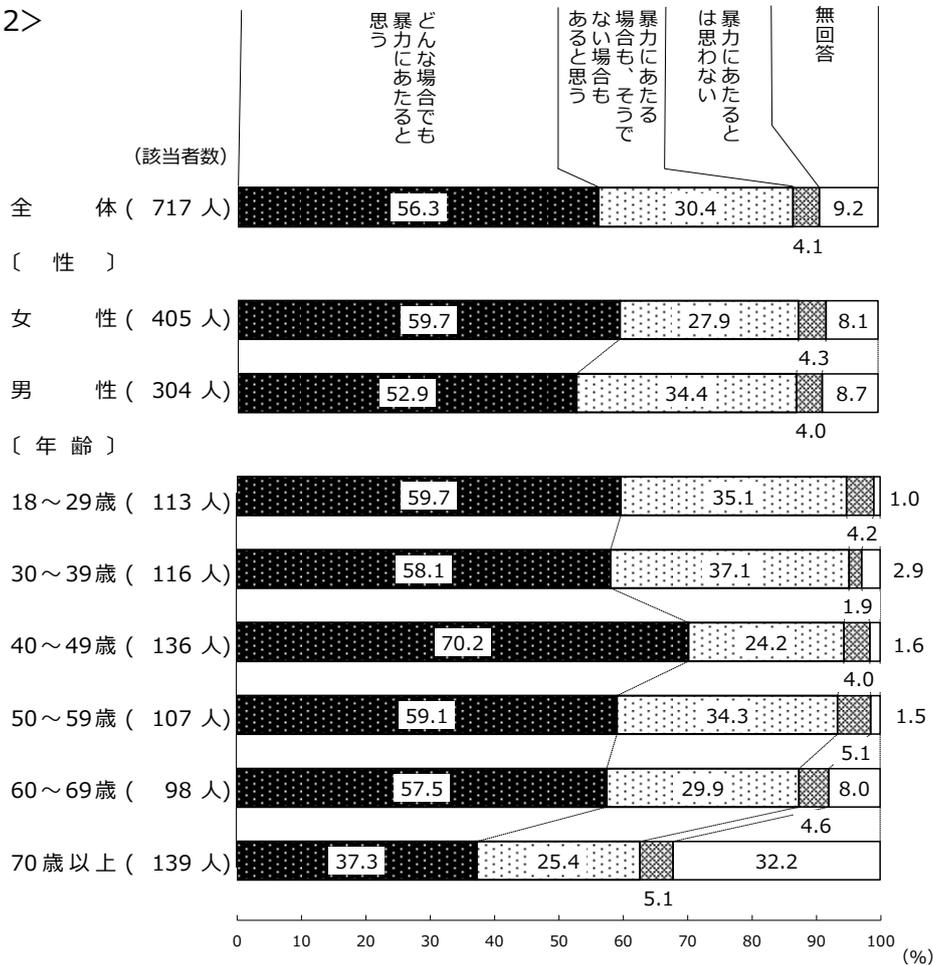
年齢別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答は、60歳代以下では5割以上となっており、40歳代では64.5%と最も多くなっている。70歳以上の30.5%を40歳代では34.0ポイント上回っている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の回答は全ての年齢で3割前後となっており、70歳以上の35.6%が最も多くなっている。

(9) 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する

◇ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 56.3%

問 2 3 (9) 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する

<図表 7-12>



「交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 56.3%で最も多く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 30.4%、「暴力にあたるとは思わない」が 4.1%となっている。

性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答は、女性が 59.7%、男性が 52.9%で、女性が男性を 6.8 ポイント上回っている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の回答は、男性が 34.4%、女性が 27.9%で、男性が女性を 6.5 ポイント上回っている。

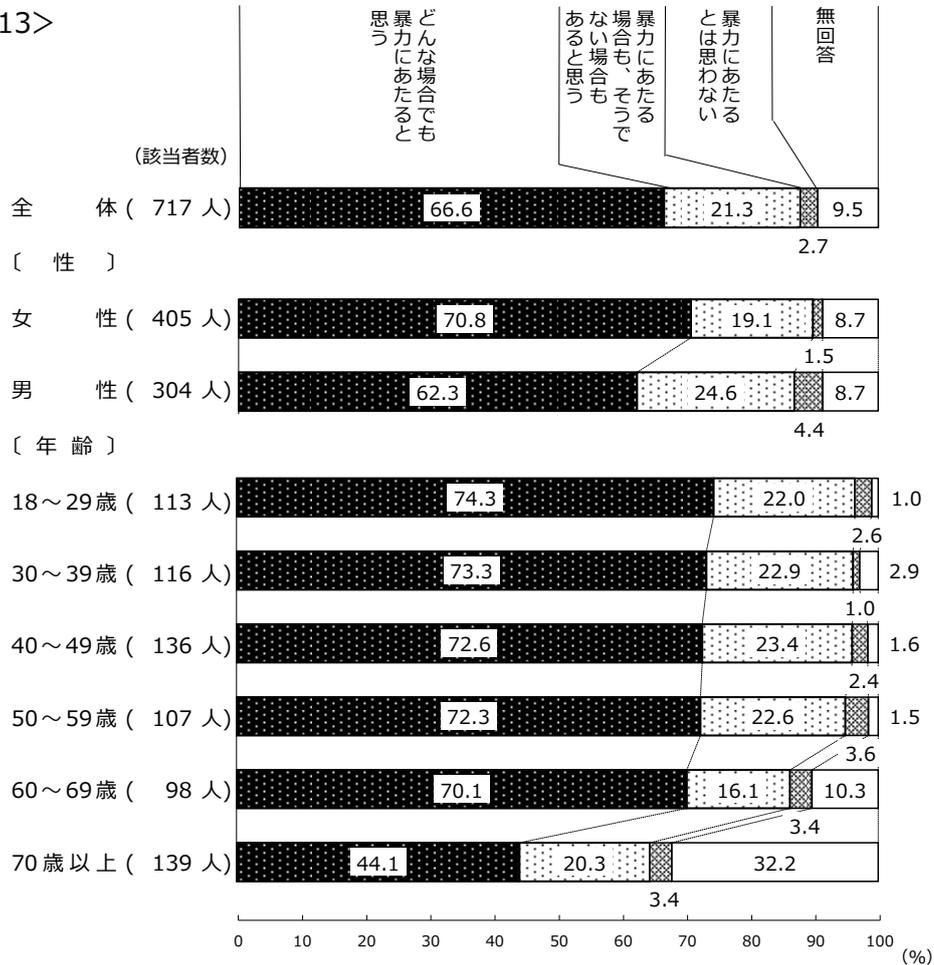
年齢別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答は、40 歳代で 70.2%と最も多くなっており、70 歳以上の 37.3%を 32.9 ポイント上回っている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の回答は、30 歳代が 37.1%で最も多く、次いで 29 歳以下が 35.1%、50 歳代が 34.3%で 3 割を超えている。

(10) 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う

◇ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 66.6%

問 2 3 (10) 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う

<図表 7 - 13>



『誰のおかげで生活できるんだ』とか、『かいしょうなし』と言うについては、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 66.6%で最も多く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 21.3%、「暴力にあたるとは思わない」が 2.7%となっている。

性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答は、女性が 70.8%、男性が 62.3%で、女性が男性を 8.5 ポイント上回っている。

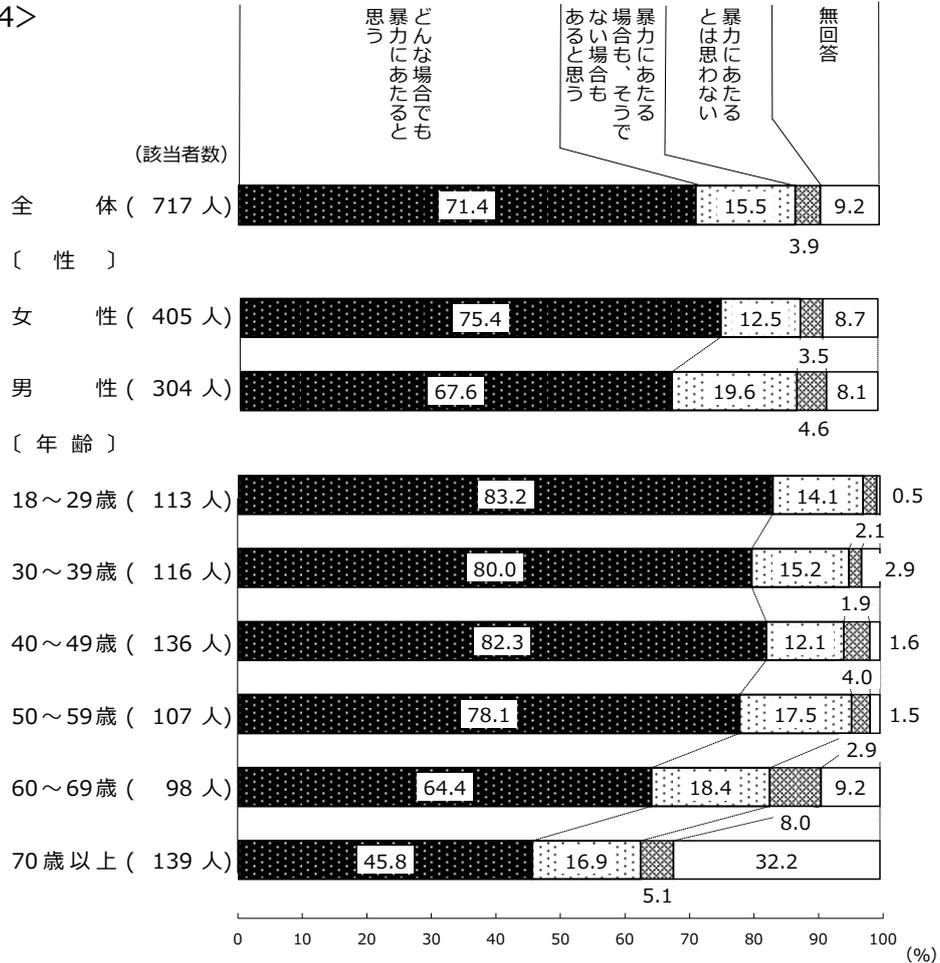
年齢別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答は 60 歳代以下で 7 割以上となっており、29 歳以下で 74.3%と最も多くなっている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の回答は 40 歳代が 23.4%で最も多く、60 歳代以外は 2 割を超えている。

(11) 家族や友人との関わりを持たせない

◇ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が71.4%

問23 (11) 家族や友人との関わりを持たせない

<図表7-14>



「家族や友人との関わりを持たせない」については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が71.4%で最も多く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が15.5%、「暴力にあたるとは思わない」が3.9%となっている。

性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答は、女性が75.4%、男性が67.6%で、女性が男性を7.8ポイント上回っている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の回答は、女性が12.5%、男性が19.6%で、男性が女性を7.1ポイント上回っている。

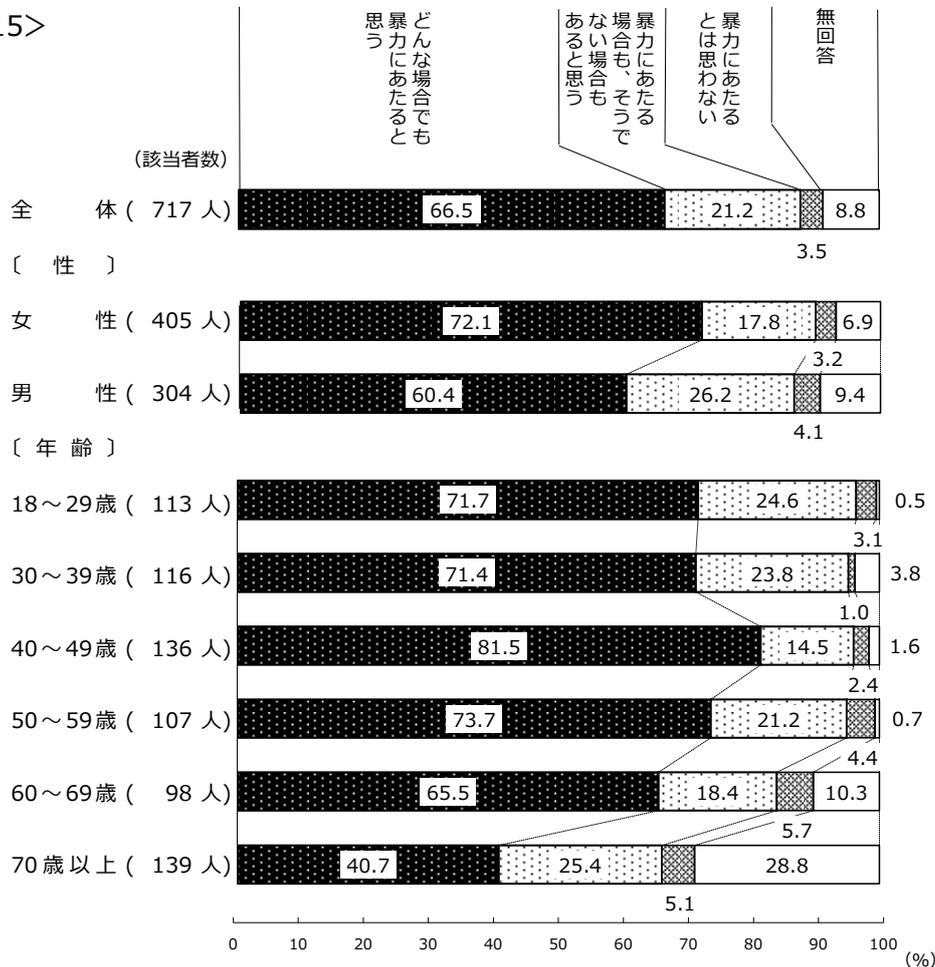
年齢別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答は50歳代以下で8割前後となっており、29歳以下で83.2%と最も多くなっている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の回答は60歳代が18.4%と最も多く、その他の年代でも概ね15%前後となっている。

(12) 家計に必要な生活費を渡さない

◇ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 66.5%

問 2 3 (12) 家計に必要な生活費を渡さない

<図表 7 - 15>



「家計に必要な生活費を渡さない」については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 66.5%で最も多く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 21.2%、「暴力にあたるとは思わない」が 3.5%となっている。

性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答は、女性が 72.1%、男性が 60.4%で、女性が男性を 11.7 ポイント上回っている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の回答は、女性が 17.8%、男性が 26.2%で、男性が女性を 8.4 ポイント上回っている。

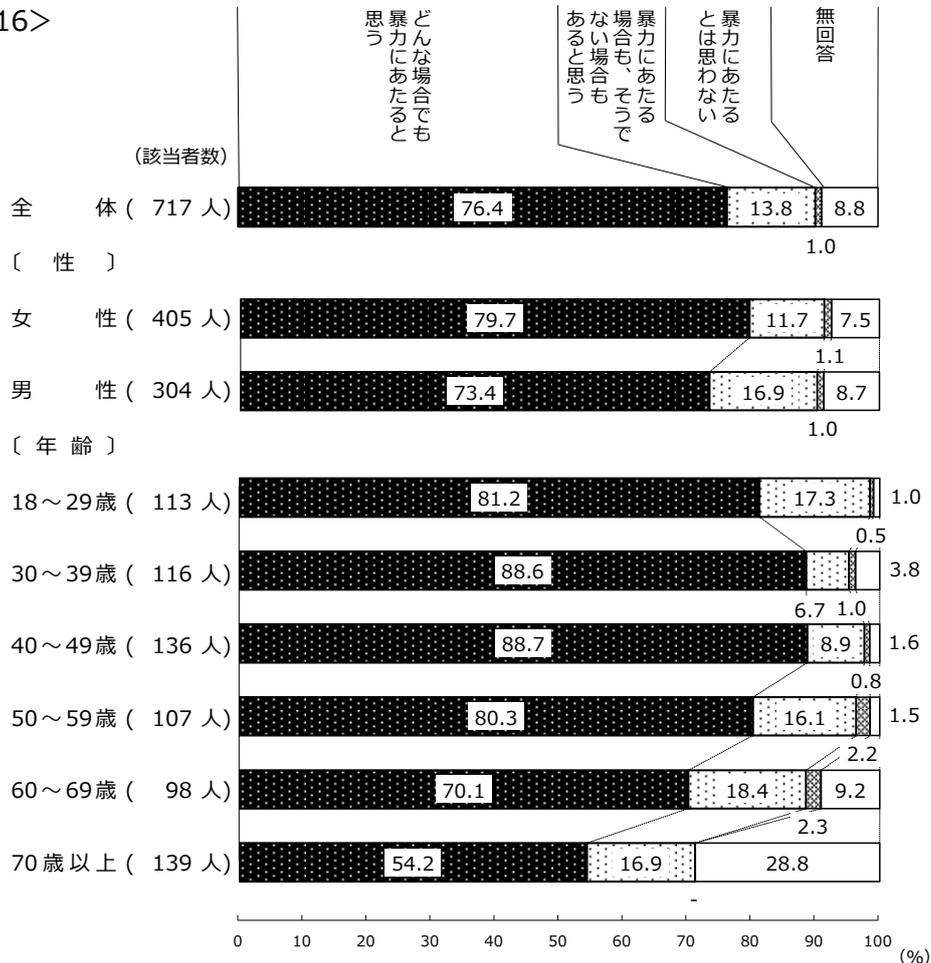
年齢別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答は 40 歳代で 81.5%と最も多く、50 歳代以下では 7 割を超えている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」と答えた人の回答は 40 歳代の 14.5%、60 歳代の 18.4%以外は 2 割を超えている。

(13) 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する

◇ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が76.4%

問23 (13) 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する

<図表7-16>



「職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する」については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が76.4%で最も多く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が13.8%、「暴力にあたるとは思わない」が1.0%となっている。

性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答は、女性が79.7%、男性が73.4%で、女性が男性を6.3ポイント上回っている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の回答は、女性が11.7%、男性が16.9%で、男性が女性を5.2ポイント上回っている。

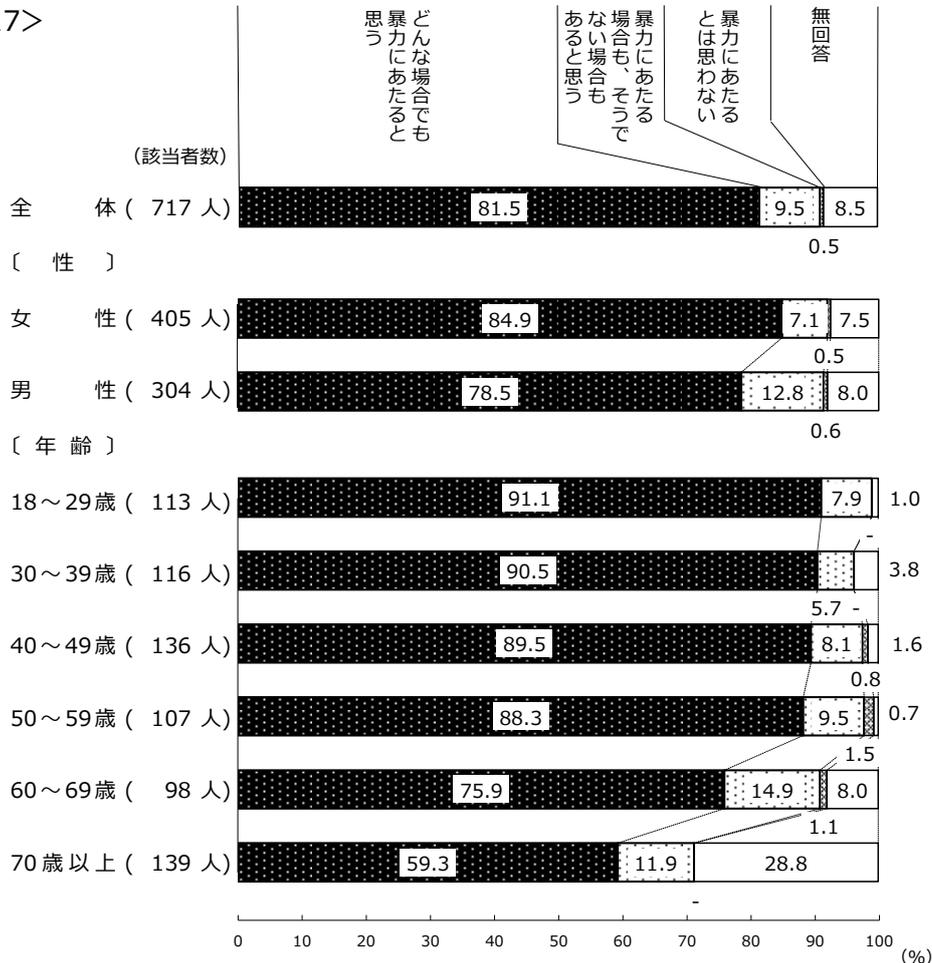
年齢別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答は50歳代以下で8割以上となっており、40歳代で88.7%と最も多くなっている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の回答は60歳代が18.4%で最も多く、30歳代の6.7%を11.7ポイント上回っている。

(14) いやがっているのに性的な行為を強要する

◇ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が81.5%

問23 (14) いやがっているのに性的な行為を強要する

<図表7-17>



「いやがっているのに性的な行為を強要する」については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が81.5%で最も多く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が9.5%、「暴力にあたるとは思わない」が0.5%となっている。

性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答は、女性が84.9%、男性が78.5%で、女性が男性を6.4ポイント上回っている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の回答は、女性が7.1%、男性が12.8%で、男性が女性を5.7ポイント上回っている。

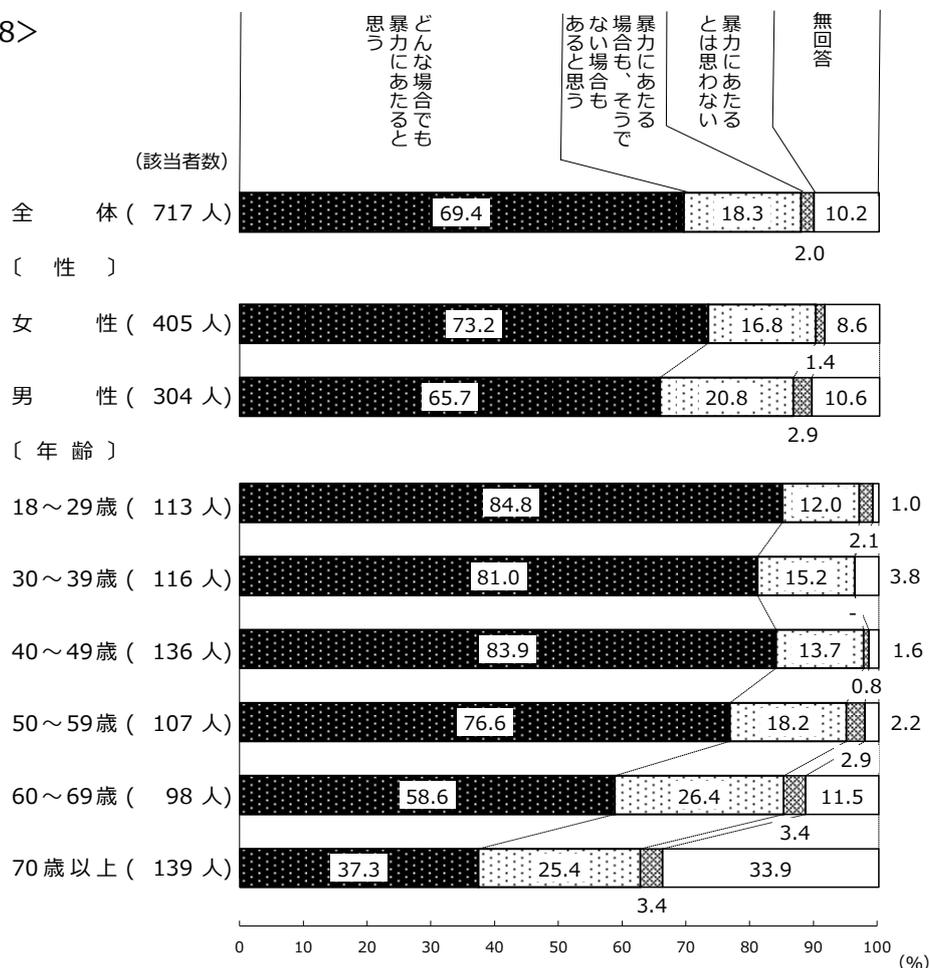
年齢別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答は50歳代以下で9割前後となっており、29歳以下で91.1%と最も多くなっている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の回答は、60歳代が14.9%で最も多く、30歳代の5.7%を9.2ポイント上回っている。

(15) 避妊に協力しない

◇ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 69.4%

問 2 3 (15) 避妊に協力しない

<図表 7-18>



「避妊に協力しない」については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 69.4%で最も多く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 18.3%、「暴力にあたるとは思わない」が 2.0%となっている。

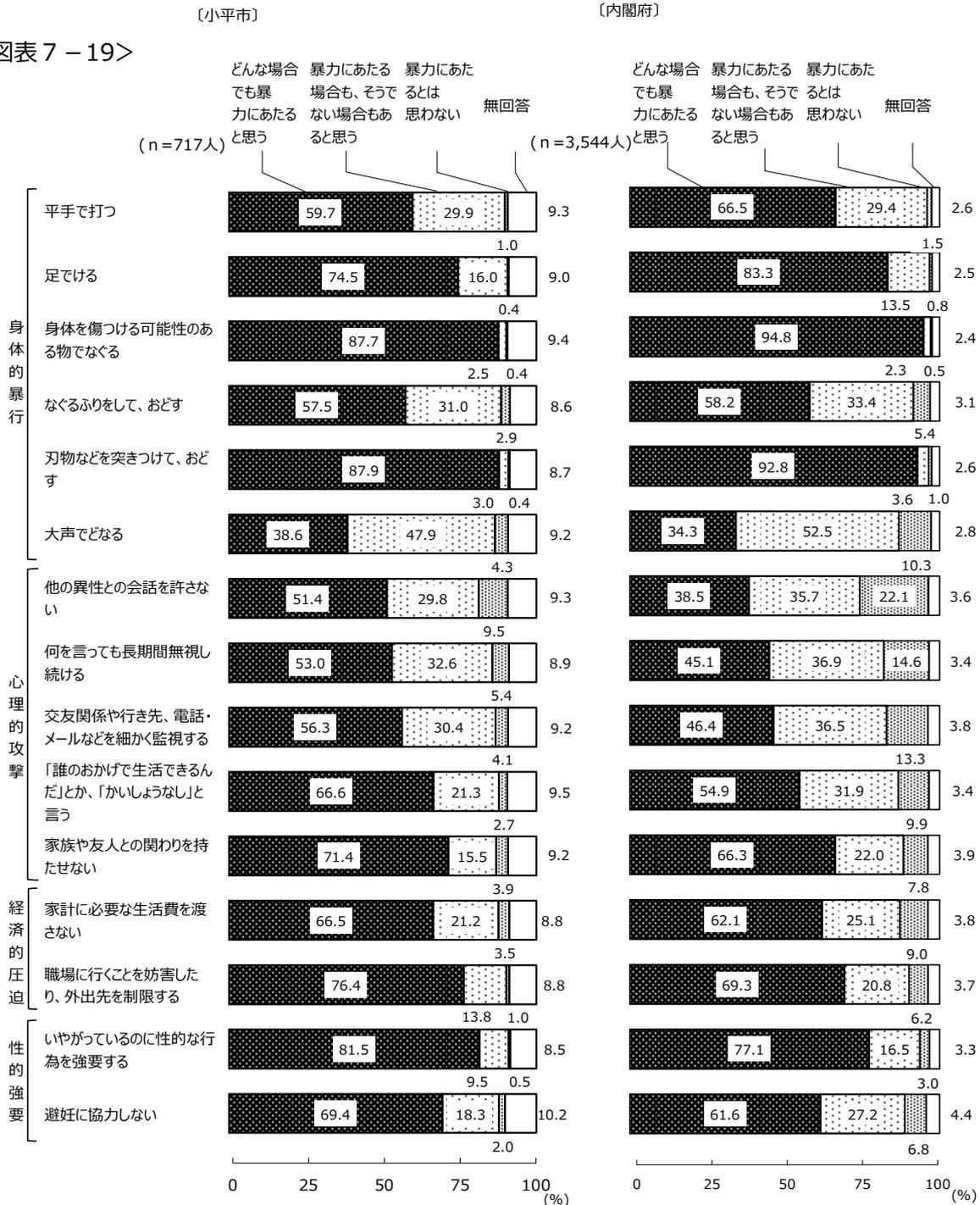
性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答は、女性が 73.2%、男性が 65.7%と、女性が男性を 7.5 ポイント上回っている。

年齢別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答は 40 歳代以下で 8 割以上となっており、29 歳以下で 84.8%と最も多くなっている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の回答は、60 歳代で 26.4%と最も多くなっており、29 歳以下の 12.0%を 14.4 ポイント上回っている。

「内閣府調査との比較」

内閣府「男女間における暴力に関する調査」（平成 26 年 12 月）と比較してみると、小平市調査では【心理的攻撃】、【経済的圧迫】、【性的強要】に挙げられるものは内閣府調査よりも意識が高いのに対して、【身体的暴行】では低い傾向がみられる。

<図表 7-19>



7-3 DV (ドメスティック・バイオレンス) 被害経験

(1) 身体的暴行

◇ 身体的暴行を受けた経験 5.2% (37人)

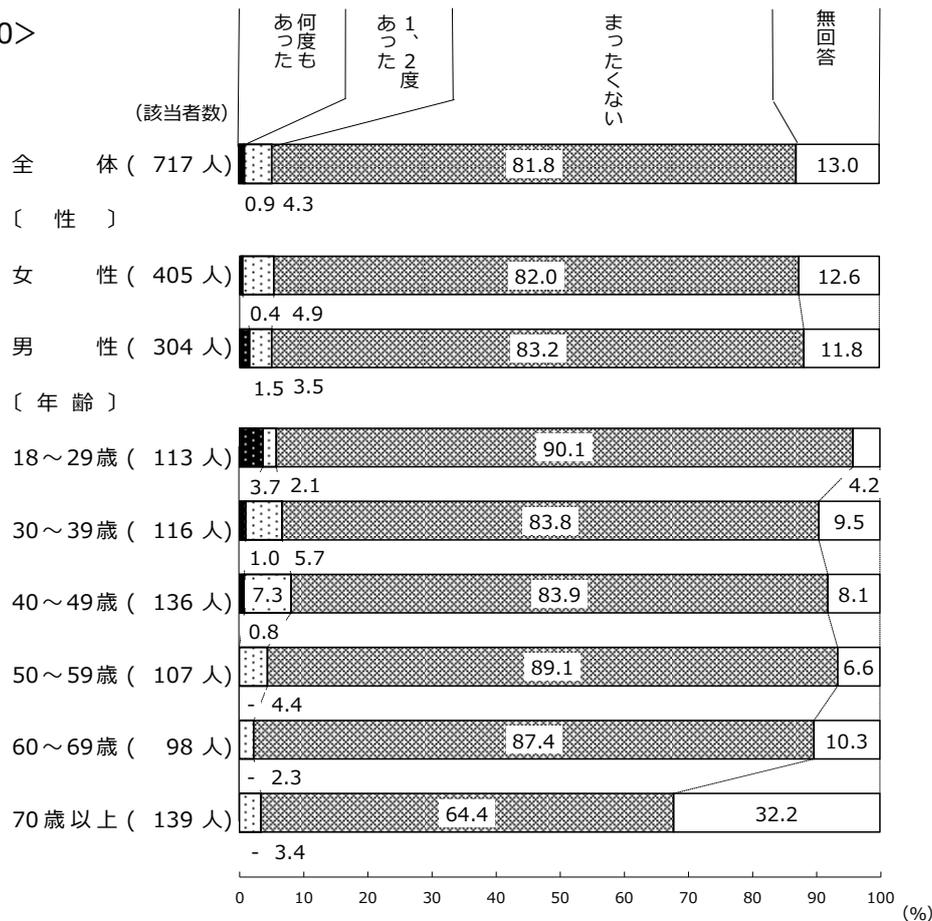
問24 あなたは過去5年間に、配偶者や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。

(1)～(4)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

(○はそれぞれ1つずつ)

(1) 身体的暴行

<図表7-20>



過去5年間に、配偶者や交際相手から「身体的暴行」を受けた経験について、「まったくくない」は81.8%、「受けた経験がある」は5.2%（「何度もあった」0.9%+「1、2度あった」4.3%）となっている。

性別にみると、「受けた経験がある」の回答は、女性が5.3%、男性が5.0%となっている。

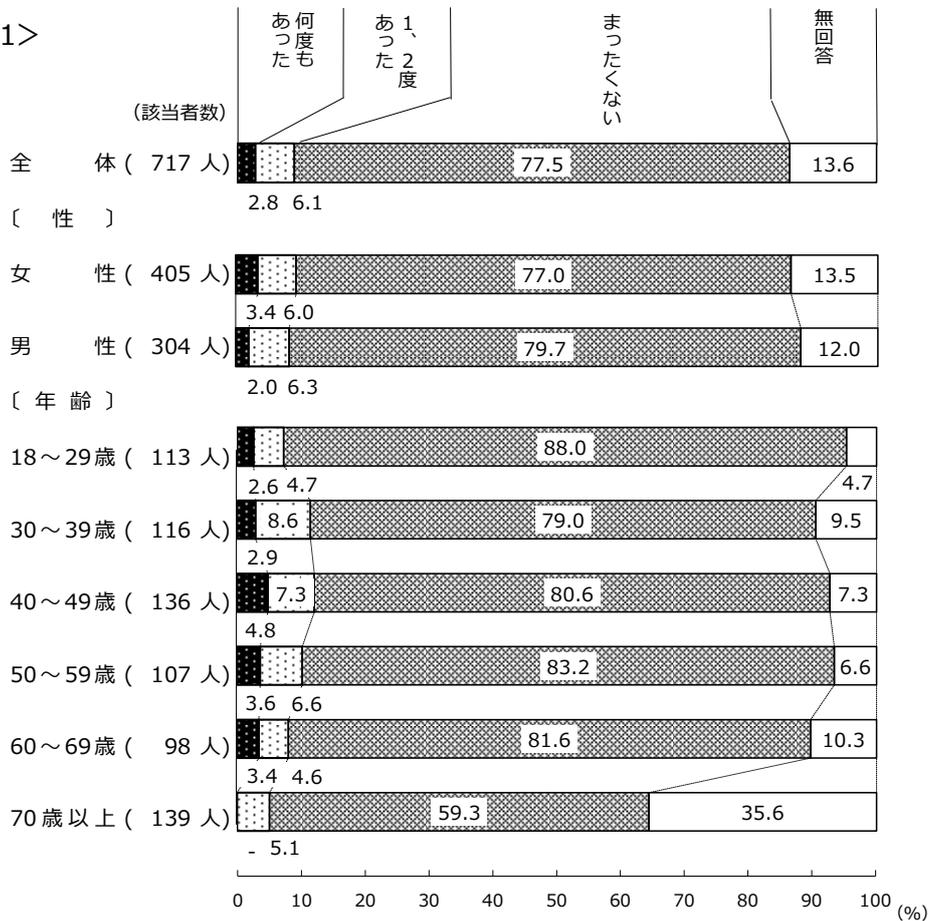
年齢別にみると、「受けた経験がある」の回答は、29歳以下で5.8%、30歳代で6.7%、40歳代で8.1%となっている。

(2) 心理的攻撃

◇ 心理的攻撃を受けた経験 8.9% (64 人)

問 2 4 (2) 心理的攻撃

<図表 7 - 21>



過去 5 年間に、配偶者や交際相手から「心理的攻撃」を受けた経験について、「まったくくない」は 77.5%、「を受けた経験がある」は 8.9%（「何度もあった」2.8%+「1、2 度あった」6.1%）となっている。

性別にみると、「を受けた経験がある」の回答は、女性で 9.4%、男性で 8.3%となっている。

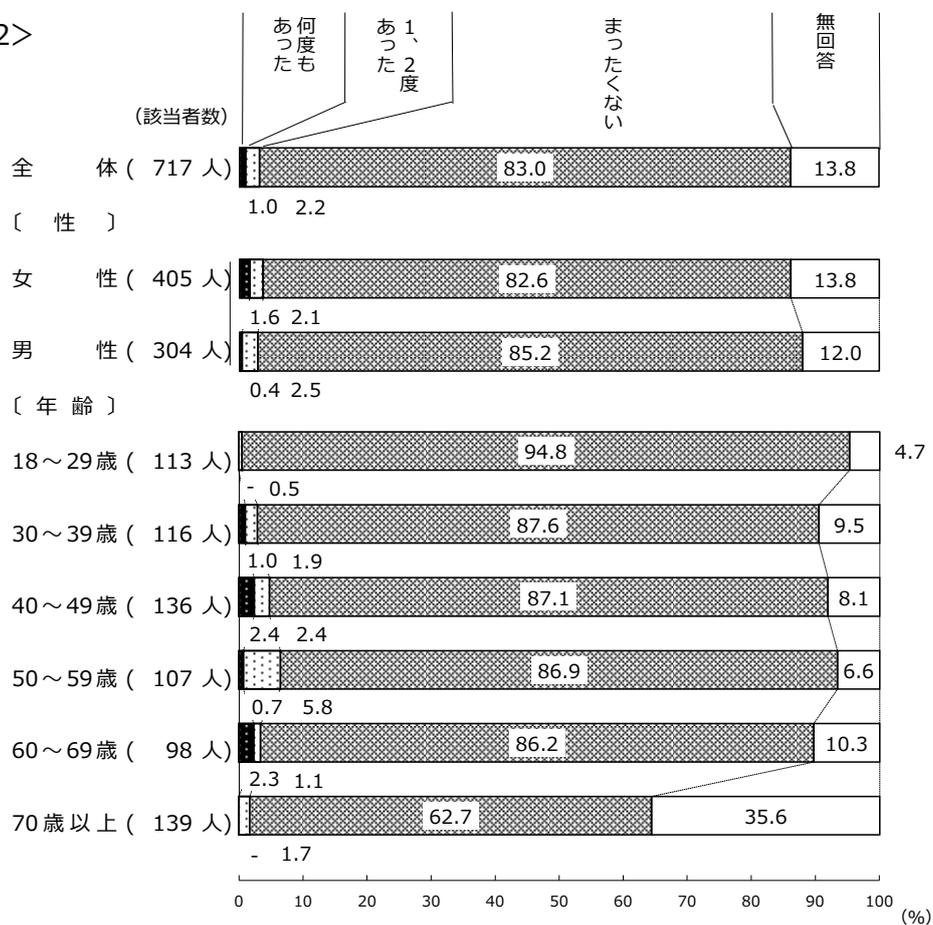
年齢別にみると、「を受けた経験がある」の回答は、29 歳以下で 7.3%、30 歳代で 11.5%、40 歳代で 12.1%、50 歳代で 10.2%、60 歳代で 8.0%となっている。

(3) 経済的圧迫

◇ 経済的圧迫を受けた経験 3.2% (23人)

問24 (3) 経済的圧迫

<図表7-22>



過去5年間に、配偶者や交際相手から「経済的圧迫」を受けた経験について、「まったくない」は83.0%、「を受けた経験がある」は3.2%（「何度もあった」1.0%+「1、2度あった」2.2%）となっている。

性別にみると、「を受けた経験がある」の回答は、女性が3.7%、男性が2.9%となっている。

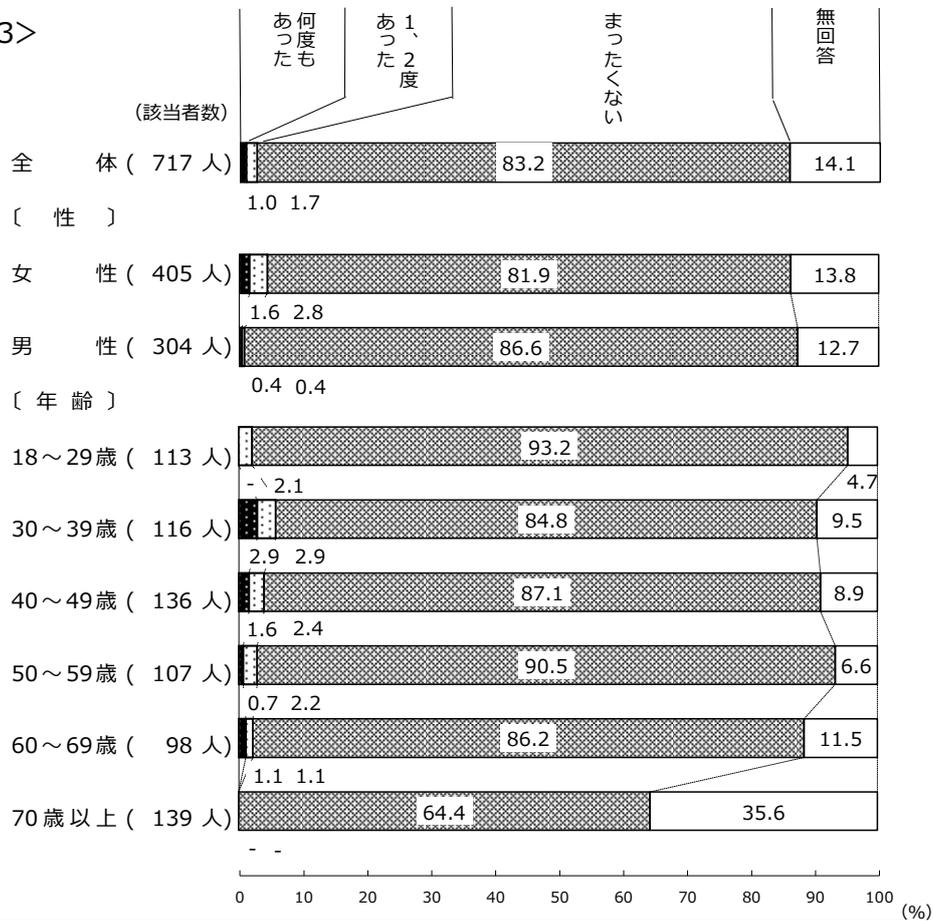
年齢別にみると、「を受けた経験がある」の回答は、30歳代で2.9%、40歳代で4.8%、50歳代で6.5%、60歳代で3.4%となっている。

(4) 性的強要

◇ 性的強要を受けた経験 2.7% (19人)

問24 (4) 性的強要

<図表7-23>



過去5年間に、配偶者や交際相手から「性的強要」を受けた経験について、「まったくない」は83.2%、「を受けた経験がある」は2.7%（「何度もあった」1.0%+「1、2度あった」1.7%）となっている。

性別にみると、「を受けた経験がある」の回答は女性で4.4%、男性で0.8%となっている。

年齢別にみると、「を受けた経験がある」の回答は、30歳代で5.8%、40歳代で4.0%となっている。

【婚姻状況別】

過去5年間に、配偶者や交際相手から「性的強要」を受けた経験について婚姻状況別にみると、離別の人は「身体的暴行を受けた経験がある」の回答が26.0%、「心理的攻撃を受けた経験がある」の回答が26.7%、「経済的圧迫を受けた経験がある」の回答が26.7%、「性的強要を受けた経験がある」の回答が26.7%となっている。

<図表7-24>

(%)

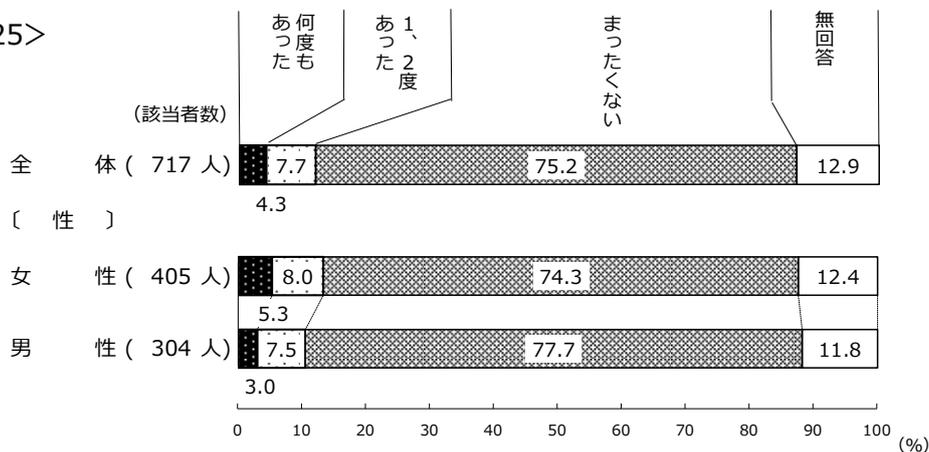
	身体的暴行	心理的攻撃	経済的圧迫	性的強要
既婚（事実婚を含む）	6.9	12.0	4.2	2.7
離別	26.0	26.7	26.7	26.7
死別	-	-	2.3	2.3
未婚	3.7	6.3	1.3	2.0

【まとめ】

「身体的暴行」、「心理的攻撃」、「経済的圧迫」、「性的強要」のいずれかの、DV（ドメスティック・バイオレンス）を受けた経験についてまとめた結果をみると、「まったくない」は75.2%、「受けた経験がある」は12.0%（「何度もあった」4.3%+「1、2度あった」7.7%）となっている。

性別にみると、「受けた経験がある」の回答は、女性が13.3%、男性が10.5%となっている。

<図表7-25>

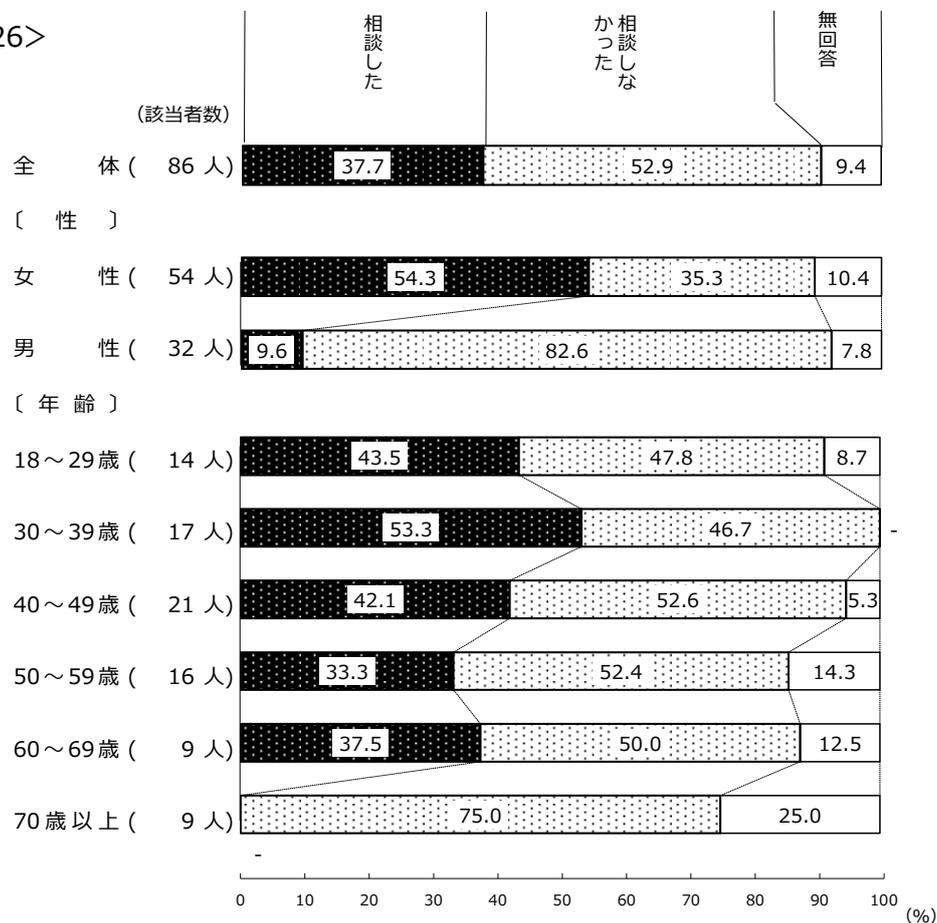


7-3-1 相談経験

◇ 「相談しなかった」52.9%

問24-1 あなたはこれまでに、このような行為を受けたことを誰かに打ち明けたり、相談したことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

<図表7-26>



過去5年間に、配偶者や交際相手からDVを受けた経験がある人(86人)に、DV被害の相談をしたことがあるか尋ねたところ、DV被害の相談経験については、「相談しなかった」が52.9%、「相談した」が37.7%となっている。

性別にみると、「相談した」の回答は、女性が54.3%、男性が9.6%で、女性が男性を44.7ポイント上回っている。一方、「相談しなかった」の回答は、女性が35.3%、男性が82.6%で、男性が女性を47.3ポイント上回っている。

年齢別にみると、60歳代以下で5割前後の人が「相談しなかった」と答えており、70歳以上で75.0%と最も多くなっている。

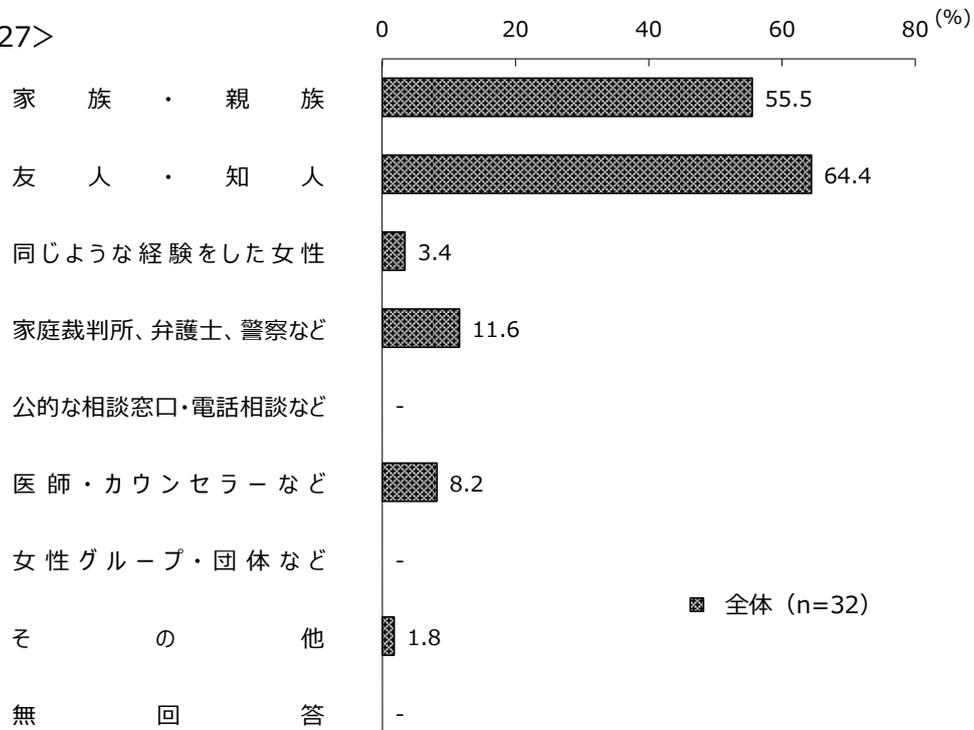
7-3-2 相談相手

◇ 「友人・知人」64.4%、「家族・親族」55.5%

問24-2 あなたはどこ（誰）に相談しましたか。

あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

<図表7-27>



DV 経験を誰かに打ち明けたり、相談したことがあると答えた人（32人）の、相談相手については、「友人・知人」が64.4%で最も多く、次いで「家族・親族」が55.5%、「家庭裁判所、弁護士、警察など」が11.6%、「医師・カウンセラーなど」が8.2%となっている。（複数回答、上位4項目）

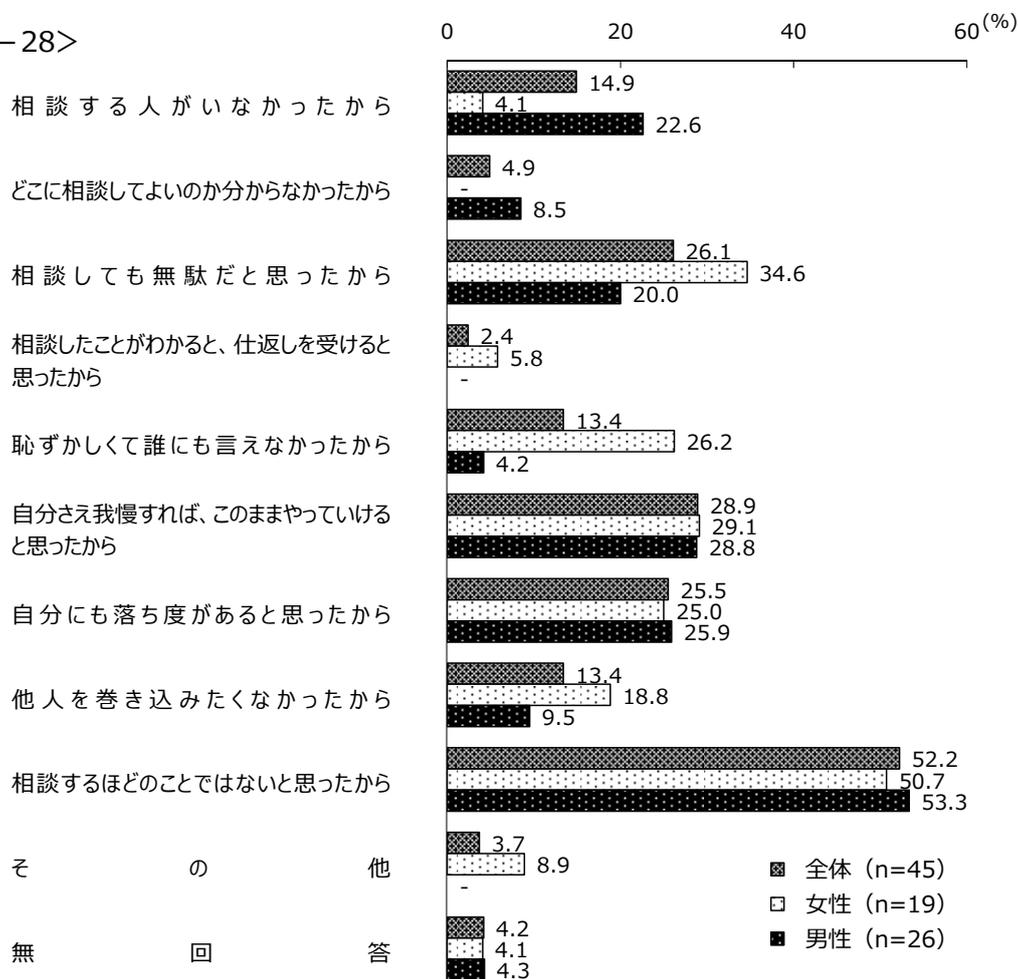
7-3-3 相談しなかった理由

◇ 「相談するほどのことではないと思ったから」 52.2%

問24-3 どこ（誰）にも相談しなかったのはなぜですか。

あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

<図表7-28>



DV 経験を相談しなかったと答えた人（45 人）の、相談しなかった理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」が 52.2%で最も多く、次いで「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」が 28.9%、「相談しても無駄だと思ったから」が 26.1%、「自分にも落ち度があると思ったから」が 25.5%となっている。（複数回答、上位 4 項目）

性別にみると、男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから」の回答が最も多く、女性が 50.7%、男性が 53.3%となっている。

「相談しても無駄だと思ったから」の回答は、女性が 34.6%、男性が 20.0%で、女性が男性を 14.6 ポイント上回っている。

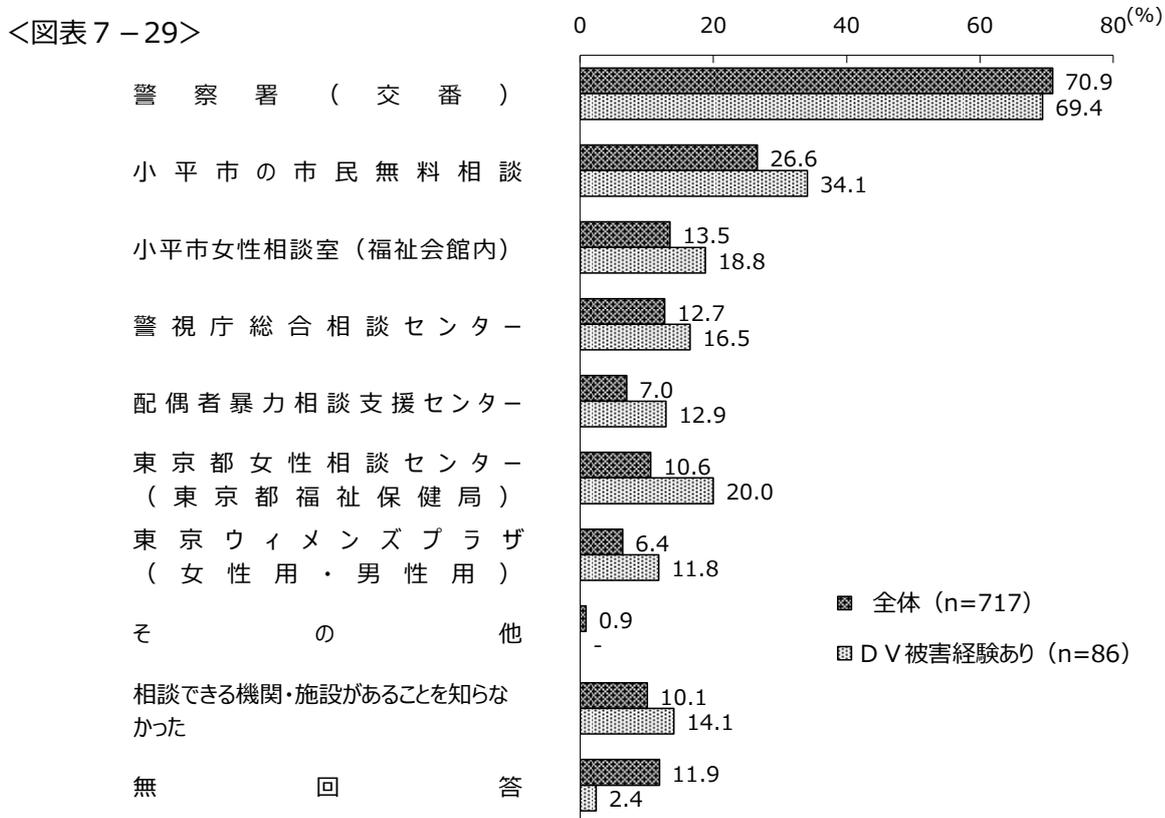
「相談する人がいなかったから」の回答は、女性が 4.1%、男性が 22.6%で、男性が女性を 18.5 ポイント上回っている。

「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」の回答は、女性が 26.2%、男性が 4.2%で、女性が男性を 22.0 ポイント上回っている。

7-4 相談機関・施設の認知度

◇ 「警察署（交番）」が70.9%と最多、「小平市の市民無料相談」は26.6%

問25 配偶者や交際相手など、親密な関係にある者から暴力を受けた場合、相談できる機関や施設であなたが知っているものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）



相談機関・施設の認知度については、「警察署（交番）」が70.9%で最も多く、次いで「小平市の市民無料相談」が26.6%、「小平市女性相談室（福社会館内）」が13.5%、「警視庁総合相談センター」が12.7%、「東京都女性相談センター（東京都福祉保健局）」が10.6%となっている。（複数回答、上位5項目）
なお、「相談できる機関・施設があることを知らなかった」は10.1%となっている。

【DV被害経験ありの人の認知度】

過去5年間に、配偶者や交際相手からDVを受けた経験がある人（86人）での相談機関・施設の認知度をみると、「警察署（交番）」が69.4%で最も多く、次いで「小平市の市民無料相談」が34.1%、「東京都女性相談センター（東京都福祉保健局）」が20.0%となっている。全体と比較してみると、DVを受けた経験がある人のほうが認知度が高い傾向がみられる。

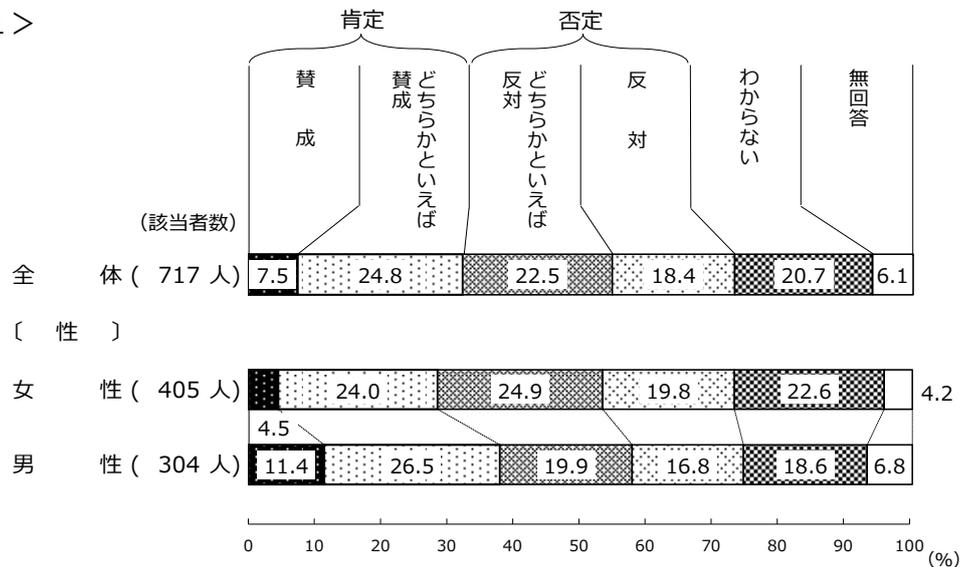
8 男女平等について

8-1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方

◇ 肯定 32.3%、否定 40.9%

問26 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

<図表8-1>

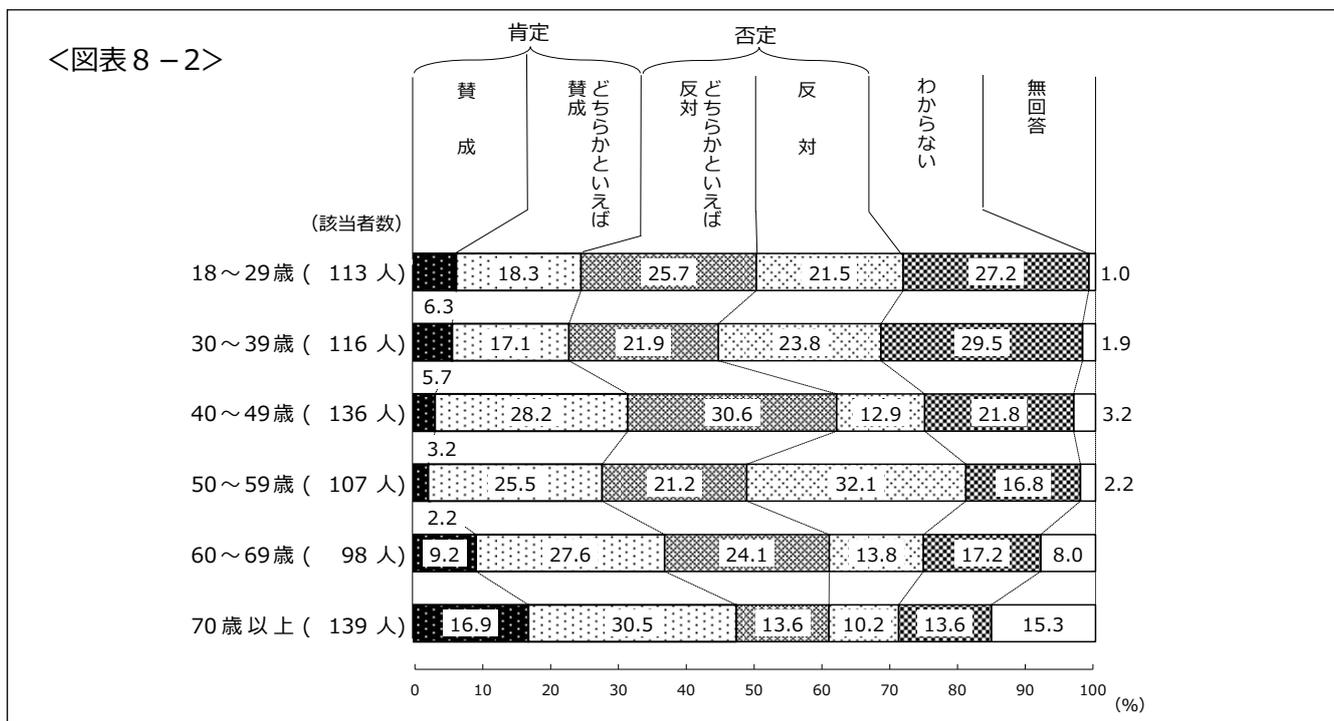


「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、否定する人 40.9%（「どちらかといえば反対」22.5%+「反対」18.4%）が、肯定する人 32.3%（「賛成」7.5%+「どちらかといえば賛成」24.8%）を 8.6 ポイント上回っている。

性別にみると、肯定する人の割合は、女性が 28.5%、男性が 37.9%と、男性が女性を 9.4 ポイント上回っており、否定する人の割合は、女性が 44.7%、男性が 36.7%と、女性が男性を 8.0 ポイント上回っている。

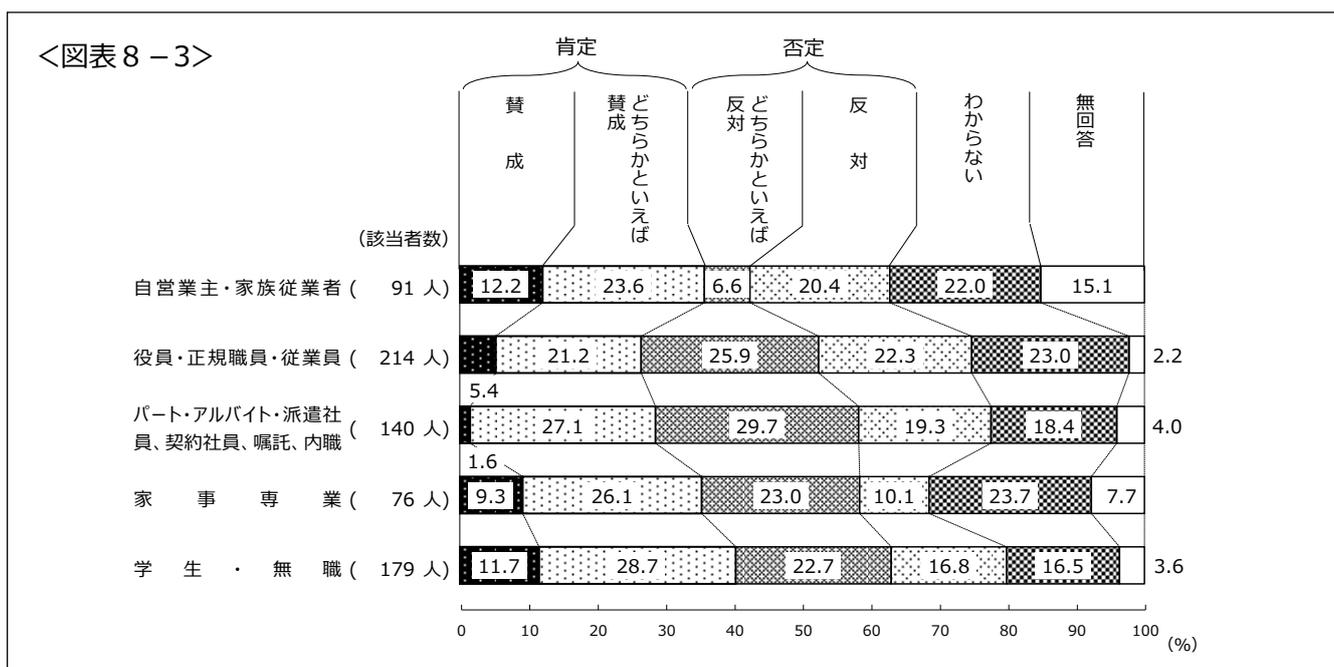
【年齢別】

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について年齢別にみると、肯定する人の割合は、70歳以上で47.4%と最も高く、30歳代で22.8%と最も低くなっている。否定する人の割合は、50歳代で53.3%と最も高く、70歳以上で23.8%と最も低くなっている。



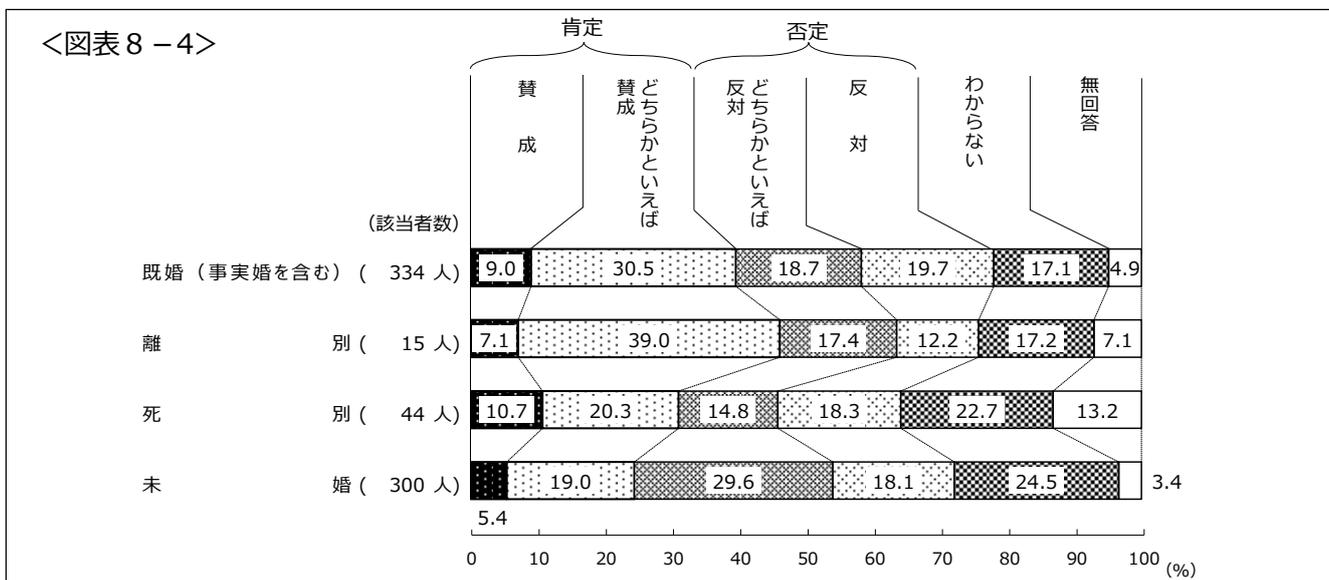
【職業別】

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について職業別にみると、肯定する人の割合は、学生・無職で40.4%と最も高く、正規雇用の人で26.6%と最も低くなっている。否定する人の割合は、非正規雇用の人で49.0%と最も高く、自営業主・家族従業者で27.0%と最も低くなっている。



【婚姻状況別】

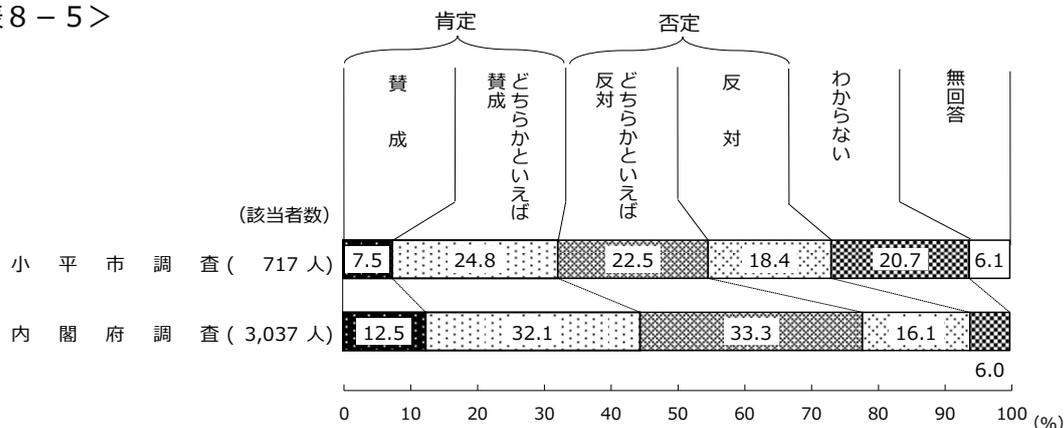
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について婚姻状況別にみると、肯定する人の割合は、離別の人で46.1%と最も高く、未婚の人で24.4%と最も低くなっている。否定する人の割合は、未婚の人で47.7%と最も高く、離別の人で29.6%と最も低くなっている。



「内閣府調査との比較」

内閣府「女性の活躍推進に関する世論調査」(平成26年8月)と比較してみると、小平市調査では肯定する人の割合も否定する人の割合も内閣府調査より低い傾向がみられる。

<図表 8-5>



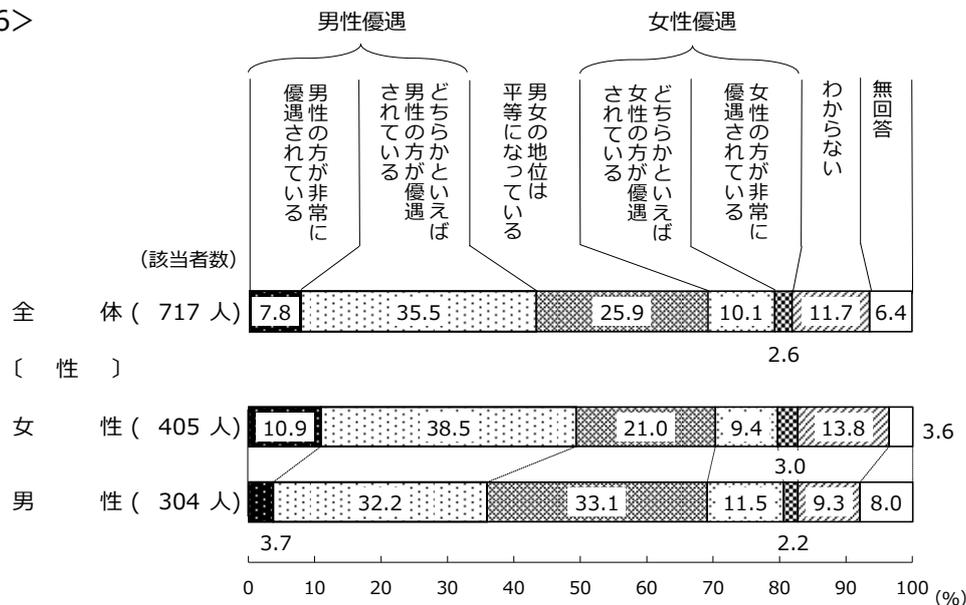
8-2 (1) 家庭生活での男女の地位

◇ 男性優遇 43.3%、女性優遇 12.7%

問27 あなたは次の(1)～(8)にあがるような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

(1) 家庭生活

<図表8-6>



家庭生活での男女の地位については、「男性の方が優遇されている」43.3%（「男性の方が非常に優遇されている」7.8%+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」35.5%）が、「女性の方が優遇されている」12.7%（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」10.1%+「女性の方が非常に優遇されている」2.6%）を30.6ポイント上回っている。

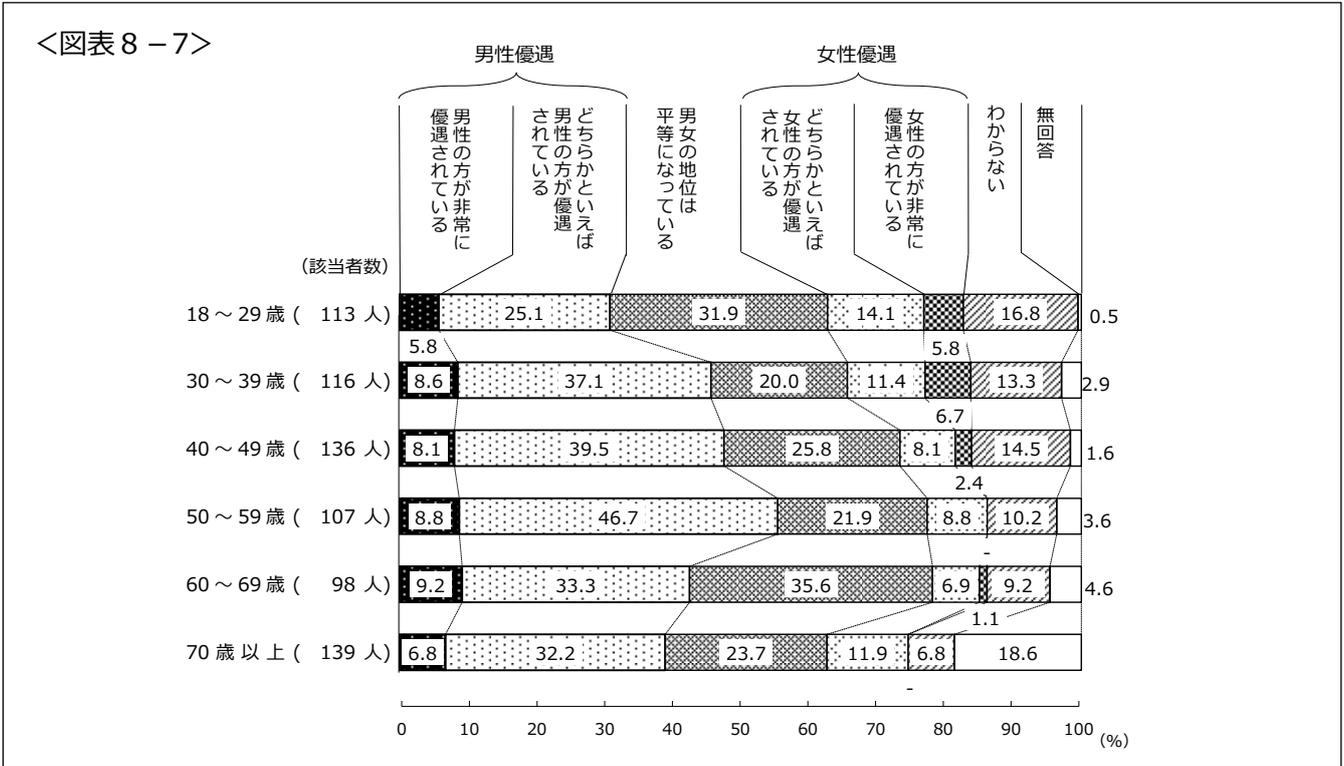
また、「男女の地位は平等になっている」は25.9%となっている。

性別にみると、「男性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、女性が49.4%、男性が35.9%と、女性が男性を13.5ポイント上回っている。「男女の地位は平等になっている」の割合は、女性が21.0%、男性が33.1%で、男性が女性を12.1ポイント上回っている。

女性では、ほぼ半数が「男性の方が優遇されている」と思っており、「男女の地位は平等になっている」と思っている人は2割に過ぎない。一方で、男性では、3割の人が「男女の地位は平等になっている」と思っており、男女の差が表れている。

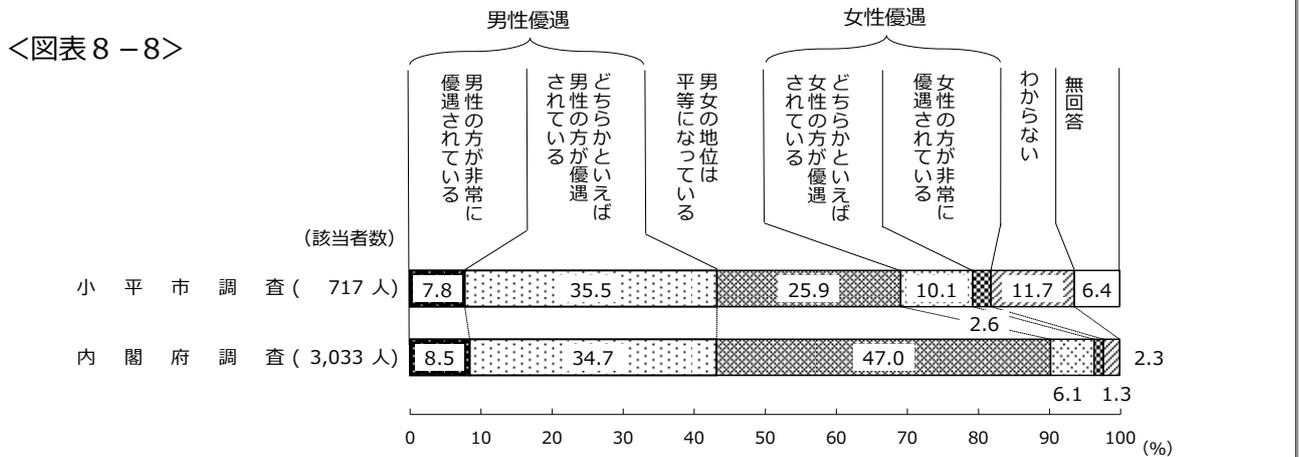
【年齢別】

家庭生活での男女の地位について年齢別にみると、「男性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、50歳代で55.5%と最も高く、29歳以下で30.9%と最も低くなっている。「男女の地位は平等になっている」の割合は、60歳代で35.6%と最も高く、30歳代で20.0%と最も低くなっている。「女性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、29歳以下で19.9%と最も高く、60歳代で8.0%と最も低くなっている。



<<内閣府調査との比較>>

内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成24年10月)と比較してみると、小平市調査では「男女の地位は平等になっている」の割合が内閣府調査よりも21.1ポイント低くなっている。



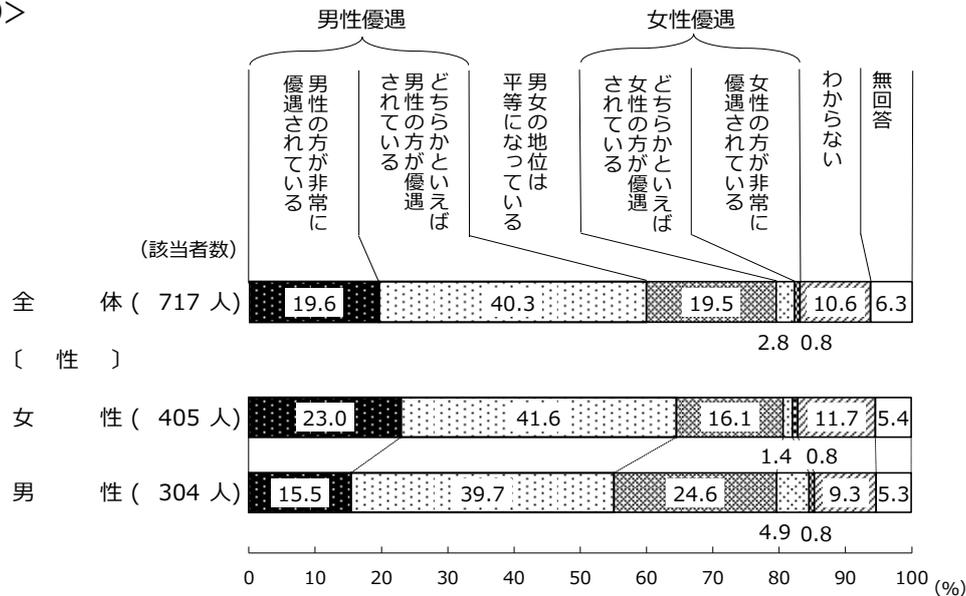
(2) 職場での男女の地位

◇ 男性優遇 59.9%、女性優遇 3.6%

問27 あなたは次の(1)～(8)にあげるような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

(2) 職場

<図表8-9>



職場での男女の地位については、「男性の方が優遇されている」が59.9%（「男性の方が非常に優遇されている」19.6%+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」40.3%）と6割近く、「女性の方が優遇されている」3.6%（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」2.8%+「女性の方が非常に優遇されている」0.8%）を56.3ポイント上回っている。

また、「男女の地位は平等になっている」は19.5%となっている。

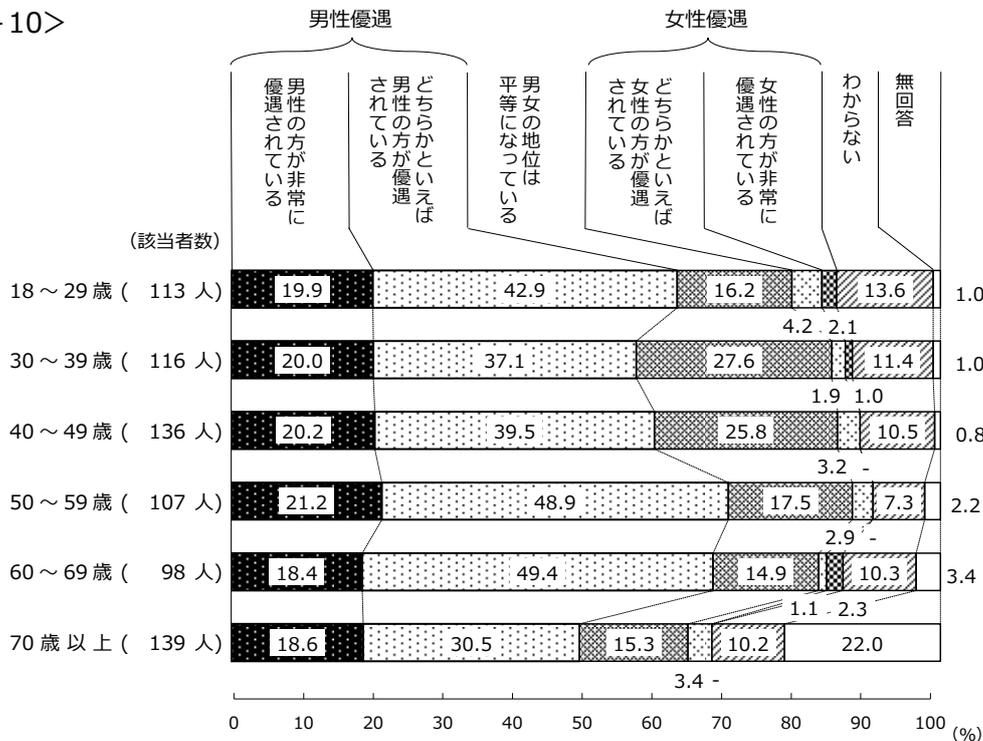
性別にみると、「男性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、女性が64.6%、男性が55.2%で、女性が男性を9.4ポイント上回っている。「男女の地位は平等になっている」の割合は、女性が16.1%、男性が24.6%で、男性が女性を8.5ポイント上回っている。

女性では6割を超える人が「男性の方が優遇されている」と思っており、男性でも半数を超える人が「男性の方が優遇されている」と思っている。

【年齢別】

職場での男女の地位について年齢別にみると、「男性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、50歳代で70.1%と最も高く、70歳以上で49.1%と最も低くなっている。「男女の地位は平等になっている」の割合は、30歳代で27.6%と最も高く、60歳代で14.9%と最も低くなっている。「女性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、29歳以下で6.3%と最も高く、50歳代で2.9%と最も低くなっている。

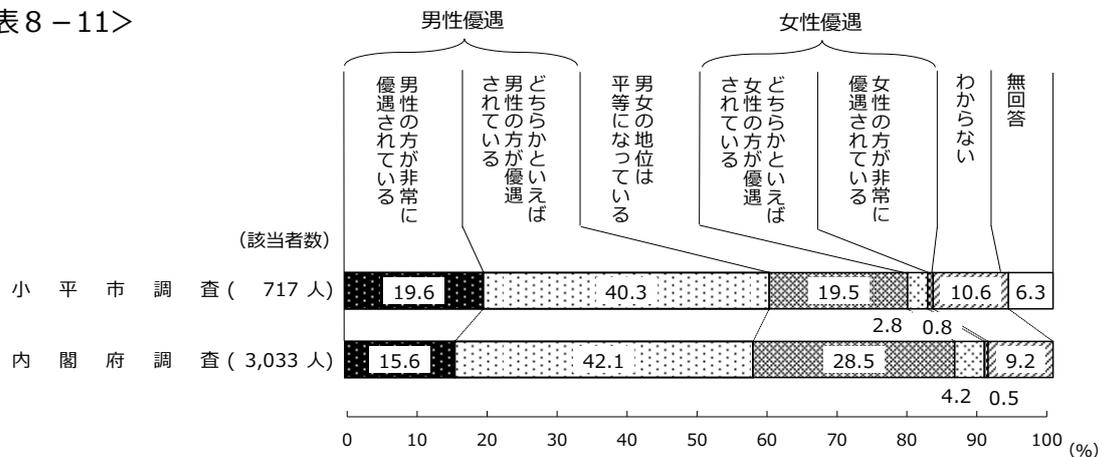
<図表8-10>



「内閣府調査との比較」

内閣府「男女共同参加社会に関する世論調査」(平成24年10月)と比較してみると、小平市調査では「男女の地位は平等になっている」の割合が内閣府調査よりも9.0ポイント低くなっている。

<図表8-11>



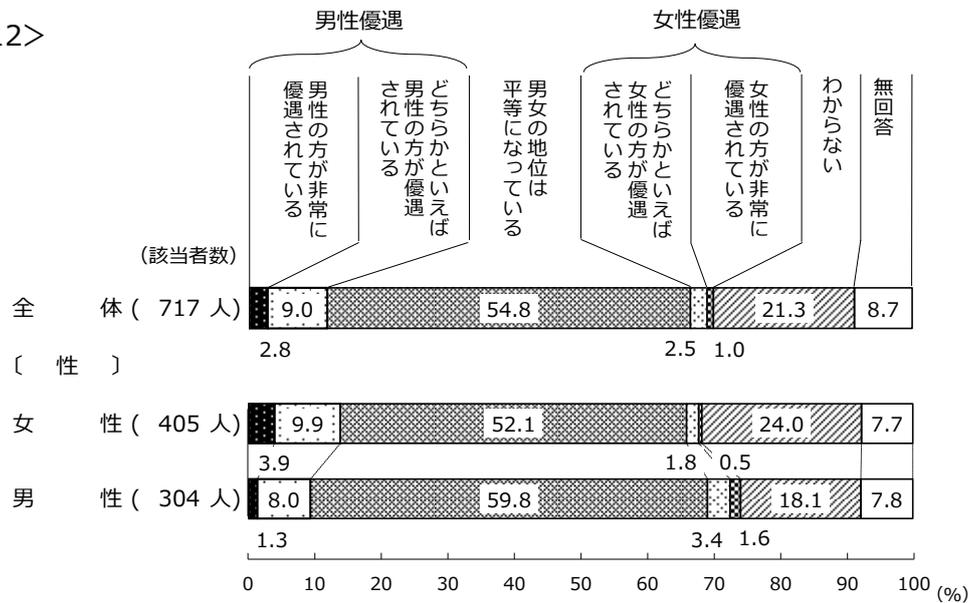
(3) 学校教育での男女の地位

◇ 「男女の地位は平等になっている」 54.8%

問27 あなたは次の(1)～(8)にあがるような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

(3) 学校教育

<図表8-12>



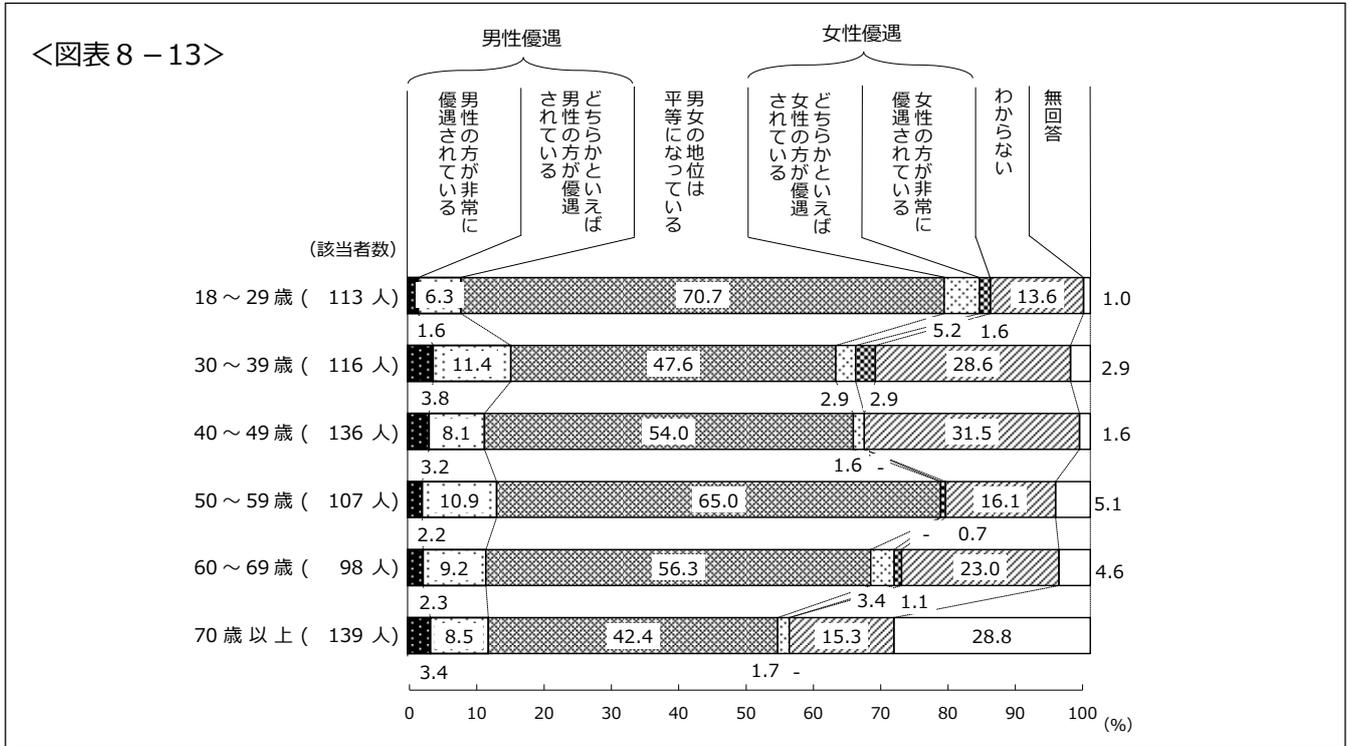
学校教育での男女の地位については、「男性の方が優遇されている」11.8%（「男性の方が非常に優遇されている」2.8%+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」9.0%）が、「女性の方が優遇されている」3.5%（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」2.5%+「女性の方が非常に優遇されている」1.0%）を8.3ポイント上回っている。

また、「男女の地位は平等になっている」は54.8%となっている。

性別にみると、「男性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、女性が13.8%、男性が9.3%で、女性が男性を4.5ポイント上回っている。「男女の地位は平等になっている」の割合は、女性が52.1%、男性が59.8%で、男性が女性を7.7ポイント上回っている。「女性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、女性が2.3%、男性が5.0%で、男性が女性を2.7ポイント上回っている。

【年齢別】

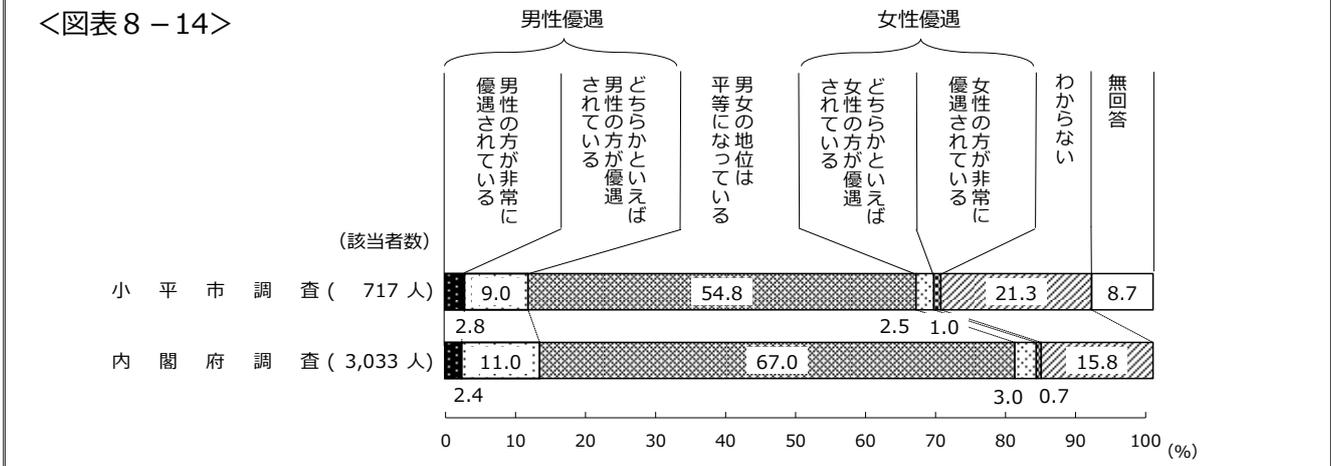
学校教育での男女の地位について年齢別にみると、「男性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、30歳代で15.2%と最も高く、29歳以下で7.9%と最も低くなっている。「男女の地位は平等になっている」の割合は、29歳以下で70.7%と最も高く、70歳以上で42.4%と最も低くなっている。「女性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、29歳以下で6.8%と最も高く、50歳代で0.7%と最も低くなっている。



◀内閣府調査との比較▶

内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成24年10月)と比較してみると、小平市調査では「男女の地位は平等になっている」の割合が内閣府調査よりも12.2ポイント低くなっている。

<図表 8-14>



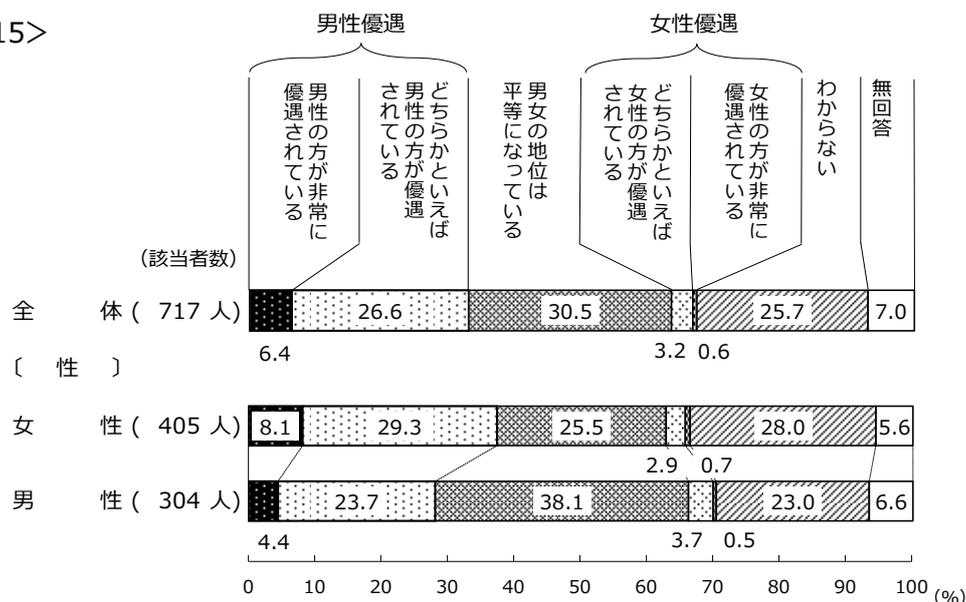
(4) 地域社会（町内会、自治会）での男女の地位

◇ 男性優遇 33.0%、「男女の地位は平等になっている」 30.5%

問 27 あなたは次の（1）～（8）にあがるような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。それぞれの項目について、あてはまる番号 1 つに○をつけてください。（○は 1 つ）

（4）地域社会（町内会、自治会）

<図表 8 - 15>



地域社会（町内会、自治会）での男女の地位については、「男性の方が優遇されている」が 33.0%（「男性の方が非常に優遇されている」6.4%+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」26.6%）と約 3 割で、「女性の方が優遇されている」3.8%（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」3.2%+「女性の方が非常に優遇されている」0.6%）を 29.2 ポイント上回っている。

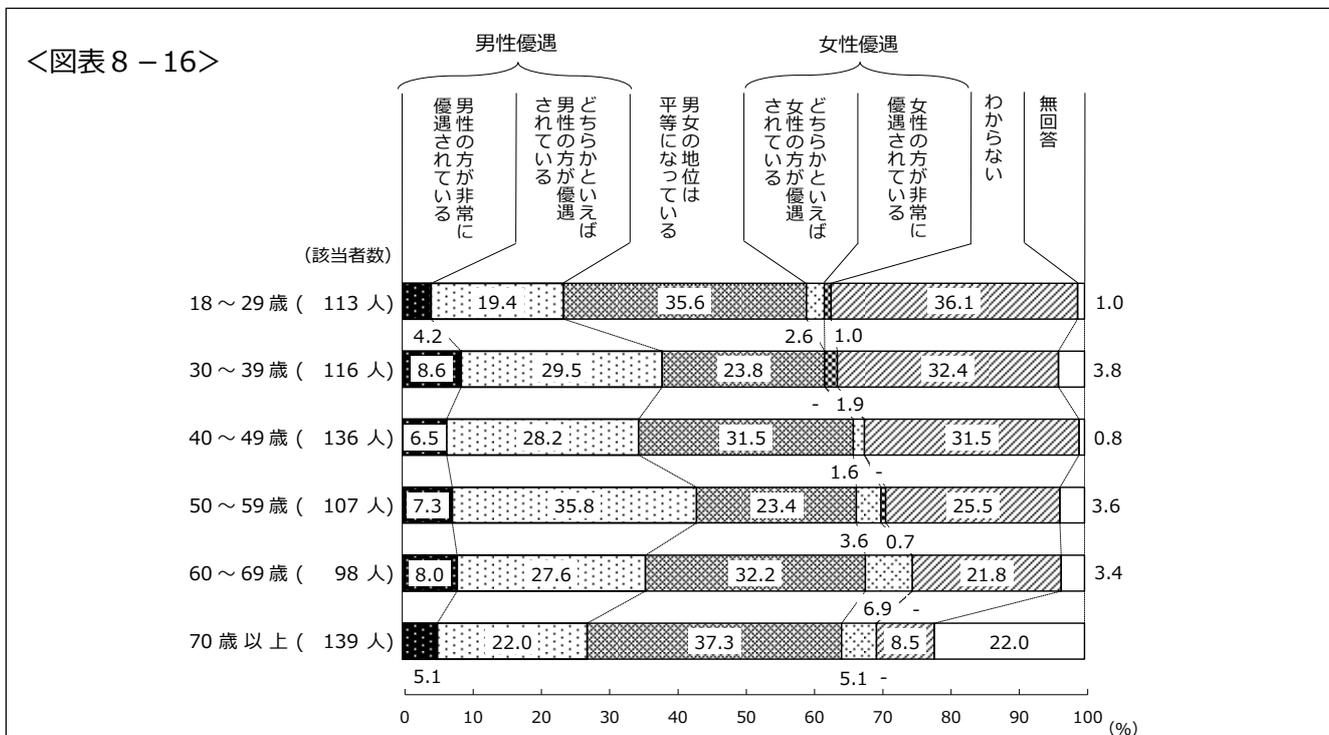
また、「男女の地位は平等になっている」は 30.5%となっている。

性別にみると、「男性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、女性が 37.4%、男性が 28.1% で、女性が男性を 9.3 ポイント上回っている。「男女の地位は平等になっている」の割合は、女性が 25.5%、男性が 38.1% で、男性が女性を 12.6 ポイント上回っている。「女性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、女性が 3.6%、男性が 4.2% で、男性が女性を 0.6 ポイント上回っている。

女性では 4 割近い人が「男性の方が優遇されている」と思っており、「男女の地位は平等になっている」と思っている人は 25.5%にとどまっている。一方で、男性では、4 割近い人が「男女の地位は平等である」と思っており、男女の差が表れている。

【年齢別】

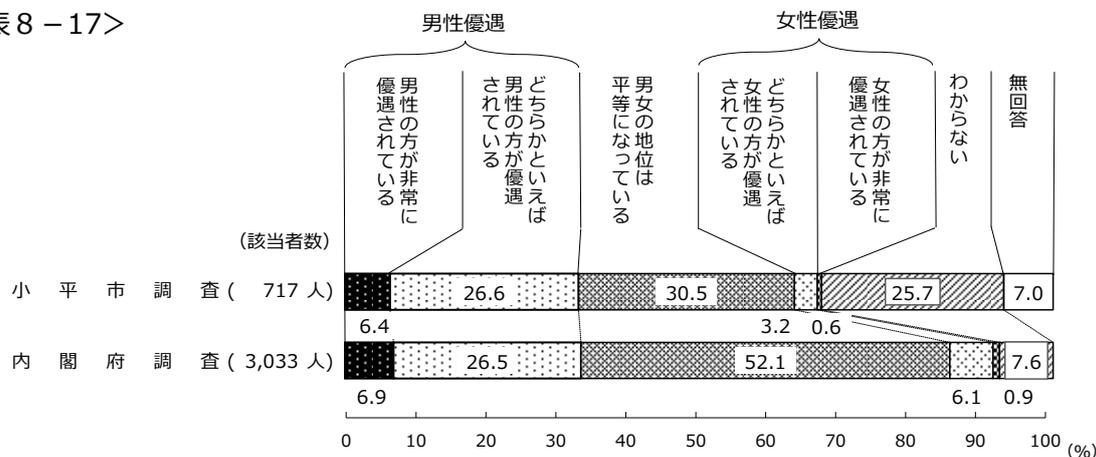
地域社会（町内会、自治会）での男女の地位について年齢別にみると、「男性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、50歳代で43.1%と最も高く、29歳以下で23.6%と最も低くなっている。「男女の地位は平等になっている」の割合は、70歳以上で37.3%と最も高く、50歳代で23.4%と最も低くなっている。「女性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、60歳代で6.9%と最も高く、40歳代で1.6%と最も低くなっている。



◀内閣府調査との比較▶

内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成24年10月)と比較してみると、小平市調査では「男女の地位は平等になっている」の割合が内閣府調査よりも21.6ポイント低くなっている。

<図表 8-17>



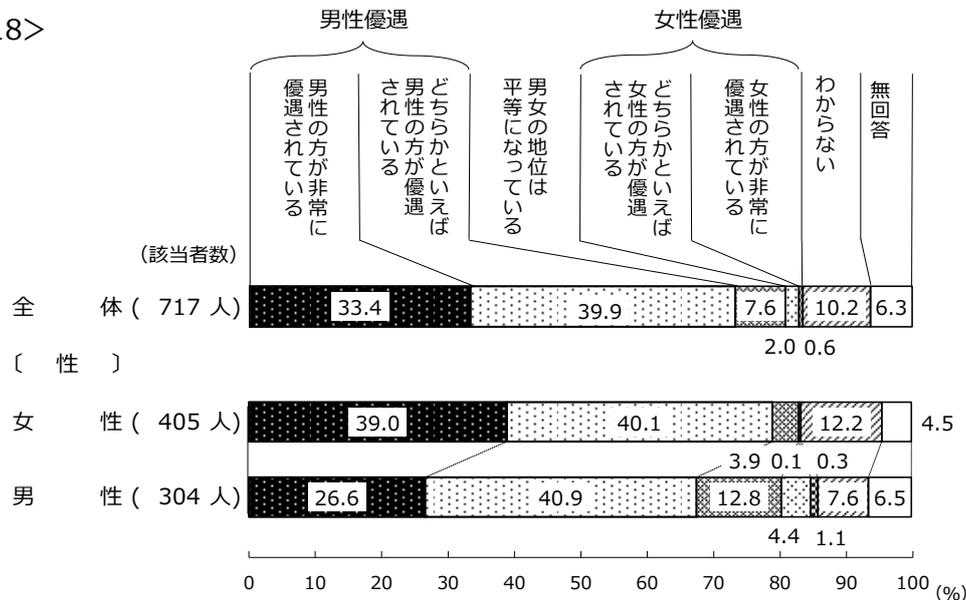
(5) 政治での男女の地位

◇ 男性優遇 73.3%、女性優遇 2.6%

問 27 あなたは次の(1)～(8)にあがるような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

(5) 政治

<図表 8-18>



政治での男女の地位については、「男性の方が優遇されている」が73.3%（「男性の方が非常に優遇されている」33.4%+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」39.9%）と7割を超え、「女性の方が優遇されている」2.6%（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」2.0%+「女性の方が非常に優遇されている」0.6%）を大きく上回っている。

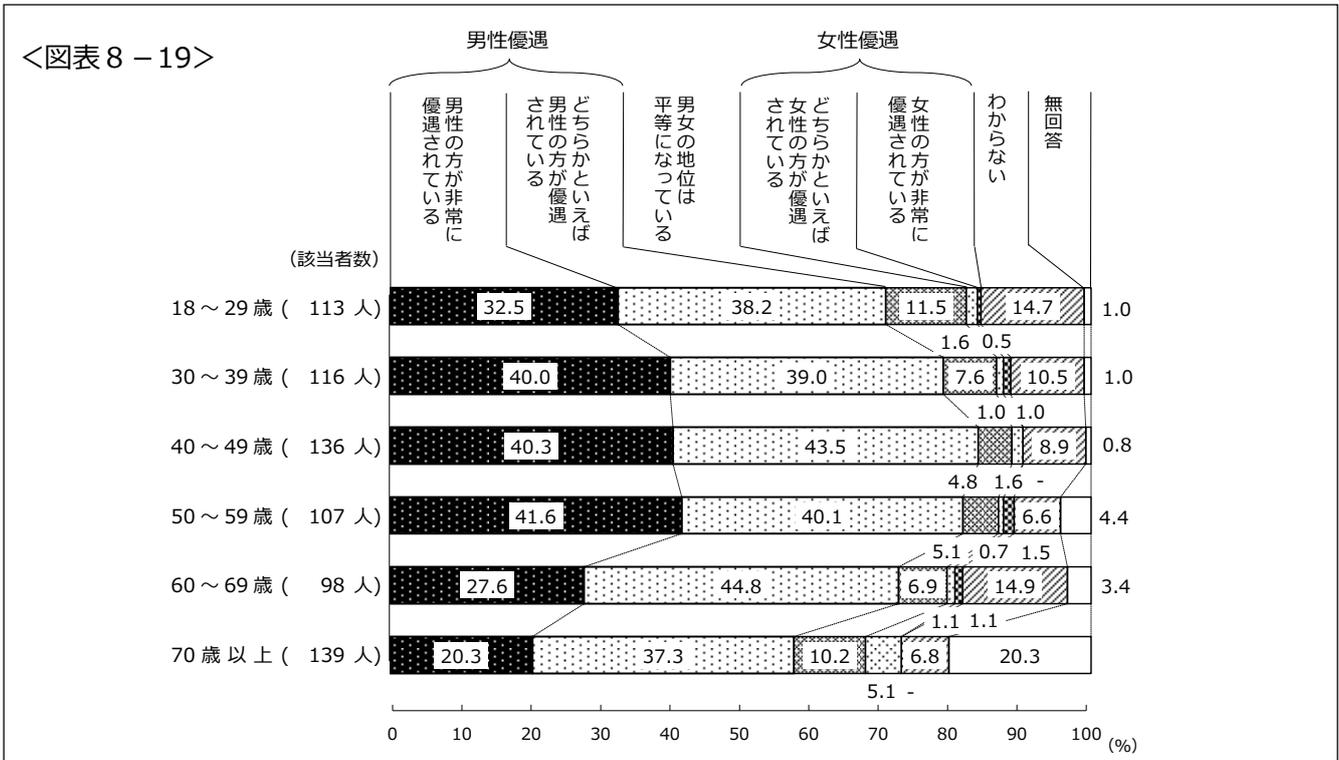
また、「男女の地位は平等になっている」は7.6%となっている。

性別にみると、「男性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、女性が79.1%、男性が67.5%で、女性が男性を11.6ポイント上回っている。「男女の地位は平等になっている」の割合は、女性が3.9%、男性が12.8%で、男性が女性を8.9ポイント上回っている。「女性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、女性が0.4%、男性が5.5%で、男性が女性を5.1ポイント上回っている。

男女ともに「男性の方が優遇されている」と思っており、特に女性では「男性の方が非常に優遇されている」と思っている人が4割近くになっている。

【年齢別】

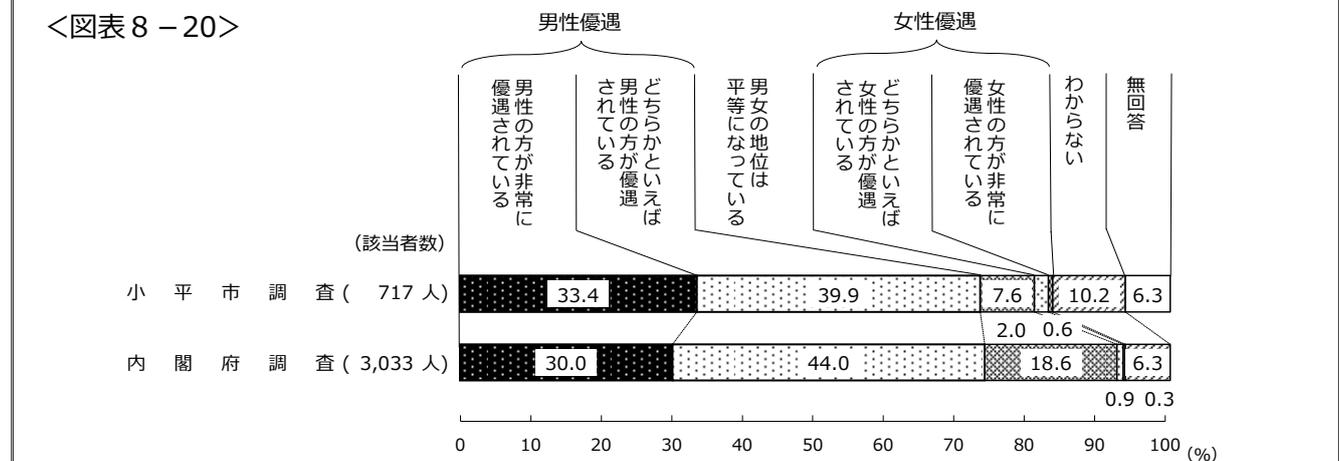
政治での男女の地位について年齢別にみると、「男性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、40歳代で83.8%と最も高く、70歳以上で57.6%と最も低くなっている。「男女の地位は平等になっている」の割合は、29歳以下で11.5%と最も高く、40歳代で4.8%と最も低くなっている。「女性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、70歳以上で5.1%と最も高く、40歳代で1.6%と最も低くなっている。



「内閣府調査との比較」

内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成24年10月)と比較してみると、小平市調査では「男女の地位は平等になっている」の割合が内閣府調査よりも11.0ポイント低くなっている。

<図表 8-20>



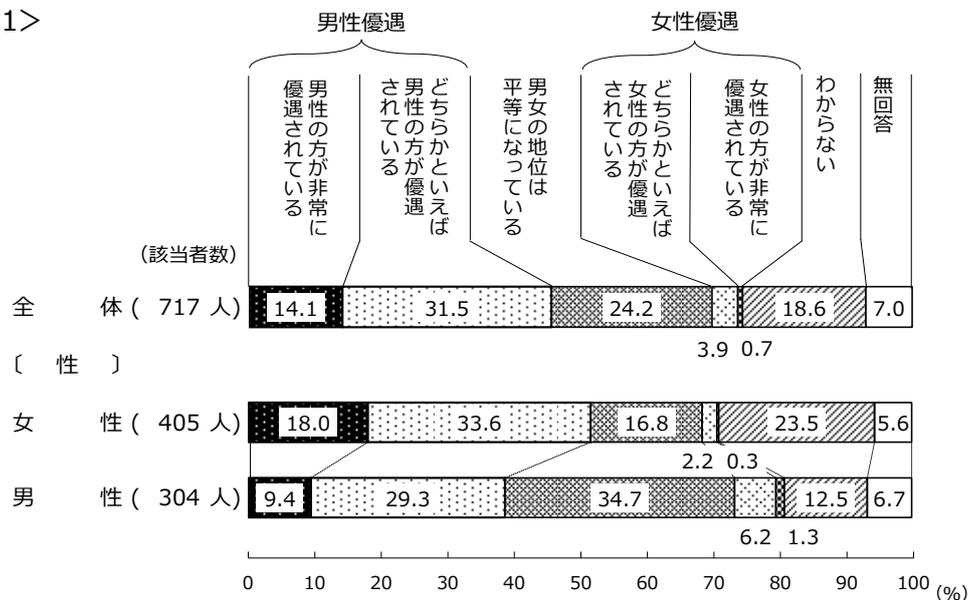
(6) 法律や制度での男女の地位

◇ 男性優遇 45.6%、女性優遇 4.6%

問27 あなたは次の(1)～(8)にあがるような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

(6) 法律や制度

<図表8-21>



法律や制度での男女の地位については、「男性の方が優遇されている」45.6%（「男性の方が非常に優遇されている」14.1%+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」31.5%）が、「女性の方が優遇されている」4.6%（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」3.9%+「女性の方が非常に優遇されている」0.7%）を41.0ポイント上回っている。

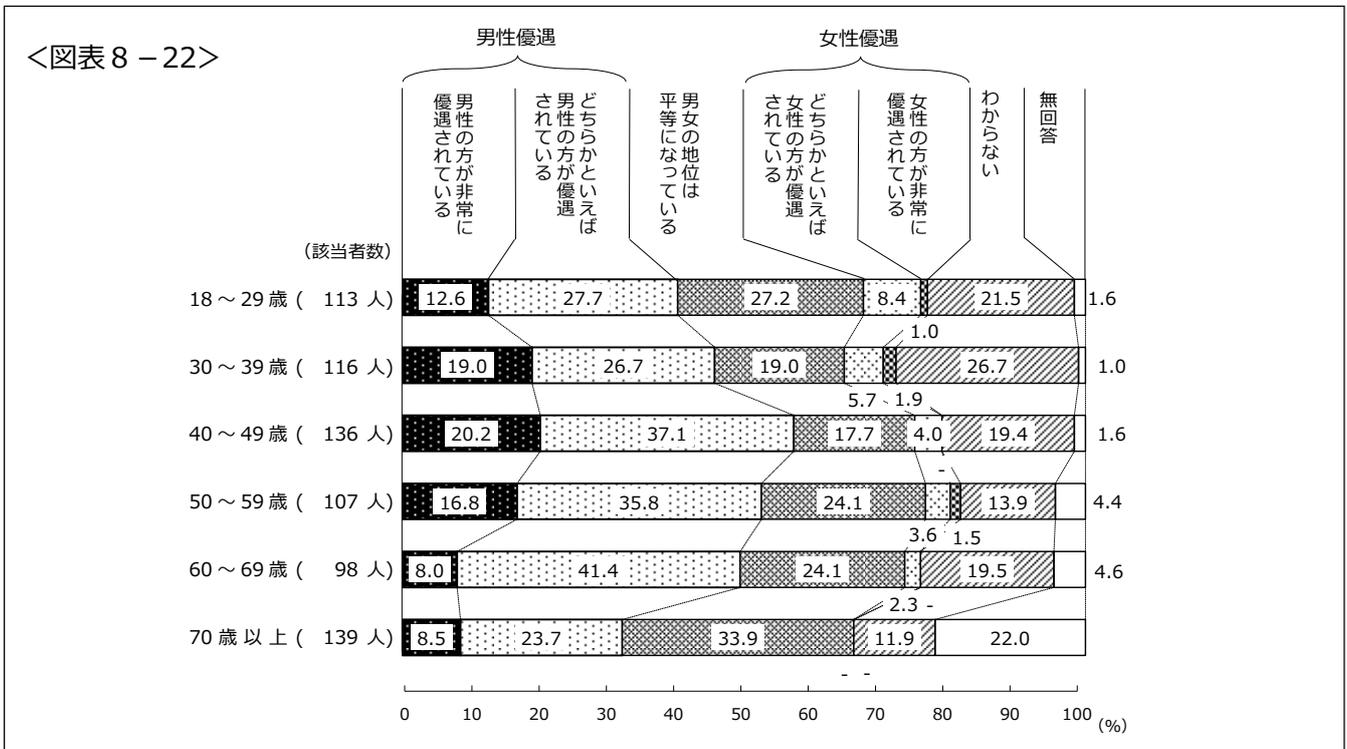
また、「男女の地位は平等になっている」は24.2%となっている。

性別にみると、「男性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、女性が51.6%、男性が38.7%で、女性が男性を12.9ポイント上回っている。「男女の地位は平等になっている」の割合は、女性が16.8%、男性が34.7%で、男性が女性を17.9ポイント上回っている。「女性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、女性が2.5%、男性が7.5%で、男性が女性を5.0ポイント上回っている。

女性では半数の人が「男性の方が優遇されている」と思っており、「男女の地位は平等になっている」と思っている人は2割以下である。一方、男性では3割を超える人が「男女の地位は平等になっている」と思っており、男女の差が表れている。

【年齢別】

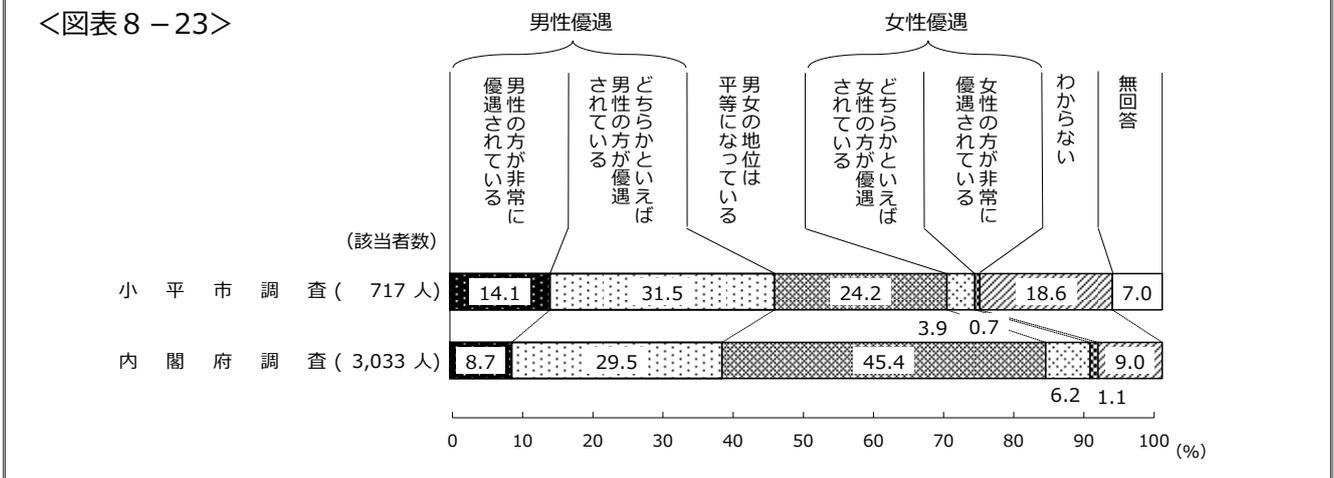
法律や制度での男女の地位について年齢別にみると、「男性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、40歳代で57.3%と最も高く、70歳以上で32.2%と最も低くなっている。「男女の地位は平等になっている」の割合は、70歳以上で33.9%と最も高く、40歳代で17.7%と最も低くなっている。「女性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、29歳以下で9.4%と最も高く、70歳以上で回答者なしとなっている。



◀内閣府調査との比較▶

内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成24年10月)と比較してみると、小平市調査では「男女の地位は平等になっている」の割合が内閣府調査よりも21.2ポイント低くなっている。

<図表 8-23>



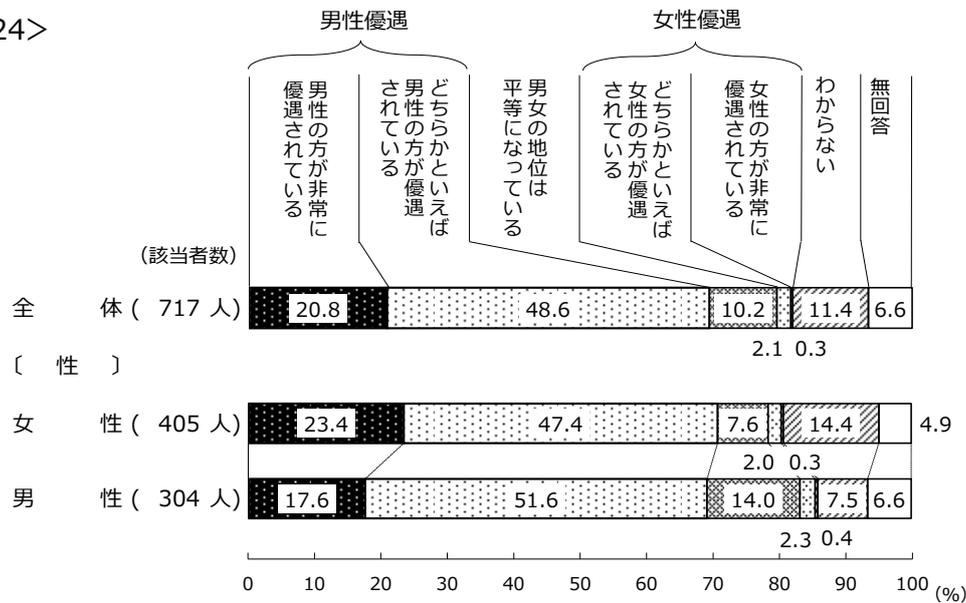
(7) 社会通念・慣習・しきたりでの男女の地位

◇ 男性優遇 69.4%、女性優遇 2.4%

問27 あなたは次の(1)～(8)にあがるような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

(7) 社会通念・慣習・しきたり

<図表8-24>



社会通念・慣習・しきたりでの男女の地位については、「男性の方が優遇されている」が69.4%（「男性の方が非常に優遇されている」20.8%+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」48.6%）と7割近く、「女性の方が優遇されている」2.4%（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」2.1%+「女性の方が非常に優遇されている」0.3%）を大きく上回っている。

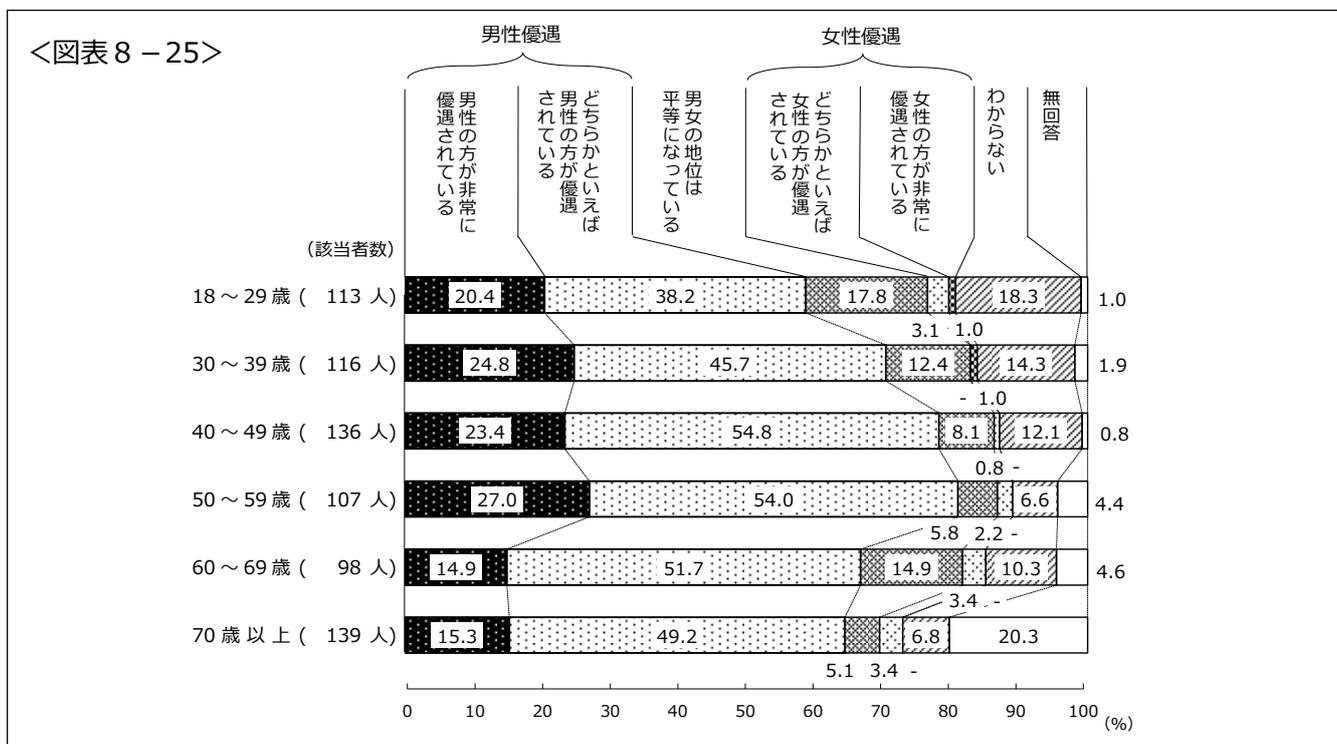
また、「男女の地位は平等になっている」は10.2%となっている。

性別にみると、「男性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、女性が70.8%、男性が69.2%で、女性が男性を1.6ポイント上回っている。「男女の地位は平等になっている」の割合は、女性が7.6%、男性が14.0%で、男性が女性を6.4ポイント上回っている。「女性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、女性が2.3%、男性が2.7%で、男性が女性を0.4ポイント上回っている。

男女ともに7割前後の人が「男性の方が優遇されている」と思っていることがわかる。

【年齢別】

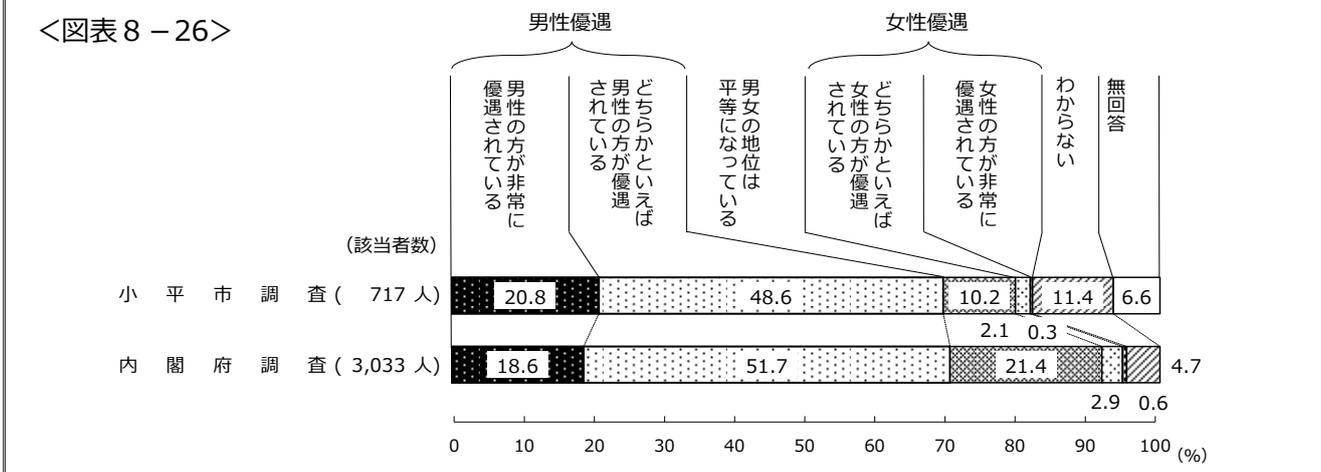
社会通念・慣習・しきたりでの男女の地位について年齢別にみると、「男性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、50歳代で81.0%と最も高く、29歳以下で58.6%と最も低くなっている。「男女の地位は平等になっている」の割合は、29歳以下で17.8%と最も高く、70歳以上で5.1%と最も低くなっている。「女性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、29歳以下で4.1%と最も高く、40歳代で0.8%と最も低くなっている。



「内閣府調査との比較」

内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成24年10月)と比較してみると、小平市調査では「男女の地位は平等になっている」の割合が内閣府調査よりも11.2ポイント低くなっている。

<図表 8-26>



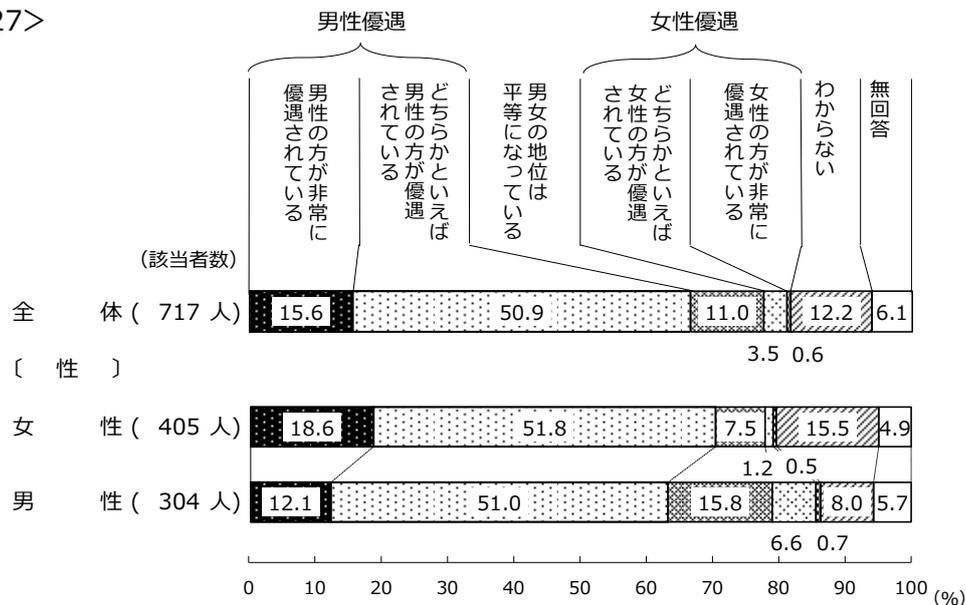
(8) 社会全体での男女の地位

◇ 男性優遇 66.5%、女性優遇 4.1%

問27 あなたは次の(1)～(8)にあがるような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

(8) 社会全体

<図表8-27>



社会全体での男女の地位については、「男性の方が優遇されている」が66.5%（「男性の方が非常に優遇されている」15.6%+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」50.9%）と6割を超え、「女性の方が優遇されている」4.1%（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」3.5%+「女性の方が非常に優遇されている」0.6%）を大きく上回っている。

また、「男女の地位は平等になっている」は11.0%となっている。

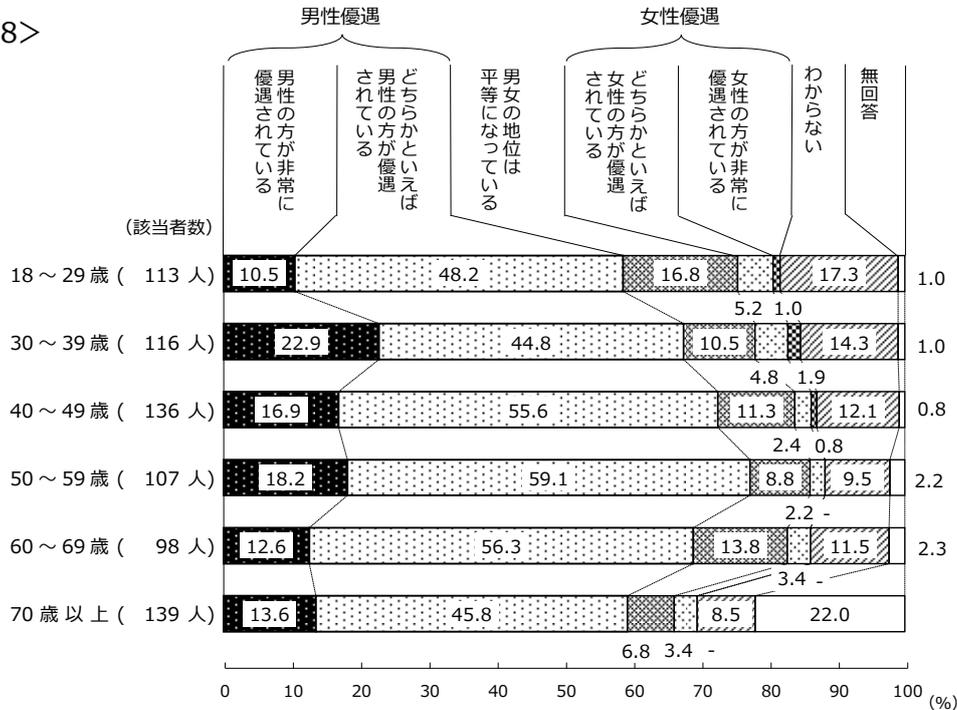
性別にみると、「男性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、女性が70.4%、男性が63.1%で、女性が男性を7.3ポイント上回っている。「男女の地位は平等になっている」の割合は、女性が7.5%、男性が15.8%で、男性が女性を8.3ポイント上回っている。「女性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、女性が1.7%、男性が7.3%で、男性が女性を5.6ポイント上回っている。

男女ともに6割以上の方が「男性の方が優遇されている」と思っていることがわかる。

【年齢別】

社会全体での男女の地位について年齢別にみると、「男性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、50歳代で77.3%と最も高く、29歳以下で58.7%と最も低くなっている。「男女の地位は平等になっている」の割合は、29歳以下で16.8%と最も高く、70歳以上で6.8%と最も低くなっている。「女性の方が優遇されている」と思っている人の割合は、30歳代で6.7%と最も高く、50歳代で2.2%と最も低くなっている。

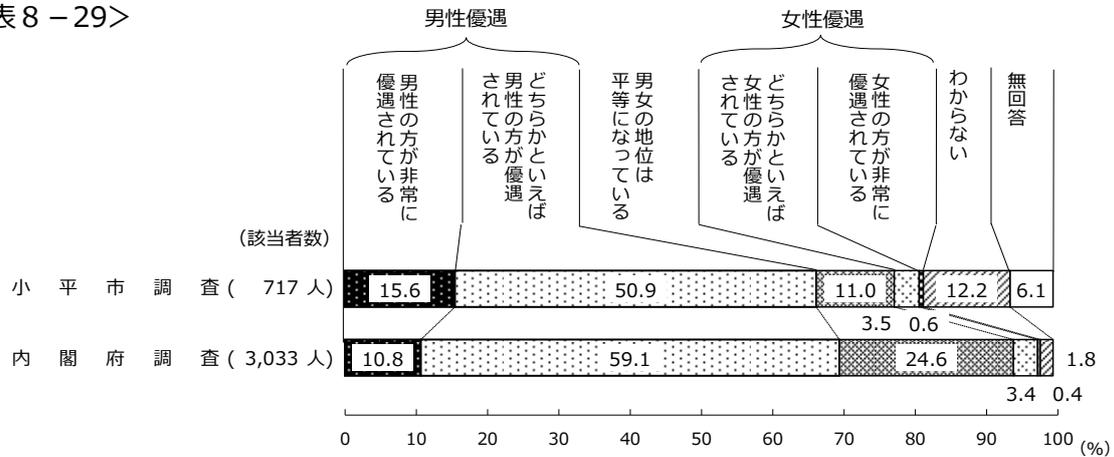
<図表 8-28>



<内閣府調査との比較>

内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成24年10月)と比較してみると、小平市調査では「男女の地位は平等になっている」の割合が内閣府調査よりも13.6ポイント低くなっている。

<図表 8-29>

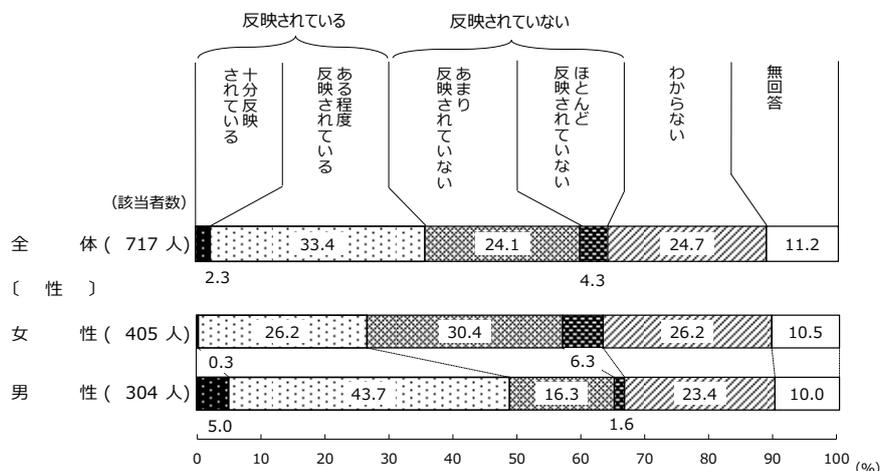


8-3 行政に女性の意見が反映されているか

◇ 反映されている 35.7%、反映されていない 28.4%

問 2 8 あなたは、行政に女性の意見がどの程度反映されていると思いますか。あてはまる番号 1 つに ○をつけてください。(○は 1 つ)

<図表 8-30>



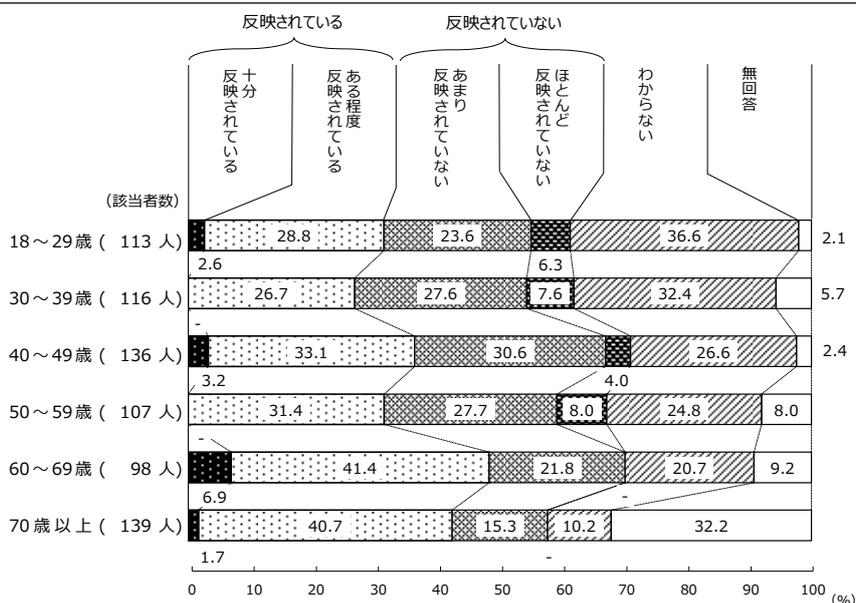
行政に女性の意見が反映されているかについては、「反映されている」35.7%（「十分反映されている」2.3%+「ある程度反映されている」33.4%）が、「反映されていない」28.4%（「あまり反映されていない」24.1%+「ほとんど反映されていない」4.3%）を 7.3 ポイント上回っている。

性別にみると、「反映されている」と思っている人の割合は、女性が 26.5%、男性が 48.7%で、男性が女性を 22.2 ポイント上回っている。「反映されていない」と思っている人の割合は、女性が 36.7%、男性が 17.9%で、女性が男性を 18.8 ポイント上回っている。

【年齢別】

年齢別にみると、「反映されている」と思っている人の割合は 60 歳代で 48.3%と最も高く、30 歳代で 26.7%と最も低くなっている。「反映されていない」と思っている人の割合は 50 歳代で 35.7%と最も高く、70 歳以上で 15.3%と最も低くなっている。

<図表 8-31>

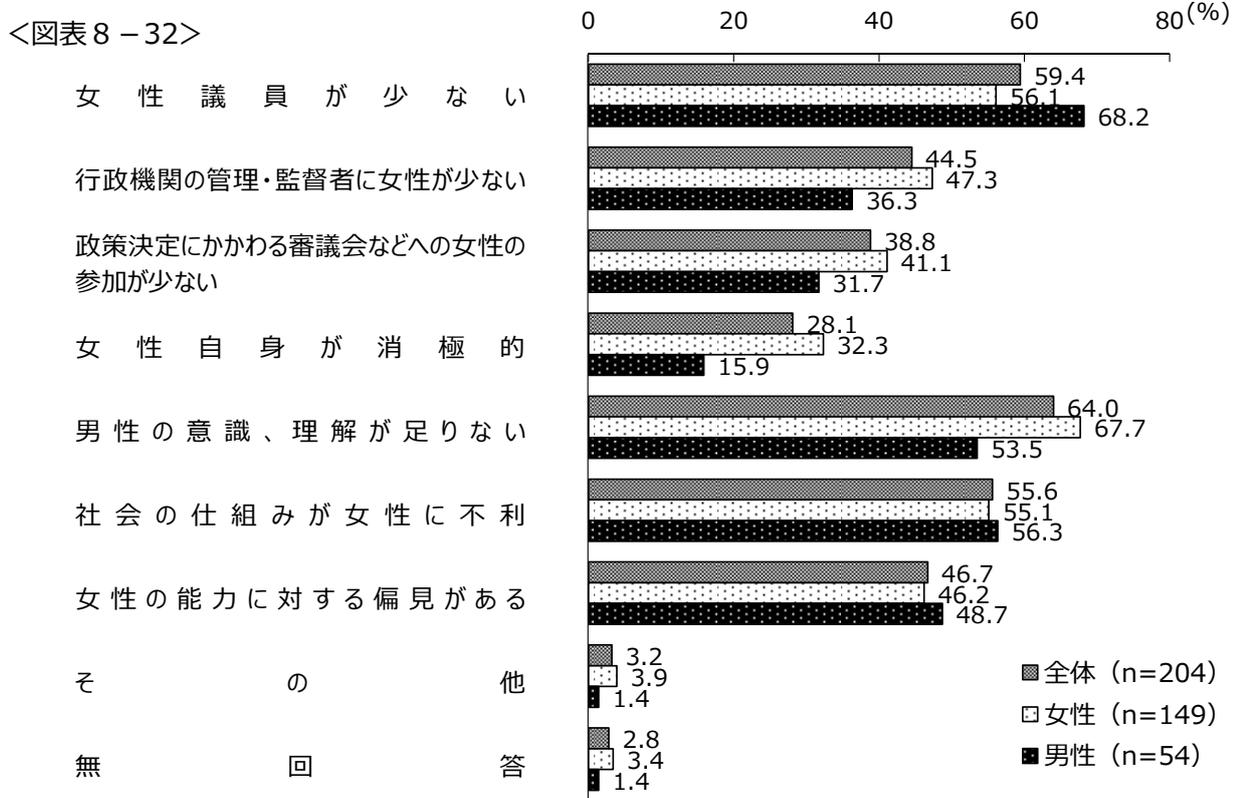


8-3-1 女性の意見が行政に反映されていないと思う理由

◇ 「男性の意識、理解が足りない」64.0%、「女性議員が少ない」59.4%

問28-1 反映されていない理由は何だと思えますか。

あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



行政に女性の意見が反映されていないと答えた人（204人）の、その理由については、「男性の意識、理解が足りない」が64.0%で最も多く、次いで「女性議員が少ない」が59.4%、「社会の仕組みが女性に不利」が55.6%、「女性の能力に対する偏見がある」が46.7%、「行政の管理・監督者に女性が少ない」が44.5%となっている。（複数回答、上位5項目）

性別にみると、女性では「男性の意識、理解が足りない」の回答が最も多く67.7%、男性では「女性議員が少ない」の回答が最も多く68.2%となっている。

「男性の意識、理解が足りない」の回答は、女性が67.7%、男性が53.5%で、女性が14.2ポイント、「行政機関の管理・監督者に女性が少ない」の回答は女性が47.3%、男性が36.3%で、女性が11.0ポイント、「政策決定にかかわる審議会などへの女性の参加が少ない」の回答は女性が41.1%、男性が31.7%で、女性が9.4ポイント、「女性自身が消極的」の回答は、女性が32.3%、男性が15.9%で、女性が16.4ポイント、それぞれ男性を上回っている。

一方、「女性議員が少ない」の回答は、女性が56.1%、男性が68.2%で、男性が女性を12.1ポイント上回っている。

【年齢別】

行政に女性の意見が反映されていない理由について年齢別にみると、「男性の意識、理解が足りない」の回答は、29歳以下で63.2%、30歳代で67.6%、40歳代で60.5%、70歳以上で77.8%、「女性議員が少ない」の回答は、50歳代で69.4%、60歳代で57.9%、「社会の仕組みが女性に不利」の回答は、60歳代で57.9%、70歳以上で77.8%と、それぞれ最も多く挙げられている。

「女性議員が少ない」の回答は、50歳代で最も多く、40歳代の51.2%を18.2ポイント上回っている。

「男性の意識、理解が足りない」の回答は、70歳以上で最も多く、60歳代では3位の47.4%を30.4ポイント上回っている。

「社会の仕組みが女性に不利」の回答は、70歳以上で最も多く、40歳代では4位の41.9%を35.9ポイント上回っている。

<図表8-33>

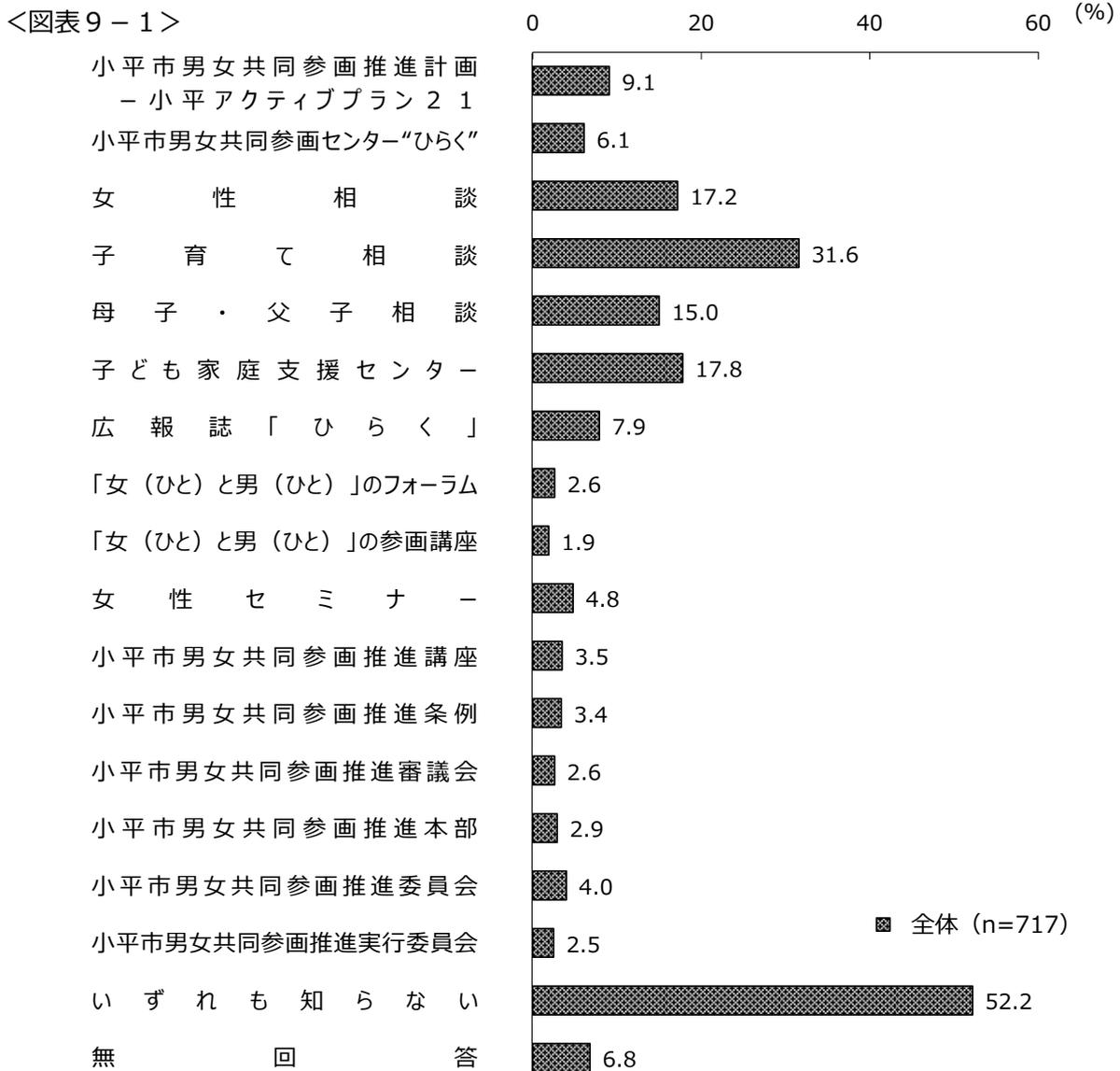
	1位	2位	3位
18 ~ 29 歳	男性の意識、理解が足りない (63.2%)	女性議員が少ない／女性の能力に対する偏見がある (59.6%)	
30 ~ 39 歳	男性の意識、理解が足りない (67.6%)	社会の仕組みが女性に不利 (62.2%)	女性議員が少ない (56.8%)
40 ~ 49 歳	男性の意識、理解が足りない (60.5%)	女性議員が少ない (51.2%)	女性の能力に対する偏見がある (44.2%)
50 ~ 59 歳	女性議員が少ない (69.4%)	男性の意識、理解が足りない (67.3%)	行政機関の管理・監督者に女性が少ない／社会の仕組みが女性に不利 (59.2%)
60 ~ 69 歳	女性議員が少ない／社会の仕組みが女性に不利 (57.9%)		政策決定にかかわる審議会などへの女性の参加が少ない／男性の意識、理解が足りない (47.4%)
70 歳 以 上	男性の意識、理解が足りない／社会の仕組みが女性に不利 (77.8%)		女性議員が少ない／政策決定にかかわる審議会などへの女性の参加が少ない (66.7%)

9 小平市の男女共同参画に関する施策について

9-1 市で取り組んでいる男女共同参画施策の認知度

◇ 「いずれも知らない」52.2%、「子育て相談」31.6%

問29 あなたは、小平市で取り組んでいる下記にあげる男女共同参画施策を知っていますか。
 あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



小平市で取り組んでいる男女共同参画施策の認知度については、「子育て相談」が31.6%で最も多く、次いで「子ども家庭支援センター」が17.8%、「女性相談」が17.2%、「母子・父子相談」が15.0%となっている。(複数回答、上位4項目)

なお、「いずれも知らない」が52.2%となっている。

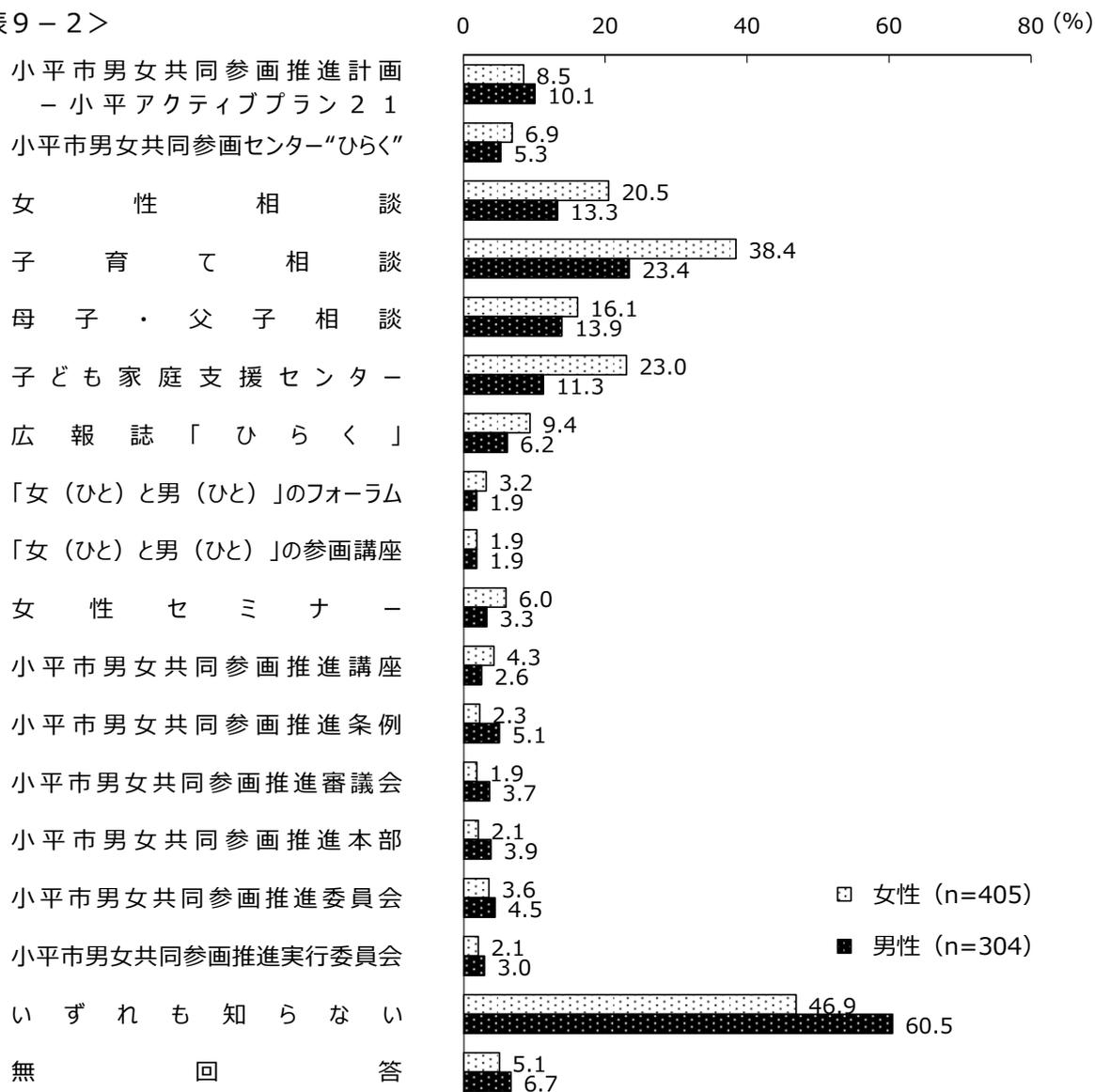
【性別】

小平市で取り組んでいる男女共同参画施策の認知度について性別にみると、男女ともに「子育て相談」の回答が最も多く、女性が38.4%、男性が23.4%で、女性が男性を15.0ポイント上回っている。

「子ども家庭支援センター」の回答は、女性が23.0%、男性が11.3%で、女性が男性を11.7ポイント上回っている。

「いずれも知らない」の回答は、女性が46.9%、男性が60.5%で、男性が女性を13.6ポイント上回っている。

<図表9-2>



【年齢別】

小平市で取り組んでいる男女共同参画施策の認知度について年齢別にみると、全ての年齢で「子育て相談」が最も多く挙げられており、50歳代で43.1%と最も多く、最も低い29歳以下の15.2%と比べて27.9ポイント上回っている。

「子ども家庭支援センター」の回答は、60歳代で24.1%、70歳以上で18.6%となっている。

「母子・父子相談」の回答は、50歳代で23.4%、60歳代で21.8%となっている。

なお、「いずれも知らない」の回答は40歳代以下で5割以上となっているが、特に29歳以下で73.3%と多くなっている。

<図表9-3>

	1位	2位	3位	いずれも知らない
18 ~ 29 歳	子育て相談 (15.2%)	子ども家庭支援センター (12.0%)	女性相談 (11.0%)	73.3%
30 ~ 39 歳	子育て相談 (34.3%)	女性相談 (17.1%)	母子・父子相談 (13.3%)	55.2%
40 ~ 49 歳	子育て相談 (34.7%)	女性相談 (18.5%)	子ども家庭支援センター (16.1%)	59.7%
50 ~ 59 歳	子育て相談 (43.1%)	母子・父子相談 (23.4%)	女性相談 (20.4%)	44.5%
60 ~ 69 歳	子育て相談 (36.8%)	子ども家庭支援センター (24.1%)	母子・父子相談 (21.8%)	48.3%
70 歳 以 上	子育て相談 (28.8%)	子ども家庭支援センター (18.6%)	女性相談 (16.9%)	35.6%

【地域別】

小平市で取り組んでいる男女共同参画施策の認知度について地域別にみると、東西両地域で「子育て相談」が最も多く挙げられており、西地域では34.8%、東地域では30.2%となっている。次いで、西地域では「子ども家庭支援センター」が20.3%、「女性相談」が19.7%、東地域では「子ども支援センター」が16.5%、「母子・父子相談」が15.6%となっている。

なお、「いずれも知らない」の回答は、西地域で47.0%、東地域で58.6%となっている。

<図表9-4>

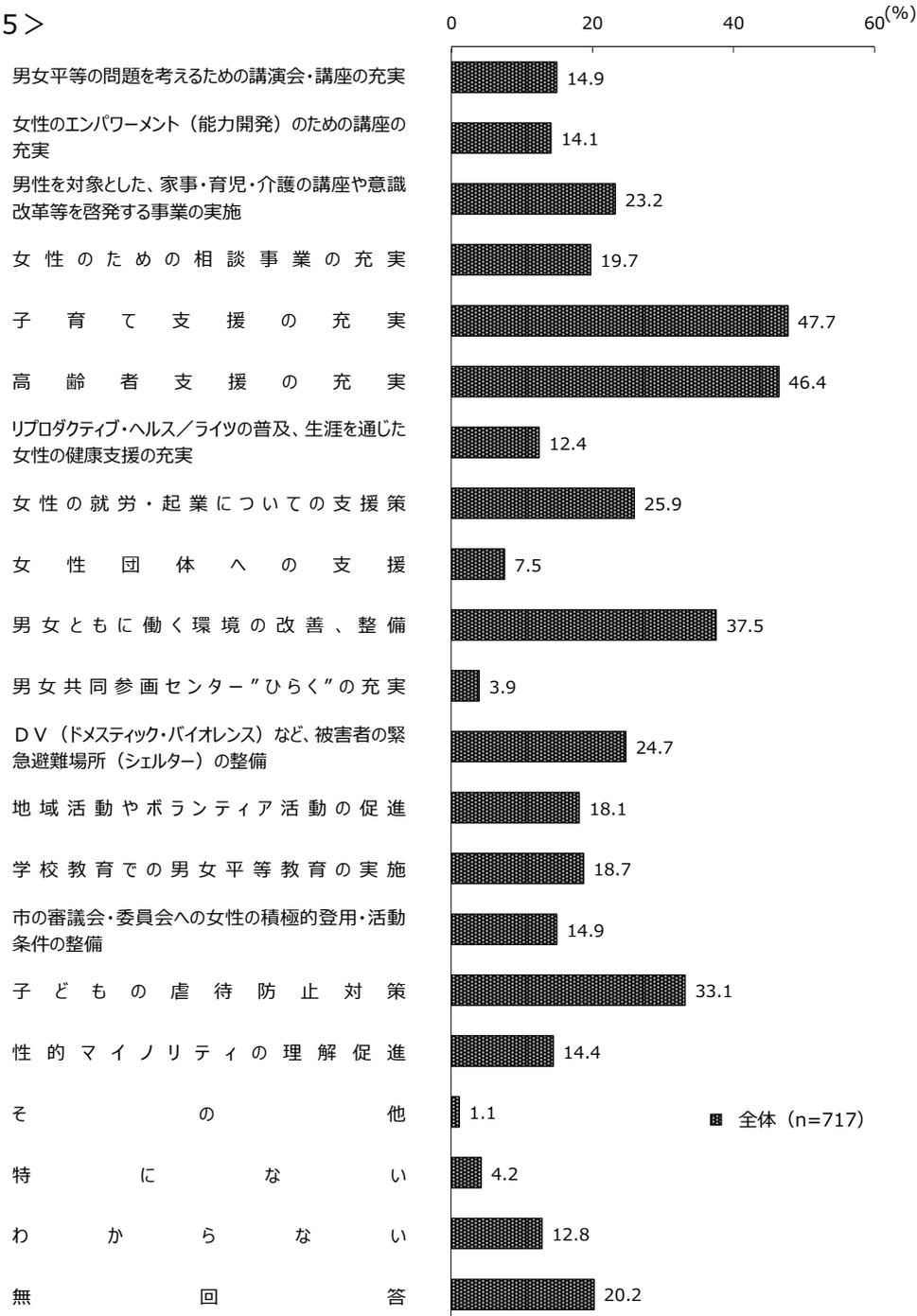
	1位	2位	3位	いずれも知らない
西	子育て相談 (34.8%)	子ども家庭支援センター (20.3%)	女性相談 (19.7%)	47.0%
東	子育て相談 (30.2%)	子ども家庭支援センター (16.5%)	母子・父子相談 (15.6%)	58.6%

9-2 小平市が力を入れるべき男女共同参画施策

◇ 「子育て支援の充実」47.7%、「高齢者支援の充実」46.4%

問30 あなたは、男女共同参画社会の実現に向けて、今後、小平市ではどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

<図表9-5>



小平市が力を入れるべき男女共同参画施策については、「子育て支援の充実」が47.7%で最も多く、次いで「高齢者支援の充実」が46.4%、「男女ともに働く環境の改善、整備」が37.5%、「子どもの虐待防止対策」が33.1%となっている。（複数回答、上位4項目）

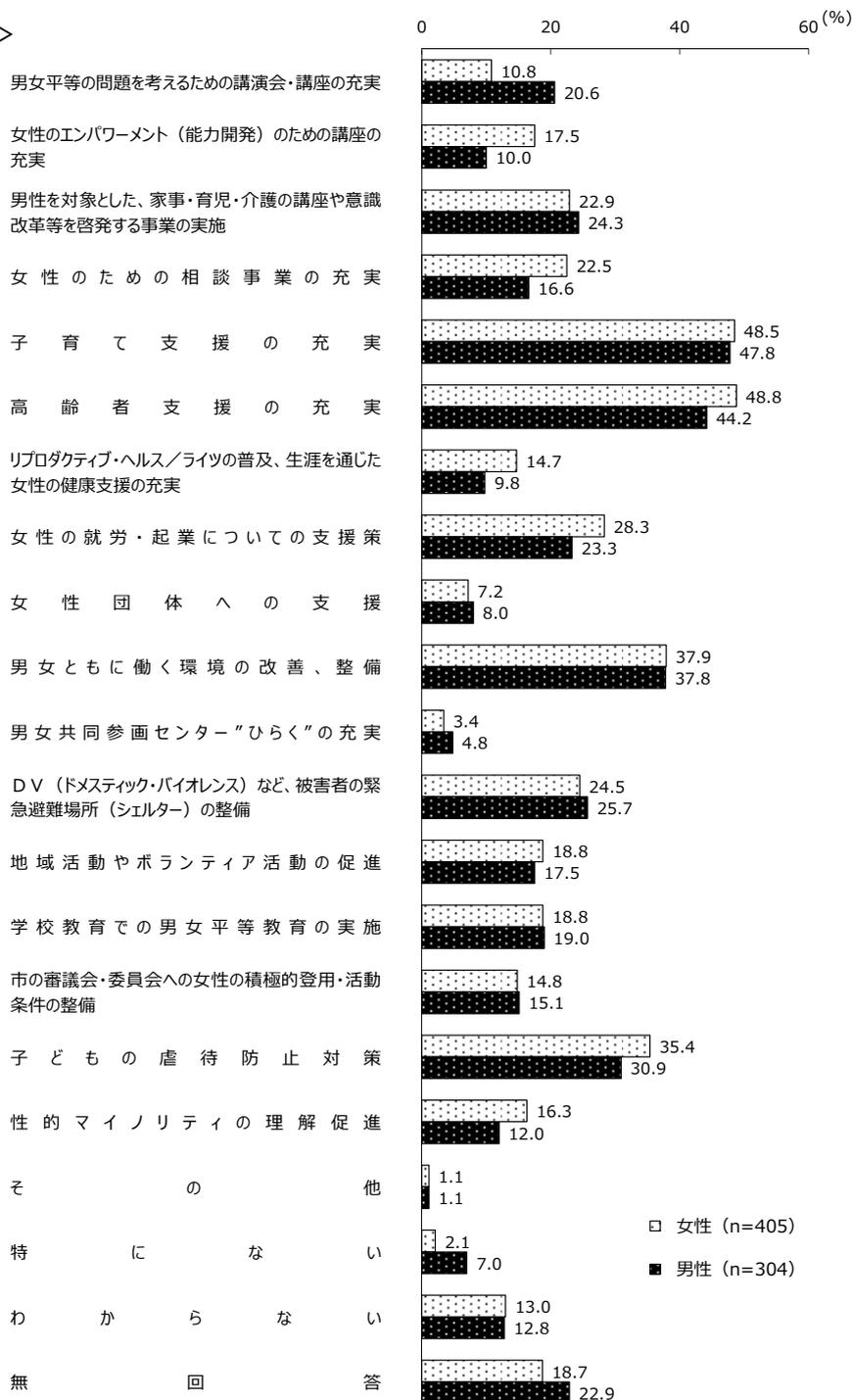
【性別】

小平市が力を入れるべき男女共同参画施策について性別にみると、女性では「高齢者支援の充実」が最も多く48.8%で、次いで「子育て支援の充実」が48.5%、「男女ともに働く環境の改善、整備」が37.9%となっている。男性では「子育て支援の充実」が47.8%で最も多く、次いで「高齢者支援の充実」が44.2%、「男女ともに働く環境の改善、整備」が37.8%となっている。

「男女平等の問題を考えるための講演会・講座の充実」の回答は、女性が10.8%、男性が20.6%で、男性が女性を9.8ポイント上回っている。

「女性のエンパワメント（能力開発）のための講座の充実」の回答は、女性が17.5%、男性が10.0%で、女性が男性を7.5ポイント上回っている。

<図表9-6>



【年齢別】

小平市が力を入れるべき男女共同参画施策について年齢別にみると、30歳代以下では「子育て支援の充実」が最も多く挙げられており、40歳代以上では「高齢者支援の充実」が最も多く挙げられている。次いで挙げられている項目は、30歳代以下では「高齢者支援の充実」、40歳代以上では「子育て支援の充実」となっており、40歳代を境に希望することの順位が逆転していることが分かる。

「男女ともに働く環境の改善、整備」の回答は、29歳以下で42.4%、50歳代で42.3%と多くなっている。

「子どもの虐待防止対策」の回答は、29歳以下で36.1%、40歳代で37.1%、50歳代で35.8%となっている。

「DV（ドメスティック・バイオレンス）など、被害者の緊急避難場所（シェルター）の整備」の回答は29歳以下で30.9%、30歳代で33.3%、50歳代で34.3%と多くなっている。

<図表9-7>

	1位	2位	3位	4位	5位
18 ~ 29 歳	子育て支援の充実 (57.1%)	高齢者支援の充実／男女ともに働く環境の改善、整備 (42.4%)		子どもの虐待防止対策 (36.1%)	DV（ドメスティック・バイオレンス）など、被害者の緊急避難場所（シェルター）の整備 (30.9%)
30 ~ 39 歳	子育て支援の充実 (48.6%)	高齢者支援の充実 (37.1%)	男女ともに働く環境の改善、整備 (36.2%)	DV（ドメスティック・バイオレンス）など、被害者の緊急避難場所（シェルター）の整備 (33.3%)	子どもの虐待防止対策 (30.5%)
40 ~ 49 歳	高齢者支援の充実 (49.2%)	子育て支援の充実 (46.8%)	男女ともに働く環境の改善、整備 (39.5%)	子どもの虐待防止対策 (37.1%)	男性を対象とした、家事・育児・介護の講座や意識改革等を啓発する事業の実施 (25.8%)
50 ~ 59 歳	高齢者支援の充実 (56.2%)	子育て支援の充実 (51.8%)	男女ともに働く環境の改善、整備 (42.3%)	子どもの虐待防止対策 (35.8%)	DV（ドメスティック・バイオレンス）など、被害者の緊急避難場所（シェルター）の整備 (34.3%)
60 ~ 69 歳	高齢者支援の充実 (48.3%)	子育て支援の充実 (40.2%)	男女ともに働く環境の改善、整備 (32.2%)	子どもの虐待防止対策 (27.6%)	学校教育での男女平等教育の実施 (18.4%)
70 歳 以上	高齢者支援の充実 (47.5%)	子育て支援の充実 (44.1%)	男女ともに働く環境の改善、整備／地域活動やボランティア活動の促進 (33.9%)		子どもの虐待防止対策 (32.2%)

【地域別】

小平市が力を入れるべき男女共同参画施策について地域別にみると、西地域では「子育て支援の充実」の回答が 51.0%で最も多くなっており、東地域では「高齢者支援の充実」の回答が 48.3%で最も多くなっている。次いで挙げられている項目は、西地域で「高齢者支援の充実」、東地域では「子育て支援の充実」となっており、東西で希望することの順位が逆転している。

「男女ともに働く環境の改善、整備」の回答は、西地域で 38.9%、東地域で 37.8%となっている。

「子どもの虐待防止対策」の回答は、西地域で 37.0%、東地域で 31.6%と、西地域が東地域よりも 5.4 ポイント多くなっている。

<図表 9 - 8 >

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
西	子育て支援の充実 (51.0%)	高齢者支援の充実 (46.8%)	男女ともに働く環境 の改善、整備 (38.9%)	子どもの虐待防止 対策 (37.0%)	女性の就労・起業 についての支援策 (29.3%)
東	高齢者支援の充実 (48.3%)	子育て支援の充実 (47.1%)	男女ともに働く環境 の改善、整備 (37.8%)	子どもの虐待防止 対策 (31.6%)	DV（ドメスティック・バイオレンス）など、被害者の緊急避難場所（シェルター）の整備 (27.9%)

意見・要望（自由記述）

男女平等に関する啓発・教育の促進

1 男らしさ、女らしさ・それぞれの特性・性差

- 性差があるので、全てにおいて男女平等である必要はない。しかし、男女ともに仕事をする事、家庭で活躍すること、どちらにも力を入れること、どれもが正しく、何を選んでも認められて支援される社会が望ましい。
- 子育て、介護支援が充実すれば働きやすくなり、生活しやすくなると思う。男女平等というより、それぞれが認め合い尊重すれば、声高に平等と言わなくとも、自然な社会になると思う。相手を尊重し、気持ちに寄り添えるような家庭環境が大切。そのためには、子育ての段階から余裕を持てるよう社会が支援する必要があると思う。
- 男女の差別をなくす…という考えはできそうでできない課題の一つです。全く同じようにはできない。それぞれの特徴をお互いの欠点として認識してしまう事により、「だから女は駄目」と思われている。また、男性は自信のない所を見せたくないのについ自分を大きく見せようとし、女性の能力を軽視したりする。本当は差別なく平等にしたいところだが、それを現実化しようとする、偉い男の人は反対するので上手く行きません。それは「男社会」が今の日本の現実で、女の人が騒ぐと「まあまあ…」と言ってまともに取り合おうとしないからです。ウーマンリブが復活すると少し変わるかも…と思います。でも、女性でも役職について疲れるのなら、このまま爪を隠して嫁に行こうという人も多い。男社会の中で戦うなんてムリと諦めている人も多いので、世の中は「革新的に変化する」なんて事はなさそうです。
- 男女は平等だと思いますかという質問が出る社会が先進国として、まずおかしいという意識があったほうが良いのでは？結婚や出産は個人の問題なので他人が口をはさむことではないと思うけれど、産みたくても産めない人の為に仕事や保育所などを整えるのは良いことだと思う。産まれた子どもが安全な社会で大人になれるように、守ることも考えてほしい（子どもへの性犯罪の罪を重くするとか）。
- 女性のみが家事・育児・介護をするのは平等ではないような内容だが、専業主婦を自分で選択している人もいる。好きで主婦をし、家の中の仕事をしている方々が理解され、認められるような社会になってほしい。世の中で一番大変で尊い仕事は主婦業だと私は思っている。
- 私は子ども2人を育てる専業主婦です。男女平等は望ましい事ですが、男の人が子どもを産めないように母親でなければ出来ない事は沢山あると思う。特に子どもは母親が働き家を留守にする事など望んでいないと思う。女性の自立や職場での支援が最近が多いが、子育て中の母親を子どもから奪うように感じられいつも寂しく思っている。もっと母親が働かなくてもいいような考えを持ってほしい。我が家も家計に余裕はありませんが、子どもの成長をしっかりと見届けたいと思ってなんとかやりくりしている。保育園ばかり建てられているのを見ると、もっと子育てを頑張っている母親達の事も考えてほしいと思う。東村山市のころころの森（子育て総合支援センター）や武蔵野市の0123（乳幼児とその親を対象とした子育て支援施設）のような施設が小平にも必要だと思う。
- 社会、地域、職場の意識が変わっていても、一番身近な、夫、義理の両親、親せき等の意識が変わってくれないと、いつまでたっても嫁はその集団に押しつぶされてしまうと思う。特に高齢者の多い

地域では、子どもに頼らないという意識をもたない限り、婚姻関係がある限り、嫁という1人の女性に全ての不担を強いていくしきたりがある。子どもは結婚しても、出産しても、親はまだ必要とあらば手を貸したいが、義両親は元気であっても、楽になりたくて、嫁を強制的に自分達の方へ向かせようとする。もっと自立をその地域から促してほしい。嫁の仕事は、いつでも辞めて当然の扱いである。自分達の方が（老人）大事と、当然のように言われてしまう。

- 男女共同参画って何？そもそも性別、年齢関係なく、できる立場の人が社会資源を利用し、生活の役割を負えばいいだけのことではないでしょうか。現実には人も社会も、その意識が低いということですかね。世の中全て流動的。その都度、変わっていく（変えていく）しかないと思う。
- 受け皿はずい分充実してきたと思う。男女の参画が進むよう、本人や家族が自分の生活バランスを自分なりに“決めていく”事が必要と考える。又、人それぞれの生活スタイルを柔軟に理解し「よし」と考える周囲の認める目も必要だと思う。このような調査を、これからもどんどん行ってほしい。市民の意識づくりにぜひ役立てて下さい。
- 男女とも、お互いに良さがあると思うので、どんな時にも協力し合える、思い合える気持ちを持ちつづけることが、生活を質の良いものにしていけるということだと思う。災害、地震など、地域の家族同士の協力体制などにも市民意識を持って、小平市と一緒にがんばりたいと思っている。
- 男子は男子、女子は女子、それぞれ異なる特性を持っているのだから、それらの違いを受け入れ、活用していくことが今後の社会の発展につながると思う。私は、女性の地位向上にあまりに力を入れ過ぎると逆差別につながる、男女平等の実現から離れてしまうのではないかと考える。
- 男女平等のとらえ方がそもそも重要だと思う。何を以て平等とするか、男女の不得手、不向きを生かしつつその上で対等に意見を言えるようになればいい。身体的能力が違うのだから何もかも男性と同じようにする、できる＝平等ではないと思う。

2 男女平等教育の促進

- 男女参画問題は、全て教育から始まると思う。
- 男女平等に教育をという言葉を聞くが、先日、市の母親学級へ参加した際、参加している妊婦さん達が高齢で驚いた。小平市に限ったことではないが、女性も学歴が必要だと言われ、4年制の大学を勧め、卒業して少なくとも企業で3年働けば26歳を過ぎてしまう。その時に結婚を考えるようなパートナーがいればいいが、いなければ婚活や交際を経て結婚、妊娠となり、結局30歳を過ぎてしまうことになる。高齢出産のリスクを学校教育で教えてもいいのではないかと。経済的な問題など出産に踏み切れない方もいるとは思いますが、急に男女平等と説いていると高齢出産で負担がかかってしまうし、高齢が原因で子どもができにくくなってしまおうと、小平市の少子化にもつながると思う。
- 男だ女だと言っている間は、本当の平等意識を持った人は育ちにくいと思う。むしろ、人間としての教育や権利と責任、社会と個をしっかりと身につけさせる教育を重視し、その上で、性差による違いを理解し、思いやりの精神をはぐくむことが大切ではないか。昨今の女性尊重に傾重しすぎる安易な発想も、いかがなものかと思う。性別による差別なのか、能力差なのか、きちんと客観的に促えることのできる人が増えることが望まれる。男女ともに、表面的な平等を重視するあまり、仕事や家庭、子どもへの教育、しつけが無責任になり、甘えを助長する傾向が強くなっている気がする。人としてな

すべきことを身につける教育が望まれる。

3 就業、育児休業・介護休暇、労働条件

- 今の私の周りを見ると、20代～30代前半の夫婦は共働きが多く、家事・育児（保育園のお迎えなど）も平等に分担している家庭が多く感じる。30代後半になると、夫婦で働いていても家事・育児は女性が殆ど行なっている形が多く見られる。若い時からこういう形式でやってきたので今さら変える事が難しいのでしょうか…。うちで言えば主人は全く会社を休めません。有給もほぼ使えず、平日に家事や育児をする時間などありません。もっと国がきちんと実態を把握すべきです。
- 男性と女性との性差の問題も大切ですが、既婚女性と未婚女性との差別的な問題をかかえている職場もある。せっかく介護ヘルパーになったのに、私が未婚という理由で「この人は結婚していないから家事ができない」と利用者様の前で言われた時はショックでした。それから、私のヘルパーとしての仕事はかなり減ってしまった。これでは生活できないので、違う分野の仕事を探すしかないのかと思っている。どうか、まだ独身の女性を助けて下さい。
- ゆっくりではあるが、10年前よりも子育て支援は進んでいると思う。更に進めてほしい。
- 育児時間の取得を小学校低学年までとれる制度にしてほしい。
- 近年、少子高齢化が進んでいるため、福祉ももちろんですが、最も力を入れなければならないのは、やはり子育て支援だと思います。私の視点からだと、我が国の政治は数の多い高齢者が優遇され、その反面、教育など子どもに関することは後回しにされているように思えます。それが原因で少子化が進んでいることもあるのではないのでしょうか。是非とも子どもが少しでも増えるよう、対策していただけるとありがたい。
- 都心部まで働きに出ている。通勤に1日4時間程かかっている。地元小平で、充実して働ける仕事（育児や介護が必要になっても続けられるような仕事）があれば長時間通勤の時間を家事や自分・家族の時間に使えるのに…と思っている。女性の雇用、再就職がもっと充実してほしい。
- 女性が働きやすい環境づくりと政府は言っているが、今回の派遣法の改正で今まで同じ仕事につけていたのに3年ごとに業務を変えなくてはいけなくなると希望の職につけなくなる。今まで安定していたのに今後困る。選択肢がないのはおかしい。派遣社員も職場も両方困ることになり不安をかかえている。
- 職場環境（特に仕事内容）が、主に男性主体の所なため、女性優遇というのはほとんどなく、どんな就業でも男性とほぼ同じことをこなしていかななくてはならないので苦労している。このアンケートをとおして、知らないことが多いので改めて見直してみようと思った。
- 実際男女平等が望ましいと思っても女性は出産すると子ども中心にならざるを得ません。保育所が充実したとしても熱が出た！などですぐに呼びだされ、産休後職場の地位の維持をしつづけるのは非常に難しいと思う。私は独身で男性と肩を並べて仕事しているが、賃金には差があると思う。結婚して出産したら女性は子育てすべきで、職場復帰したとしても結局迷惑をかけることになるのでその地位に文句を言うべきではないです。働けるだけいいと思う。
- 私が子どもを育てた頃は、自営業の為0才から保育園に預ける程忙しかったので本当に助かった。過

ぎてしまうとあの頃が一番楽しかった。現在2人の娘達も保育園に預けて働いている。夫婦共働きは、女性の負担が多くてかわいそうです。

市の施策について

4 PR不足

- 意識・調査をまとめるだけに終わらず、市としてまず1つから、期限を決めて実行して下さい。他市が、やらないうちに、1歩リードしたい。個々にも、出来ることから頑張ります。
- 正直こういう計画や条例があった事を初めて知った。どの計画も、もっとわかりやすい表記にはならないものか。

5 少子化

- 日本は残念ながら、経済的にも下がる一方であるし、北欧のように人口が少なく天然資源が多い国でもない。多少は少子化が止まるかもしれないが、これ以上の発展は望めないと思う。ドイツでも少子化の波が止まらないし、イタリア、スペイン等は日本以上の少子化である。意識も重要だが賃金が上がらない、経済的な圧迫が改善しない限り、少子化は止まらないと思う。日本が経済的に豊かになるのはもうありえないだろうから、先ゆきは厳しく暗い。
- 日本の少子化が進んだ理由は、バブルがはじけ、男の稼ぎが悪くなり、女が働かないと夫婦で生計がたてられなくなり、子どもを育てる金が足りないから子どもを1~2人しか産まなくなったから。人間も動物。メスは子を産み育て、オスはメスのために食料を確保してくるのが普通である。もし少子化に歯止めをかけたいのなら、男尊女卑のほうがいいのかもしれない。男女平等な世界で子どもを増やすには、お金がたくさん必要。お金のない日本は、衰退していくしかない、何も期待していない。

6 保育

- 日曜日、祭日、軽い病気（微熱）の時に子どもを預かってくれる所がないとダメだと思う。サービス業など日曜、祭日も働いている人がいることをもっと意識しないといけない気がする。
- 保育園に出向いて、父母の生の声を聞くのがよいと思う。働いている父母で特に忙しい人ほど、声をあげられずにいると思う。また、正社員とパートや派遣と一緒に「働いている人」と分類しないようにしてほしい。だいぶ状況や考え方が違う。今後、正規雇用を増やしていくためにも、まず、正社員としてフルタイムで働いている人の声を聞いて下さい。
- シングルマザーの貧困をなんとかしたい。子どもを預ける場所の増加と、希望する保育所に入所できるようにしてほしい。

7 介護について

- 要介護の両親が二人で暮している。ケアマネジャーさんと相談しながらデイサービスなど利用し生活できているが、今後は心配なところだ。

IV 調查票

男女共同参画推進についての市民意識・実態調査

☆ 調査ご協力のお願い ☆

日頃から、市民の皆様には市政にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本市では平成19年に「小平市第二次男女共同参画推進計画 小平アクティブプラン 21」を策定し、また、平成20年10月1日に「小平市男女共同参画推進条例」を制定いたしました。

これらに基づき、男女共同参画社会の実現をめざして取り組んでまいりました。

このたび、「小平市第二次男女共同参画推進計画 小平アクティブプラン 21」の計画期間が平成28年度で満了となります。新たな計画策定に向け、市民の皆様の男女平等意識や男女共同参画の実態を把握し、今後の施策に反映させることを目的として、調査を実施いたします。

実施にあたりましては、住民基本台帳から無作為に18歳以上の男女2,000人を抽出して、調査をお願いすることになりました。

回答は無記名です。結果はすべて統計的に処理し、調査目的以外に使用することはありません。

ご多用のところ誠に恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただき、ぜひご回答にご協力をお願いいたします。

調査結果の公表は、平成28年1月下旬を予定しています。

平成27年9月

小平市長 小林 正則

《 ご記入にあたってのお願い 》

- ◇ お答えは、封筒の宛名のご本人がお答えください。
- ◇ お答えは、あてはまる回答の番号を○で囲んでください。
- ◇ 回答数は（ ）内の指示に従ってください。
- ◇ 「その他」にあてはまる場合は、お手数ですが（ ）内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
- ◇ 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印や「ことわり書き」をよくお読みください。
- ◇ ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、

9月28日(月)までに、ポストに投函してください。

※この調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

小平市 地域振興部 市民協働・男女参画推進課

電話 042-346-9618 (直通)

e-mail : kyodo-danjo@city.kodaira.lg.jp



家庭生活についてお聞きします

問1 あなたは、男女の仕事と家事・育児・介護の役割分担は、理想ではどうあるべきだと思いますか。
あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

- 1 男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担する
- 2 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が分担する
- 3 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する
- 4 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護は主に男性が分担する
- 5 女性が仕事、男性が家事・育児・介護を分担する
- 6 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はなるべく家事・育児・介護サービスを利用する
- 7 上記のどれにもあてはまらない
- 8 わからない

問2 それでは、あなたのご家庭では、実際には、仕事と家事・育児・介護の役割分担をどのようにしていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

- 1 男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担している
- 2 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が分担している
- 3 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担している
- 4 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護は主に男性が分担している
- 5 女性が仕事、男性が家事・育児・介護を分担している
- 6 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はなるべく家事・育児・介護サービスを利用している
- 7 上記のどれにもあてはまらない
- 8 わからない

問3 あなたの生活時間についてお聞きします。

(1) 平日の生活行動を次の8つに分けた場合、占める時間が長いものから3つ選び、回答欄に数字を記入してください。

※食事・睡眠など身の回りのことをする時間は除いてください。

(2) (1) であげた3つの生活行動について、1日平均でそれぞれどのくらいあてていますか。

※30分単位でご記入ください。記入例：30分→0.5時間 1時間30分→1.5時間

《選択肢》

- | | |
|---------------|-------------------------|
| 1 仕事（通勤時間も含む） | 5 地域活動 |
| 2 家事 | 6 趣味 |
| 3 育児 | 7 勉強 |
| 4 介護 | 8 その他（具体的に ） |

(1)

第1位



第2位



第3位



(2) () 時間 () 時間 () 時間

問4 あなたの行っている家事についてお聞きします。(1) 平日、(2) 休日それぞれで行っている家事について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

(1) 平日

1 食事の支度・後片付け	6 庭や玄関回りの掃除
2 食料品・日用品の買い物	7 ごみ出し
3 洗濯	8 その他(具体的に)
4 部屋の掃除	9 家事は行っていない
5 風呂やトイレの掃除	

(2) 休日

1 食事の支度・後片付け	6 庭や玄関回りの掃除
2 食料品・日用品の買い物	7 ごみ出し
3 洗濯	8 その他(具体的に)
4 部屋の掃除	9 家事は行っていない
5 風呂やトイレの掃除	

問5 家族のあり方が変化し、男女の役割や子育てに対する考え方も多様化しています。次の(1)～(13)にあげるような考え方について、あなたはどのように思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ) ※ 結婚には事実婚も含みます。

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらと もいえな い	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない
(1) 結婚するかしないかは個人の自由である	1	2	3	4	5
(2) 未婚の女性が子どもを産み育てるのも、 ひとつの生き方である	1	2	3	4	5
(3) 結婚しても子どもを持たないというのも、 ひとつの生き方である	1	2	3	4	5
(4) 女性は結婚したら自分自身のことより夫や子ども など家族を中心に考えて生活した方がよい	1	2	3	4	5
(5) 男性は結婚したら自分自身のことより妻や子ども など家族を中心に考えて生活した方がよい	1	2	3	4	5
(6) 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく 育てた方がよい	1	2	3	4	5
(7) 女の子も経済的自立ができるように育てた方がよい	1	2	3	4	5
(8) 男の子も家事ができるように育てた方がよい	1	2	3	4	5
(9) 男の子も女の子も同程度の学歴を持つ方がよい	1	2	3	4	5
(10) 子育ては家族だけでなく地域で支援した方がよい	1	2	3	4	5
(11) 男性の育児休業取得は推進されるべきである	1	2	3	4	5
(12) 結婚しても、どうしてもうまくいかない場合、 離婚もやむを得ない	1	2	3	4	5
(13) 同性のカップルもひとつの生き方である	1	2	3	4	5

問6 介護についてお聞きします。

あなたは、介護の担い手はどうあるべきだと思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。
(○は1つ)

- 1 介護は体力が必要なので男性が積極的に取り組むべきである
- 2 男性も女性も同じように取り組むべきである
- 3 女性に過剰な負担がかからないように男性も出来るだけ介護に関わる方がよい
- 4 労働時間の現状などからみて、女性に負担が集中するのはやむを得ない
- 5 介護は女性の役割だと思ふ
- 6 その他（具体的に _____)
- 7 わからない

問7 あなたは、男性の介護への参加を進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

- 1 男性が取りやすいような介護休暇制度を整備する
- 2 男性が気軽にできるような介護講座を開催する
- 3 男性の理解と協力を得るための啓発活動を行う
- 4 労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制度(※)の導入などを企業に働きかける
- 5 女性が男性に介護への参加を強く希望する
- 6 介護は今まで通り、女性が中心となって行うべきで、男性の参加は必要ない
- 7 その他（具体的に _____)
- 8 わからない

※労使協定に基づき、労働者が各自の始業時刻と終業時刻を原則として自由に決められる制度のこと。

就労状況についてお聞きします

問8 あなたは、この1か月間で収入を得る仕事をしましたか。(○は1つ)

※産休、育休、介護休暇中の人は「1 仕事をした」に○をつけてください。

1 仕事をした	2 仕事をしていない
↓	→ (問8-4にお進みください)

【問8-1～問8-3は、問8で「1 仕事をした」と答えた方にお聞きします】

問8-1 あなたの現在の勤務形態は次のうち、どれですか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1 自由業・自営業・家族従業員 | 4 正規職員（公的機関） |
| 2 正規職員（従業員101人以上の民間事業所） | 5 臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等 |
| 3 正規職員（従業員100人以下の民間事業所） | 6 その他（具体的に _____) |

問8-2 あなたの勤務地は小平市内ですか、小平市外ですか。(○は1つ)

- | | | |
|--------|--------|--------------------|
| 1 小平市内 | 2 小平市外 | 3 その他（具体的に _____) |
|--------|--------|--------------------|

問8-3 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、男女差別と感じられることがありますか。

あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------------------|---------------------------|
| 1 女性が昇進、昇格しづらい | 8 ちょっとした力仕事でも男性にばかり命じられる |
| 2 賃金に男女差がある | 9 女性は補助的な仕事しかやらせてもらえない |
| 3 女性の配置場所が限られている | 10 中高年以上の女性に退職を勧奨する雰囲気がある |
| 4 お茶くみ、雑用は女性がやる慣行がある | 11 女性は教育・研修を受ける機会が少ない |
| 5 女性を幹部職員に登用しない | 12 その他(具体的に) |
| 6 女性の能力・実績を正当に評価しない | 13 男女差別と感じられることはない |
| 7 女性は結婚や出産で退職しなければならない
雰囲気がある | 14 わからない |

【問8-4は、問8で「2 仕事をしていない」と答えた方にお聞きします】

問8-4 あなたがこの1か月間仕事をしなかった理由をお答えください。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 高齢だから | 10 高齢者や病人の介護・看護と両立できないから |
| 2 働かなくても経済的に困らないから | 11 求職活動中だから |
| 3 健康に自信が持てないから | 12 学生だから |
| 4 年齢が求職活動の障害となっているから | 13 家族の転勤や転居があるから |
| 5 希望や条件にあう仕事が見つからないから | 14 家族の反対があるから |
| 6 趣味や社会活動など他にやりたいことがあるから | 15 扶養家族のほうが有利だから |
| 7 家事・育児に専念したいから | 16 その他(具体的に) |
| 8 家事・育児と両立できないから | |
| 9 職業能力に自信が持てないから | |

【すべての方にお聞きします】

問9 あなたは、女性の働き方についてどうお考えですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

(○は1つ)

- | | |
|-----------------------------------|--|
| 1 結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける | |
| 2 子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける | |
| 3 子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける | |
| 4 子どもができるまでは仕事を持ち、出産後は家事や子育てに専念する | |
| 5 結婚するまでは仕事を持ち、結婚後は家事に専念する | |
| 6 その他(具体的に) | |
| 7 仕事は持たない | |
| 8 わからない | |

問 10 あなたは、女性が長く働き続けるのを困難にしたり、妨げになっているのはどんなことだと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------------------|--------------------------|
| 1 子どもを預けるところ（保育所など）がない | 8 職場での結婚・出産退職の慣行 |
| 2 育児休業や再就職など、長く働き続けるための職業条件・制度が不十分 | 9 女性はすぐ辞める、労働能力が劣るという考え方 |
| 3 育児や子どもの教育の負担 | 10 昇進・教育訓練などでの男女の不公平な取扱い |
| 4 家事の負担 | 11 その他（具体的に |
| 5 高齢者や病人の介護・看護 | 12 特にな |
| 6 夫の転勤 | 13 わからない |
| 7 家族の無理解 | |

仕事と子育てについてお聞きします

問 11 育児休業制度の利用についてお聞きします。【※男性もお答えください】

現在子育て中の方、既に子育てを終えられた方は、あなたやあなたの配偶者が出産された時に、あなたは育児休業制度を利用しましたか。これから子育てをされる方は、あなたやあなたの配偶者がこれから出産する場合、あなたは育児休業制度を利用しますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

現在子育て中・終えられた方	これから子育てされる方	
1 利用した	3 利用する	5 わからない
2 利用しなかった	4 利用しない	

→【問 11 で「2 利用しなかった」、「4 利用しない」と答えた方にお聞きします】

問 11-1 あなたが、育児休業制度を利用しなかった（しない）理由は次のうちどれですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------------|----------------|
| 1 職場に迷惑がかかると思う | 5 昇進・昇格への影響が心配 |
| 2 職場の環境が育児休業を取得できる雰囲気ではない | 6 収入が減少する |
| 3 復帰後、職場でやっていけるかどうか不安である | 7 必要性を感じない |
| 4 元の仕事（職場・ポジション）に復帰できるとは限らない | 8 その他（具体的に |
| | 9 特に理由はない |

【すべての方にお聞きします】

問 12 あなたは、育児休業制度をさらに利用しやすくしていくためには、どんなことが必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------------|----------------------------|
| 1 事業主や上司の理解 | 7 代替職員の確保のための援助制度の充実 |
| 2 職場内の理解を深めていくこと | 8 休業後、スムーズに保育所等に入所できる体制の整備 |
| 3 休業中の経済的支援 | 9 育児休業制度についての行政機関等の普及啓発 |
| 4 休業期間の延長 | 10 その他（具体的に |
| 5 短時間勤務制度等、休業後に職場復帰しやすい体制の整備 | 11 特にな |
| 6 休業中の情報提供、職場復帰のための研修の実施 | 12 わからない |

問 13 あなたは、子育てと仕事の両立を図るために、職場においてどのような制度や支援策の充実が必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

- 1 妊娠中や育児期間中の勤務軽減（フレックスタイム制度や短時間勤務制度など）
- 2 育児休業制度や再雇用制度の普及促進及び円滑に利用できる環境づくり
- 3 子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度
- 4 勤務先に保育施設を設置する
- 5 男性も育児休業制度が利用できるなど、子育てに男性も参加できる環境づくり
- 6 子育てと仕事の両立に向け、職場内の理解を深めていくこと
- 7 女性の就労継続に対する企業の理解や支援
- 8 その他（具体的に _____)
- 9 特にない
- 10 わからない

ワーク・ライフ・バランスについてお聞きします

【ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）】とは？

誰もが、仕事、家庭生活、地域活動、個人の自己啓発など、さまざまな活動を自分の希望するバランスで実現できる状態のことです。

問 14 あなたの生活の中での、「仕事」「家庭生活」「個人の生活（地域活動、趣味・学習等）」の優先度についてお聞きします。

(1) 「希望」としての優先度について、あなたの希望に最も近いものを1つだけ選び、回答欄に数字を記入してください。

(2) 次に、「現実」としての優先度について、あなたの現実に最も近いものを1つだけ選び、回答欄に数字を記入してください。

《選択肢》

- | | |
|------------------|----------------------------|
| 1 「仕事」を優先 | 5 「仕事」と「個人の生活」を優先 |
| 2 「家庭生活」を優先 | 6 「家庭生活」と「個人の生活」を優先 |
| 3 「個人の生活」を優先 | 7 「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」、のすべて |
| 4 「仕事」と「家庭生活」を優先 | 8 わからない |

(1) 希望

(2) 現実

問 15 あなたは、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）が実現するために、職場に望むことは何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

- | | |
|---|------------------|
| 1 企業等のトップがリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む | 7 有給休暇を取りやすくする |
| 2 管理職の意識改革を行う | 8 短時間勤務が出来るようにする |
| 3 管理職以外の社員の意識改革を行う | 9 給料を上げる |
| 4 企業の中でワーク・ライフ・バランスを推進する責任者を決める | 10 在宅勤務が出来るようにする |
| 5 育児休業・介護休暇を取りやすくする | 11 仕事の量を減らす |
| 6 無駄な業務・作業を減らす | 12 その他（具体的に) |
| | 13 特にない |
| | 14 わからない |

問 16 あなたは、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）が実現するために、小平市はどのような施策を講じることが効果的だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

- | |
|--|
| 1 保育所・高齢者施設などの環境を整えること |
| 2 就労・再就職・起業に向けての支援をすること |
| 3 高齢者等が自立し、生き生きと暮らせるように日常生活の支援をすること |
| 4 女性に負担がかかりがちな家事・育児等を家庭全体で支えられるように支援すること |
| 5 企業、社会に向けての意識啓発 |
| 6 趣味や余暇を活かした活動や個人の能力を地域社会に貢献できるように支援すること |
| 7 市民活動の受け皿としての NPO 等が活動しやすい環境を整えること |
| 8 その他（具体的に) |
| 9 特にない |
| 10 わからない |

問 17 あなたは、女性が出産や介護などで離職せずに働き続けたり、いったん離職した後で再び社会で活躍するために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

- | | |
|------------------------------|---|
| 1 保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備 | 8 職場における育児・介護との両立支援制度の充実 |
| 2 介護支援サービスの充実 | 9 短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入 |
| 3 家事・育児支援サービスの充実 | 10 育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止 |
| 4 男性の家事参加への理解・意識改革 | 11 その他（具体的に) |
| 5 女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革 | 12 特にない |
| 6 働き続けることへの女性自身の意識改革 | 13 わからない |
| 7 男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革 | |

地域とのつながりや防災についてお聞きします

問 18 地域活動についてお聞きします。あなたの（１）現在の活動と、（２）今後の活動意向について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はそれぞれいくつでも）

	（１） 現在行っている 活動	（２） 継続したい・今 後行いたい活動
① P T Aの役員や子ども会などの世話役	1	1
② コミュニティセンター、自治会、商店会、商工会などの活動	2	2
③ 共同購入などの消費者活動	3	3
④ 環境保護、教育問題、男女共同参画などの市民活動	4	4
⑤ 高齢者や障害者支援の活動	5	5
⑥ 国際交流、在住外国人支援のための活動	6	6
⑦ 子どもの見守りや子育て支援の活動	7	7
⑧ 学校支援ボランティアや青少年対策地区委員会の活動	8	8
⑨ 仕事でつちかった知識や経験を活かした活動	9	9
⑩ 趣味、スポーツ、習い事	10	10
⑪ 自己啓発のための学習活動	11	11
⑫ 市や都から委嘱された委員	12	12
⑬ N P O活動への参加	13	13
⑭ シルバー人材センターでの活動	14	14
⑮ 防犯協会活動や自主防災組織など防災や防犯に関する活動	15	15
⑯ その他（具体的に)	16	16
⑰ 行っている（行いたい）活動はない	17	17

問 19 あなたは、地域活動に参加していくためには、どのような環境や条件が必要だと思いますか。
あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

1 地域活動に参加できる時間のゆとりがある	6 地域に、活動に使える場所や施設がある
2 地域活動をする経済的なゆとりがある	7 地域の活動について情報を得ることができる
3 地域活動が仕事や家庭生活と両立できる曜日や時間で設定されている	8 地域活動をすることについて家族など周囲の理解がある
4 一緒に活動できる仲間がいる	9 その他（具体的に)
5 地域に興味のある活動団体がある	10 わからない

問 20 東日本大震災では災害直後や避難所運営に女性が参画していない、平時の防災や震災対応に女性の視点がない等の問題が指摘されました。あなたは、災害に備えるために、これからどのような取り組みが必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

- 1 市の防災会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす
- 2 避難所の運営に女性も参画できるようにする
- 3 女性も男性も防災活動や訓練に取り組む
- 4 備蓄品について女性や介護者、障害者の視点を入れる
- 5 「避難所運営マニュアル」などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする
- 6 防災や災害現場で活躍する女性のリーダーを育成する
- 7 日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする
- 8 日頃からの男女平等、男女共同参画意識を高める
- 9 その他(具体的に)
- 10 わからない

教育についてお聞きします

問 21 学校(義務教育)で男女平等教育を進める上で、あなたが重要だと思うものは何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

- 1 男女平等意識を育てる授業を組み入れる
- 2 個性や能力に合わせた生活指導や進路指導を行う
- 3 男女平等の視点に立った教科書や教材を選択する
- 4 発達段階に応じた性教育を実施する
- 5 出席簿や座席、名簿、整列等、男女で分ける習慣をなくす
- 6 教員への男女平等研修を実施する
- 7 校長・副校長などの役職に女性を増やす
- 8 児童・生徒が性的被害やセクシュアル・ハラスメントをいつでも相談できる窓口を設置し、皆が周知できるような態勢をつくる
- 9 保護者に対し、男女平等教育の理解と協力を求める
- 10 どの授業も男女平等の視点をもって行う
- 11 その他(具体的に)
- 12 特にない



男女間の暴力（DV）・セクハラについてお聞きします

【DV（ドメスティック・バイオレンス）とは？】

配偶者や交際相手など、親密な関係にある者から身体的、精神的、性的な暴力をうけることです。

【すべての方にお聞きします】

問 22 あなたは過去5年間に、職場・学校・地域などで、セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を受けた経験がありますか。それぞれの場所について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。
(○はそれぞれいくつでも)

	職場で	学校で	地域で
① 容姿についてたびたび話題にされた	1	1	1
② 服装についてたびたび話題にされた	2	2	2
③ 嫌がっているのに、性に関する話を聞かされた	3	3	3
④ 不必要に身体を触られた	4	4	4
⑤ 交際を強要された	5	5	5
⑥ 性的な行為を強要された	6	6	6
⑦ 「男（女）のくせに」または「女（男）だから」と差別的発言をされた	7	7	7
⑧ 宴会でお酌やデュエットなどを強要された	8	8	8
⑨ ヌード写真や卑猥な雑誌を目につくように置かれたり、貼られたりした	9	9	9
⑩ 帰宅途中などにストーカー行為をされた	10	10	10
⑪ 特にない	11	11	11

問 23 あなたは、次のようなことが配偶者や恋人など親密な関係の間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。(1)～(15)のそれぞれについて、あなたの考えに近い番号1つに○をつけてください。
(○はそれぞれ1つずつ)

		どんな場合でも 暴力にあたる と思う	暴力にあたる 場合も、そう でない場合も あると思う	暴力にあた るとは思わ ない
身体的 暴行	(1) 平手で打つ	1	2	3
	(2) 足でける	1	2	3
	(3) 身体を傷つける可能性のある物でなぐる	1	2	3
	(4) なぐるふりをして、おどす	1	2	3
	(5) 刃物などを突きつけて、おどす	1	2	3
	(6) 大声でどなる	1	2	3
心理的 攻撃	(7) 他の異性との会話を許さない	1	2	3
	(8) 何を言っても長期間無視し続ける	1	2	3
	(9) 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する	1	2	3
	(10) 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしようなし」と言う	1	2	3
	(11) 家族や友人との関わりを持たせない	1	2	3

		どんな場合でも 暴力にあたと 思う	暴力にあたる 場合も、そう でない場合も あると思う	暴力にあた るとは思わ ない
経済的 圧迫	(12) 家計に必要な生活費を渡さない	1	2	3
	(13) 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する	1	2	3
性的 強要	(14) いやがっているのに性的な行為を強要する	1	2	3
	(15) 避妊に協力しない	1	2	3

問 24 あなたは過去5年間に、配偶者や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。(1)～(4)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

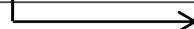
	何度もあった	1、2度あった	まったくない
(1) 身体的暴行 (例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行)	1	2	3
(2) 心理的攻撃 (例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫)	1	2	3
(3) 経済的圧迫 (例えば、生活費を渡さない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど)	1	2	3
(4) 性的強要 (例えば、いやがっているのに性的な行為を強要される、みたくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど)	1	2	3



【問24で(1)～(4)のうち1つでも「1 何度もあった」「2 1、2度あった」と答えた方にお聞きします】

問 24-1 あなたはこれまでに、このような行為を受けたことを誰かに打ち明けたり、相談したことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

1	相談した	2	相談しなかった
---	------	---	---------



(問24-3へお進みください)

【問24-1で「1 相談した」と答えた方にお聞きします】

問 24-2 あなたはどこ(誰)に相談しましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

1 家族・親族	5 公的な相談窓口・電話相談など
2 友人・知人	6 医師・カウンセラーなど
3 同じような経験をした女性	7 女性グループ・団体など
4 家庭裁判所、弁護士、警察など	8 その他(具体的に)

【問 24-1 で「2 相談しなかった」と答えた方にお聞きします】

問 24-3 どこ(誰)にも相談しなかったのはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| 1 相談する人がいなかったから | 6 自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから |
| 2 どこに相談してよいか分からなかったから | 7 自分にも落ち度があると思ったから |
| 3 相談しても無駄だと思ったから | 8 他人を巻き込みたくなかったから |
| 4 相談したことがわかると、仕返しを受けると思ったから | 9 相談するほどのことではないと思ったから |
| 5 恥ずかしくて誰にも言えなかったから | 10 その他(具体的に) |

【すべての方にお聞きします】

問 25 配偶者や交際相手など、親密な関係にある者から暴力を受けた場合、相談できる機関や施設であなただけ知っているものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|--------------------------|
| 1 警察署(交番) | 6 東京都女性相談センター(東京都福祉保健局) |
| 2 小平市の市民無料相談 | 7 東京ウィメンズプラザ(女性用・男性用) |
| 3 小平市女性相談室(福祉会館内) | 8 その他(具体的に) |
| 4 警視庁総合相談センター | 9 相談できる機関・施設があることを知らなかった |
| 5 配偶者暴力相談支援センター | |

男女平等についてお聞きします

問 26 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

- | | | |
|--------------|--------------|---------|
| 1 賛成 | 3 どちらかといえば反対 | 5 わからない |
| 2 どちらかといえば賛成 | 4 反対 | |

問 27 あなたは次の(1)～(8)にあげるような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男女の地位は平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
(1) 家庭生活	1	2	3	4	5	6
(2) 職場	1	2	3	4	5	6
(3) 学校教育	1	2	3	4	5	6
(4) 地域社会(町内会、自治会など)	1	2	3	4	5	6
(5) 政治	1	2	3	4	5	6
(6) 法律や制度	1	2	3	4	5	6
(7) 社会通念・慣習・しきたり	1	2	3	4	5	6
(8) 社会全体	1	2	3	4	5	6

問28 あなたは、行政に女性の意見がどの程度反映されていると思いますか。

あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

- 1 十分反映されている
- 2 ある程度反映されている
- 3 あまり反映されていない
- 4 ほとんど反映されていない
- 5 わからない

(問29へお進みください)

【問28で「3 あまり反映されていない」又は「4 ほとんど反映されていない」と答えた方にお聞きします】

問28-1 反映されていない理由は何だと思えますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------------|------------------|
| 1 女性議員が少ない | 5 男性の意識、理解が足りない |
| 2 行政機関の管理・監督者に女性が少ない | 6 社会の仕組みが女性に不利 |
| 3 政策決定にかかわる審議会などへの女性の参加が少ない | 7 女性の能力に対する偏見がある |
| 4 女性自身が消極的 | 8 その他(具体的に) |

小平市の男女共同参画に関する施策についてお聞きします

【すべての方にお聞きします】

問29 あなたは、小平市で取り組んでいる下記にあげる男女共同参画施策を知っていますか。

あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------------------|----------------------|
| 1 小平市男女共同参画推進計画
-小平アクティブプラン21 | 9 「女(ひと)と男(ひと)」の参画講座 |
| 2 小平市男女共同参画センター“ひらく” | 10 女性セミナー |
| 3 女性相談 | 11 小平市男女共同参画推進講座 |
| 4 子育て相談 | 12 小平市男女共同参画推進条例 |
| 5 母子・父子相談 | 13 小平市男女共同参画推進審議会 |
| 6 子ども家庭支援センター | 14 小平市男女共同参画推進本部 |
| 7 広報誌「ひらく」 | 15 小平市男女共同参画推進委員会 |
| 8 「女(ひと)と男(ひと)」のフォーラム | 16 小平市男女共同参画推進実行委員会 |
| | 17 いずれも知らない |

問30 あなたは、男女共同参画社会の実現に向けて、今後、小平市ではどのようなことに力をいれるべきだと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|--|--|
| 1 男女平等の問題を考えるための講演会・講座の充実 | 11 男女共同参画センター“ひらく”の充実 |
| 2 女性のエンパワーメント(能力開発)のための講座の充実 | 12 DV(ドメスティック・バイオレンス)など、被害者の緊急避難場所(シェルター)の整備 |
| 3 男性を対象とした、家事・育児・介護の講座や意識改革等を啓発する事業の実施 | 13 地域活動やボランティア活動の促進 |
| 4 女性のための相談事業の充実 | 14 学校教育での男女平等教育の実施 |
| 5 子育て支援の充実 | 15 市の審議会・委員会への女性の積極的登用・活動条件の整備 |
| 6 高齢者支援の充実 | 16 子どもの虐待防止対策 |
| 7 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(※1)の普及、生涯を通じた女性の健康支援の充実 | 17 性的マイノリティ(※2)の理解促進 |
| 8 女性の就労・起業についての支援策 | 18 その他(具体的に) |
| 9 女性団体への支援 | 19 特にない |
| 10 男女ともに働く環境の改善、整備 | 20 わからない |

※1 身体的・精神的・社会的な健康を維持し、子どもを産むかどうか、いつ産むか、どれくらいの間隔で産むかなどについて選択し、自ら決定する権利のこと。

※2 同性愛や性同一性障害などの人々のこと。

最後に、あなたご自身についてお聞きします

※これまでお答えいただいたことを統計的に集計・分析するために用います。
個人を特定した分析は行いませんので、ご安心ください。

F 1 あなたの性別 (○は1つ)

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

F 2 あなたの年齢 (○は1つ)

- | | | |
|----------|----------|-----------|
| 1 18～24歳 | 5 40～44歳 | 9 60～64歳 |
| 2 25～29歳 | 6 45～49歳 | 10 65～69歳 |
| 3 30～34歳 | 7 50～54歳 | 11 70～74歳 |
| 4 35～39歳 | 8 55～59歳 | 12 75歳以上 |

F 3 あなたの職業 (○は1つ)

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1 自営業主 (自由業含む) | 6 派遣社員 (登録派遣)、契約社員、嘱託 |
| 2 家族従業者 | 7 内職 |
| 3 会社などの役員 | 8 家事専業 (主婦・主夫) |
| 4 正規の職員・従業員 | 9 学生 |
| 5 パート・アルバイト | 10 無職 |

F 4 あなたの結婚の状況 (○は1つ)

- | | |
|---------------|------|
| 1 既婚 (事実婚を含む) | 3 死別 |
| 2 離別 | 4 未婚 |

【F 4で「1 既婚 (事実婚を含む)」「2 離別」「3 死別」と答えた方にお聞きします】

F 4-1 あなたは結婚、出産・育児を機会に退職をした経験がありますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|------|
| 1 ある (結婚退職) | 3 ない |
| 2 ある (出産・育児で退職) | |

【F 4で「1 既婚 (事実婚を含む)」と答えた方にお聞きします】

F 4-2 あなたの世帯の働き方は次のうちのどれですか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 夫婦が共に働いている | 3 夫だけが働いている |
| 2 妻だけが働いている | 4 夫婦共に働いていない |

【すべての方にお聞きします】

F 5 お子さんはいらっしゃいますか。(○は1つ)

- | | |
|------|-------|
| 1 いる | 2 いない |
|------|-------|

【F 5で「1 いる」と答えた方にお聞きします】

F 5-1 一番下のお子さんの成長段階は次のどれにあたりますか。(○は1つ)

- | | | |
|-----------------|-------|---------|
| 1 3歳未満 | 3 小学生 | 5 高校生以上 |
| 2 3歳以上 (小学校入学前) | 4 中学生 | |

【すべての方にお聞きします】

F 6 現在、生計をともにしている同居家族について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

(○はいくつでも)

- | | |
|------------------|---------------|
| 1 本人のみ | 5 祖父母 |
| 2 配偶者 (パートナーも含む) | 6 兄弟姉妹 |
| 3 親 (実親・義親) | 7 その他の親族 |
| 4 子ども | 8 その他 (具体的に) |

F 7 あなたのお住まいの地域をお答えください。

※町丁目までお答えください。 例：小川町2丁目

町

丁目

★ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

お忙しいところ、ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒 (切手不要) に入れて、9月28日 (月) までに ご返送ください。



男女共同参画推進についての市民意識・実態調査報告書

—第三次小平市男女共同参画推進計画の策定にむけて—

平成27年12月

調査主体	小平市地域振興部市民協働・男女参画推進課 〒187-8701 小平市小川町二丁目1333番地 電話 042 (346) 9618
調査実施	一般社団法人 中央調査社 東京都中央区銀座6丁目16番12号 電話 03 (3549) 3121
価 格	¥700

この報告書は再生紙を使用しています。